２０２５年度

シ　ラ　バ　ス

（カリキュラム　N2019）

宇都宮共和大学

子ども生活学部子ども生活学科

子ども生活学部の「学位授与方針」「教育課程編成・実施の方針」

学位授与方針（ディプロマポリシー）

下記に示す目標を達成することで、所定の単位を取得した学生に対して、卒業を認定し、学士(子ども生活学)を授与することとする。

① 子どもと共に豊かな生活を創ることができる能力を修得している

② 子どもをとりまく様々な人とコミュニケーションを図りながら連携・協働する能力を修得している

③ 子どもの成長・発達にかかわる専門性を修得している

④ 実践力や省察する力を総合的に活用し、新たな課題にそれらを適用し解決する能力を修得している

子ども生活学部の教育目標（カリキュラムポリシー）

子ども生活学部の教育目標を実現し、「豊かな子どもの生活環境の創造、教育、保育に貢献する人材（専門家)」を養成するため、以下の教育課程編成の方針（カリキュラムポリシー）を定める。

① よりよく生活するための知識と幅広い教養を身につける

② 保育者としての専門的能力を養う

③ 社会ニーズを横断的に理解し、課題を見出す。

④ 得意な分野の専門性を深める。

⑤ 学びを統合して新たに生活をデザインできる力を育成する

宇都宮共和大学　子ども生活学部　カリキュラム・ツリー

ディプロマ・ポリシー（卒業の時、こんな人になってほしい）
『子どもの生活と育ちを支える専門性と人間性を備えた人材の育成』

- 子どもと共に豊かな生活を創ることができる能力を修得している
- 子どもをとりまく様々な人とコミュニケーションを図りながら連携･協働する能力を修得している
- 子どもの成長･発達にかかわる専門性を修得している
- 実践力や省察する力を総合的に活用し、新たな課題にそれらを適用し解決する能力を修得している

人間性・社会性・生活力・使命感・責任感・子ども理解・保育構想力・保育実践力

得意分野を伸ばす6つの履修コース：子ども心理／子ども音楽／子ども自然／子育て支援／子どもグローバル／幼稚園・小学校教諭

4年次
学びを統合して新たに生活をデザインできる（専門性＝応用・創造）

- 1-4年次開講科目：現代の教養講座Ⅰ／現代の教養講座Ⅱ／現代の教養講座Ⅲ／現代の教養講座Ⅳ※
- 発達支援論／発達臨床心理学／保育指導法Ⅱ／保育内容総合演習Ⅳ◆／教育福祉ボランティア
- 秋学期：保育･教職実践演習◆◆／春学期：教育実習（本実習）◆（幼稚園3週間）
- 子ども家庭支援論◆／子どもマーケティング論／施設経営論
- 音楽Ⅶ／音楽療法Ⅱ（臨床）／音楽療法Ⅲ（技法）／音楽療法総合演習／音楽療法実習／3-4年次開講／子どもとおもちゃ

●●●●●●　卒業研究指導Ⅱ※　卒業研究指導Ⅲ※　卒業研究※

3年次
社会問題を横断的に理解し課題を見出す（人間性＝開発・深化）

- 子どもの生活と福祉／子どもと自然環境／3-4年次開講科目：子どもと住環境／環境と資源／社会学
- 保育指導法Ⅰ／保育内容総合演習Ⅲ◆／保育方法論◆／乳児保育Ⅱ◆／子どもの健康と安全◆／教育制度◆／教育心理学◆／子どもの食と栄養Ⅱ◆
- 秋学期：保育実習指導Ⅱ（保育所）／保育実習Ⅱ／保育実習指導Ⅲ（施設）／保育実習Ⅲ／春学期：保育実習指導Ⅰ（施設）◆／保育実習Ⅰ（施設）◆
- 子育て支援◆／子どもと地域福祉Ⅰ/Ⅱ／異文化理解と子育て／社会的養護Ⅱ◆／障害児保育◆／特別の支援が必要な子どもの保育◆◆／保育相談◆
- 音楽Ⅵ／音楽Ⅴ／音楽特講Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ／音楽療法概論／音楽療法Ⅰ（基礎）／幼児体育／教材研究（運動と健康）◆

●●●●●●　研究方法の基礎Ⅰ※　研究方法の基礎Ⅱ※　卒業研究指導Ⅰ※

2年次
保育者としての基礎と実践的技能を養う（専門性＝基礎・実践的理解）

- 初年次基礎演習Ⅲ／文章表現Ⅱ／生活講座Ⅱ／生活技術演習Ⅰ/Ⅱ／コミュニケーションの心理学／音楽史／音楽理論／中国語Ⅰ/Ⅱ／韓国語Ⅰ/Ⅱ
- 教育原理◆◆／保育者論◆◆／子ども家庭支援の心理学◆／子どもの理解と援助◆／子ども理解の方法と評価◆◆／子どもの保健◆／子どもの食と栄養Ⅰ◆／フィールドワークⅡ／保育内容環境◆◆／保育内容健康◆◆／保育内容言葉◆◆／保育内容表現◆◆／保育内容人間関係◆◆／保育内容総合演習Ⅱ◆◆／保育･教育課程論◆◆／乳児保育Ⅰ◆
- 秋学期：保育実習指導Ⅰ（保育所）◆／保育実習Ⅰ（保育所）◆／教育実習（観察実習）◆（幼稚園1週間）／春学期：実習事前事後演習
- 1-4年次開講：海外保育研修Ⅰ/Ⅱ／グローバルコミュニケーション／子ども家庭福祉※◆／社会的養護Ⅰ◆
- 音楽特講Ⅰ/Ⅱ／音楽Ⅳ／音楽Ⅲ／リトミックⅡ／子どもと生活演習

1年次
身近な生活から基礎的な知識と技術を学ぶ（人間性＝開発・涵養）

- 子ども生活学概論※／生活講座Ⅰ／職業と家庭生活の設計※／日本国憲法◆／初年次基礎演習Ⅰ/Ⅱ／文章表現Ⅰ／現代日本史／子ども文化論／人間とは何か／人間と心理／スポーツと健康Ⅰ/Ⅱ◆◆／オーラルイングリッシュⅠ/Ⅱ◆◆／情報処理入門Ⅰ/Ⅱ◆◆
- 保育原理※◆／発達心理学※◆◆／保育内容総論◆◆／保育内容総合演習Ⅰ◆◆／フィールドワークⅠ
- 社会福祉※◆／シティライフ学入門／NPOコミュニティビジネス論
- 音楽Ⅱ◆／音楽Ⅰ◆／リトミックⅠ／教材研究（造形表現）◆／図画工作／教材研究（言語表現）◆／レクリエーション概論／レクリエーション演習Ⅰ／レクリエーション演習Ⅱ／野外活動Ⅰ/Ⅱ／ジュニアスポーツ指導論

保育と教育　実　習　地域･家庭 子育て支援　多様な保育財

基礎教育科目　専　門　教　育　科　目

星槎大学通信課程

※：卒業必修
◆：幼稚園教諭一種免許状必修
◆：保育士資格必修

カリキュラム・ポリシー
4年間の学びを通して身につける

① よりよく生活するための知識と幅広い教養を身につける
② 保育者としての専門的能力を養う
③ 社会ニーズを横断的に理解し、課題を見出す
④ 得意な分野の専門性を深める
⑤ 学びを統合して新たに生活をデザインできる力を育成する

2025年4月1日
宇都宮共和大学子ども生活学部

教員オフィスアワーの設置について

子ども生活学部では、教員のオフィスアワーを設けています。オフィスアワーとは、教員が研究室に待機し、質問や相談等を受ける時間帯です。

今年度は下記のように実施しますので、学生の皆さんは積極的に活用してください。

2025度　専任教員オフィスアワー一覧

講義期間中の５限に実施

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
杉本 太平 桂木 奈巳 月橋 春美	蟹江 教子 石本 真紀 新井 祐子 阿部 巧	河田 隆 市川 舞 霜触 智紀 松岡 展世 小野 貴之	田渕 光与 星 順子 大島 美知恵

※　上記以外の教員のオフィスアワーは、授業終了後とします。

注意

・相談場所は、それぞれの教員の研究室で行います。

・出張や会議等で不在の場合もありますので、事前にアポイントメントを取ってください。

・この時間帯以外でも、可能な限り質問・相談に応じます。

以上

実務経験のある教員による授業科目一覧

子ども生活学部

実務経験のある教員	授業科目名	配当年次	単位数
杉本太平	人間とは何か	1年次	2単位
	人間と心理	1年次	2単位
	コミュニケーションの心理学	2年次	2単位
	子ども家庭支援の心理学	2年次	2単位
田渕 光与	保育内容 健康	2年次	2単位
	保育内容言葉	2年次	2単位
	保育・教育課程論	2年次	2単位
	保育指導法Ⅱ	4年次	1単位
星 順子	子ども文化論	1年次	2単位
	乳児保育Ⅰ	2年次	2単位
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	2年次	1単位
	乳児保育Ⅱ	3年次	1単位
	異文化理解と子育て	3年次	2単位
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	３年次	1単位
	子育て支援	３年次	1単位
	海外保育研修Ⅰ	1～4年次	1単位
	海外保育研修Ⅱ	1～4年次	2単位
	グローバルコミュニケーション	1～4年次	1単位
石本 真紀	子ども家庭福祉	2年次	2単位
	社会的養護Ⅰ	2年次	2単位
	社会的養護Ⅱ	3年次	1単位
	子どもの生活と福祉	3年次	2単位
	保育実習指導Ⅰ（施設）	3年次	1単位
	保育実習指導Ⅲ（施設）	3年次	1単位
松岡展世	現代の教養講座Ⅱ	1～4年次	2単位
	発達心理学	1年次	2単位
	子どもの理解と援助	2年次	1単位
	障害児保育	3年次	2単位
	保育・教職実践演習	4年次	2単位
大島 美知恵	リトミックⅠ	1年次	1単位
	リトミックⅡ	2年次	1単位
	音楽特講Ⅴ	3年次	1単位
	音楽療法概論	3年次	2単位
	音楽療法Ⅰ(基礎）	3年次	2単位
	音楽療法Ⅱ（臨床）	4年次	1単位
	音楽療法Ⅲ（技法）	4年次	1単位
	音楽療法総合演習	4年次	2単位
	音楽療法実習	4年次	3単位
小野貴之	発達支援論	4年次	2単位
	子ども家庭支援論	4年次	2単位
高柳 恭子	保育者論	2年次	2単位
	保育内容 人間関係	2年次	2単位
	子ども理解の方法と評価	2年次	2単位
	保育方法論	3年次	2単位
鄭　仁淑	韓国語Ⅰ	2年次	1単位
	韓国語Ⅱ	2年次	1単位
寺内孝夫	教育制度	3年次	2単位
田上富男	教育原理	2年次	2単位
布川かおる	子どもの食と栄養Ⅰ	2年次	1単位
	子どもの食と栄養Ⅱ	3年次	1単位
岩本眞砂枝	施設経営論	3-4年次	2単位
内藤英二	子どもマーケティング論	3-4年次	2単位

計　85単位

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1101	子ども生活学概論	1年	春	講義	2	全専任教員

授業概要
子どもの育つ力と発達について、胎児期から青少年期までの特徴を理解する。親や家族、地域、保育所、幼稚園こども園などの役割と子どもと子どもを取りまく環境の子どもへの影響について考察する。子どもの発達を支える人材として、親や地域の子育てを支える力を身につける。

到達目標（学習の成果）
・子どもの成長と発達の概要を知り、人間の発達における乳幼児期の大切さを理解し説明できる。（DP3）
・日本の子育て環境としての家族の役割、地域の人々の役割、子育て支援の仕組みなどを理解し説明できる。（DP1）
・子どもの発達を支えるさまざまな仕事や職業について理解し説明できる。（DP1）

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子ども生活学とは： 子ども生活学としての学びや子どもと生活を共にする保育者としての基本的なあり方、現代社会における子どもの生活の問題と課題について学習する。（杉本）	事前	事前に本科目のシラバスを熟読する熟読する。（2 時間）
		事後	授業配布の資料を復習する。（2 時間）
2	子どもと外国語教育：読み聞かせや歌などの活動を体験し、子どもの言語の学び方の特徴について理解する。（阿部）	事前	自分が子どもの頃楽しんだ遊び、歌、本ににについて 10 個程度リストアップする。（1 時間）
		事後	子どもと大人の言語の学び方の違いについて 400 字程度のレポートを作成する。（3 時間）
3	乳児期の子ども：乳児期の心身の発達の特徴について知る。赤ちゃんはどんな能力を持って生まれてきているのか等を学習する。（星）	事前	事前配布プリントで乳児期の発達を予習する。（2 時間）
		事後	指定した動画を視聴しレポートを書く。（2 時間）
4	幼児期の子ども：幼児期の心身の発達の特徴について知る。幼児が遊びを通して学んでいくこと等を学習する。（小野）	事前	幼児の遊びについて調べる。（2 時間）
		事後	配布プリントに取り組み、提出する。（2 時間）
5	子どもと遊び：乳幼児期における遊びおよび身近な環境の意義について学習する。（市川）	事前	自分が子どもの頃にした遊びをワークシートに書き出しておく。（2 時間）
		事後	振り返りシートに取り組み、提出する。（2 時間）
6	子どもの健康な状態について、WHO の定義から考える。さらに、子どもが健康な生活を送る力を身に付けるには、どのような環境が必要かについて学習する。（田渕）	事前	WHO の健康の定義に照らし合わせ、「健康」の概念について 400 字程度のレポートを作成する。（2 時間）
		事後	配布プリントに取り組み、提出する。（2 時間）
7	子どものアンガーマネジメント：感情の 1 つである怒りについて理解し、子どもたちが怒りと上手に向き合うための支援方法について学習する。（霜触）	事前	アンガーマネジメントについて調べる。（2 時間）
		事後	子どもに向けたアンガーマネジメントの支援方法について振り返る。（2 時間）
8	幼児期の子どもと楽しい関係づくりのための技術を学習する。（河田）	事前	コミュニケーションに関して予習する。（2 時間）
		事後	学習したコミュニケーション・スキルをまとめる。（2 時間）
9	子どもとキャンプ：幼児を対象としたキャンププログラムについて理解し、その教育効果を学習する。（月橋）	事前	幼児キャンプについて予習する。（2 時間）
		事後	配布プリントに取り組み、提出する（2 時間）
10	子どもと自然：子どもに自然とのふれ合いが欠かせない理由を理解し、子どもを取り巻く自然環境の活かし方を学習する。（桂木）	事前	事前に配布した課題に取り組む（2 時間）
		事後	授業内で配布したシートに取り組み提出する（2 時間）
11	子どものまわりにある音楽：乳幼児の音・歌遊びを体験し、生活や遊びの中での音楽表現について学習する。（新井）	事前	わらべうたについて予習する。（2 時間）
		事後	配布プリントに取り組み提出する。（2 時間）
12	子どもと音楽：乳幼児期にみる音楽反応から、子どもの発達を学び、発達段階に応じた音楽活動について学ぶ。（大島）	事前	事前のワークシート課題を作成しておく。（2 時間）
		事後	資料を読み直し、ワークシートを仕上げて提出する。（2 時間）
13	親子のつながりを支える親支援：保護者支援で重要な	事前	指定した動画を視聴し、ポイントをメモしておく。

	視点と関わり方について学習する。(松岡)		(2 時間)
		事後	授業の課題シートに取り組み提出する。(2 時間)
14	育児の社会化:家庭責任であった育児に社会全体で取り組むようになった背景とその課題、未来について学習する。(蟹江)	事前	「社会化」の意味について事前資料で確認する。(2 時間)
		事後	育児の社会化の意味について各自整理する。(2 時間)
15	子どもの暮らしと権利:子どもを取り巻くさまざまな問題から子どもの権利について学習する。(石本)	事前	事前配布のプリントで子どもの権利について予習する。(2 時間)
		事後	子どもの権利に関する課題に取り組み、提出する。(2 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
- コメントシート　40%(課題に関する理解と、自身の学び・気づきが述べられていること)
- レポート・課題　40%(自身の視点でテーマを切り取り、現状と課題の理解が具体的に表現されていること)
- 受講・出席態度　20%(授業時の積極的発言、演習時の取り組みの様子を評価する)

各回の平均点を最終評価とする

成績評価の基準　:
レポート、グループワークについては、コモンルーブリック評価基準を用いる

その他の演習等に関する評価基準

観点	S	A	B	C
①子どもの成長と発達の概要を知り、人間の発達における乳幼児期の大切さを理解し説明できる (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
②日本の子育て環境としての家族の役割、地域の人々の役割、子育て支援の仕組みなどを理解し説明できる (DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
③子どもの発達を支えるさまざまな仕事や職業について理解し説明できる (DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、クラスルームからフィードバックを行う。

教科書
指定しない。必要な資料は、授業中にプリントで配布する。

参考書
文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年 3 月」フレーベル館, 2018
厚生労働省「保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月」フレーベル館, 2018
内閣府・文部科学省・厚生労働省、2018、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成 30 年 3 月」フレーベル館

履修上の注意・学習支援
配布する資料やプリントをファイルしておくこと。講義で指摘する重要な事項を聞き逃さないように集中力を保ち、講義内容のポイントはノートに書き取ること
課題は指定された期日までに必ず提出すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1202	現代の教養講座Ⅰ	1～4 年	春	講義	2	蟹江教子・星順子

授業概要

「高学歴化」「デジタル技術の進歩」「ＳＤＧｓ」「多文化共生」「ダイバーシティ」など、現代社会で生じている現象について、マクロとミクロという２つの視点から学ぶことにより、物事を複眼的に見ることの意義と重要さについて学ぶ。本講義で学んだ知識や社会の見方を応用して、自身の生き方を豊かにし生活を充実させるための具体的な行動に活かす力を養う。

到達目標(学習の成果)

- 現代社会で起きている様々な変化について、マクロな視点から理解を深める（DP1)。
- 社会に生じている諸現象と自分を含めた身近な人たちとの関係について理解する（DP1)。
- 講義での学びを自らの生活を豊かにするための方策に結びつけ、実行するための方法を考える（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	社会に生じている様々な問題が私たちの日常とどのように関連するのか、マクロとミクロの考え方について学ぶ。(蟹江)	事前	シラバスを読み、授業のイメージをもつ。(1 時間)
		事後	配布資料をよく読み返す。(3 時間)
2	成人になること：成人の権利と意義について考える。特に成人年齢引き下げによるトラブルについて学ぶ。(蟹江)	事前	少子高齢化の知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
3	アルバイト：大学生にとって不可欠であるアルバイトの意味と問題について学ぶ。(蟹江)	事前	アルバイトの知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
4	SDGｓ：SDGｓの現状やその背景、持続可能な社会の実現に向けた取り組みや課題などについて考える。(星)	事前	ＳＤＧｓの知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に、授業内容を復習する(3 時間)
5	身近な SDGｓ：SDGｓについて身近な事例から考え、課題の解決策を検討する。(星)	事前	SDGｓに関する身近な事例を用意する。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、自身の考えを整理する。(2 時間)
6	高学歴化：高学歴化の現状やその原因、社会に与える影響、課題などについて学ぶ。(蟹江)	事前	高学歴化の知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
7	DX・AI：近年、急速に進むDXやAIの利用について学び課題を明らかにする。(蟹江)	事前	DX・AI の知識を整理して授業に臨む。(2 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(2 時間)
8	身近な DX・AI：実際に DX や AI を経験し、利便性や問題点について理解する。(蟹江)	事前	実際に DX や AI を利用してみる。(2 時間)
		事後	利便性や問題点について復習する。(2 時間)
9	多文化共生：国際化の現状やその原因、社会の状況等を確認し、多文化共生の現状と課題について理解する。(星)	事後	国際化や多文化共生の知識を整理して臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
10	身近な多文化共生：身近な異文化について考え、私たちの生活における多文化共生について検討する。(星)	事前	異文化・多文化に関する事例を用意する。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
11	国際協力：国際協力の現状や世界の状況について理解し、社会に与える影響やその課題について理解する。(星)	事前	国際協力の知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
12	身近な国際協力：国際協力について身近なところから	事前	国際協力に関する事例を用意する。(1 時間)

	考え、私たちの生活との関係について検討する。（星）	事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
13	男女共同参画社会： 現代社会におけるジェンダーの問題について、なぜ男女共同参画が必要なのか考える。（蟹江）	事前	知識を整理して授業に臨む。（1 時間）
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)
14	身近な男女共同参画：男女共同参画について、家庭内の役割という身近な部分から実現策を検討する。（蟹江）	事前	前回の授業内容を踏まえて出された男女共同参画についての課題を行う。（4 時間）
		事後	
15	ダイバーシティ：多様化する社会について知り、よりよく生きるためにはどうすればよいか考える。（星）	事前	ダイバーシティの知識を整理して授業に臨む。(1 時間)
		事後	配布したプリントを基に授業内容を復習する。(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への取り組み(授業中の発言、コメントシートへの記述等をとおして、講義の内容を理解しているかどうかで評価する)30%
・課題レポート(専門用語を用いた論述であること、実態を理解し根拠を示して問題点を指摘できるかどうかを重視する)40%
・レポートの報告(課題レポートの要点を整理して、聞いている人に内容をわかりやすく伝えることができているかどうかを重視する) 30%
レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック基準を用いて評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
授業で扱った諸現象についてマクロな視点から理解を深める（DP1)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
授業で扱った諸現象についてミクロな視点から理解する（DP1)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
③講義での学びを自らの生活を豊かにするための方策に結びつけ、実行するための方法を考える（DP4)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　レポートは、次回担当授業やクラスルーム等でフィードバックする。

教科書
特になし
必要に応じて担当教員が作成した資料を配布する。

参考書等
・バウンド著、秋山宏次郎(監修、『こども SDGs』、カンゼン、2020
・毎日新聞取材班、『世界少子化考 子供が増えれば幸せなのか』、毎日新聞出版社、2022

履修上の注意・学習支援
・授業における課題の提出期限は厳守すること。
・他者の迷惑になる授業態度は一切しないこと。
・疑問は必ず授業内で解決すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A2203	現代の教養講座Ⅱ	1～4 年	春	講義	2	石本真紀・松岡展世

授業概要

現代の日本において、なぜ子育て支援が必要とされているのかを理解し、その背景について学ぶ。子育て支援を行っている現場を訪問し、支援の実際について理解する。国内外の施策動向をもとに、子どもと共に生活を創る保育者として身につけるべき基本的な資質について考察する。

到達目標(学習の成果)

・地域の子育て環境について理解し、子育て支援の様々なニーズや現状の支援について説明することができる(DP2)。
・子育て支援にかかわる保育者の役割について理解し、実践に繋げて考えることができる(DP3)。
・グループ討議を通して、積極的に他者と関わり関係を形成できる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子育て支援を学ぶ意義:子どもと保護者を取り巻く社会状況をもとに子育て支援の必要性について学ぶ。身近な子育て支援の内容について学ぶ。（松岡）	事前	子どもを取り巻く社会状況について調べる（2 時間）
		事後	自治体の HP をもとに自分の住む地域の状況について情報を収集しておく(2 時間)
2	地域の子育てにかかわる社会資源:子育て家庭の支援にかかわるさまざまな社会資源について学ぶ。(石本)	事前	自分の住む市町の子育て支援の内容を確認する(2 時間)
		事後	ﾌｫｰﾏﾙ・ｲﾝﾌｫｰﾏﾙな社会資源について授業の学びをもとにまとめる(2 時間)
3	子育ての現状①:子どもが育つ場としての「家庭」について考え、子育ての負担感や不安感について理解する。(松岡)	事前	子どもにとっての家庭の役割を考察する（2 時間）
		事後	子育ての負担感・不安感についてまとめる(2 時間)
4	子育ての現状②:子育ての負担軽減のために必要なことについてグループ討議を行う。（松岡）	事前	子育て支援のさまざまな形について予習する（2 時間）
		事後	グループ討議の結果をまとめる（2 時間）
5	実践者の視点を学ぼう:子育て支援の実践者から、子どもへの支援・子育て家庭への支援の視点について学ぶ。(松岡)	事前	地域の子育て支援施設について調べる（2 時間）
		事後	実践者からの学びについてレポートを作成（2 時間）
6	事例で学ぶ子育て支援:模擬事例をもとに、どのような子育て支援ができるかを具体的に考える。(松岡)	事前	保育者の子育て支援について予習する（2 時間）
		事後	模擬事例での学びについて感想レポート作成(2 時間)
7	家庭の状況に合わせた子育て支援①:学齢期の子どもや家庭への支援の内容について学ぶ。（石本）	事前	学齢期から青少年までの子どもや子育て家庭を取り巻く状況と課題について調べる（2.5 時間）
		事後	授業で取り上げた事例について感想をまとめる(1.5 時間)
8	家庭の状況に合わせた子育て支援②:学齢期の子どもや家庭への支援についてグループ討議を行う。(石本)	事前	子ども・若者支援の施策について調べる（3 時間）
		事後	グループ討議の内容や気付きについてまとめる(1 時間)
9	子育て支援の実際①:子育て支援を行っている現場への訪問等を通して支援内容や方法について学ぶ。(石本)	事前	訪問先の概要を調べ、資料を集める(1.5 時間)
		事後	体験レポートを作成する(2.5 時間)
10	子育て支援の実際②:訪問を通して学んだことについてグループ討議を行う。（石本）	事前	見学レポートをもとにグループ討議の内容を考える(1.5 時間)
		事後	グループ討議の内容をまとめ、子育て支援の現場での学びの問いを考える(2. 5 時間)
11	子育て支援の実際③:自治体で行われている子育て支援プログラムの実際を体験的に学ぶ。(松岡)	事前	子育て支援プログラムについて調べる（2 時間）
		事後	体験レポートを作成する（2 時間）

12	海外の子育て支援:海外の子育て支援の施策動向や子育て支援の実際について学ぶ。（石本）	事前	自分が関心を持った国の子育て支援の施策動向について事前学習をする(3 時間)
		事後	学習した事例について感想レポートを作成する(1 時間)
13	子育て支援の多様な展開①:多文化共生社会における子育て支援について学ぶ。（石本）	事前	多文化共生社会について事前学習をする(2 時間)
		事後	多文化共生社会における子育て支援の現状と課題について自分の意見をまとめる(2 時間)
14	子育て支援の多様な展開②:各自の問題意識をもとにテーマを決め、プレゼンテーションの準備をする。(松岡)	事前	これまで集めた資料を整理し、テーマを決定する(2 時間)
		事後	前回の授業内容を振り返り、発表内容を再考する(2時間)
15	子育て支援の多様な展開③:子育て支援の現状と課題についてまとめ、地域で必要とされる子育て支援の内容について自分の意見を発表する。(石本・松岡)	事前	発表のリハーサルをする(1.5 時間)
		事後	15 回の授業での学びをもとにレポートを作成する(2.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解(30%:コメントシートへの記述等をとおして、講義の内容を理解しているかを評価する)
・レポート課題(30%:テーマに沿って自分の考えが論理的に述べられているかを評価する)
・プレゼンテーション(40%:自身の考えをまとめ、人にわかりやすいように伝えることができているかを評価する)
・フィードバック:
コメントシート等は次回返却、もしくは次回の授業で全体に口頭で伝える

成績評価の基準 :
レポート、グループワーク、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いる

観点	S	A	B	C
子育て支援の様々なニーズや現状の支援について説明することができる(DP2)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子育て支援にかかわる保育者の役割について実践に繋げて考えることができる(DP3)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
他者理解のもとに関係を形成できる(DP4)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

教科書
特に定めない。授業中に資料プリントや映像資料を提示する。

参考書等
大豆生田啓友、『保護者支援の新ルール 10 の原則』、メイト、2017 年
高山静子、『子育て支援ひだまり通信 遊びとしつけの上手なコツ』、チャイルド本社、2010 年
『発達 140 【特集】子育て支援のこれから』、ミネルヴァ書房、2014 年
『発達 146 地方発! 保育・子育て支援の新たな取り組み 』、ミネルヴァ書房、2016 年
汐見稔幸・汐見和恵、『今、もっとも必要な これからのこども・子育て支援(これからの保育シリーズ9)』、風鳴舎、 2021 年

履修上の注意・学習支援
日頃から子育てや子育て支援に関する報道や新聞記事等に目を通しておくこと
授業についての疑問や質問は、授業中、授業後またはオフィスアワーの時間におこなうこと

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ・東京都世田谷区の教育相談室にて（10 年） 　幼児期から中学生までの子どものプレイセラピーや発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談 ・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14 年） 　1 歳 6 か月健診、3 歳児健診、5 歳児健診および子育て教室（心理相談）、保健師・保育士へのコンサルテーション等 ・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5 年） 　児童生徒および保護者の相談、教員コンサルテーション、心理アセスメント、予防的心理教育等　（松岡） ［実務経験と授業科目との関連性］ ・臨床心理士として心理臨床の現場で、乳児期から中学生まで幅広い子どものプレイセラピー及び親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。保護者および保育者・教育者への支援等の経験を踏まえ、乳幼児期からの子どもの発達上の諸問題とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行っている。（松岡）

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A3204	現代の教養講座Ⅲ	１～４年	春	講義	２	田渕光与・桂木奈巳

授業概要

本講座では、自然の循環の中での人間の役割について学ぶ。人間の生活は、大気や水、土壌、生態系など、あらゆる自然環境とつながりを持つ事を理解し、自然が与えてくれる恩恵について考える。さらに、保育の現場における自然との関わり方を知る。

到達目標(学習の成果)

- 地球の現状についてデータで把握し、人間生活とのかかわりについて考えを深める（DP4)。
- 自らの生活を取り巻く自然環境とその課題を意識し、今後の行動指針を得る（DP4)。
- 保育の現場における自然との関わり方を知り、活用できるようになる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	生命誕生から人間の進化まで 宇宙の誕生から生命の誕生まで、偶然を重ねて形作られる生命について学ぶ。過去、現在、未来の環境問題について知る。（田渕）	事前	生命誕生の起源について、情報を集めシートにまとめる。(2 時間)
		事後	人間の誕生から現在に至る過程で、人間が地球環境に与えた影響についてまとめる。(2 時間)
2	サステナブル社会について課題意識をもつ（1) ウイルスの存在も含めた自然環境に対して、自分が知っていること、さらに調べなくてはならないことを把握し、調査をする。（田渕）	事前	ウイルスをも含めた自然環境について概要を調べ、課題を見出す。(2 時間)
		事後	サステナブル社会を目指すために、各分野でどのような取組みが行われているか、興味のある分野から関連のある分野へ、つながりを探って情報を集める。(2 時間)
3	サステナブル社会について課題意識をもつ（2) SDGs について学び、自然の循環の中での人間の役割について、自分なりの課題意識をもち、課題解決について多様な視点から資料を整理し、さらに調査を行う。（田渕）	事前	SDG‘sの 17 の目標について調べまとめる。(1時間)
		事後	SDG‘S の目標 12 について、その背景を調べ、日本の取り組みへの評価をする。(3 時間)
4	サステナブル社会について課題意識をもつ（3) 他の課題追及をしている学生と、調査内容を共有し、新たな視点から解決策が見出されるか検討していく。（田渕）	事前	人新世第２章を読み、引用されているデータの最新版を得る。(2 時間)
		事後	自分の課題追及に必要なデータを集める。(2 時間)
5	課題解決に迫る（1) 調査・収取した情報から、自分ができる実践について意見交換をし、考えを深める。（田渕）	事前	情報交換のための資料を作成する。(1 時間)
		事後	課題解決のための資料を収集する。(3 時間)
6	課題解決に迫る（2) 調査結果と実践を効果的に伝えるプレゼンテーションを作成する。（田渕）	事前	自分の課題追及の調査をもとにレポートを書く。(2 時間)
		事後	レポートを効果的に伝えるプレゼンテーションを完成する。(2 時間)
7	課題解決の報告 他の課題とのつながりを意識しながら、サステナブル社会に向けての取組について報告する。（田渕）	事前	伝えたいことが的確に伝わるプレゼンテーションに改善する。(2 時間)
		事後	ほかの発表者のプレゼンテーションから得た新たな視点や知見をシートにまとめる。(2 時間)
8	絵本の中の七十二節気 絵本の中の自然と、子どものイメージとの関わりについて考え、季節の移り変わりを日本人はどう捉えてきたのか知る。（田渕）	事前	自然を感じられる絵本を、紹介を前提に 1 冊選びそのプレビューを作成する。(2 時間)
		事後	紹介された絵本と日本の七十二節気のかかわりについてシートにまとめる。(2 時間)
9	身近な環境問題① 温室効果ガスによる温暖化のメカニズムを理解し温暖化防止のための気候変動枠組み条約・京都議定書を学ぶ。酸性雨とオゾン層破壊のメカニズムを理解する。（桂木）	事前	事前に配布した資料を読む(2 時間)
		事後	授業で学んだ内容をマインドマップにまとめる(2 時間)
10	身近な環境問題② 環境問題をテーマとして作成されたゲームを体験する。この	事前	自分の周囲で観察できる「動物の痕跡」を探す(2 時間)

	内容から、自分自身の生活のあり方をふりかえる	事後	自分の周囲で観察できる「動物の痕跡」を探す(2 時間)
11	動物の目で環境を見る 自然啓発活動の概要を学ぶ。ヒトの影響が動植物等に及ぼす影響を知る。(桂木)	事前	人の生活と「動物の痕跡」のつながりをまとめる(4 時間)
		事後	
12	生物多様性① 生物多様性条約について学ぶ。３つの多様性の詳細を知り、自らの環境行動指針を考察する。(桂木)	事前	授業時に配布した資料を読む(2 時間)
		事後	生物多様性に関する子ども向け教材を考える(2 時間)
13	生物多様性② 生物模倣（バイオミミクリ）の例を学び、自然の恩恵について考える。（桂木）	事前	生物多様性に関する子ども向け教材を作成する(2 時間)
		事後	「バイオミミクリ」を取り入れた製品を自宅で探す(2 時間)
14	生物多様性③ 生物多様性を題材とした教材類を作成、発表する。(桂木)	事前	生物多様性に関する子ども向け教材の発表練習をする(2 時間)
		事後	教材の改良を行う(2 時間)
15	自然と人の生活 生活に浸透している用具・道具類を実際に作成し、自然と人とのつながりを考察する（桂木）	事前	自然と人の生活に関する事柄について、他の事例を調べる(2 時間)
		事後	授業内で提示したシートをまとめる(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)　反転授業(1, 2, 4, 9, 11 回)グループディスカッション(4, 5, 8 回)プレゼンテーション(7, 14 回)

成績評価の方法･基準(%表記)

成績評価は、2 名の担当者の平均とする。

① 授業内容の理解（30%：授業内で振り返りシートを提出する）
② レポート（30%：学習したことを要約し言語化できているかを評価する）
③ 検討課題の準備状況（20%：授業課題に対しての事前学習内容を評価する）
④ 発表内容（20%：積極的態度および授業内での発表内容と学習内容の理解度を評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
地球の現状についてデータで把握し、人間生活とのかかわりについて考えを深める（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
自らの生活を取り巻く自然環境とその課題を意識し、今後の行動指針を得る（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の現場における自然との関わり方を知り、活用の方法を得ている（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック基準を用いて評価する。
課題に対してはクラスルームからフィードバックを行う。プレゼンテーションには適宜、フィードバックを行う。

教科書
特になし
参考書等
宮崎学、「アニマルアイズ・動物の目で環境を見る１～５」、偕成社、2002
・その他は授業内で紹介する。

履修上の注意･学習支援

- 毎回、アクテイブ・ラーニング（主体的な学び）と資料を用いた様々な学習活動をする。アクテイブ・ラーニングにおいては積極的な参加を意識して取り組むこと。

・　屋外での講義を行う際には、活動しやすい服装をすること 疑問点・質問があるときは、積極的にオフィスアワーを活用すること。
務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］　田渕　光与 ・小学校教員（18年） ・県教育委員会義務教育課幼児教育、特別支援教育、道徳担当指導主事（4年） ・栃木県幼児教育センター副主幹（9年）センター長（2年） ・小学校長（3年） ・学校法人の幼稚園長（4年） ［実務経験と授業科目との関連性］ ・小学校で、環境教育主任として、児童への啓発資料の作成、年間指導計画の作成、委員会の指導などを通して、身近な環境に対する意識と態度の育成に努めた。 ・県が主催する幼児期の環境教育に関する研修のコーディネーターを務めた。 ・幼稚園や小学校において、校外学習の場所を設定するための現地調査と教育効果について研修を企画した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A4105	現代教養講座Ⅳ	4年	春	講義	1	須賀英之・杉本太平 河田隆・蟹江教子 渡邊昇・阿久澤政行 田渕光与・桂木奈巳

授業概要

「現代の教養講座Ⅰ～Ⅳの学習内容を全人教育の観点から体系化し、本学の全人教育の理念を学ぶ。本講座は全人教育の集大成として、自らの人生の目標と価値について、再確認をする授業である。学長、理事長他、知識教育、道徳教育、芸術教育、宗教教育、健康教育、生活教育の本学の専門家が講義を１回ずつオムニバス形式で担当する。全体を通して本学の教育目標である全人教育の理念を自分のものとする。

到達目標(学習の成果)

・人類が築き上げてきた文化と人間の価値を深く知り、自己の目標とする人間像を創造することができるようになる（DP1.4)。

・自己の生き方を考え、これまでの喜び、哀しみ、楽しみ、苦脳などを超越したかっこたる人生観を見いだし、残りの大学生活と今後の人生を充実して送る選択ができるようになる（DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	全人教育講座について 本講座開設の目的 全人教育と保育（学部長・教授　杉本　太平）	事前	全人教育に関して内容を調べて、理解を深めておく。(1 時間)
		事後	全人教育の内容が、保育に関しての必要性を理解し考えをまとめる。(1 時間)
2	須賀栄子の人と思想 須賀学園の創設者須賀栄子の生涯（学長　須賀　英之）	事前	『人間教育に生涯をささげた須賀学園創立者　須賀栄子先生』を読み、保育者として身に付けるべき資質を考え、レポートにまとめる。 (2 時間)
		事後	
3	健康教育と全人教育 身体と精神と健康の意味（教授　河田　隆）	事前	健康に関しての定義を調べて、理解を深めておく。(1 時間)
		事後	健康について理解したことを生活化するためにどうするかまとめる。(1 時間)
4	音楽と感性 豊かな表現力を養う音楽（講師　阿久澤　政行）	事前	講義を聞き、「音楽の持つ力」について考え、レポートにまとめる。(2 時間)
		事後	
5	知識と全人教育 全人教育の思想と共和大学(教授　蟹江　教子)	事前	知識と全人教育の関連性について自分の考えをまとめておく。(1 時間)
		事後	講義を聞いて人間形成における知識の役割につてレポートにまとめる。(1 時間)
6	宗教を学ぶ 宗教の意義と人間らしい生き方 （講師　渡邊　昇）	事前	祖父母や保護者などから、家の宗教について詳しく聴き取り、理解を深めておく。(1 時間)
		事後	家の宗派と菩提寺を白根、歴史や特記すべき事をレポートにまとめる。(1 時間)
7	道徳と全人教育 道徳の意味、現代の道徳（教授　田渕　光与）	事前	「道徳」について調べ 1600 文字程度のレポートを作成する。(1時間)
		事後	自らの「倫理観」「道徳観」を踏まえ、自分が社会生活の中で何ができるのか、レポートにまとめる。(1時間)
8	生活体験と全人教育 生活体験の意義と教育（学科長・教授　桂木　奈巳）	事前	(授業時に渡すシートをもとに)自分自身の生活体験をふりかえり、自らの価値観を元に今後の行動指針を考え, レポートにまとめる(2 時間)
		事後	

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

プレゼンテーション・ディスカッション

成績評価の方法･基準(%表記)

・講義の受講時に提出する学んだ内容のミニレポートは毎回評価される(40%)
・課題のフィードバックは返却時またはクラスルームで行う
・前半（1 回から 4 回まで）と後半（5 回から 8 回まで）の担当教員からレポートの課題が提出される。学生は前半、後半にそれぞれ課題を 1 つ選んでレポートを提出する(30%+30%)。

①成績評価の基準

観点	S	A	B	C
自己の目標とする人間像を創造することができる（DP1.4）	十分できる	ほぼ十分できる	一定程度できる	努力している
自己の生き方を考え、自らの人生観を見いだし、今後の人生を充実して送る選択ができる。(DP4)	十分できる	ほぼ十分できる	一定程度できる	努力している

教科書

特になし

参考書等

須賀淳著　『人間教育に生涯をささげた須賀学園創立者　須賀栄子先生』　学校法人須賀学園　2024（大学より配布）
須賀淳著　『未来を育む「全人教育」』　下野新聞社　2012
須賀淳著　『ひかり輝く全人教育―須賀学園の百年―』　学校法人須賀学園　2000
小原國芳著『全人教育論』　玉川大学出版部　1994

履修上の注意･学習支援

現代の教養講座Ⅰ～Ⅲの集大成としての授業であり、宇都宮共和大学での学習の総まとめとなる授業であるので、4 年生は全員履修するものとする。各教員の評価の割合は同等である。8 回すべての授業を履修してこの授業のねらいを達成することを期待している。なお、単位の履修に関係なく聴講を希望する学生、教員は、参加できる授業である。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1206	初年次基礎演習Ⅰ	1年	春	演習	1	杉本太平・桂木奈巳

授業概要

大学生活への導入として、高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的諸経験をより有意義なものにするための初年次教育に位置付けられる。各部門からの説明や学内行事への参加により、大学について理解し、大学生活に慣れるためのプログラムである。

到達目標(学習の成果)

・大学における学びの意味、大学の仕組み、学生としての倫理について理解し、行動することができる(DP1)。
・大学でのキャリア形成について考え、イメージすることが出来る(DP1)。
・学生生活における時間管理や学習習慣の大切さ、および心身の健康と安全に関する基礎知識を理解し、実践する(DP1)。
・協調性を身に付け、仲間関係を良好に築こうとする(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	大学の理解 宇都宮共和大学の建学の精神や教育方針、キャンパス内の施設・設備の利活用について学ぶ。(教務委員会)	事前 事後	学生便覧「1.はじめに」「2.教育理念」を読む。(1時間)
2	大学生活における健康 キャンパスハラスメント、メンタルヘルスについて理解し、学生相談などの学内資源の利活用について学ぶ。(教務委員会)	事前 事後	学生便覧「11. 学生生活」を読む。(1時間)
3	大学カリキュラムの理解1 科目履修や単位認定などの大学の教学の仕組み、大学での授業の受け方を学ぶ。(教務委員会)	事前 事後	「履修の手引き」を読み返し、本学部のDP, CPを理解する。(1時間)
4	大学カリキュラムの理解2 履修登録の方法を学ぶ。(教務委員会)	事前 事後	「シラバス」を読み、カリキュラムの構造を理解する。履修計画を立てる。(1時間)
5	ポートフォリオの作成 卒業後の自身の姿を想定し、大学生活における自身の目標を設定する。(教務委員会)	事前 事後	ポートフォリオとなる授業資料・春学期分を収集して整理・保管する。(1時間)
6	仲間関係の形成1 レクリエーション活動を通じて仲間と交流し、人間関係を形成する。(学生委員会・担任)	事前 事後	授業時に伝達された研修準備を行う。(1時間)
7	仲間関係の形成2 レクリエーション活動を通じて上級生や教員と交流し、人間関係を形成する。(学生委員会・担任)	事前 事後	交流に適するゲームを調べ、プログラムを考える。(1時間)
8	仲間関係の形成3 合宿を通じた仲間関係やレクリエーション活動について振り返り、大学生活への動機づけを高める。(学生委員会・担任)	事前 事後	研修を通して得られた事柄を整理し、レポートにまとめる。(1時間)
9	資料・文献の探し方 図書館の利用ルール、本の貸し出し、蔵書検索の方法など、図書館の利活用について学ぶ。(研究図書委員会)	事前 事後	学生便覧「8.図書館」を読む。(1時間) 図書館を利用する。(1時間)
10	保育教育実習への導入 資格取得に向けた保育・教育実習の目的、内容、しくみについて学び、実習に向けた学習や留意点を理解する。(実習委員会)	事前 事後	学生便覧「5. 実習」を読む。(0.5 時間) 授業内で配布した資料を熟読する。自分が住んでいる地域の幼稚園・保育園を調べ、実習先候補を決める。(0.5 時間)
11	試験レポートの倫理 定期試験やレポートにおける不正行為について学び、大学生としての倫理観を身につける。(教務委員会)	事前 事後	学生便覧と履修の手引き「試験について」を読んでおく(0.5 時間) 自らが考える「大学生としての倫理観」を文章化する。(0.5 時間)
12	キャリアへの導入 就職に向けた考え方の基礎を学ぶ。(就職委員会)	事前	「就職・進学ガイドブック」に目を通し、Ⅰ・Ⅱの1, 2, 3について読んでおく。(0.5 時間)

		事後	授業で明確化した大学生活の在り方について、具体的行動実践に結びつける。(0.5 時間)
13	生活と安全１ 大学構成員としての自覚・責任について学ぶ。(担任)	事前 事後	安全講話を聴き、自らの生活を振り返り、具体的な生活の改善方法を考え、実践する。(1時間)
14	生活と安全２ 学内環境を点検整備し、長期休業中の過ごし方を学ぶことで大学構成員としての自覚をもつ。(担任)	事前 事後	春学期の生活を振り返り、長期休暇を有意義に過ごす計画を立てる。(1時間)
15	学習・生活の振り返り 春学期の学習・生活を振り返る。(担任)	事前 事後	春学期の学習状況を振り返り、秋学期の履修計画を見直す。(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

- ポートフォリオ 40%(必要な資料がそろっており、項目ごとに適切に記載されている)
- 課題レポート 30%(自身の経験を踏まえて成果が記述されている)
- 経験、他者との協力、積極性 30%(さまざまな経験をし、他者と協力し、各課の課題に積極的に取り組んだ)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
大学における学びの意味、大学の仕組み、学生としての倫理について理解している(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
キャリア形成について考え、イメージすることが出来る(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
時間管理・学習習慣・心身の健康と安全を実践する(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
協調性を身に付け、仲間関係を良好に築こうとする(DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題等に対しては、授業内またはクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
　学生便覧、シラバス、就職・進路ガイドブック、2024
参考書等
　特になし

履修上の注意・学習支援
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと
疑問や質問は、授業担当に早めに相談して解決すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1207	初年次基礎演習Ⅱ	1年	秋	演習	1	杉本太平・桂木奈巳

授業概要

大学生活への導入として、高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的諸経験をより有意義なものにするための初年次教育に位置付けられる。各部門からの説明や学内行事への参加により、大学について理解し、大学生活に慣れるためのプログラムである。

到達目標(学習の成果)

・大学における学びの意味、大学の仕組み、学生としての倫理をふまえて行動することができる(DP1)。
・大学でのキャリア形成について自分の目標を設定する(DP1)。
・学生生活における時間管理や学習習慣の大切さ、および心身の健康と安全に関する基礎知識を理解し、実践する(DP1)。
・仲間関係における協調性を身につけ、イベントやレクリエーション活動で実践することができる(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	大学生活の理解 大学での学びの目的、学生としての責任と倫理を確認する。(教務委員会)	事前 事後	学生便覧「4.授業」「11. 学生生活」を読み返す。(1時間)
2	成績評価の見方 成績評価の仕組みを理解し、春学期の学習成果と課題を確認する。(教務委員会)	事前 事後	自らの成績表を確認し、学習方法を振り返る。今後の学び方を再度見直し、実践に移す方法を考える。(1時間)
3	ポートフォリオの作成1 春学期の学びを振り返り、卒業後の自身の姿を見通して秋学期の目標を設定する。(教務委員会)	事前 事後	ポートフォリオとなる秋学期の授業資料を収集して保管する。(1時間)
4	レクリエーション活動1 レクリエーション活動(競技1・2)に主体的に参加して健康な心身を培う。(学生委員会・担任)	事前 事後	競技の種目やチーム決めを行い、自分の役割を認識する。(1時間)
5	レクリエーション活動2 レクリエーション活動(競技 3・4)に主体的に参加して健康な心身を培う。(学生委員会・担任)	事前 事後	レクリエーション活動に参加し、得られた成果を認識して自らの成長を確認する。(1時間)
6	イベントの企画・立案 イベントの企画・立案を通して、計画性を持ってものごとに取り組むことの大切さを学ぶ。(学生委員会・担任)	事前 事後	企画の内容を決める。(0.5 時間) 各自の分担に沿って、仲間と協力してイベントの計画を完成させる。(0.5 時間)
7	イベントの準備 イベントの準備を通じて、仲間とコミュニケーションを図り、協働する大切さを学ぶ。(学生委員会・担任)	事前 事後	計画に沿って実施できるよう具体的方策を考える。これらを仲間内で共有する。(1時間)
8 9	イベントの実施・運営 イベントの実施・運営を通じて、他者を喜ばせることの大切さと難しさを学ぶ。(学生委員会・担任)	事前 事後	イベント当日の準備(物の調達、環境づくり、制作など)を行う。(1時間)
10	イベント実施の振り返り イベントの運営を振り返り、自身の実践についてまとめる。(学生委員会・担任)	事前 事後	イベントを通して得られた事柄をまとめ、自らの成長を確認する。(1時間)
11	キャリア形成の準備 就職に向けた準備について学ぶ。(就職委員会)	事前 事後	「就職・進学ガイドブック」に目を通し、Ⅲについて読んでおく。(0.5 時間) 授業で振り返った1年間の大学生活の在り方と今後に向けた改善点を具体的行動実践に結びつける。(0.5 時間)
12	大学の理解 大学について自らの経験をもとに理解し、他者に説明する。(教務委員会)	事前 事後	「1年間の学び」を作成する。(1時間)

13	卒業研究への導入 卒業研究発表会に参加し、卒業研究のイメージを持つとともに、実施を見据えた学習の必要性を理解する。（教務委員会）	事前 事後	卒論要旨集を読み、自分自身の興味関心の領域を広げる。（1時間）
14	生活と安全 学内環境を点検整備し、長期休業中の過ごし方を学ぶことで大学構成員としての自覚をもつ。（担任）	事前 事後	「1年間の学び」を完成させる。（1時間）
15	学習・生活の振り返り 秋学期の学習・生活を振り返る。（教務委員会・担任）	事前 事後	授業内で視聴した他者の「1年間の学び」から、自らの課題を得る。2年次の目標設定をする。（1時間）

授業形式（アクティブラーニングの内容）
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準（%表記）

- ポートフォリオ 40%（必要な資料がそろっており、項目ごとに適切に記載されている）
- 課題レポート 30%（自身の経験を踏まえて成果が記述されている）
- 経験、他者との協力、積極性 30%（さまざまな経験をし、他者と協力し、各課の課題に積極的に取り組んだ）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
大学における学びの意味、大学の仕組み、学生としての倫理をふまえて行動することができる（DP1）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
大学でのキャリア形成についてイメージすることが出来る（DP1）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
時間管理や学習習慣および心身の健康と安全に関する基礎知識を理解し、実践する（DP1）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
仲間関係における協調性を身につけ、イベントやレクリエーション活動で実践することができる（DP2）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題等に対しては、授業内またはクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
学生便覧、シラバス、就職・進路ガイドブック(2024)
参考書等
特になし

履修上の注意・学習支援
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと
疑問や質問は、授業担当に早めに相談して解決すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A2208	初年次基礎演習Ⅲ	2年	集中	演習	1	杉本太平・桂木奈巳

授業概要
学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的諸経験をより有意義なものにするためのプログラムである。各部門からの説明により大学の資源を利活用し、学内行事への参加により社会性・人間性を育成する。

到達目標(学習の成果)
・実習に向けた自己管理や学習習慣を確立し、大学でのキャリア形成イメージを具体化することが出来る。(DP1)
・心身の健康と安全に関する基礎知識を踏まえて、レクリエーション活動等を実践することが出来る。(DP1)
・社会人としての協調性と責任感を身につけ、イベント等を企画し実践することができる。(DP2)
・自身の学生生活と学習を振り返り、課題を見出すことが出来る。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	ポートフォリオの作成 1年次の学習成果と課題を確認するとともに学びを振り返り、卒業後の自身の姿を見通して秋学期の目標を設定する。(教務委員会)	事前 事後	ポートフォリオとなる秋学期の授業資料を収集して保管する。(1時間)
2	レクリエーション活動の企画 新入生の仲間関係の形成を目的としたレクリエーション活動を企画する。(学生委員会・担任)	事前 事後	新入生に提供するプログラムを考え、練習を行う。(1時間)
3	レクリエーション活動の実践 多人数でのレクリエーション活動の運営・実施を通じて仲間関係の形成を促す。(学生委員会・担任)	事前 事後	当日の準備(物の調達、環境づくり、制作など)を行う。(0.5 時間) 残務処理(片付け、記録の整理)を行う。(0.5 時間)
4	レクリエーション活動の振り返り 実践したレクリエーション活動について振り返り、自身の成果と課題を見出す。(学生委員会・担任)	事前 事後	研修を通して得られた事柄を整理し、レポートにまとめる。(1時間)
5	キャリア形成の準備 卒業後を想定して、学生時代に何をしたらよいかプランを練る。(就職委員会)	事前 事後	「就職・進学ガイドブック」のⅢ、Ⅹについて読んでおく。(0.5 時間) 今後の実習等も含めた大学生活の見通しについて自分なりに具体的行動実践に結びつけて考える。(0.5 時間)
6	生活と安全 社会の構成員としての自覚・責任について学ぶ。(担任)	事前 事後	安全講話を聴き、自らの生活を振り返り、具体的な生活の改善方法を考え、実践する。(1時間)
7	学習・生活の振り返り1 春学期の学習・生活を振り返る。(教務委員会)	事前 事後	春学期の生活を振り返り、長期休暇を有意義に過ごす計画を立てる。(1時間)
8	ポートフォリオの作成① 春学期の学習成果と課題を確認するとともに学びを振り返り、卒業後の自身の姿を見通して秋学期の目標を設定する。(教務委員会)	事前 事後	ポートフォリオとなる秋学期の授業資料を収集して保管する。(1時間)
9	レクリエーション1 レクリエーション活動(競技1・2)とその運営に主体的に参加して健康な心身を培う。(学生委員会・担任)	事前 事後	競技の種目やチーム決めを行い、自分の役割を認識する。(1時間)
10	レクリエーション2 レクリエーション活動(競技3・4)とその運営に主体的に参加して健康な心身を培う。(学生委員会・担任)	事前 事後	レクリエーション活動に参加し、得られた成果を認識して自らの成長を確認する。(1時間)
11	イベント企画・準備 イベントの企画・準備を通じて、社会の一員として他者と協力し責任感を持って行動する大切さを学ぶ。(学生委員会・担任)	事前 事後	企画内容を決定する。(0.5 時間) 各自の分担に沿って、仲間と協力してイベントの計画を完成させる。(0.5 時間)
12	イベントの実施・運営	事前	イベント当日の準備(物の調達、環境づくり、制作な

	イベントの実施・運営を通じて、他者を喜ばせることの大切さと難しさを学ぶ。（学生委員会・担任）		ど）を行う。（0.5 時間）
		事後	イベントの残務処理（片付け、記録の整理）を行う。（0.5 時間）
13	イベント企画・準備の振り返り イベントの運営を振り返り、自身の実践についてまとめる。（学生委員会・担任）	事前	イベントを通して得られた事柄をまとめ、自らの成長を確認する。（1時間）
		事後	
14	ポートフォリオの作成② 1年次に作成した「1年間の学び」を読み、この1年の成長を振りかえる。2年次の「1年間の学び」を作成する。（教務委員会）	事前	「1年間の学び」を完成させる。（1時間）
		事後	
15	学習・生活の振り返り2 秋学期の学習・生活を振り返る。（担任）	事前	授業内で視聴した他者の「1年間の学び」から、自らの課題を得る。3年次の目標設定をする。（1時間）
		事後	

授業形式（アクティブ・ラーニングの内容）
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準（%表記）
・ポートフォリオ 40%（必要な資料がそろっており、項目ごとに適切に記載されている）
・課題レポート 30%（成果と課題を踏まえて目標が記述されている）
・経験、他者との協力、積極性 30%（さまざまな経験をし、他者と協力し、各課の課題に積極的に取り組んだ）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
実習に向けた自己管理や学習習慣を確立し、大学でのキャリア形成イメージを具体化することが出来る。（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
心身の健康と安全に関する基礎知識を踏まえて、レクリエーション活動等を実践することが出来る。（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
協調性と責任感を身につけ、イベント等を企画し実践することができる。（DP2）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
自身の学生生活と学習を振り返り、課題を見出すことが出来る。（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題等に対しては、授業内またはクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
学生便覧、履修の手引き、就職・進学ガイドブック、2024
参考書等
特になし

履修上の注意・学習支援
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと
疑問や質問は、授業担当に早めに相談して解決すること

・科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1209	文章表現Ⅰ	１年	集中	演習	1	蟹江教子・1 年生担任教員

授業概要

文章を書くことが苦手な学生、慣れていない学生は多い。そこで、大学での学びに必要な文章表現の基礎について扱う。自分の意見や考えを適切かつ有効に表現し伝える力を養うとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、積極的に表現することにより、国語力の向上や社会生活の充実を図る力を育てる。

到達目標(学習の成果)

- 文章を書くことに対する苦手意識を克服する。
- 読みやすい文章を書くことを心がけることにより、考える習慣をつける（ＤＰ1)。
- 自らの体験、観点、思考などを具体的かつ正確に伝えることができる文章を書くことにより、社会で通用する「文章によるコミュニケーション能力」を身につける（ＤＰ1・２)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	イントロダクション: 授業の進め方等について	事前 事後	事前にシラバスを読んで授業に臨み、授業の進み方について理解する(1 時間)。
2	文体について(1) ： 日本語の文体(常体と敬体、書き言葉と話し言葉)に関する知識を整理する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)を理解する(1 時間)。
3	文体について(2) ： 箇条書きを文章にまとめたり、文章を箇条書きに要約する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)を理解する(1 時間)。
4	主観と客観をかき分ける ： 主観表現と客観表現を見分け、かき分ける。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
5	レポートの書き方 ：句読点の打ち方、数字、アルファベットの書き方など基本的な作法を整理する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
6	紹介文を書く(1) ： 自己紹介を兼ねて、自分のことについて書いてみる。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
7	紹介文を書く(2) ： 応用として社会的なことについて書いてみる。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
8	賛成・反対の意見文(1) ： 賛否が分かれる事項について、自分の立場を明らかにして、考えを展開する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
9	賛成・反対の意見文(2) ： エビデンスに基づいて、賛成か反対か自分の立場を明確に示す文章を書く。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
10	他人の文章を読む ： グループワークによって、自分の意見をさらに深める。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
11	Before/after の文章(1) ： 時間軸を中心とした構成を考えることにより、変化を説明する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
12	Before/after の文章(2) ： 社会的な変化についての文章を書く。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
13	対立項と時間軸のある文章 ： 多量の情報の中から必要な情報を選択し、整理・比較する。	事前 事後	テキストの当該箇所(前回授業部分の復習、次回授業の予習)についてレポートを作成する(1 時間)。
14	レポートの書き方(調査編) ： 基本的なレポートの書き方について学び、グループで調査を行う。	事後	グループ毎にテーマを決めて、調査を行い結果をレポートにまとめる(2 時間)。
15	レポートの書き方(応用編) ： 調査結果をレポートとしてまとめる。	事前	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
・セルフチェックに照らして、提出課題を評価する（70%）
・グループワークでの貢献度（30%）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・文章を書くことに対する苦手意識を克服する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
・読みやすい文章を書くことを心がけることにより、考える習慣をつける。(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
・自らの体験、観点、思考などを具体的かつ正確に伝えることができる文章を書くことにより、社会で通用する「文章によるコミュニケーション能力」を身につける。(DP1.2)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　課題に対しては、次回授業やクラスルームでフィードバックを行う。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
坂東実子、『大学生のための文章表現練習帳』、国書刊行会、2016

履修上の注意・学習支援
・レポート等の課題は提出期限を遵守すること
・ワード等の扱いに慣れること
・疑問は授業内で解決すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A2210	文章表現Ⅱ	2 年	集中	演習	1	蟹江教子・小野貴之

授業概要

保育者として必要な国語表現力を修得し、適切で効果的な表現ができるようになり伝える力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばして、言語感覚を磨き、積極的に表現することにより国語力や社会生活の充実を図る態度を育てる。

1 回～9 回は保育者として必要な文章表現の基本的な内容について扱う。10 回～15 回では、子どもや保護者という異なる年齢の他者と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション力について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 保育者としてふさわしい日本語について考え、練習し、使いこなせるようにする(DP1)。
- 子どもや保護者という異なる年齢の他者と良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション力としての文章表現を習得する(DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	イントロダクション:自己紹介を考える(蟹江)	事前 事後	子ども向け、大人向け自己紹介文を作る（1 時間）
2	正しい日本語　－正確に伝えよう－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 4-7）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
3	敬語　－相手を尊重する気持ちを表そう－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 8-11）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
4	要約する　－要点をつかもう、活かそう－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 12-15）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
5	クリティカルに読む－厳しく読もう、柔軟に生きよう－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 16-19）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
6	説明する　－伝えたいことを、伝わるかたちで－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 20-23）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
7	感謝の気持ちを伝えよう－ありがとうは魔法の言葉－／お礼状の書き方(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 59-63）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
8	連絡する　－状況を捉え、適切に連絡しよう－／メールの書き方(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 24-29）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
9	子どもとの対話を支える表現 －温かく、豊かな表現で対話し、子どもを育もう－(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 30-34）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
10	保育の営みを表現する－クラスだよりで、保育者の核心を伝える－／エピソードを記録する①(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 35-39）の要点を確認、理解する。読書を習慣化し、語彙力を増強する。
11	あいさつをする－あいさつは相手に好印象を与えるチャンス－(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 42-45）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
12	話すスキルと聴くスキル －互いにつながるために－(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 46-50）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
13	援助を要請する－上手な頼み方スキル－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 51-54）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
14	上手に断る －相手を傷つけないように－(蟹江)	事前 事後	テキスト（pp. 55-58）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。
15	上手に自分の言いたいことを伝える－相手も自分も大事にする－／エピソードを記録する②(小野)	事前 事後	テキスト（pp. 64-67）の要点を確認、理解する（1 時間）。読書を習慣化し語彙力を増強する。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
プレゼンテーション、ロールプレイング

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業での提出課題 100%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育者としてふさわしい日本語について考え、練習し、使いこなせるようにする（DP1）.	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
②子どもや保護者という異なる年齢の他者と良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション力としての文章表現を習得する（DP1）.	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　課題に対しては、次回の授業やクラスルームでフィードバックを行う。

教科書
渡辺弥生・平山祐一郎・藤枝静暁編著、『保育系学生のための日本語表現トレーニング』、三省堂、2013

参考書等
特になし

履修上の注意・学修支援
・レポート等の課題は提出期限を遵守すること
・ワード、エクセル等の扱いに慣れること
・疑問は授業内で解決すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1211	生活講座Ⅰ	1年	春	講義	2	桂木奈巳・百田裕子

授業概要

子どもの生活と密接にかかわるためには、まず、学生自身が自立した生活者であることが大切な条件となる。そのうえで、子どもの生活について学んでいくことで、子どもの生活を理解し、実践することが可能となる。自立した生活者であるために、衣と住生活等に関する科学的・実践的な知識（桂木/11回）を得るとともに、食育をテーマとした食生活の重要性（百田/4回）についての理解を深める。

到達目標(学習の成果)

・自立した生活者となるために必要な、基本的知識を学ぶ（DP1)。

・子どもの視点から衣食住生活を理解し、実践できる（DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	家事をする 生活する上で必要な家事についてその歴史的変遷を含めて知識を深め、だれが担うべきか、なぜ無償労働なのかを学ぶ。SDGs の必要性を考える。（桂木）	事前	自分自身の生活(衣食住)をリスト化する。(1時間)
		事後	(授業時に配布した)「SDGsと自分の生活」に取り組む。(3時間)
2	科学的思考とは 科学的なモノの考え方、課題の発見や解決方法について考える。（桂木）	事前	身の回りの「不思議」を探す。(1時間)
		事後	授業内で学んだサイクルを元に考察し、レポートにまとめる。(3時間)
3	食べ方を知る 「食べること」の意義と目的を知る。食事と社会性との関係で、食事の際のマナー(食べ方・箸の使い方等)について学ぶ。（百田）	事前	自分自身の食事マナーを振り返り、マナーの必要性について自分なりに考える。(1時間)
		事後	学んだ内容をもとにマナーを意識し、正しく食事をする練習をする。(3時間)
4	食べた物の行方 食べたものは体の中でどのように変化するのか(消化・吸収・代謝)を知り、健康な身体を維持するための適切な食事内容と食事リズムの大切さを理解する。（百田）	事前	一昨日から授業日まで、毎食何を食べたかを記録する。(0.5時間)
		事後	授業で学んだ内容を元に自分の食生活の維持・改善を行う。(3.5時間)
5	正しいダイエット法とは 思春期から若年男女の肥満・やせの問題について考える。正しいダイエット方法について学ぶ。（百田）	事前	自分自身の身体の状況を把握する。(0.5時間)
		事後	学んだ内容を元に自分の身体を正しく認識し、維持や改善策を考え実践する。(3.5時間)
6	眠ること 「眠ること」の意義を理解する。睡眠不足の原因と、そこから生じている様々な課題を通して、一日の身体のリズムと睡眠の大切さを学ぶ。（百田）	事前	自分の睡眠環境を振り返る。(0.5時間)
		事後	学んだ内容を元に睡眠環境を整える。(3.5時間)
7	感じること① ヒトの五感について学ぶ。目の錯覚や味の錯覚について体験をする。また、視覚を封じた場合に他の感覚に及ぼす影響も体験し、五感の重要性について学ぶ。（桂木）	事前	授業前日に「五感」で感じた内容をリスト化して持参する。(2時間)
		事後	授業で学んだ事を元に「視覚」「味覚」以外の感覚に意識を向けて生活し、その結果をまとめる。(2時間)
8	感じること② ヒトの五感のうち、「味覚」を中心に学ぶ。味覚検査の結果をふまえ、自分自身の食生活をふりかえる。（桂木）	事前	「自分の食生活」の傾向を把握し、シートにまとめる。(1時間)
		事後	味覚検査の結果を元に、「自分の食生活」の改善方法を検討してシートにまとめる。(3時間)
9	捨てること 環境問題、家庭ゴミについて学び、モノを大事に使うことの重要性を学ぶ。（桂木）	事前	すんでいる地域の「ゴミ分別表」を確認する。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだことを元に、ゴミの分別を行う。自分の生活を振り返り、5Rを実践する。(3.5時間)
10	洗うこと① モノを洗うことに欠かせない洗剤の種類、その使用方法について学ぶ。（桂木）	事前	自宅にある洗剤の種類を調べる。(1時間)
		事後	洗剤の使用方法を調べる。授業の内容を元に洗剤の使い方をまとめて実践する。(3時間)

11	洗うこと② 「生活排水」と「環境汚染」の実態を知り、環境問題について考える。さらに今後の生活でどのように行動すべきかを考える。（桂木）	事前	現代の環境問題の概要を調べる。(1.5 時間)
		事後	自分の生活において「生活排水」の汚染を減らす工夫をして実践をする。その様子と気付きをシートにまとめる。(2.5 時間)
12	動作すること 公共の場でのマナーや立ち居振る舞い、話し方について、自分の行動が保育者としてふさわしいかを考え、適切なふるまい等について学ぶ。（桂木）	事前	マナーや立居振る舞いについて、自分が出会った「良い例」「改善が必要な例」をリスト化し、授業時に持参する。(1 時間)
		事後	交流保育において、保育者としてふさわしい「話し方」「立居振る舞い」を実践する。(3 時間)
13	装うこと TPO と適する服装について、自らの服装が学生としてふさわしいかを考える。さらに、保育者としてふさわしい身だしなみについて考える。（桂木）	事前	「通学」「自宅」で過ごす服装に意識を向け、それらを選択した理由を明確にする。(1 時間)
		事後	交流保育において、自らが考えた「活動に適する服装」を整えて参加する。(3 時間)
14	住むこと① 快適に暮らす工夫について、室温の決め方、室内の化学物質、ダニ・カビ等の除去法、室内の整え方（掃除）の考え方について学ぶ。（桂木）	事前	自宅において整理整頓を実践する。(2 時間)
		事後	授業で学んだ事を元に再び整理整頓を実践し、自己流との違いをまとめる。(2 時間)
15	<u>住むこと②</u> 子どもが暮らす生活環境について、安全面を中心に学ぶ。（桂木）	事前	学内の施設において、子どもの目線になり、危険と感じる箇所を探して場所毎にまとめる。(1 時間)
		事後	授業で学んだ事をもとに再び学内の施設の危険箇所を探して場所毎にまとめる。授業前との結果を比較する。(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
レポート 50%、授業への取り組み方 50%。各講義担当教員が受持ち回数分の総合点（レポートや小テストなどを実施したうえ，授業態度などを加味したもの）を作成し，担当教員数で按分したものを成績評価とする

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
自立した生活者となるために必要な、基本的知識を学ぶ(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの視点から衣食住生活を理解し、実践できる(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
参考書等
中川英子編著、「福祉のための家政学」、建帛社、2010

履修上の注意・学習支援
疑問点は質問に来ること。授業で学んだ知識を自分の生活に反映する習慣をつけること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A2212	生活講座Ⅱ	2年	秋	講義	2	北浦さおり

授業概要

社会と個人という2つの視点から、普段の生活におけるお金について学び、現在や将来の生活に活かせる知識を身につけたり、自分自身の人生とお金について考えたりするきっかけが得られる。講義の前半は、消費生活について家計を中心に、労働や経済格差、幸福などについて考える。後半は、個人の人生や生活という視点からライフプランとお金について学ぶ。それぞれのテーマについて、グループワークやグループディスカッションを行い、議論を深める。

到達目標(学習の成果)

・家計を構成する要因と関連する概念を理解することができる(DP1)。
・消費生活や消費者を取り巻く問題と対応策について、自分なりに考えることができる(DP1)。
・ライフプランとお金についての知識を身に着けることができる(DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	消費生活と消費者について学ぶ	事前	消費生活に関するトピックを調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
2	物価、消費者物価指数について学ぶ	事前	物価について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
3	家計とは何か、家計調査を始めとする公的な統計調査について学ぶ	事前	家計について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
4	収入と資産、経済格差について学ぶ	事前	経済格差について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
5	貯蓄と負債について学ぶ	事前	貯蓄と負債に関するトピックを調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
6	支出について学ぶ	事前	支出について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
7	ワーク・ライフ・バランスについて学ぶ	事前	ワーク・ライフ・バランスについて調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
8	賃金労働について、ジェンダーの観点から考える	事前	賃金労働に関するトピックを調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
9	消費者問題と持続可能な消費について学ぶ	事前	消費者問題について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
10	幸福についての考え方と貧困との関係を学ぶ	事前	貧困問題について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
11	ライフプランとは何か、ライフプランに基づいてお金を考える	事前	ライフプランについて調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
12	資産形成について学ぶ	事前	資産形成について調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
13	家計バランスやローンについて学ぶ	事前	家計バランスについて調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
14	自分自身のライフプランとお金について考える	事前	関連書籍を読む(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)
15	生活経済にかかわる社会の変化を踏まえて個人の生き方を考える	事前	これまで扱ったトピックについて調べる(2 時間)
		事後	授業ノートを見直す(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
授業内小レポート・課題20%、試験80%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
家計とその関連する概念についての理解(DP1)	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
消費生活・消費者問題とその対応策への考察(DP1)	完全に考察できる	ほぼ完全に考察できる	十分に考察できる	一定程度考察できる
ライフプランとお金に関する知識の修得(DP1)	完全に修得できている	ほぼ完全に修得できている	十分に修得できている	一定程度修得できている

教科書
特になし

参考書等
角田修一著『概説　生活経済論』、文理閣、2014

履修上の注意・学習支援
毎回の講義内で課される小レポートや課題をしっかりとこなすこと。
他の受講生に迷惑がかかるため、説明中の私語は厳禁だが、積極的な発言は歓迎する。
学習効果が高められるよう、疑問点はどんどん質問すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19A1113	職業と家庭生活の設計	1年	秋	講義	2	蟹江　教子

授業概要

今日では、人生のどの時期に就職するか、結婚するかしないか、子どもを持つかもたないか、人々の生き方や働き方はきわめて多様になっている。「職業と家庭生活の設計」では、生涯を通じて自分の興味、関心にあった職業を継続し、職業上の能力を高めていくために必要なキャリアプランを立て、職業と家庭生活のバランスをとって生活することの必要性について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

・日本の労働・雇用慣行や家庭内労働（家事、育児、介護など）について理解する（ＤＰ1)。

・働くこと、結婚すること、子どもを持つことの意味について考え、自分自身のキャリアをデザインする（ＤＰ4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	キャリアとは何か:適職とは何だろう。キャリアレインボーをもとに自分に合った職業や仕事について考える。	事前	自分の職業キャリアについて考える。(2時間)
		事後	キャリアレインボーと照らし合わせる。(2時間)
2	働くことの意味:人はなぜ働くのか。仕事への満足感や不満感を引き起こすものについて学ぶ。	事前	働くことの意味について整理する。(2時間)
		事後	授業内容を復習しキーワードをまとめる。(2時間)
3	日本人の働き方:日本の労働・雇用慣行について学び、「新卒」や「学歴」の意味について理解する。	事前	日本的な働き方について調べる。(3時間)
		事後	授業内容を整理する。(1時間)
4	家族の形成（1）：子どもを持つ意味の歴史的変化や少子化の原因について考える。	事前	資料から子どもを持つ意味について整理する。(3時間)
		事後	授業内容を整理する。(1時間)
5	家族の形成（2）：現代の結婚事情について各種統計を概観し、生涯未婚者が増加している原因について考える。	事前	配布資料を参考に自分の意見をまとめる。(3時間)
		事後	授業内容を整理する。(1時間)
6	ジェンダー（1）：職場におけるジェンダー差について、雇用形態、職種、賃金、職階など多角的に学ぶ。	事前	配布資料を参考に自分の意見をまとめる。(3時間)
		事後	授業内容を整理する。(1時間)
7	ジェンダー（2）：家庭内におけるジェンダー差について学ぶ。	事前	配布資料を参考に自分の意見をまとめる。(3時間)
		事後	授業内容を整理する。(1時間)
8	職場リサーチ(1)：大学生の就職活動の様子や就職状況、大学生の就職を支援する制度などについて学ぶ。	事前	資料を参考に自分の意見を整理する。(1時間)
		事後	授業内容を整理する。(3時間)
9	職場リサーチ(2)：幼稚園教諭の働き方について、現場の声を聞くことにより、自分の進路について考える。	事前	資料を参考に自分の意見を整理する。(1時間)
		事後	授業内容を整理する。(3時間)
10	職場リサーチ(3)：保育士の働き方について、現場の声を聞くことにより、自分の進路について考える。	事前	資料を参考に自分の意見を整理する。(1時間)
		事後	授業内容を整理する。(3時間)
11	職場リサーチ(4)：一般企業での働き方について、現場の声を聞くことにより、自分の進路について考える。	事前	資料を参考に自分の意見を整理する。(1時間)
		事後	授業内容を整理する。(3時間)
12	ワークライフバランス：日本におけるワークライフバランス政策について学ぶ。	事前	資料を参考に自分の意見を整理する。(1時間)
		事後	授業内容を整理する。(3時間)
13	プランの作成(1)：ライフプランを作成するために、一生の間に生じるであろうライフイベントについて学ぶ。	事前	ライフプランを作成する。(4時間)
		事後	
14	プランの作成(2):リスクを伴うライフイベントの回避・対処方法について学ぶ。	事前	作成したライフプランについて再検討する。(4時間)
		事後	
15	まとめ：ライフプランを作成し、30歳、45歳、60歳の時、何をしているか想像し。今、何をすべきか考える。	事前	他学生のライフプランを参考にしながら、自身のライフプランを再度、検討する。(4時間)
		事後	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解(授業中の発言、メントシートの内容から理解度を評価する)30%
・学期末に実施する試験(授業内容を理解し、自分の意見を展開できているか)70%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・日本の労働・雇用慣行や家庭内労働（家事、育児、介護など）について理解する。（DP1）	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
・働くこと、結婚すること、子どもを持つことの意味について考え、自分自身のキャリアをデザインする。（DP4）	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　学期末試験の結果はクラスルーム等でフィードバックする。

教科書
　プリントを配布する。

参考書等
・宮下一博、『大学生のキャリア発達』、ナカニシヤ出版、2010
・佐藤博樹・武石恵美子、『男性の育児休業―社員のニーズ、会社のメリット』、中央公論社、2004
・大沢真知子、『ワークライフバランス社会へ―個人が主役の働き方』、岩波書店、2006

履修上の注意・学習支援
・自分の人生について、しっかりと考えてみよう。
・授業における課題は、各授業終了後に提出する 。
・レポートは課題名・番号・氏名を書いた表紙をつけて作成し、必ず提出期限は守る。
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する。
・オフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B2201	生活技術演習Ⅰ	２年	春	演習	1	桂木奈巳・土橋典子

授業概要

保育者は子どもと生活を共にし、子どもの自立に向けてしつけをしていく。そこで、保育者自身が自立した日常の生活ができることの意義を理解する。自立した生活を営むために必要な、基本的な家事の知識・技術を学習し、子どもの発達過程に合わせた基礎的な家事生活の知識・技術に関する理解を深めることを目的とする。さらに、保育者としてふさわしいマナーおよび社会性について実践を通して修得する。

到達目標(学習の成果)

・学生が自立した生活者となり、安全で快適な衣食住活を実践できるようになる。
・子どもの発達段階における生活技術の自立過程を理解し、生活の自立を援助できる技術を身につける（DP1)。
・保育現場において、保育者としてふさわしい身だしなみ、ふるまいなどのマナーの必要性を理解し実践できる。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	家事生活を楽しもう 社会生活を営む上での生活行為と家事(被服・食・住生活)の大切さ、子どもの発達段階に合わせた生活技術の自立過程、保育者は自立した生活者であることの必要性を理解する。(桂木)	事前	自分自身の衣食住生活を確認する(授業時に配布するシートを使う)。(1時間)
		事後	
2	部屋を片付けよう 掃除の目的・意味を理解し、居室(和室・洋室)の汚れの特徴と掃除方法を学ぶ。掃除に必要な掃除用具と使用方法、洗浄剤の種類と用途に合わせた選択、掃除順序等について理解する。（桂木)	事前	自宅で使用している居室の環境を把握する。(0.5 時間)
		事後	自宅で使用している居室の清掃を行う。(0.5 時間)
3	調理の基本を知ろう 調理を衛生・安全・効率的、かつ、環境へ負荷を少なくして 行うため基本的知識〔身支度、調理用具（包丁の研ぎ方等)・計量カップ・スプーンによる計量、切り方の名称、調味パーセント等〕を学ぶ。だしの取り方について学ぶ。(土橋)	事前	自宅で味噌汁をつくる。(0.5 時間)
		事後	授業中に自分でとっただしと風味調味料を比較する。食塩相当量などの違いなどを調べる。(0.5 時間)
4	水周りをきれいにしよう 水周り(台所・トイレ・浴室)の汚れの特徴との掃除方法を実習を通して理解する。掃除用具の製作を通して、掃除が楽しく出来る工夫を学ぶ。(桂木)	事前	自宅の水周りの環境を把握する。(0.5 時間)
		事後	自宅の水周りを清掃する。(0.5 時間)
5	衣服をきれいにしよう 素材の特徴、汚れの成分を学び、素材・汚れに合わせた洗濯方法を知る。被服製品の取り扱い絵表示の意味を理解する。（桂木)	事前	自宅で洗濯機による洗濯を行う。(1時間)
		事後	
6	衣服を大切に保管しよう① 素材や服種に合わせた衣服の管理(アイロンかけ、たたみ方、防虫剤の種類と使用方法、収納方法等)を学ぶ。（桂木)	事前	自宅で洗濯後の衣類を収納する。(1時間)
		事後	
7	朝ごはんを作ろう 基本的な和食の朝食の献立(主食、主菜、副菜) の作成方法と調理方法を、実習を通して理解する。(土橋)	事前	自宅で簡単な朝食をつくる。(0.5 時間)
		事後	青菜の茹で方について調べる。(0.5 時間)
8	昼食を作ろう 昼食に多く喫食される洋食の献立（主食、主菜、副菜）と調理方法を、実習を通して学ぶ。昼食の献立、調理の特徴を理解する。(土橋)	事前	自宅で食べているサラダや和え物のについて材料、調味料について調べる。(0.5 時間)
		事後	和え物の材料と調味液のバランスを知る。(0.5 時間)

9	お弁当を作ろう 栄養バランスがよく見た目もおいしいお弁当の献立、食材の選び方、調理方法を学ぶ。（土橋）	事前	自宅でおにぎりをつくる。(0.5 時間)
		事後	主食、主菜、副菜の割合を考える。(0.5 時間)
10	おやつを作ろう 子どものおやつの必要性とその内容を理解する。アレルギー対応のおやつ作りを、実習を通して学ぶ。（土橋）	事前	子どもの好きなおやつを調べる。(0.5 時間)
		事後	アレルギーについて調べる。(0.5 時間)
11	インテリアグッズを作ろう 行事に合わせた室礼の仕方について学ぶ。入手しやすい材料を使い、様々な場面で応用できる室内装飾品を製作する。（桂木）	事前	春～夏にある年中行事を調べる。(1時間)
		事後	
12	基礎縫い 布の扱い方を含めた基礎縫い等の縫製の基礎を学ぶ。（桂木）	事前	作品を完成させる。(1時間)
		事後	
13	小物を作ろう① ティッシュケースの裁断をする。（桂木）	事前	材料の準備と裁断を完了させる。(1時間)
		事後	
14	小物を作ろう② 被服製品の補修(ボタンつけ、ほつれどめ)や小物作りを行う 。(桂木)	事前	小物を完成させる。(1時間)
		事後	
15	夕食を作ろう アレルギー対応のカレーライスとサラダをつくる。(土橋)	事前	野菜の切り方の練習をしてくる。(0.5 時間)
		事後	自宅でバランスを考えた夕食をつくる。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

表現活動(作品作り、プレゼンテーション)、体験学習(調理実習)

成績評価の方法・基準(%表記)

コメントシート　(40%)・レポート：被服・食・住生活の単元毎にレポート課題あり。調べた内容についてどのようなことが理解できたか、自己の課題はどのような点なのか自らの考えを表明できる（60%）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
安全で快適な衣食住活を実践できるようになる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの生活の自立を援助できる技術を身につける(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育現場において、保育者としてふさわしい身だしなみ、ふるまいなどのマナーの必要性を理解し実践できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書

特になし。各授業時に資料を配布する。

参考書等

中川英子編著、2010、「福祉のための家政学」、建帛社

田崎裕美・中川英子編著、2010、「生活支援のための調理実習」、建帛社

「家事の基本大事典」、2015、成美堂出版

香西みどり・綾部園子編著、2024、「第４版　調理学実習」、光生館

履修上の注意・学習支援

・幼稚園教諭一種免許状および保育士資格を取得する者は履修を推奨する。

・調理実習室では、シューズを履くこと。実習内容に合わせて身支度をきちんとする。
・学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
・実習したことを自宅で繰り返し実践し、理解を深めて技術を体得すること。
・授業の内容で分からないことがあった場合は、担当教員の研究室まできて確認すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目　土橋典子
［実務経験の概要］ 栄養士・管理栄養士として、社会福祉協議会（子ども館）、老人施設、病院、公的機関において病態栄養相談、栄養指導に関する業務に従事してきた。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 現場における調理指導、栄養相談の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に深く、実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B2202	生活技術演習Ⅱ	2年	秋	演習	1	桂木奈巳・土橋典子

授業概要

毎日の暮らしは、これまでの伝統文化を活かしつつ、海外の文化と融合しながらよりよい生活へと繰り返される。生活技術演習Ⅱでは、生活技術演習Ⅰを踏まえ、被服・食・住生活に関して伝統文化や科学の発達を理解し、より健康で豊かな生活ができるような生活技術を学ぶ。保育の現場や子ども関連産業の中で、子ども達の生活用品の制作などができるように視野を広げて学習する。

到達目標(学習の成果)

・日本や海外の伝統文化を知り、先人たちの生活に対する真摯な態度を理解し、自らの生活で実践できる。(DP1)
・生活技術の意義を理解し、自発的に被服・食・住生活を整えることが出来る。(DP1)
・保育者として食育・服育、子どもの成長を願う住まいのあり方等を保育の現場で実践できる。(DP1)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	年中行事・通過儀礼と衣食住とからだに優しい靴 年中行事・通過儀礼と衣食住の関係を知る。産着や七五三に着用されるきもの・洋服に託された意味を理解する。子どもの体型特徴と衣服の形態を学ぶ。足型の種類を知る。足型、年齢や目的に合わせた靴の選択方法を学ぶ。(桂木)	事前 事後	生活の中に浸透している「文様」を調べる。(1時間)
2	身の回りの小物作り①靴袋の作成 実習先で使用する靴袋やコップ袋を作成する。(桂木)	事前	材料の選択と準備。(0.5 時間)
		事後	作品を完成させる。(0.5 時間)
3	インテリアグッズ作り 子どもが室内で使用できるコースターを製作する。季節感を出す配色方法や素材について学ぶ。(桂木)	事前	材料の配色の検討。(0.5 時間)
		事後	作品を完成させる。(0.5 時間)
4	身の回りの小物作り②刺繍 簡単な刺繍の技術を身に付け、小物(マグネット等)を作成する。(桂木)	事前	材料の選択と準備。(0.5 時間)
		事後	刺繍を完成させる。(0.5 時間)
5	食物アレルギー対応のおやつを作ってみよう１ 食物アレルギーの場合の食事やおやつの必要性とその種類を学ぶ。おやつの基本的な作り方を知る。(土橋)	事前	食物アレルギーについて調べる。(0.5 時間)
		事後	どのような代替の食材があるかを調理方法も含めて学ぶ。(0.5 時間)
6	食物アレルギー対応の食事を作ってみよう２ 食物アレルギーの場合の食事やおやつの必要性とその種類を学ぶ。食事の基本的な作り方を知る。(土橋)	事前	食物アレルギーについて調べる。(0.5 時間)
		事後	どのような代替の食材があるか、調理方法も含めて学ぶ。(0.5 時間)
7	簡単子ども服を作ろう① 1歳の女子子ども服の製作の裁断から印つけまでを行い、衣服制作の布の扱い方の基本を知る。(桂木)	事前	材料の選択と布の地直し。(0.5 時間)
		事後	印つけを終わらせる。(0.5 時間)
8	行事にまつわる小物作り 行事の由来を理解し、使用する飾り等を作成する。(桂木)	事前	行事の由来を調べる。(0.5 時間)
		事後	作品を完成させる。(0.5 時間)
9	簡単子ども服を作ろう② 子ども服の縫製を行う。部位別の縫製方法の基本を、実習を通して理解する。(桂木)	事前 事後	身頃、袖の縫い合わせまでを完成させる。(0.5 時間)
10	簡単子ども服を作ろう③ 縫製の続きを行い、仕上げる。装飾方法も含めて日常着の子ども服のあり方を理解する。(桂木)	事前 事後	ゴム通しを終わらせ、完成させる。(1時間)
11	家の設計をしよう 家をモチーフにした工作を通して、各自設定したイメージに合わせた室内設計を行う。(桂木)	事前	材料の準備。(0.5 時間)
		事後	作品を完成させる。(0.5 時間)
12	郷土料理を作ろう 郷土料理の由来と作り方を、実践を通して学び、郷土料理について理解する。(土橋)	事前	耳うどんについて調べる。(0.5 時間)
		事後	栃木の郷土料理について調べる。(0.5 時間)

13	行事食をよりおいしく 与えられたテーマに合う食卓を演出し、行事食について学ぶ。（土橋）	事前 事後	伝統的な節を祝う節句料理の意味を調べる。（1時間）
14	行事食を作ろう１ 年中行事と食との関係について学び、季節にちなんだ行事食を理解する。（土橋）	事前	正月料理について調べる。(0.5 時間)
		事後	おせち料理の語源について調べる。(0.5 時間)
15	行事食を作ろう２ 子どもと一緒に作れる行事食を、実習を通して学ぶ。子どもと調理を通して食育をする必要性と実践方法を理解する。（土橋）	事前	節分の料理について調べる。(0.5 時間)
		事後	すし飯の作り方、巻きすの使い方について学ぶ。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
表現活動(作品作り、プレゼンテーション)、体験学習(調理実習)

成績評価の方法・基準(%表記)

- レポート 50% 被服・食・住生活の単元毎にレポート課題あり。調べた内容についてどのようなことが理解できたか、自己の課題はどのような点なのか自らの考えを表明できる
- 作品　40% , 作品の完成度および実用性を評価する。
- 授業参加態度　10%　演習時の積極的な参加や発言を加点する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
日本や海外の伝統文化を自らの生活で応用し実践できる。(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
生活技術の意義を理解し、自発的に被服・食・住生活を整えることが出来る。(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育者として食育・服育、子どもの成長を願う住まいのあり方等を保育の現場で実践できる(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
特になし。各授業時に資料を配布する。

参考書等
中川英子編著「新版福祉のための家政学、建帛社 2017
田崎裕美・中川英子編著「生活支援のための調理実習」、建帛社 2010
古川朋子監修「くらしの歳時記『日本の行事を楽しむ 12 カ月』」、主婦の友社　2009
香西みどり・綾部園子編著、「第４版　調理学実習」、光生館,2024

履修上の注意・学習支援
１．生活講座Ⅰ・Ⅱと生活技術演習Ⅱを履修することが望ましい。
２．調理実習室では、シューズを履くこと。実習内容に合わせて身支度を整える。
３．学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
４．実習したことを自宅で繰り返し実践し、理解を深めて技術を体得すること。
授業の内容で分からないことがあった場合は、担当教員の研究室まできて確認すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目　土橋典子

［実務経験の概要］
栄養士・管理栄養士として、社会福祉協議会（子ども館）、老人施設、病院、公的機関において病態栄養相談、栄養指導に関する業務に従事してきた。
［実務経験と授業科目との関連性］
現場における調理指導、栄養相談の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に深く、実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B3203	子どもの生活と福祉	3年	秋	講義	2	石本真紀

授業概要
既習の授業での学びやフィールドワーク、ボランティア、実習での学びを活かして、家庭の生活実態が子どもの育ちに与える影響について考える。現代社会における家庭を取り巻く社会情勢や福祉ニーズについて、子ども家庭福祉制度及び関係法に照らし合わせて理解を深める。

到達目標（学習の成果）
・現代社会における子どもの生活と福祉課題について、基本的な知識を身につけている（DP1）。
・子どもを取り巻く社会環境について自ら分析し、子どもの育ちに与える影響を説明できる（DP4）。
・権利擁護の視点から子どもの生活と福祉課題に対する解決への方法について提案できる（DP4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	少子高齢社会の現状: 日本における少子高齢社会の現状について理解する	事前	少子高齢社会の現状について復習しておく（2 時間）
		事後	授業内容をまとめる(2 時間)
2	子どもを育てる場としての「家庭」の今と未来: 子どもの生活課題について学ぶ	事前	配布資料を読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	学びを振り返りシートに記入する(2 時間)
3	「くらし」と基本的人権 子どもの権利保障の歩みについて理解を深める	事前	子どもの権利侵害の現状について新聞やニュースをもとに情報を収集する(2 時間)
		事後	権利擁護について自分の考えをまとめる(2 時間)
4	児童福祉施設等を利用する子どもの育ち(1) 乳児院や児童養護施設等で暮らす子どもと家族の支援について学ぶ	事前	社会的養護での学びを復習し、事例を読む(2 時間)
		事後	自立援助ホームの現状と課題について復習しておく(2 時間)
5	児童福祉施設等を利用する子どもの育ち(2) 自立援助ホームで暮らす子どもの支援について学ぶ	事前	前回の授業で配布された資料を読み、自分の考えをまとめる(2 時間)
		事後	障害児保育での学びを整理し、障害のある子どもの子育てに関する資料を読む(2 時間)
6	児童福祉施設等を利用する子どもの育ち(3) 障害のある子どもとその家族の支援について学ぶ	事前	前回の授業で配布された資料を読み、自分の考えをまとめる(2 時間)
		事後	母子保健施策の内容を復習する(2 時間)
7	地域で暮らし続けるために(1) 子育て家庭に対する訪問型支援について学ぶ	事前	配布資料を読み、訪問型支援の内容について確認する(2 時間)
		事後	医療的ケアについて復習する(2 時間)
8	地域で暮らし続けるために(2) 医療的なケアが必要な子どもの生活の現状と課題	事前	配布資料を読み、医療的ケアが必要な子どもへの支援について自分の考えをまとめる
		事後	授業の学びを振り返りシートに記入する(2 時間)
9	地域で暮らし続けるために(3) 貧困の下で育つ子どもの生活の現状と課題	事前	配布資料を読み、子どもの貧困の現状についてワークシートに記入する(2 時間)
		事後	貧困家庭に対する地域の取り組みについて調べ課題に取り組む(2 時間)
10	子どもや若者の育ちを支えるということ(1): 子どもや若者の生活の現状と課題	事前	配布資料を読み、子どもや若者の生活課題についてワークシートに記入する(2 時間)
		事後	不登校やいじめの現状を確認する(2 時間)
11	子どもや若者の育ちを支えるということ(2): スクールソーシャルワークの実践から学ぶ	事前	スクールソーシャルワークの目的や活動内容について資料を読む(2 時間)
		事後	配布資料を読み、ワークシートに記入する(2 時間)
12	若者の自立支援: 困難を抱える若者たちと自立支援の実践から学ぶ	事前	ヤングケアラーや若者ケアラーについて事前学習をする(2 時間)
		事後	若者支援の課題について自分の考えをまとめる(2 時間)
13	地域における社会資源: 子どもと家庭を支援する場を訪問し、支援の実際を学ぶ	事前	訪問先の情報を収集し、整理する(2 時間)
		事後	訪問レポートを作成する(2 時間)

14	地域における他職種連携、ネットワーキングの実際: 地域における相談援助活動の方法について学ぶ	事前	配布資料を読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	これまでの学びを整理し、今後必要とされる社会資源や活動について自分の考えをまとめる(2 時間)
15	子どもの福祉問題と支援: 地域のニーズと社会資源の創出について考える	事前	作成した資料をもとにプレゼンテーションの準備をする(2 時間)
		事後	15 回の学びをもとにレポートを作成する(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
・学習内容の理解（20%：毎回の授業で振り返りシートの記入をし、提出する）
　振り返りシートの内容は次回の授業で紹介し、補足説明を行う
・授業内に行うグループ活動に関する評価（30%：グループ内で自分の意見を発表する、他者の発表を聴く）
・レポート（50%：自分自身が興味を持った子どもの生活と福祉課題に関する実践例を紹介し、自らの意見を表明する）コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。

観点	S	A	B	C
現代社会における子どもの生活と福祉課題について説明できる（DP1)。	十分 できている	ほぼ できている	一定程度 できている	努力が 必要である
子どもを取り巻く社会環境について自ら分析し、子どもの育ちに与える影響を説明できる（DP4)。	十分 できている	ほぼ できている	一定程度 できている	努力が 必要である
権利擁護の視点から子どもの生活と福祉課題に対する解決への方法について提案できる（DP4)。	十分 できている	ほぼ できている	一定程度 できている	努力が 必要である

・振り返りシートの内容について次回の授業で紹介し、補足説明をする・

教科書
　使用しない
　授業中に各回学習内容に関する資料を配布する。

参考書等
山野則子「子どもの貧困調査　子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの」明石書房 2019
杉田真衣・谷口由希子・松本伊智朗編「大人になる・社会をつくるー若者の貧困と学校・労働・家族（シリーズ・子どもの貧困４）明石書房　2020
村上靖彦著「子どもたちがつくる町　大阪・西成の子育て支援」世界思想社　2021

履修上の注意・学習支援
・ボランティアやフィールドワーク、実習での学びを整理し、自らの興味関心を明らかにしておく
・ボランティアに積極的に参加し、子どもを取り巻く生活問題に関心を持つこと

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
　児童福祉施設で保育士として、子どもの生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。2014 年からは地域におけるもうひとつの家「子どもの居場所」（要支援家庭放課後応援事業）にて、地域で暮らす子どもの育ちを支える活動に携わっている。
［実務経験と授業科目との関連性］
本科目では、子どもや保護者が抱える生活上の課題を把握し、地域でおこなわれている支援の実際について学修を行う。
　児童福祉施設（入所型施設）における日常生活支援や相談援助の実務経験、地域における子どもの居場所での活動は、本科目の授業内容との関連性が高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B1204	子ども文化論	1・2 年	春	講義	2	星　順子

授業概要
子どもは周囲の「ひと」や「もの」を学びの対象として育つ。「ひと」や「もの」が創り出す「文化」について考え、幼い子どもにとっての「文化」や「文化財」の意義を理解する。子どもの発達に合わせた児童文化財の用い方やその展開方法を学び、保育者(実習生)として活用する力を身につけることを目指す。

到達目標(学習の成果)
・子どもにとっての「文化」や「文化財」の意義を説明することができる。(DP1)
・子どもの発達保障に配慮した文化的な活動や環境を提案することができる。(DP1.3)
・保育者として豊かな保育実践を行うための児童文化財を製作し、実習等で活用するための準備ができる。(DP3.4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子どもにとっての文化とは (子どもにとっての文化や文化財の意味や意義を理解する)	事前	Chromebook の使い方を確認しておくこと。(1 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、疑問等があれば Google Classroom で提出する。(3 時間)
2	子どもにとっての遊び (子どもにとっての遊びとは何か、自身の経験を振り返りながら、遊びの意義や伝承者としての役割を学ぶ)	事前	自身の遊び経験を思い出し、ノートに書きだす。テキストを読み整理する。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
3	伝承遊び①「室内遊び」 (「折り紙」「あやとり」等の伝承遊びを実際に経験しながらその意義を学び、保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
4	伝承遊び②「室内遊び」(「手遊び」や「わらべうた」等の伝承遊びを実際に経験しながら、その意義を学び、保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。　(2 時間)
5	伝承遊びとは③「戸外遊び」(「なわとび」や「こままわし」等の伝承遊びを実際に経験しながら、その意義を学び、保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。　(2 時間)
6	伝承遊び④「戸外遊び」(「鬼ごっこ」や「はないちもんめ」等の伝承遊びを実際に経験しながら、その意義を学び、保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。　(2 時間)
7	保育への展開「子どもと絵本①」ゲスト講師 (絵本の果たす役割や意味について、総合的に学ぶ)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
8	保育への展開「子どもと絵本②」 (「絵本」の特徴等を知り、子どもに絵本を選ぶ際の見方を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
9	保育への展開「パネルシアター①」　(「パネルシアター」の意義や特徴等について、総合的に学ぶ)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
10	保育への展開「パネルシアター②」　(「パネルシアター」を作成し、実際に実践しながら保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
11	保育への展開「紙芝居」 (「紙芝居」の意義や特徴を学び、実際に実践しながら保育での展開を考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
12	保育への展開「ペープサート」等 (「ペープサート」の意義や特徴を学び、実際に実践しな	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)

	がら保育での展開を考える)	事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
13	玩具・遊具の活用 (保育における玩具や遊具の意義や安全性について学び、その活用方法について考える)	事前	教員から指示された事前課題に取り組む。(2 時間)
		事後	テキストや授業資料を読み、新しく学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
14	児童文化財のまとめ (これまでの学びを踏まえて、児童文化財についてレポートを作成する)	事前	これまでの授業を振り返り、授業で指示された課題の準備をする。(2 時間)
		事後	最終発表に向けた準備をする。(2 時間)
15	手作り児童文化財の紹介 (これまでの学びを踏まえ、手作りの文化財を紹介する)	事前	これまでの授業の学びを踏まえ、手作り文化財を用意する。(2 時間)
		事後	発表を通して得られた気づきを整理し、Google Classroom で提出する。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
教材作成、グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
授業への取り組み(30%)、授業内課題(30%)、定期試験(40%)により評価する。
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもにとっての「文化」や「文化財」の意義を説明できる。(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもの発達保障に配慮した文化的な活動や環境を提案できる。(DP1.3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育者として豊かな保育実践を行うための児童文化財を製作し、活用できる。(DP3.4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

フィードバック
発表時には、直接またはクラスルームにてフィードバックを行う。
教科書
小川清実編『演習児童文化―保育内容としての実践と展開』 萌文書林 2010 年
参考書等
小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび起源・魅力とその遊び方』 萌文書林 2001年
松井直『絵本とは何か』ちくま文庫 2023 年
子どもの文化研究所『紙芝居演じ方のコツと基礎理論のテキスト』 一声社 2015 年
瀧 薫『保育とおもちゃ』エイデル研究所 2018 年

履修上の注意・学習支援
・不明な点は、授業内またはメール等で質問してください。
・今後の実習での実践にもつなげられるように、積極的に参加していただきたいと思います。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]保育所保育士として、乳児・幼児クラスを担任し、保育の実務に携わってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]保育所での実務経験を生かし、具体的な「子ども」の姿や実際の「保育」場面のイメージが持てるように現場のエピソードや経験談を紹介しながら授業を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B1205	スポーツと健康Ⅰ	1年	春	講義	1	霜触 智紀

授業概要
体育の意義や歴史、体育・スポーツが身体・精神・社会的健康に及ぼす効果について学習する。また、運動の効果や身体の仕組みについても理解を深め、体育・スポーツと健康的生活とのかかわりについて理解する。

到達目標(学習の成果)
・自己の健康・体力づくりに対する幅広い教養を身につける(DP1)。
・健康・体力づくりのための運動方法を理解する(DP1)。
・生涯にわたって自主的に健康・体力づくりに取り組む能力や態度を高める(DP1)。
・健康的な生活について理解を深め、自立した生活力を身につける(DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「体育・スポーツ概論」 体育・スポーツの意義や歴史について理解する。	事前	体育・スポーツの意義や健康、歴史に関して興味ある内容を調べて理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	自分自身が考える体育・スポーツの意義について、振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
2	「健康・運動能力と老化」 加齢(乳児期～老年期)が健康・運動能力に及ぼす効果について理解を深める。	事前	加齢及び老化に伴う健康上の課題について調べておく。(0.5 時間)
		事後	各年代で自分自身の健康増進のために必要なことを考える。(0.5 時間)
3	「身体と体力」 体力とは何か、体力要素の向上による効果や運動不足が引き起こす害について学ぶ。	事前	体力測定項目及び体力要素の向上によるポジティブな効果について調べておく。(0.5 時間)
		事後	自分自身の体力の現状について、体力測定項目をもとに客観的に評価できるようにする。(0.5 時間)
4	「肥満と運動」 肥満はなぜ悪いか、健康づくりに適切な運動や運動処方について学ぶ。	事前	肥満に伴う健康上の課題について調べておく。(0.5 時間)
		事後	肥満に伴う健康上の課題について振り返り、BMI 等の客観的指標の理解を深める。(0.5 時間)
5	「ストレスと運動」 ストレスとは何か、運動・スポーツにおける心理的効果や心の健康づくりについて理解を深める。	事前	運動・スポーツに関する心理的課題について興味ある内容を調べて理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	心の健康課題について運動・スポーツがもたらす恩恵についてまとめ、理解を深める。(0.5 時間)
6	「生活習慣と運動」 生活リズム、睡眠、食生活、労働、休養と運動の関係や、健康のための生活習慣について学ぶ。また、生活習慣病についても理解を深める。	事前	生活習慣と健康に関して興味ある内容を調べて理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	自分自身の生活習慣を振り返り、良い点、悪い点を批判的に検討し、理解を深める。(0.5 時間)
7	「トレーニング」 トレーニングの原理・原則やトレーニングの種類について学び、正しいトレーニングの仕方について理解を深める。	事前	トレーニングに関して興味ある内容を調べて理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	講義で紹介したトレーニングを実践し、正しいトレーニングについて実践する。(0.5 時間)
8	「余暇生活」 現代社会における余暇の意義や、生涯スポーツの現状と問題点について学ぶ。また、今後の自分自身の生活における生涯スポーツの取り入れ方について考える。	事前	生涯スポーツについて調べて理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	健康に過ごすための生活を検討し、運動・スポーツを生活の一部に取り入れたライフサイクルを考える。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
① 授業でのレポート提出(40%)
・授業内容について、自らの考えが表明できること。
・レポート評価にはコモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。
② テスト(60%)
・体育の意義や歴史、体育・スポーツが身体・精神・社会的健康に及ぼす効果について理解できている。
・運動の効果や身体の仕組みを理解し、スポーツと健康的生活とのかかわりについて理解できている。
・自己の健康・体力に対する認識を深め、健康・体力づくりのための運動方法について理解できている。

成績評価の基準(レポート)

観点	S	A	B	C
健康・体力づくりに対する幅広い教養を身につけ、自身の健康課題について考察できる(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
健康・体力づくりのための運動方法を理解し、説明できる(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
生涯にわたって自主的に健康・体力づくりに取り組む能力や態度を高め、その具体的な方法について説明できる(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
健康的な生活について理解を深め、自立した生活力を身につけるための課題を考察できる(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
授業中のコメント及び質疑については次回またはその場で返却・回答する。

教科書
なし
参考書等
上杉尹宏、晴山紫恵子、川初清典 監修、「新版 生涯スポーツと運動の科学」、市村出版、2016 年

履修上の注意・学習支援
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
何かわからないことがあったら、授業担当まで早めに相談すること。
質疑応答はオフィスアワーを利用すること。またはメールアドレスに連絡・相談すること。
メールアドレス shimofure@kyowa-u.ac.jp

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19B1206	スポーツと健康Ⅱ	1年	秋	演習	1	月橋春美・霜触智紀

授業概要

私たちひとり一人が日常生活の中で、生涯にわたり積極的にスポーツに親しむことは、健康の保持増進と体力の向上に役に立つだけではなく、明るく豊かで生きがいのある生活を営む上で極めて重要である。本授業は、体操やストレッチをはじめ、球技などの一般的な種目や、ニュースポーツであるターゲット・バード・ゴルフやシャトルボール、ドッヂビー、インディアカなど、学生自身が楽しいと感じ、継続できるスポーツを通して、個人の技術向上はもちろんのこと、ゲームにおけるルールやマナーについて理解する。生涯スポーツの重要性について学習し、スポーツが生活化できる教養を身につける。

到達目標(学習の成果)

・自己の心身の状態に適したスポーツを生活の中に取り入れるための方法を身につける (DP1)。
・スポーツの体験を通して、楽しさを味わいながら技術やルール・マナーを身につける (DP1)。
・子どもの生活におけるスポーツ活動において、安全に配慮した活動を計画できる (DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	体操・ストレッチ ラジオ体操第一の正確な動きを学ぶ。また身体の各部位のストレッチ体操を学ぶ。	事前	ラジオ体操について調べる(1時間)
		事後	ラジオ体操を覚える
2	ソフトボール1 基礎技術として、ボールの投げ方や取り方、バッティングの仕方などのスキルポイントを学ぶ。	事前	ソフトボールについて調べる(1時間)
		事後	ソフトボールのルールを覚える
3	ソフトボール2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、ソフトボールのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。	事前	ソフトボールのルールを確認する
		事後	ソフトボールの楽しさとマナーについてまとめる(1時間)
4	ドッヂビー1 基礎技術として、パス、ドリブル、シュートのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事前	ドッヂビーについて調べる(1時間)
		事後	ドッヂビーのルールを覚える
5	ドッヂビー2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、バスケットボールのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。	事前	ドッヂビーのルールを確認する
		事後	ドッヂビーの楽しさとマナーについてまとめる(1 時間)
6	バドミントン1 基礎技術として、フォアーハンドハンドストローク、バックハンドストローク、サーブのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事前	バドミントンについて調べる(1時間)
		事後	バドミントンのルールを覚える
7	バドミントン2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、バドミントンのゲームの楽しさを学ぶ。	事前	バドミントンのルールを確認する
		事後	バドミントンの楽しさとマナーについてまとめる(1 時間)
8	テニス1 基礎技術として、フォアーハンドハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレーのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事前	テニスについて調べる(1時間)
		事後	テニスのルールを覚える
9	テニス2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、テニスのゲームの楽しさを学ぶ。	事前	テニスのルールを確認する
		事後	テニスの楽しさとマナーについてまとめる(1時間)
10	ターゲット・バード・ゴルフ1 基礎技術として、グリップ、アドレス、クラブスイングのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事前	ターゲット・バード・ゴルフについて調べる(1時間)
		事後	ターゲット・バード・ゴルフのルールを覚える
11	ターゲット・バード・ゴルフ2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、ターゲット・バード・ゴルフのゲームの楽しさを学ぶ。	事前	ターゲット・バード・ゴルフのルールを確認する
		事後	ターゲット・バード・ゴルフの楽しさとマナーについてまとめる(1時間)
12	シャトルボール・ラクロス1	事前	シャトルボールについて調べる(1時間)

	基礎技術として、パス、ドリブル、シュートのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事後	シャトルボールのルールを覚える
13	シャトルボール・ラクロス2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、シャトルボールのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。	事前	シャトルボールのルールを確認する
		事後	シャトルボールの楽しさとマナーについてまとめる(1 時間)
14	インディアカ1 基礎技術として、パス、サーブのスキルアップをめざし、スキルポイントを学ぶ。	事前	インディアカについて調べる(1 時間)
		事後	インディアカのルールを覚える
15	インディアカ2 ゲームにおけるルール・マナーを学び、インディアカのチームゲームとしての楽しさを学ぶ。	事前	インディアカのルールを確認する
		事後	インディアカの楽しさとマナーについてまとめる(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、課題解決型学習

成績評価の方法・基準(%表記)
① レポート 50%(課題に対応した内容が論理的に述べられているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる)
② 授業への取り組み 50% (授業時の積極的な取り組みを評価する。コモンルーブリック評価基準を用いる)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
自己の心身の状態に適したスポーツを生活の中に取り入れるための方法を身につける (DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
スポーツの体験を通して、楽しさを味わいながら技術やルール・マナーを身につける (DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの生活におけるスポーツ活動において、安全に配慮した活動を計画できる (DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
授業中のコメント及び質疑については次回またはその場で返却・回答する。

教科書
授業にて資料を配布する
参考書等
上杉尹宏、晴山紫恵子、川初清典 監修、「新版 生涯スポーツと運動の科学」、市村出版, 2016 年

履修上の注意・学習支援
運動着・運動靴(グランド用、体育館用)は指定された服装を着用する
疑問点は授業担当に質問すること
shimofure@kyowa-u.ac.jp
本授業はいずれの回も担当教員 2 名にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C1201	オーラルイングリッシュⅠ	1年	春	演習	1	阿部 巧

授業概要

保育園での様々な場面を設定した題材を通して、これまでに学んできた語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを復習し、保育の場面へと活用の範囲を拡大することを目指す。特に、スピーキング力の向上を重点的に扱う。

到達目標（学習の成果）

・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる（DP2）。
・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。（DP2）。
・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。（DP2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	○Unit 1 What's your name? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題①：自己紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題①:動画を視聴し、自分が話したい内容を整理する。(0. 5時間)
2	○Unit 1 What's your name? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題①：自己紹介	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題①:内容の構成を考える。(0. 5時間)
3	○Unit 2 Where are you from? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題①：自己紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題①:原稿を作成する。(0. 5時間)
4	○Unit 2 Where are you from? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題①：自己紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題①:資料を作成する。(0. 5時間)
5	○Unit 3 Good morning! 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題①：自己紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題①:動画を作成し提出する。(0. 5時間)
6	○Unit 3 Good morning! 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題②：栃木を紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題②:動画を視聴し、自分が話したい内容を整理する。(0. 5時間)
7	○Unit 4 Are you OK? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題②：栃木を紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題②:内容の構成を考える。(0. 5時間)
8	○Unit 4 Are you OK? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題②：栃木を紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題②:原稿を作成する。(0. 5時間)
9	○Unit 5 What are you doing? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題②：栃木を紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題②:資料を作成する。(0. 5時間)
10	○Unit 5 What are you doing? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題②：栃木を紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題②:動画を作成し提出する。(0. 5時間)
11	○Unit 6 How are you feeling? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題③:大学を紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題に取り組む。(0. 5時間)
12	○Unit 6 How are you feeling? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題③:大学を紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題③:内容の構成を考える。(0. 5時間)
13	○Unit7 What's she like? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題③:大学を紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)

		事後	課題③:原稿を作成する。(0. 5時間)
14	○Unit7 What's she like? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題③:大学を紹介	事前	前時の学習の復習をする。(0. 5時間)
		事後	課題③:資料を作成する。(0. 5時間)
15	○Unit8 Do's and don'ts 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題③:大学を紹介	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題③:動画を作成し提出する。(0. 5時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ペアワーク、グループワーク、スピーチ、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
定期試験 40%　課題 30%　スピーキングテスト（実技）30%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる（DP2）	ほとんど誤りなく実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りは多いものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。（DP2）	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合があるものの、努力している。

※クラスルーム上で課題のフィードバックを行う。。

教科書
書名：Speaking of Childcare　　著者名：Peter Vincent, Naoko Nakazato　出版社：南雲堂
出版年：2019 年

参考書等
必要に応じて授業中にプリント等を配付し、クラスルーム上で共有する。

履修上の注意・学修支援
- 授業の内容は英検準 2 級程度（高 1 レベル相当）を基本とし、英検 2 級（高 2 レベル相当）の取得を目標とするため、必要に応じて高校で学習したことを復習すること。
- 授業は英語で行う。ことを基本とする。
- 授業前に単語の意味を調べ、予習をしてくること。
- 間違いを恐れず、積極的に参加すること。
- どのような質問でも積極的に聞くこと。

※以下は該当者のみ記載してください。

務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C1202	オーラルイングリッシュⅡ	１年	秋	演習	1	阿部 巧

授業概要

保育園での様々な場面を設定した題材を通して、それらの場面で必要とされる語彙、英語表現や一般的に必要とされる基礎的文法などを学習する。また、文章読解、聴解、作文、発話等を通して、「リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング」の４技能を総合的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。特に、スピーキング力の向上を重点的に扱う。

到達目標（学習の成果）

・コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる（DP2）。
・場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。（DP2）。
・積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。（DP2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	○Unit8 Do's and don'ts 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題④：夏休みの思い出	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題④:動画を視聴し、自分が話したい内容を整理する。(0. 5時間)
2	○Unit 9 Let's eat lunch! 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題④：夏休みの思い出	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題④:内容の構成を考える。(0. 5時間)
3	○Unit 9 Let's eat lunch! 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題④：夏休みの思い出	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題④:原稿を作成する。(0. 5時間)
4	○Unit 10 What do you want to do? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題④：夏休みの思い出	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題④:資料を作成する。(0. 5時間)
5	○Unit 10 What do you want to do? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題④：夏休みの思い出	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題④:動画を作成し提出する。(0. 5時間)
6	○Unit 11 What do you have to do? 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題⑤：My dream	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑤:動画を視聴し、自分が話したい内容を整理する。(0. 5時間)
7	○Unit 11 What do you have to do? 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題⑤：My dream	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑤:内容の構成を考える。(0. 5時間)
8	○Unit 12 I need to go potty 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題⑤：My dream	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑤:原稿を作成する。(0. 5時間)
9	○Unit 12 I need to go potty 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題⑤：My dream	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑤:資料を作成する。(0. 5時間)
10	○Unit 13 Good job! 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題⑤：My dream	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑤:動画を作成し提出する。(0. 5時間)
11	○Unit 13 Good job! 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題⑥：クリスマス	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)

		事後	課題⑥:動画を視聴し、自分が話したい内容を整理する。(0. 5時間)
12	○Unit 14 Injuries and emergencies 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題⑥：クリスマス	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑥:内容の構成を考える。(0. 5時間)
13	○Unit 14 Injuries and emergencies 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題⑥：クリスマス	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑥:原稿を作成する。(0. 5時間)
14	○Unit 15 We're going to go outside 文法や単語の意味の確認をする。 ○課題⑥：クリスマス	事前	Unit 前半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑥:資料を作成する。(0. 5時間)
15	○Unit 15 We're going to go outside 前時の学習を活用したスピーキングアクティビティを行う。 ○課題⑥：クリスマス	事前	Unit 後半に書かれた単語や英文に目を通し、わからない単語や表現を調べ、リスニング等の問題に取り組む。(0. 5時間)
		事後	課題⑥:動画を作成し提出する。(0. 5時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ペアワーク、グループワーク、スピーチ、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
定期試験 40%　課題 30%　スピーキングテスト（実技）30%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
コミュニケーションに必要な文法、語彙、音声等を理解し、実際に使うことができる（DP2）	十分に実際の場面で活用することができる。	コミュニケーションに支障がない程度の誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	誤りはあるものの、実際の場面で活用することができる。	サポートがなければ活用が難しいものの、努力している。
場面や状況に応じた表現を選択し、適切にコミュニケーションを図ることができる。	多様な場面や状況に応じた適切な表現を的確に選択し、自然にコミュニケーションを図ることができる。	場面や状況に応じた表現を選択でき、意図が正確に伝わる。	場面や状況に適した表現選択に一定の誤りがあるが、全体として意味が伝わる。	サポートがなければ意図を伝えることが難しい場合があるものの、努力している。
積極的にコミュニケーションを図るとともに、協働して課題に取り組むことができる。（DP2）	主体的にコミュニケーションを図り、他者と協働して課題解決に貢献できる。	積極的にコミュニケーションを図り、他者との協働がほぼ円滑に行える。	課題に取り組むことができる。サポートがあればより効果的に参加できる。	コミュニケーションや協働に消極的である。サポートがなければ課題に十分取り組めない場合がある。

※クラスルーム上で課題のフィードバックを行う。

教科書
書名：Speaking of Childcare　　著者名：Peter Vincent, Naoko Nakazato　出版社：南雲堂
出版年：2019 年

参考書等
必要に応じて授業中にプリント等を配付し、クラスルーム上で共有する。

履修上の注意・学修支援
・授業の内容は英検準 2 級程度（高 1 レベル相当）を基本とし、英検 2 級（高 2 レベル相当）の取得を目標とするため、必要に応じて高校で学習したことを復習すること。
・授業は英語で行う。ことを基本とする。
・授業前に単語の意味を調べ予習をしてくること。
・間違いを恐れず、積極的に参加すること。
・どのような質問でも積極的に聞くこと。

※以下は該当者のみ記載してください。

務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C2203	中国語Ⅰ	2～4 年	春	演習	1	小鳥遊信子

授業概要

本科目は、在日外国人住民の中で最も割合の高い中国人とのコミュニケーション場面を念頭に、現代中国語の文の基本的な構成を理解し、日常会話や簡単なコミュニケーションができること、今後継続的に中国語を勉強するための基礎を築くことを目標とする。

中国語を学ぶ第一歩として、正確な発音を身につけ、簡単な挨拶・日常会話、初歩的な基礎文法を理解し、応用することを学ぶ。中国語発音表記ピンインを覚え、正確に発音練習をするとともにより多くの漢字を識別する工夫をする。漢字を多く読めれば、認識できる語彙が増えるので基本文型を増やしながら日常生活場面や身近な話題について会話練習をするとともに中国の文化・社会に対する理解を深め、異文化リテラシーを養う。

到達目標（学習の成果）

- 正しい発音ができる（DP2）。
- 基本文法を理解し、応用できる（DP2）。
- 簡単な挨拶、日常会話ができる（DP2）。
- 簡単な中国語の文章を理解し、書ける（DP2）。
- 中国語検定試験（HSK１級）にチャレンジできる（DP2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	初対面の挨拶 ・ 中国語で名前を言う ・ 自己紹介	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
2	声調 ・ 単母音 ・ 四声 ・ 数字 ・ 発音練習	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
3	子音 ・ 軽声 ・ 複母音 ・ 声調記号のつけ方 声調の組合せ練習 ・ 発音練習	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
4	鼻母音 ・ 声調の変化 ・ r 化 声調の組合せ練習 ・発音練習	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
5	ピンインの総合練習	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
6	第１課 人称代名詞 ・ 動詞「是」・ 名前の言い方 発音練習	事前	テキストの CD を毎日 10 分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
7	第２課 動詞述語文 ・ 語気助詞「吧」・ **疑問詞疑問文** 発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする
8	第３課 指示代名詞(1) ・「的」・「呢」 発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする
9	第４課 形容詞述語文 助動詞「想 ・ 要」 発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。

		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
10	第４課　動詞の重ね型 発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
11	総合トレーニング	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
12	第５課　時間の表現(1)　・　所有を表す動詞「有」 反復疑問文　・　発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
13	第６課　数詞　・　量詞　・「几　・　多少」 発音練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
14	総合トレーニング 文の組み立て　・　作文の練習	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。
15	質疑応答　・　まとめ	事前	テキストの会話文を毎日10分間読みながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く練習をする。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準（%表記）
学期定期試験の成績をもとに評価するが、レポートや学習意欲も適宜加味する。
学期期末試験（50%）、小テスト（20%）、口頭試験（10%）、授業への積極的取り組み方（10%）、レポート課題（10%）。
期末試験はリスニング・筆記試験・口頭試験で行う。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・ ピンインを正しく認識し、発音できる。 ・ 基本文法を理解し、応用できる。	正確な発音で簡単な日常会話ができ、定型的な文書が書ける。	ほぼ正確な発音で用意した文章を用いて日常会話ができ、短文を書くことができる。	教科書の例文を滞らずに読んだり、簡体字を用いて書き取ったりすることができる。	教科書の例文をほぼ正確に発音したり、ほぼ正確に聞き取ったりできる。

教科書
南勇　著「新 HSK にチャレンジ！一年生の中国語」，朝日出版社，2023

参考書等
山下輝彦　著「楽しい中国語　第一歩」，朝日出版社，2023
郭春貴　郭久美子　編著「HSK 基本語彙　１級―４級」，白帝社，2020
早稲田大学商学部中国語教室　編著「中国語基本単語帳」，朝日出版社，2023

履修上の注意・学習支援
・辞書を用意すること。好奇心と発想力を持参して授業に取り組むこと。
・一つの言葉を獲得することはもう一つの文化・価値観を手に入れることになる。日本文化と違う視点からその違いを楽しもう！
・質問は講義中、もしくは講義後に受け付ける。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C2204	中国語Ⅱ	2～4 年	秋	演習	1	小鳥遊信子

授業概要

本科目は、在日外国人住民の中で最も割合の高い中国人とのコミュニケーション場面を念頭に、現代中国語の文の基本的な構成を理解し、日常会話や簡単なコミュニケーションができること、今後継続的に中国語を勉強するための基礎を築くことを目標とする。

テキストの他に、ワークシート・ゲーム・歌などを通じて語彙や文型のトレーニングをし、日常場面を想定した会話ができるようにする。今後継続的に中国語を勉強するための基礎を築くと同時に中国の文化・社会に対する理解を深め、異文化リテラシーを養う。

到達目標（学習の成果）

- 正しい発音ができる（DP2）。
- 基本文法を理解し、応用できる（DP2）。
- 簡単な挨拶、日常会話ができる（DP2）。
- 簡単な中国語の文章を理解し、書ける（DP2）。
- 中国語検定試験（HSK２級）にチャレンジできる（DP2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	第 7 課 指示代名詞(2) ・ 方位詞 存在を表す「有 ・ 在」・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
2	第 8 課 時間の表現(2) ・ 変化を表す文末助詞「了」 年齢の言い方 ・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
3	第 9 課 完了を表す助詞「了」・ 前置詞「给」 主述述語文 ・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
4	第 10 課 時間の表現(3) ・ 連動文 ・ 疑問詞「怎么」 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
5	第 11 課 前置詞「在」・ 二重目的語 ・ 前置詞「跟」 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
6	第 12 課 経験を表す「过」・ 動作量補語 ・ お金の言い方 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
7	第13課 時間量 ・ 時間量補語 ・「从 ・ 离 ・ 到」 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
8	第 14 課 助動詞「会 ・ 能 ・ 可以」・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
9	第 15 課 比較表現 ・「是～的」構文補語 ・ 様態補語 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
10	第 16 課「快～了」・ 方向補語 ・ 持続を表す「着」 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。

11	第 17課 結果補語 ・ 処置を表す「把」 使役を表す「让」・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
12	第 18 課 進行を表す副詞「在」・ 可能補語 禁止を表す「别 ・ 不要」・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
13	第 19 課 前置詞「往」・ 前置詞「对」 選択疑問文「还是」・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
14	第 20 課 「因为～所以」・ 疑問詞の不定用法 疑問詞の任意用法 ・ 会話練習	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	新出語句を音読しながら書く、応用練習をする。
15	総合トレーニング ・ 質疑応答 ・ まとめ	事前	テキストの会話文 CD を毎日10分間聞きながら発音練習をする。
		事後	総復習をする

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ペアワーク、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
学期定期試験の成績をもとに評価するが、レポートや学習意欲も適宜加味する。
学期期末試験(50%)、 小テスト(20%)、口頭試験(10%)、授業への積極的取り組み方(10%)、レポート課題(10%)。
期末試験はリスニング・筆記試験・口頭試験で行う。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・ ピンインを正しく認識し、発音できる。 ・ 基本文法を理解し、応用できる。 ・ 簡単な中国語の文章を理解し、書ける。	正確な発音で簡単な日常会話ができ、定型的な文書が書ける。	ほぼ正確な発音で用意した文章を用いて日常会話ができ、短文を書くことができる。	教科書の例文を滞らずに読んだり、簡体字を用いて書き取ったりすることができる。	教科書の例文をほぼ正確に発音したり、ほぼ正確に聞き取ったりできる。

教科書
南勇　著「新 HSK にチャレンジ！一年生の中国語」,朝日出版社, 2023

参考書等
山下輝彦　著「楽しい中国語　第一歩」,朝日出版社, 2023
郭春貴　郭久美子　編著「HSK 基本語彙　１級―４級」,白帝社,2020
早稲田大学商学部中国語教室　編著「中国語基本単語帳」,朝日出版社,2023，,

履修上の注意・学習支援
・辞書を用意すること。好奇心と発想力を持参して授業に取り組むこと。
・一つの言葉を獲得することはもう一つの文化・価値観を手に入れることになる。日本文化と違う視点からその違いを楽しもう！
・質問は講義中、もしくは講義後に受け付ける。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C2205	韓国語Ⅰ	2～4年	春	演習	1	鄭 仁淑

授業概要

日本の中で、ここ数年韓国の映画、ドラマ、K－POP などが好きな人々が次第に増えている。それに伴い韓国語学習熱も高まる傾向である。韓国の文化と韓国語が分かれば、もっと楽しむ事が出来ると思われる。特に韓国語は日本語と文法構造が非常に似ていて、覚えやすい外国語の一つでもある。

春学期では、韓国語の文字の読み書き、発音を中心に学ぶ。

挨拶、簡単な基礎会話が言えるようになる。

到達目標（学習の成果）

韓国の文化と生活について知り、韓国について理解を深めることができる。(DP1)

日本語と韓国語との関連性を理解し、日本語をハングルで表記できるようになる。(DP2)

ハングルの母音と子音、パッチムについて学び、ハングルの文字が読めるようになる。(DP2)

韓国語の簡単な表現が言えるようになる(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	P16 母音　아 이 어 우 오 으 子音　ㅁ ㄴ ㄹ ㅇ	事前	韓国のドラマ、映画などを見て韓国語に触れる。(0.5 時間)
		事後	学習した母音と子音を覚える (0.5 時間)
2	P16 母音　야 여 요 유 子音　ㄱ ㄷ ㅂ ㅅ ㅈ	事前	前回学んだ事を復習し、今回学ぶところを予習。(0.5 時間)
		事後	学習した母音と子音を覚える (0.5 時間)
3	P18 母音 의 パッチム ㅁ ㄴ ㄹ ㅇ パッチムのプリント配布	事前	テキスト、パソコンを使って、パッチムが何かを調べ理解しておく (0.2 時間)
		事後	学習したパッチムの発音を練習する (0.8 時間)
4	P20 母音 에 애 외 왜 웨 子音 ㅋ ㅌ ㅍ ㅊ ㅎ	事前	２重母音について予習する (0.5 時間)
		事後	新しく学習した子音を覚える (0.5 時間)
5	P 20 パッチム ㄱ ㄷ ㅂ 発音のルールのプリント配布	事前	３回目の時に配布したパッチムのプリント復習 (0.5 時間)
		事後	新しく学習したパッチムの発音の練習 (0.5 時間)
6	P 22 母音 얘 예 위 와 워 子音 ㄲ ㄸ ㅃ ㅆ ㅉ	事前	５回目の時に配布した発音のルールのプリントを読む (0.5 時間)
		事後	学習した濃音の練習をする (0.5 時間)
7	2重パッチム　プリント配布	事前	ハングルの基本音節表を覚える (0.5 時間)
		事後	２重パッチムの理解し読めるようにする (0.5 時間)
8	韓国の伝統遊び及びゲームを体験し、韓国の文化について理解を深めることができる。	事前	ハングルの基本音節表を覚える (0.5 時間)
		事後	友達と韓国のゲームをやってみる (0.5 時間)
9	P 24～29 表現 예요/이에요 「名＋です/ですか。」の表現を学び、国と職業が言えるようになり、簡単な自己紹介が出来るようになる。	事前	翻訳・文法解説 P 17～18 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	授業中に練習した自己紹介を練習する (0.8 時間)
10	P 30～37 表現 이게/그게/저게/뭐예요? 「 これが/それが/あれが/何ですかの」表現を学び、韓国語で何というかが確認できる。	事前	翻訳・文法解説 P 18～19 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	学習した単語を覚える (0.8 時間)
11	P 38～45 表現 있어요/없어요 고유숫자 「 あります/ありません」の表現を学び物のあるかないかが言えるようになる。 固有数詞を学び、数字が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P 19～20 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	固有数詞を覚える (0.8 時間)
12	固有数詞を使ったゲームを通して固有数詞を覚えることができる。	事前	前回学習した固有数詞を復習する (0.5 時間)
		事後	数詞を使うゲームを韓国語でやってみる (0.5 時間)

13	P 38～45 表現 개(個) 명(名) 장(枚) 권(冊) 잔(杯) 마리(匹、頭) 固有数詞を使う助数詞を学び、数が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P 20～21 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	日常生活で使えそうな助数詞を覚える (0.8 時間)
14	P 46～53 表現 가/이 장소 助詞「 ～が」と場所の表現を学び、ここがどこか確認できるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P 21 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	テキスト P 48 の場所の単語を使って会話の練習をする (0.8 時間)
15	P 46～53 表現 ～에 있어요/없어요 助詞「～に」と「います/いません」の表現を学び、人がどこにいるかが分かるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P 22 を読んで来る (0.2 時間)
		事後	韓国のドラマや映画を見て知っている表現を確認してみる (0.8 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ゲーム、グループ活動

成績評価の方法・基準(%表記)
授業中のゲーム、グループ活動(20%)、
授業への取り組み(30%)、
レポート(50%)

成績評価の基準　評価の観点は、「到達目標」と対応するように設定してください(黄色部分)

観点	S	A	B	C
韓国の文化や生活についての理解(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
韓国語の文章が読める(DP2)	十分読める	ほぼ読める	一定程度読める	努力が必要である
韓国語で簡単な表現ができる(DP2)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

教科書
西江大学韓国語教育院出版部, 2008, 서강 한국어 1A　(西江韓国語１A)，西江大学国際文化教育院, 2860 円

参考書等

履修上の注意・学習支援
日本語と文法が似ているため日本人に学びやすい言語であるので、外国語の興味がある人。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
ＮＨＫ文化センターでの韓国語会話
リビングとちぎでの韓国語会話
県内小中高校での韓国文化紹介

[実務経験と授業科目との関連性]

韓国語講師で培った経験を基に、文法や基礎会話を分かりやすく教える。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19C2206	韓国語Ⅱ	2～4年	秋	演習	1	鄭仁淑

授業概要
春学期に続き、韓国語の文字の読み書き、発音を復習しながら、基礎会話の運用能力を高める。さらに言語の背景にある韓国文化や韓国社会の事情など、多面的に韓国を理解することができる。

到達目標(学習の成果)
主語、目的語、述語を学び、韓国語の簡単な文章を読んで理解することができるようになる(DP1)
助詞を覚えて、韓国語で簡単な文章が作れるようになる(DP2)
色々な表現を学び、韓国語で自分の自己紹介ができるようになる(DP2)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	P 54～69 表現 漢数詞、 電話番号が言えるようになる 小テスト	事前	春学期に学習した内容を復習しておく（0.5 時間）
		事後	漢数詞を覚える（0.5 時間）
2	P 54～69 表現 韓国のお金 物の値段を聞くことが出来る。 小テスト	事前	漢数詞を復習する（0.5 時間）
		事後	品物の値段が韓国語で言えるように練習する（0.5 時間）
3	P 54～69 表現 何月何日 誕生日が言えるようになる。 小テスト	事前	翻訳・文法解説 P24 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	家族の誕生日の言い方を練習する（0.8 時間）
4	P 70～87 表現 時間 (場所)에 가요 時間の表現を学び、「何時にどこに行くか」が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P25 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	時計を見ながら時間の練習をする（0.8 時間）
5	P 70～87 表現 아요/어요/여요 (時間)에 会話形式の「です/ます」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P25～26 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	動詞、形容詞の原型を요形に変える練習をする（0.8 時間）
6	P 88～105 表現 를/을 目的を表す「～を」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P27～28 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	テキストP92 を요形に変える（0.8 時間）
7	P 88～105 表現 ～에서 「(場所)～で」の表現を学び、どこで何をするが言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P29 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	学習した内容を復習する（0.8 時間）
8	P 88～105 表現 요일 曜日の表現を学び、「何曜日にどこで何をするか」が言えるようになる。	事前	曜日の単語を調べる（0.2 時間）
		事後	一週間何をするか韓国語で文章を書いてみる（0.8 時間）
9	P 106～123 表現 았/었/였어요 「 ました/でした」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P29～30 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	テキストP113 の単語を過去形に変える（0.8 時間）
10	P 106～123 表現 안～, ～도 否定形と「～も」の表現が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P30 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	テキストP113 の単語を否定形に変える（0.8 時間）
11	P 106～123 表現 시간, 으불규칙 時間を表す表現と不規則の単語を使った表現が出来る。	事前	翻訳・文法解説 P30 の으不規則を読んで来る（0.2 時間）
		事後	으不規則を理解し、変換を覚える（0.8 時間）
12	P 124～139 表現 위, 아래, 앞, 뒤 으러 가요/와요 位置方向を表す表現を学び「どこに何をしに行くのか」が言えるようになる。	事前	位置を表す単語に何があるか考えて来る（0.2 時間）
		事後	学習した位置を表す単語をジェスチャーと共に覚える（0.8 時間）
13	P 124～139 表現 ～하고 ㅂ니다/습니다. 았습니다/었습니다. 丁寧な「ます/です」「ました/でした」の表現を学び、 「誰と何をします(しました)」が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P32～33 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	翻訳・文法解説 P33 の単語を現在と過去形に直してみる（0.8 時間）
14	P 140～157 表現 (으)로、(으)세요、～지 마세요 道具、手段、方法を表す表現と 「～下さい ～しないでください」の表現を学び、	事前	翻訳・文法解説 P34 を読んで来る（0.2 時間）
		事後	よく使う動詞を命令形と禁止命令形に直してみる

	命令形、禁止命令形が言えるようになる。		(0.8時間)
15	P 140～157 表現 ～에서 까지/ ～고 싶어요 ～(場所)から～(場所)まで/～したいです。の表現を学び、自分がやりたい事が言えるようになる。	事前	翻訳・文法解説 P35を読んで来る (0.2時間)
		事後	韓国語を学んでやってみたいことを書く (0.8時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ゲーム、グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
授業中のグループ活動への取り組み(30%)
授業中韓国語で作文を作って発表(韓国語で文章が作れるかを判断する)(30%)
期末テスト(40%)(持ち込み可)

成績評価の基準　評価の観点は、「到達目標」と対応するように設定してください(黄色部分)

観点	S	A	B	C
主語や術後の関係など、文法の的確さ(DP1)	完全に的確に達成できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
助詞が正しい文章が書ける(DP2)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
色々な表現を使って韓国語で自己紹介文が書ける(DP2)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

教科書
西江大学韓国語教育院出版部, 2008, 서강 한국어 1A　(西江韓国語１A), 西江大学国際文化教育院, 2860 円

参考書等

履修上の注意・学習支援
通年の授業ではないため秋学期からの履修を認める。
但し、秋学期は春学期の続きであるため、春学期の授業内容を理解した上での履修を推奨する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
ＮＨＫ文化センターでの韓国語会話
リビングとちぎでの韓国語会話
県内小中高校での韓国文化紹介

[実務経験と授業科目との関連性]
韓国語講師で培った経験を基に、文法や基礎会話を分かりやすく教える。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D1201	日本国憲法	1	前期	講義	2	渡辺　靖明

授業概要

憲法は、私たち国民(市民)が他者との共存の中でそれぞれ幸せに生きていくために、国が法に基づいてなすべきことの基本を定める重要なルールである。例えば子どもの教育や福祉に関わる法もたくさんあるが、憲法の規定や理念に反して、その法を作ったり適用したりすることはできない。憲法の基礎を理解することは、子どもの教育や福祉も含めた様々な社会の問題を法の観点も含めて深く考えることにもつながる。

本講義では、このことを踏まえて、憲法と関連する法の基礎、そしてその個別の重要な論点を学び、法の基本的な知識を身に着けることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

・日本国憲法の全体像、憲法及び関連する法の基本的な役割、用語の意味や考え方(原則)を理解することができる。(DP1)

・様々な社会的問題について、憲法及び関連する法の観点を踏まえて、深く考え、それを文章で説明できるようになる。(DP2、DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	ガイダンス／法がなぜ必要なのかー授業の進め方、成績評価方法などを理解し、私たちの社会、生活での法の分類、意義、役割などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメ(授業資料)に目を通しつつ、法についての自分のイメージや、関心のある法などを整理しておく。(2時間)
		事後	法の意義、役割、自分たちの生活や暮らしとの関わりなどを振り返っておく。(2時間)
2	法令の体系及び法の分類ー法令の種類・体系(システム)の概要、憲法の最高法規性、憲法と条約との関係などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「憲法」、「法令」、「法律」、「条例」などについて調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
3	日本国憲法の基礎ー市民の「あたりまえ」を守る法としての憲法の意義、基本構造、憲法の定める人権とその制約などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習ったことを思い出しながら、「日本国憲法」とはどのような法かを整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
4	基本的人権ー憲法の定める平等権、自由権、社会権、参政権、幸福追求権及び国民の義務を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、高校等で習った「日本国憲法」の知識を思い出しながら、憲法の「人権」の種類や内容について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
5	「平等」とは？ー具体的な事例から、平等とは何かをさらに考えてみる。	事前	前回の授業での「平等」の項目を踏まえつつ、事前配布のレジュメに目を通して、「事例」について自分はどう考えるか整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、「平等」の様々な考え方を整理し、さらに考えを深める。(2時間)
6	表現の自由(1)ー表現の自由はなぜ保障されるのか、検閲の禁止、集団行動の自由、報道の自由・知る権利などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「検閲」、「報道の自由」、「知る権利」などについて調べておく。(2 時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
7	表現の自由(2)ー刑法によるビラの貼り付け・配布の規制、名	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関

	誉毀損罪の成否との関係を学ぶ。		連する授業を踏まえつつ、「刑法」とはどのような法律か、「住居侵入罪」、「名誉毀損罪」とはどのような犯罪かを調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
8	自己決定権－自己決定権の意義、幸福追求権との関係や、生命をめぐる自己決定権の尊重の限界などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「輸血拒否事件」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
9	家族(1)－家族に関する憲法の規定、民法における夫婦、離婚(夫婦関係)の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、家族に関する憲法の規定や、民法における「婚姻」、「離婚」、「夫婦別姓」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
10	家族(2)－民法における親子、相続の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法における「親子」と「相続」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
11	学校教育－憲法における学問の自由、教育を受ける権利、学校での平等と学校でのいじめの問題を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「学問の自由」や「教育を受ける権利」などについて調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
12	子どもの貧困－子どもの貧困の現状と対策や社会権、生存権との関係などを学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、前回までの関連する授業を踏まえながら、「社会権」や「生存権」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
13	人の生命－法ではいつから「人」になるか、また人の「死」とはいつか、などの基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、民法と刑法とでの人の始まりや、人の終わり(死)をめぐる「心臓死説」と「脳死説」について調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
14	労働－憲法の労働権、労働基準法の原則、職場での平等の基礎を学ぶ。	事前	事前配布のレジュメに目を通しつつ、「労働法」の意味や憲法との関係を調べておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、用語の意味・考え方や、具体的事例があればその内容を整理して、さらに考えを深める。(2時間)
15	これまでの総括とこれからの展望－これまで授業で得た知識をもとに、具体的事例についてどのように考えるべきか、自分の理解を整理する。 ※授業の進み具合に応じて、内容変更の可能性がある。	事前	これまでの授業を振り返って、理解が充分でないと思うところについて調べて整理しておく。(2時間)
		事後	授業の内容を振り返り、自分の理解を整理する。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

適宜、重要な事例や問題について、クラスルームの機能などを使って意見を書いてもらい、一覧にまとめられた他の人の意見も見て、自分の考えをさらに深めてもらう予定である。

成績評価の方法・基準(%表記)

・定期試験(筆記試験) 70%
・授業外での小テスト(クラスルームを使用する予定)3回 25%
・授業内での質問への回答等 5%

期末試験については、試験終了後、解説をクラスルームでアップする。小テスト、質問への回答等については、授業中に解説する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
法の基礎的な用語の意味・考え方を理解できている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している
法の基本的な知識を具体的事例に当てはめて考えることができている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している
様々な社会的問題について法的な観点から考えることができている。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している

教科書

なし

参考書等

・村中洋介ほか『嫌いにならない法学入門』(2版、信山社、2023 年)
・斎藤一久・城野一憲編著『教職のための憲法』(ミネルヴァ書房、2020 年)

履修上の注意・学習支援

・授業中の不要な私語はつつしむこと。他の人の迷惑を考えられなければ、法(ルール)を正しく学ぶことはできないからである。
・日ごろから自身が関係しそうな社会の問題について関心を持ち、法的な観点からどのような解決ができるか、またできないかを考える癖をつけることが望ましい。
・特に最初は難しく感じるかもしれないが、理解度を確認しながら、楽しく学べるように努めたい。
・授業で分からなかったところは気軽に質問すること。オフィスアワー(原則、講義終了後(開始前でも可)15 分間程度、1号館1階「講師教員センター」)などで対応する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D2202	音楽史	2 年	春	講義	2	阿久澤 政行

授業概要

音楽の基礎的教養を身につけ、得意な分野の専門性を深め、子どもの生活を豊かなに創造するための実践力と省察力を育成することができるようになる。音楽がいかに生まれ、いかなる変遷を遂げてきたのかを学び、説明できるようになることを目的とする。西洋音楽からポピュラーまでの音楽史を学び、譜例などの資料や鑑賞を通して専門性を深めることができる。

到達目標(学習の成果)

・西洋音楽の歴史から、日本の伝統音楽そしてポピュラー音楽まで、各時代の社会的背景や特徴について音楽分野の専門性を深め、課題を考察できる。(DP3)

・音楽の観点より、子どもの生活の場に結び付けた各自の意見を持ち、現場に出て特色のある指導のできる能力を身につける。(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	古代からグレゴリオ聖歌…古代の楽器について学び、古代音楽文化、グレゴリオ聖歌の成立までの過程を知る。	事前	古代からグレゴリア聖歌までを予習する(教科書) (1 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(3 時間)
2	中世の音楽…世俗音楽の発達を学び、音楽史における楽譜の誕生について知り記譜法を実践する。	事前	楽譜の誕生を予習する(教科書) (1 時間)
		事後	講義内で紹介した資料、楽曲を復習する(3 時間)
3	ルネサンスの音楽…鍵盤楽器や弦楽器と管楽器の歴史を知り、楽器のあらゆる奏法や特徴、またコラールを知る	事前	コラールを調べる(教科書) (2 時間)
		事後	講義内で紹介した資料、楽曲を復習する(2 時間)
4	バロックの音楽…オペラの誕生について学び、時代背景とともに代表する各作曲家の特徴を知る。	事前	オペラについて調べる(教科書) (1 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(3 時間)
5	古典派の音楽 1…音楽史における古典派と呼ばれる時代の特徴、オーケストラの仕組みや代表曲を学ぶ。	事前	古典派の楽曲を聴く(2 時間) (ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
6	古典派の音楽 2…古典派を代表する各作曲家の特徴を学び、器楽からオーケストラまでの知識を身につける。	事前	前回とは別作曲家の古典派の楽曲を聴く(2 時間) (ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
7	ロマン主義の音楽 1…ロマン主義の音楽の特徴を学び、文学や美術からみる時代背景を知る。	事前	ロマン派の楽曲を聴く(2 時間) (シューマン、リスト、ショパン、ブラームス等)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
8	ロマン主義の音楽 2…時代を代表する各作曲家の特徴を学び、曲の紹介や子ども向けの簡単アレンジ法まで言及する。	事前	前回とは別作曲家のロマン派の楽曲を聴く (シューマン、リスト、ショパン、ブラームス等) (2 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
9	国民楽派の音楽…ロシア、チェコ、ハンガリー、北欧等の特色ある音楽を学び、時代背景とともに各作曲家を知る。	事前	国民楽派の楽曲を聴く(2 時間) (ムソルグスキー、ドヴォルザーク、グリーグ等)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
10	20 世紀の音楽 1…20 世紀音楽の始まりと時代背景を学び、それまでの音楽構成との明確な違いを学ぶ。	事前	ドビュッシー、ラヴェルの各楽曲を聴く(2 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
11	20 世紀の音楽 2…スペインの音楽の特徴や、様々な演奏形態の作品を紹介し、各作曲家の特徴を知る。	事前	アルベニス、ファリャの各楽曲を聴く(2 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
12	日本の音楽 1…日本の古典音楽を代表する雅楽、能、文楽、歌舞伎の特徴を学び、各楽曲を知る。	事前	日本の伝統楽器を予習する(教科書) (2 時間)
		事後	講義内で紹介した資料、楽曲を復習する(2 時間)
13	日本の音楽 2…日本を代表する作曲家の作品紹介や特徴等、鑑賞を交えながら知識を身につける。	事前	滝廉太郎、山田耕作の各楽曲を聴く(2 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
14	ポピュラー音楽 1…ジャズミュージックの誕生を学び、ジャズの楽曲と各作曲家の特徴を知る。	事前	ジャズの楽曲を聴く(2 時間) (ガーシュイン、バーンスタインを含む)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)
15	ポピュラー音楽 2…現代のポピュラー音楽についての特色と、あらゆるジャンルの音楽ビジネスについて学ぶ。	事前	流行歌について予習する(2 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
記載なし

成績評価の方法・基準(%表記)
期末試験 50%　レポート 40%　授業への取り組み
レポートは、課題とした作曲家または楽曲作品について、その背景と曲構成について具体的に述べているか、作曲家または楽曲作品に対して自らの考えを整理し、表現できているかで評価する。レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。
※　課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
音楽史の専門知識を理解している	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもを豊かに育てる上での音楽を用いた課題を考察できる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

レポートの評価基準

観点	S	A	B	C	D
内容理解	①課題を理解し、指示どおりにレポート内容を構成している。 ②課題に係る専門用語や時代背景を正確に理解している。	①、②がおおむね達成できている。	①・②のいずれかを達成している。	①・②のどちらも不十分である。	①・②ともに全く達成できていない。
論理構成	①結論と根拠が明示さえている。 ②自身の意見を表明し、課題に係る考察を深めている。 ③レポート全体の主張が一貫している。	①～③がおおむね達成できている。	①～③のいずれか 2 つを達成している。	①～③の 1 つしか達成できていない。	①～③のどれも達成できていない。
文法	①誤字・脱字がない文章である。 ②主語や述語の関係など、文法が的確である。 ③文体が統一されている。	①～③がおおむね達成できている。	①～③のいずれか 2 つを達成している。	①～③の 1 つしか達成できていない。	①～③のどれも達成できていない。

教科書
久保田慶一『音楽史を学ぶ(古代ギリシャから現代まで)』,教育芸術社,2017

参考書等
毎回、資料を配布する。

履修上の注意・学習支援
授業中は講義内容を必ずノートにすること。
疑問があれば, オフィス・アワーを利用すること(事前予約(akuzawa@ujc.ac.jp)のうえ, 時間を設定する)。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D2203	音楽理論	2 年	秋	講義	2	新井　祐子

授業概要

音楽の専門的な知識を学び、楽曲を理論的に分析し、より深く理解できるようになることを目的とする。さらに、音楽理論の基礎知識を活用し、子どもとの音楽活動や音楽療法における即興など、実践に生かせる応用力を習得することをねらいとする。

到達目標(学習の成果)

・音楽理論の基礎知識を身につける(DP3)。
・様々な音楽作品を理論的に分析できるようになる(DP3)。
・子どもとの音楽活動や音楽療法の活動に、音楽理論の知識を生かせるようになる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	譜表と音名 譜表の種類、英・独音名について学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(2 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(2 時間)
2	拍子とリズム 様々な拍子とリズムについて理解を深める	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(2 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(2 時間)
3	音程 単音程について、また発展した複音程・転回音程を学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(2 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(2 時間)
4	音階① 長音階・短音階の仕組みを学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(1 時間)
		事後	各調の課題曲を練習する(3 時間)
5	音階② 主調と近親調の関係について学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(2 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(2 時間)
6	音階③ 移調について学び、実演する	事前	事前に配布するプリントに目を通しておく(1 時間)
		事後	移調課題に取り組み、練習する(3 時間)
7	音階④ 調判定について学ぶ①	事前	事前に配布するプリントに目を通しておく(1 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(3 時間)
8	音階⑤ 調判定について学ぶ②	事前	事前に配布するプリントに目を通しておく(1 時間)
		事後	音階について調べ、レポートにまとめる(3 時間)
9	和音① 和音の種類と転回形について学ぶ	事前	事前に配布するプリントに目を通しておく(1 時間)
		事後	課題曲を移動ド唱法で歌う(3 時間)
10	和音② 和音の終止形ついて学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(1 時間)
		事後	配布する課題プリントに取り組む(3 時間)
11	コードネーム① コードネームの各名称（三和音、七の和音）を学び、伴奏付けの実演する	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(1 時間)
		事後	コードネームによる伴奏付けをする(3 時間)
12	コードネーム② コードネームの各名称（変化和音、付加音等）を学び、伴奏付けの実演する	事前	事前に配布する課題曲に取り組む(1 時間)
		事後	コードネームによる伴奏付けをする(3 時間)
13	音楽の形式① 一部・二部・三部形式、複合三部形式について、実際の曲を取り上げながら学ぶ	事前	『音楽通論』の該当箇所を読んでおく(1 時間)
		事後	課題の楽曲分析をする(3 時間)
14	音楽の形式② 変奏曲やロンド形式などについて、実際の曲を取り上げながら学ぶ	事前	指定した楽曲を予習してくる(2 時間)
		事後	課題の楽曲分析をする(2 時間)
15	様式について 音楽様式の変遷を学ぶ	事前	指定した楽曲について調べてくる(2 時間)
		事後	指定した作曲家の様式についてレポートにまとめる(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
実演、課題発表

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験(筆記) 70%
・授業への取り組み 20%
・レポート課題　10%
　レポートの評価にはコモンルーブリック基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
音楽理論の基本的な知識を理解できている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
音楽作品を分析する力を身につけている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
1. 教芸音楽研究グループ編集『改訂　音楽通論』教育芸術社　2009 年

参考書等
　特になし。必要な資料は、授業中にプリントで配布する。

履修上の注意・学習支援
　この授業では、「楽典」全般の内容を扱っていきます。確かな知識として身につけられるよう、日々の予習復習に励むこと。
　わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D1204	社会学	3～4年	春	講義	2	蟹江　教子

授業概要

社会学は様々な社会現象について、それが生ずるメカニズムを含めて実態を分析・解明する学問である。本講義では、社会の様々な現象について、その発生メカニズムを含めて理解・把握するための、「見えないもの」を見る力とスキルの習得を目標とする。前半では社会学の視点から家族や子ども、保育、教育システムのとらえ方について貧困、虐待、子育ての困難さ、少子化などをキーワードに具体的な現象から学ぶ。後半では、「見えないもの」を見るための方法として、社会現象や人間行動を測定するための方法とデータの分析方法(アンケート調査票の作り方と分析方法、質的調査結果のまとめ方など)についても言及する。

到達目標(学習の成果)

- 社会学的な考え方や概念を用いて、身近な社会現象を説明することができる(DP1)。
- 「見えないもの」を見るための方法について学び、集めたデータを分析することができる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	社会学とは：社会学の基礎的な概念を理解する。	事前	社会と自身の関わりについて考える（2時間)。
		事後	社会学の扱う範囲について理解する(2時間)。
2	社会の中の家族　:個人にとっての家族の意味と社会の中での家族の意味について考える。	事前	個人と家族、家族と社会との関係について整理する(2時間)。
		事後	家族についての先行研究を探す(2時間)。
3	社会の中の子ども:子どもの社会的発見、発達と社会化について考える。	事前	社会における子どもの発達に関する文献を探す（2時間)
		事後	先行研究を整理する(2時間)。
4	社会の中の子育て:子育ての社会化の現状と課題について考える。	事前	配布プリントを読んで予習する（2時間)。
		事後	社会の中の乳幼児についてレポートを作成する(2時間)。
5	社会の中の教育:学校の機能と教育が抱える問題について考える。	事前	教育が抱える問題について文献を調べる（2時間)
		事後	学校が抱える問題についてレポートを作成する(2時間)
6	家族や子どもに関する調査:国内外の量的、質的調査を紹介する。	事前	配布文献を読んで内容を整理する（3時間)。
		事後	感想レポートを作成する(1時間)。
7	行動や意識を測る方法:アンケート調査票を詳しく検討してみよう。	事前	関心のある分野についてのアンケート調査票に検索し、内容を検討する(4時間)。
		事後	
8	アンケート調査結果のまとめ方(1):エクセルでデータをまとめてみよう	事前	仮説を立てて、エクセルを用いてローデータを分析する（4時間)
		事後	
9	アンケート調査のまとめ方(2):HADの機能についての説明	事前	HADの機能と操作方法を理解し、疑似データを用いて単純主計を行う（4時間)。
		事後	
10	アンケート調査結果のまとめ方(3):分析のためのデータセットをつくろう	事前	簡単なデータセットを作成する(4時間)
		事後	
11	アンケート調査のまとめ方(4):HADを使ってデータを分析してみよう	事前	HADを用いてデータ分析を行う(4時間)
		事後	
12	質的調査:質的調査で扱うデータ(インタビュー、動画など)について学ぶ	事前	簡単なインタビュー調査を行う(4時間)。
		事後	
13	インタビュー調査のまとめ方(1):インタビューデータの作り方について学ぶ。	事前	インタビュー調査のトランスクリプトを作成する（4時間)。
		事後	
14	インタビュー調査のまとめ方(2):分析ソフトを使っての:インタビューデータの作り方について学ぶ。	事前	インタビュー調査用分析ソフトを用いて、データ分析を行う(4時間)。
		事後	
15	結果をプレゼンテーションーション:授業で行った分析結果を各自報告する。	事前	プレゼンテーション資料を作成する（3時間)。
		事後	振り返りとして卒業研究への応用をまとめる(1時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

- レポート課題　　50%(自身の視点でテーマを切り取り、現状と課題について理論的、具体的に述べる)
- 授業への取り組み　50%(授業時の積極的発言、演習時の取り組みの様子を評価する)

成績評価の基準　:

レポート、グループワークについては、コモンルーブリック評価基準を用いる

その他の演習等に関する評価基準

観点	S	A	B	C
1.社会学的な考え方や概念を用いて、身近な社会現象を説明することができる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
2.「見えないもの」を見るための方法について学び、集めたデータを分析することができる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※ 課題は、次回授業やクラスルーム等でフィードバックする。

教科書

教員が作成したプリントを配布

参考書等

小宮あすか・布井雅人、『Excel で今すぐはじめる心理統計』、講談社、2018

履修上の注意・学習支援

・授業では PC を使う。

・卒業研究でアンケート調査やインタビュー調査を考えている学生は受講すること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D1205	現代日本史	1 年	秋	講義	2	江田　郁夫

授業概要

栃木県が誕生して150年あまり。栃木県がどのようにして誕生し、以後現在までいかなる歩みを経てきたのか？一般的には地味な印象をもたれがちな栃木県だが、その歴史と文化を通じて現代日本を再評価したい。今から150年前までさかのぼって現代までの栃木県と日本の歩みをたどり、あらためて現代日本の特質を再認識するとともに、それらをもとに栃木と日本の未来についても考える。

到達目標（学習の成果）

・日本がどのようにして現在に至ったのかを理解し、よりよく生活するための幅広い知識と教養を身につける(DP1)。

・子どもを取りまく衣食住などの生活環境の歴史的な背景を理解し、豊かな未来を実現するための具体的な方策が提案できる(DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	栃木県が誕生する以前には、下野国と呼ばれていた栃木。その風土と歴史にはどのような特徴があるのかを考える。	事前	シラバスを事前によく確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
2	1853 年ペリー（米）が来日し、日本に開国を求めた。そのときの江戸幕府の対応について学ぶ。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
3	1867 年幕府は政権を朝廷に返上し、明治新政府が成立した。旧幕府軍と新政府軍の内戦の影響を理解する。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
4	1871 年廃藩置県がおこなわれ、まもなく栃木県が成立。当時の栃木県の状況を理解する。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
5	1874 年以降、国会の開設と国民の政治参加を求める運動が栃木県に及ぼした影響を考える。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
6	1887 年古河市兵衛が足尾銅山を入手し、足尾銅山は日本最大の銅山に成長。足尾の光と影について学ぶ。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
7	日清・日露戦争を経て、1907 年陸軍第 14 師団の宇都宮駐屯が決定するまでの経緯を理解する。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
8	1914 年第一次世界大戦がはじまり、1918 年に第 14 師団がシベリアに出兵するまでの経緯を学ぶ。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
9	1920 年に真岡線が開通し、以後、烏山線、東武日光線、同宇都宮線の整備が進んだ背景を考える。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
10	1929 年の世界的な不況の影響で日本は深刻な不況にみまわれ、それが栃木県に及ぼした影響を考える。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
11	1937 年に日中戦争、1941 年には太平洋戦争がはじまり、戦禍が栃木県にも及んだ状況を理解する。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
12	1946 年に日本国憲法が発布され、日本の民主化・非軍事化がすすめられた状況を学ぶ。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
13	1951 年にサンフランシスコ平和条約が結ばれ、その後の日本の再独立・経済復興について考える。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
14	1958 年以降の好景気（岩戸・いざなぎ景気）が、1973 年の石油危機を契機にマイナス成長に転換するまでを理解する。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。
15	21 世紀を迎えて、日本社会はどのように変化したのだろうか。これからの日本の課題について考える。	事前	前時のレジュメを確認する（1時間）。
		事後	学習内容を振り返り、授業記録にまとめる（3 時間）。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)
期末試験　60%　課題提出 20% 授業への取り組み 20%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
学ぶ姿勢ができている(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している
日本がどのようにして現在に至ったのかが理解できている(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している
身近な歴史をもとに将来の生活・社会を考えることができる(DP1)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している

なお、毎時間、授業終了後に提出した課題は、次の授業時に返却する。

教科書
『図説日本史通覧』(帝国書院、2025 年度、1,020 円)

参考書等
『栃木県の歴史散歩』(山川出版社、2007 年、1,320 円)
『明治維新 150 年　栃木県誕生の系譜』(下野新聞社、2019 年、1,980 円)
『栃木のトリセツ』(昭文社、2021 年、1,980 円)

履修上の注意・学習支援
業中に関連事項をみなさんに質問しますので、積極的に発言してください。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
県立高等学校地歴科教諭として 17 年間、日本史・世界史等の教科教育や進路・生活指導全般を担当。そのほか、栃木県立文書館指導主事として 6 年間、歴史資料の調査・整理・展示等の業務に携わった。また、栃木県立博物館学芸員として 12 年間、多様な資料の調査・展示・保存業務等を行った。以上の実務を通じて、歴史学の前提となる史資料の特徴やその役割・重要性に関しての知見を深めた。

[実務経験と授業科目との関連性]
上記の教員経験や博物館等での経験をいかして、日本の歴史と文化に関し、より具体的でわかりやすい講義を行うことができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D1206	人間とは何か	１年	春	講義	２	杉本　太平

授業概要

自分自身を知ること(自己理解)と人を知ること(対象者理解)、関係を知ること(人間存在と関係状況)を本講義では追求する。人間としてどう在るべきかを哲学・思想として考えるのではなく、体験-認識-洞察-人間観の形成というHRST(行為法を用いた手法)などのアクティブ・ラーニングや、科学としての「人間知」(人間に関する科学・理論)と照らし合わせて理解し、洞察しようとする態度を形成することを目的とする。全人教育の基幹となる学習として、子どもと共に生活を創る人としての基礎的な知識を学び、幼児教育者・保育者としての人間観(考え方・在り方)を構築する手掛かりとする。

到達目標(学習の成果)

・人として生きる全ての営みの中に「学び」や「人間知」が存在することを知る (DP1)。
・近な出来事や素朴な疑問から「人間知」を追求する方法を学び、論述できる (課題レポート作成・発表) (DP1.4)。
・自己理解・他者理解の基礎的な学びを活かして、より良い人間関係を形成しようとすることができる (DP1.2)。
・全人教育の姿勢として「個性」や「生き方」を肯定・受容し、自分自身と関連付けることができる (DP1)。
・基礎的な人間観や「人」として「社会人」、「専門職者」としての在り方を考察し、表現する (DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	人としての営みの中の「学び」について理解し、「人間」を考えるテーマを発見する。課題レポートの作成準備の説明	事前	図書館を活用し、人間存在や人間関係に関するレポートテーマを検討し、文献・資料を探す。(4 時間)
		事後	
2	人間は「関係」的な存在であるとともに、「社会」的な存在であるということを理解する。「人間存在」理解のためのワーク	事前	人間存在や人間関係に関する文献・資料を読み、レポートテーマを検討する。(4 時間)
		事後	
3	人の生涯発達と学習との関連について理解し、生涯学習者でいることの意義を考える。	事前	レポートテーマを決定し、構想を練る。(2 時間)
		事後	乳児の能動性、愛着的行動を復習する。(2 時間)
4	「人間」の営みの中にある、自己や人やものへのかかわりから「学び」のテーマを見つける。課題レポートのテーマ決定	事前	レポート構想発表用のレジュメを作成する。(2 時間)
		事後	配布された資料を読み、レポート構想発表の結果をもとに、レポートの構想を再検討する。(2 時間)
5	自分史や描画法、コラージュなどの体験学習を通して、「自己理解」の方法を学ぶ。	事前	自己理解ワークのための事前学習を行う。(2 時間)
		事後	自己理解ワークの考察をまとめる。(2 時間)
6	「人」(対象者) を知るための方法を、子ども・家族関係を中心に事例検討から学ぶ。	事前	事例検討の結果について考察をまとめる。(4 時間)
		事後	
7	「人」を援助する上での基本的な考え方や態度を理解する。HRST「対人援助」のためのワーク①	事前	レポート制作活動を進める。(3 時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1 時間)
8	「人」を援助するための具体的な方法・技術の基礎を学ぶ。HRST「対人援助」のためのワーク②	事前	レポート制作活動を進める。(3 時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1 時間)
9	論述文として体験したことを事実と主観を区別して言語化し、適切に表現できる力を向上する。	事前	論述文作成課題に取り組む。(2 時間)
		事後	課題の振り返りを行う。(2 時間)
10	自らの学習課題から明らかになったこと、理解できたことを表現する。「問題整理」のためのグループワーク	事前	レポート中間発表用のレジュメを作成する。(2 時間)
		事後	レポート中間発表の結果をもとに、レポートの内容を再検討する。(2 時間)
11	様々な心理学の理論の中から「人間存在の肯定」について理解を深める。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した心理学理論を復習する。(2 時間)
12	こどもの「遊び」の中の「育ち」を考える。遊びを科学するための理論や方法を学ぶ。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した理論や研究方法を復習する。(2 時間)
13	「障がい」を「人間存在＝個性」として捉え、理解できるようにする。障がい者(要助者)への基本的なかかわり方について学ぶ。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した障害の種類や支援課題、支援方法について復習する。(2 時間)
14	集団の関係性と個と集団の相互の作用としての力学・力動について理解する。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した心理学理論を復習する。(2 時間)
15	グループ内でレポート課題の成果を報告し合う。	事前	発表レジュメを作成する。(3 時間)
		事後	成果報告会の振り返りシートをまとめる。(1 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

講義及び「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)、グループディスカッション(事例研究)、プレゼンテーション(レポート中間・成果報告会)、自己理解のための自分史・描画法・コラージュ等のアクティブ・ラーニングを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・アクティブ・ラーニングの考察及び研究発表・プレゼンテーション（30%：体験したことや調査・研究したことを言語化できているかを評価する)。課題等のフィードバックは
・レポート（50%：レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。調査したことを論理的にまとめ、考察の根拠となる知見「人間知＝理論・知識」の理解ができているかを評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
「人間知」としての人間や人間関係の心理学の基礎を理解している（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
プレゼンテーションのための資料を作成し、適切に表現できる（DP1.2.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
学んだことを自己の個性や生き方、専門職者のあり方と関連して整理できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料を配布する。

参考書等

・春原由紀編著・杉本太平共著『精神保健』　樹村房　2005 年
・深田博己編『コミュニケーション心理学』　北大路書房　2013 年
・榊原洋一著『ヒトの発達とは何か』　ちくま新書　1995 年
・國分康孝著『カウンセリング心理学入門』　PHP 新書　2000 年
・河合隼雄著『河合隼雄のカウンセリング心理学入門』　創元社　1999 年

履修上の注意・学習支援

・ワーク・事例研究などの演習では積極的に意見を言うこと。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・興味・関心が持てそうな[心理学]「人間学」「保育学」などの書を図書館で探して読むこと。
・講義で学んだことを自分自身の生活と関連づけることを意識すること。
・疑問点・質問があるときは、積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp）　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
2．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）として心理職の実務
3．文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月)、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健－子どもと家族の援助のために－」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19D1207	人間と心理	１年	秋	講義	２	杉本　太平

授業概要

本講義では全人教育の教養科目の視点から、人間の社会生活と人間心理との関係を把握・洞察する基礎力を培う。また、幼児教育者・保育者など子どもの成長・発達にかかわる専門職としての資質・能力を磨くために、専門教育科目への導入として心理学の基礎を学習し、人間生活を「科学」する視点や方法について理解する。HRST（行為法を用いた手法）などのアクティブ・ラーニングを通して、体験したことを認識（言語化）し、科学的に洞察を深め、新たな人間知を形成するという思考方法を身につける。

到達目標（学習の成果）

・人間理解や心理（成長・発達）について把握・洞察する基礎力を培う（DP1）。
・自己理解・他者理解の基礎的な学びを活かして、より良い人間関係を形成できる（DP1.2）。
・講義の学びを自分自身の生活と関連付けることができる（DP1）。
・講義の学びを専門職者としての学びや仕事に関連付けることができる（DP3）。
・心理的支援の学習を身近な人間関係や実習・ボランティア活動等に応用することができる（DP2.3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	生活の中の心理学「人間知」を学ぶ	事前	図書館を活用し、人間と心理に関するレポートテーマを検討し、文献・資料を探す。(4 時間)
		事後	
2	様々な生活場面でのコミュニケーションの特徴や内容を理解する。 HRST 実践演習①	事前	人間存在や人間関係に関する文献・資料を読み、レポートテーマを検討する。(4 時間)
		事後	
3	乳幼児のコミュニケーション能力とことばの育ちを支援するための方法を学ぶ。　HRST 実践演習②	事前	レポートテーマを決定し、構想を練る。(3 時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1 時間)
4	知能概念と子ども発達との関連について、新生児の能力や発達障害、情緒障害を例に人の知能の諸側面を理解する。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	知能と発達障害、情緒障害の関連を復習する。(2 時間)
5	人は体験した出来事をどのように理解し記憶しているのかを理解する。　HRST 実践演習③	事前	レポート制作活動を進める。(3 時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1 時間)
6	こどもはなぜ「遊ぶ＝学ぶ」のか。「ほめる」と「しかる」を考える。　HRST 実践演習④	事前	レポート制作活動を進める。(3 時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1 時間)
7	「イヤイヤ期」は「豊かな人間関係」の始まり。「愛され」体験と「自己肯定」について考える。　HRST 実践演習⑤	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	愛着形成と自己肯定について復習する。(2 時間)
8	性格の基礎的な理論を理解し、さまざまな性格測定や人間理解のアプローチの方法を知る。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	性格心理学についての学びを復習する。(2 時間)
9	個人と集団との関係性を、子どもと家庭を中心に、子ども集団・家族集団・地域集団・職場集団などから理解する。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	個と集団の関係性について復習する。(2 時間)
10	自分史や描画法、コラージュなどの体験学習を通して、表現されたものから自己洞察をし、心の世界を感じ取る。	事前	自己理解ワークのための事前学習を行う。(2 時間)
		事後	自己理解ワークの考察をまとめる。(2 時間)
11	専門職者として、「人間知」の文献研究や調査研究の進め方の基礎を学ぶ。	事前	レポート中間発表用のレジュメを作成する。(2 時間)
		事後	レポート中間発表の結果をもとに、レポートの内容を再検討する。(2 時間)
12	カウンセリングの諸理論を学ぶ。	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した理論について復習する。(2 時間)
13	人が悩む時には大切な意味があることを理解するために、傾聴・共感できるスキルを向上させる。HRST 実践演習⑥	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習した援助技術について復習する。(2 時間)
14	メンタルヘルスについて関心を持ち、ストレスを自己コントロールできる力を向上させる。　HRST 実践演習⑨	事前	レポート制作活動を進める。(2 時間)
		事後	学習したメンタルヘルスの理論と方法について復習する。(2 時間)
15	グループ内でレポート課題の成果を報告し合う。	事前	発表レジュメを作成する。(3 時間)
		事後	成果報告会の振り返りシートをまとめる。(1 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)、グループディスカッション(事例研究)、プレゼンテーション(レポート中間・成果報告会)、自己理解のための自分史・描画法・コラージュ等のアクティブ・ラーニングを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・アクティブ・ラーニングの考察及び研究発表・プレゼンテーション（30%：体験したことや調査・研究したことを言語化できているかを評価する）
・レポート（50%：レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。調査したことを論理的にまとめ、考察の根拠となる知見「人間知＝理論・知識」の理解ができているかを評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
教養としての心理学を理解している（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
心理的支援等の学習の成果をまとめ、言語化できる（DP2.3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
専門職者としての基礎的な知識や態度を身につけ、その学びを整理する（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書
・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料を配布する。

参考書等
・春原由紀編著・杉本太平共著『精神保健』　樹村房　2005 年
・大坊郁夫・安藤清志・池田謙一編『社会心理学パースペクティブ２』誠信書房 1990 年
・榊原洋一著『ヒトの発達とは何か』　ちくま新書　1995 年
・リタ．L．アトキンソン他著　内田一成監訳『ヒルガードの心理学』　ブレーン出版　2002 年
・國分康孝著『カウンセリング心理学入門』　PHP 新書　2000 年
・河合隼雄著『河合隼雄のカウンセリング心理学入門』　創元社　1999 年

履修上の注意・学習支援
・ワーク・事例研究などの演習では積極的に意見を言うこと。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・興味・関心が持てそうな[心理学]「人間学」「保育学」などの書を図書館で探して読むこと。
・講義で学んだことを自分自身の生活と関連づけることを意識すること。
・疑問点・質問があるときは、積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp）　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

１．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
２．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）として心理職の実務
３．文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（Human Relation Skills Training）＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健－子どもと家族の援助のために－」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19D2208	コミュニケーションの心理学	2年	秋	講義	2	杉本　太平

授業概要

本講義では、子どもや保育者や同僚とのコミュニケーション力、積極的に対人援助をする意欲と能力、および地域における世代間交流活動の支援が出来る専門性を高めるために、人と人がより良く理解し合えるためのコミュニケーション理論と技術を学ぶ。また、コミュニケーションの発達について理解し、コミュニケーションに困難を抱える子どものとのかかわりについても学ぶ。ＨＲＳＴ（行為法を用いた手法）などのアクティブ・ラーニングを通して、対人コミュニケーションスキルの向上を図り、学生自身のコミュニケーションの傾向について自己理解を深め、全人教育の観点から専門職者としての望ましいコミュニケーションの実践力を培う。

到達目標(学習の成果)

・乳幼児期からのコミュニケーションの発達についての学びを論述できる（DP1.3)。
・コミュニケーションにかかわる社会的な問題について理解し、表現する（DP2.3)。
・聴く（傾聴）力と話す力（プレゼンテーション）の基礎的な技術を実践できる（DP2.3.4)。
・コミュニケーションの障害となるものを理解し、問題解決スキルを向上しようとする（DP2.3.4)。
・専門職者として豊かな人間関係を周りに形成するための自己課題を検討することができる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	バーバル・ノンバーバルコミュニケーションを理解する。コミュニケーションワークの実践①	事前	図書館を活用し、コミュニケーション心理に関するレポートテーマを検討し、文献・資料を探す。(4時間)
		事後	
2	コミュニケーションとは何か、心理学的なコミュニケーションの意味や概念を理解する。	事前	レポートテーマに関する文献・資料を読む。(2時間)
		事後	コミュニケーション心理学理論を復習する。(2時間)
3	人はどのように互いのコミュニケーションを認知（理解）するのか、知覚・言語・認知の諸側面で理解する。	事前	レポートテーマを決定し、構想を練る。(3時間)
		事後	知覚・言語・認知の理論を復習する。(1時間)
4	様々な生活場面でのコミュニケーションの特徴や内容の理解を深める。コミュニケーションワークの実践②	事前	レポート制作のための文献を読む。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
5	様々な生活場面でのディスコミュニケーションの実例から、より良いコミュニケーションの方法を学ぶ。コミュニケーションワークの実践③	事前	レポート制作活動を進める。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
6	自分自身のコミュニケーションの傾向を知り、自己課題を発見する。コミュニケーションワークの実践④	事前	レポート制作活動を進める。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
7	乳幼児と親とのコミュニケーションから、人間のコミュニケーションの発達について考える。	事前	レポート制作活動を進める。(2時間)
		事後	乳幼児の言葉の発達ついて復習する。(2時間)
8	乳幼児への共感と応答、ことばの育ちを支援するための方法を学ぶ。コミュニケーションワークの実践⑤	事前	レポート制作活動を進める。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
9	対人心理について諸理論を学び、心理学的な側面でのコミュニケーションが果たす社会的な影響や課題を学ぶ。	事前	レポート制作活動を進める。(2時間)
		事後	対人心理の諸理論について復習する。(2時間)
10	コミュニケーションにおける集団心理について諸理論を学び、組織人としてのより良いコミュニケーションを学ぶ。コミュニケーションワークの実践⑥	事前	レポート制作活動を進める。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
11	幼児期の遊びが、コミュニケーション力の育ちへとつながることを理解する。コミュニケーションワークの実践⑦	事前	レポート制作活動を進める。(3時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
12	コミュニケーションの障がいについて、何が困難を生み、支援者としてどう改善できるのかを理解する。	事前	レポート制作活動を進める。(2時間)
		事後	授業で学んだ内容を復習する。(2時間)
13	様々な援助技術のワークを通して、コミュニケーションスキルの向上を図る。コミュニケーションワークの実践⑦	事前	オリジナルワークを検討する。(2時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
14	オリジナルな援助技術のワークを創作して、実践力の向上を図る。コミュニケーションワークの実践⑧	事前	オリジナルワークを創作する。(2時間)
		事後	アクティブ・ラーニングの学びをまとめる。(1時間)
15	グループ内でレポート課題の成果を報告し合う。	事前	発表レジュメを作成する。(3時間)
		事後	成果報告会の振り返りシートをまとめる。(1時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)、グループディスカッション(事例研究)、プレゼンテーション(レポート中間・成果報告会)等のアクティブ・ラーニングを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・アクティブ・ラーニングの考察及び研究発表・プレゼンテーション（30%：体験したことや調査・研究したことを言語化できているかを評価する）
・レポート（50%：レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。調査したことを論理的にまとめ、考察の根拠となる知見「人間知＝理論・知識」の理解ができているかを評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
教養としてのコミュニケーション心理学を理解している（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
コミュニケーションにかかわる調査・研究のプレゼンテーションのための資料を作成し、適切に表現できる（DP2.3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
授業での学びを専門職者としての自己課題と関連付け、考察できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料を配布する。

参考書等

・春原由紀編著・杉本太平共著『精神保健』　樹村房　2005 年
・榊原洋一著『ヒトの発達とは何か』　ちくま新書　1995 年
・リタ．L．アトキンソン他著　内田一成監訳『ヒルガードの心理学』　ブレーン出版　2002 年
・國分康孝著『カウンセリング心理学入門』　PHP 新書　2000 年
・河合隼雄著『河合隼雄のカウンセリング心理学入門』　創元社　1999 年
・社会福祉士養成講座編集委員会 編　『心理学理論と心理的支援 第 2 版』　中央法規　2011 年

履修上の注意・学習支援

・授業内容を理解するために、参考図書等での予習を必要とする（毎回の講義で範囲を指定）。
・ワーク・事例研究などの演習では積極的に意見を言うこと。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・興味・関心が持てそうな[心理学]「人間学」「保育学」などの書を図書館で探して読むこと。
・講義で学んだことを自分自身の生活と関連づけることを意識すること。
・疑問点・質問があるときは、積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp）　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
2．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）として心理職の実務
3．文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健－子どもと家族の援助のために－」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19E1201	情報処理入門Ⅰ	1年	春	演習	1	堀 圭三

授業概要

情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法, Google アプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- コミュニケーションツールとしてのコンピュータを利用の仕方を理解する。(DP2)
- 具体的には、日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定2級(タイピング、文書デザイン)、表計算検定3級程度(四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション3級程度の技術を身につけ、他者にわかりやすく提示できる技術を身につける。(DP2)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	情報モラルとグーグルワークスペース基本操作① 情報モラルやネットトラブルについて説明する。そして、本学発行のユーザアカウントを用いてコンピュータシステムにログインし、基本的な操作方法を学ぶ。	事前	自身が経験したインターネットトラブルについてまとめておく。(0.5 時間)
		事後	自宅でも、クロムブックやスマートフォンを使って、ログイン方法やメールの使い方を確認する。 インターネットトラブルを検索し、対処法を理解する。(0.5 時間)
2	グーグルワークスペースの基本操作② クラスルーム、ドライブ、meet などの利用方法を学ぶ。あわせて、スマートフォンとのリンクの方法を学ぶ。	事前	自身のパソコン環境・スマートフォン環境を確認する。とくに、ストレージの容量、使用容量、既存のアカウントを確認しておく。(0.5 時間)
		事後	ファイルの保存方法の確認、スマートフォンでのグーグルワークスペース活用法の確認。(0.5 時間)
3	グーグルワークスペースの基本操作 ドキュメント① ドキュメントの基本的機能を、文書作成を通して学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだドキュメントの基本機能を確認しておく。(0.5 時間)
4	グーグルワークスペースの基本操作 ドキュメント② 文書作成を通して、段組み。表の挿入の方法を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだ段組みや表の挿入を確認する。とくに、表の罫線、色付けができるようにしておく。(0.5 時間)
5	グーグルワークスペースの基本操作 ドキュメント③ 文書作成を通して、さまざまな表や写真、グラフの挿入の方法を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだ写真やグラフの挿入方法を確認する。とくに、さまざまなグラフが作成できるようにしておく。(0.5 時間)
6	グーグルワークスペースの基本操作 ドキュメント④ 実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	ポスター作製の課題を作成し、グーグルクラスルームにて提出する。(0.5 時間)
7	グーグルワークスペースの基本操作 スプレットシート① 表計算問題を通して、スプレッドシートの基本操作、四則計算を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだスプレットシートの四則計算を確認する。また、四則計算の関数も確認する。(0.5 時間)
8	グーグルワークスペースの基本操作 スプレットシート② 表計算問題を通して、基本関数(sum、average、min 関数)を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	スプレットシートの基本関数の使い方を確認する。(0.5 時間)

9	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート③ 表計算問題を通して、ROUND 関数の使い方を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	ROUND　関数の使い方を確認する。とくに、表示桁数について理解する。(0.5 時間)
10	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート④ 表計算問題を通して、IF 関数の使い方を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	IF 関数の使い方を理解する。とくに、IF 関数で AND 関数や OR 関数、IF 関数の使い方を理解する。(0.5 時間)
11	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート⑤ 表計算問題を通して、罫線や表示形式を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	罫線や表示形式の使い方を理解する。(0.5 時間)
12	グーグルワークスペースの基本操作　スプレットシート⑥ 実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	表計算課題を作成し、グーグルクラスルームにて提出する。(0.5 時間)
13	グーグルワークスペースの基本操作　スライド① プレゼンテーション問題を通して、文書作成を学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で学んだ基本的なスライドの使い方を確認する。(0.5 時間)
14	グーグルワークスペースの基本操作　スライド② プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	スライドの図形、写真の挿入方法を確認する。また、写真の加工方法も確認する。(0.5 時間)
15	グーグルワークスペースの基本操作　スライド③ 実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あわせてタイピングの小テストを行う。	事前	自宅で、タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	スライドの課題を作成し、グーグルクラスルームにて提出する。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし。

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験(指定した検定問題)　100%。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
他者にわかりやすく、伝わるような文書作成やスライド作成、データ活用ができる。　(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
それぞれのアプリケーションの特徴を理解し、用途に応じて使い分ける技術を身につけている。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
特になし。資料はレジュメをクラスルームに UP する。

参考書等
学研プラス編、『500 円でわかる エクセル関数 2016 (コンピュータムック 500 円シリーズ) 』、Kindle 版

履修上の注意・学習支援
授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。
授業時間外でも練習をしてほしい。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19E1202	情報処理入門Ⅱ	1 年	秋	演習	1	堀 圭三

授業概要

人と生活を理解するために、情報化社会において必須である情報リテラシーを身につけることを目的とする。インターネットの利用方法, Google アプリケーションの基本的な操作方法を学ぶ。また、情報モラルやネットトラブルについて理解する。

到達目標(学習の成果)

- 状況に応じて適切にソフトを選び、文書作成ソフトや表計算ソフトを使い、プレゼンテーションできる。(DP2)
- 具体的には、日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定初段程度（タイピング、文書デザイン)、表計算検定 2 級程度（四則計算や関数の使い方)、プレゼンテーション検定 1 級程度の技術を身につけ、他者にわかりやすく提示できる技術を身につける。(DP2)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	情報モラルとグーグルワークスペース基本操作① 情報モラルやネットトラブルについて説明する。クラスルーム、ドライブ、meet などの利用方法を学ぶ。あわせて、スマートフォンとのリンクの方法を確認する。	事前	タイピングを検索し、タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	SNS の利用について、そのメリットとデメリットを確認しておく。(0.5 時間)
2	グーグルワークスペースの操作 ドキュメント① ドキュメントの基本的機能を、文書作成を通して学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業で行った、基本的機能や応用機能について確認しておく。(0.5 時間)
3	グーグルワークスペースの操作 ドキュメント② 文書作成を通して、段組み。表の挿入の方法を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	二段組み、三段組み、縦書き、横書きの方法を確認する。また、表の応用作成を確認する。(0.5 時間)
4	グーグルワークスペースの操作 ドキュメント③ 文書作成を通して、さまざまな表や写真、グラフの挿入の方法を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	より複雑な写真やグラフの挿入方法、見栄えのするレイアウトを確認する。(0.5 時間)
5	グーグルワークスペースの操作 ドキュメント④ 実際に、課題としてポスターの作成を行う(小テスト)。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	ポスター課題を作成し(0.5 時間)、グーグルクラスルームにて提出する。(0.5 時間)
6	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート① 表計算問題を通して、スプレッドシートの基本操作、四則計算を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	基本操作、四則計算の関数を確認し、複雑な計算式が書けるようにする。(0.5 時間)
7	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート② 表計算問題を通して、基本関数(sum、average、min 関数)を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	基本関数を復習し、よりスピーディに使えるように練習する。(0.5 時間)
8	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート③ 表計算問題を通して、round 関数の使い方を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	ROUND 関数の使い方を復習し、計算式を含めた入力の仕方を練習する。(0.5 時間)
9	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート④ 表計算問題を通して、if 関数の使い方を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	IF 関数の使い方を復習し、より複雑な IF 関数式が書けるように練習する。(0.5 時間)
10	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑤	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時

	表計算問題を通して、vlookup、dsum 関数を学ぶ。		間)
		事後	VLOOKUP 関数や DSUM 関数の使い方を練習する。(0.5 時間)
11	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑥ 表計算問題を通して、その他の関数、グラフ作成などを学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	授業中に説明した、関数(DATEDIF など)の使い方やさまざまなグラフの作成方法を練習しておく。(0.5 時間)
12	グーグルワークスペースの操作 スプレットシート⑦ 実際に課題として、表計算問題を行う(小テスト)。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)(0.5 時間)
		事後	より複雑な表計算問題をスピーディに作成できるように練習する。(0.5 時間)
13	グーグルワークスペースの操作 スライド① プレゼンテーション問題を通して、スライド作成を学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	より複雑なスライド作成をスピーディに作成できるように練習する。(0.5 時間)
14	グーグルワークスペースの操作 スライド② プレゼンテーション問題を通して、図形、写真の挿入と加工などを学ぶ。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	より複雑なスライド作成をスピーディに作成できるように練習する。(0.5 時間)
15	グーグルワークスペースの操作 スライド③ 実際に課題として、プレゼンテーション問題を行う(小テスト)。あわせてタイピングの小テストを行う。	事前	タイピング練習を行い、記録をつけておく。(0.5 時間)
		事後	スライド4枚を使って、テーマに即したスライドを作成し、グーグルクラスルームにて提出する。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし。

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験(指定した検定問題) 100%。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
他者にわかりやすく、伝わるような文書作成やスライド作成、データ活用ができる。 (DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
それぞれのアプリケーションの特徴を理解し、用途に応じて使い分ける技術を身につけている。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
特になし。資料はレジュメをクラスルームに UP する。

参考書等
学研プラス編、『500 円でわかる エクセル関数 2016 (コンピュータムック 500 円シリーズ) 』、Kindle 版

履修上の注意・学習支援
授業の最初に、タイピングの練習を行う。自宅でも練習し、タイピングの速度向上を目指す。
授業時間外でも練習をしてほしい。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19E3203	子どもと自然環境	３～４年	春	講義	2	桂木　奈巳

授業概要

＜持続可能な自然環境と人間社会のあり方＞の理解をこの科目の基本目標とする。
さらに、身近な自然環境を自然生態系として捉え、そこでの生物たちの共生の姿を人間社会と対比させながら、環境共生の意義を学ぶ。これらの基本的な考えを踏まえ、子どもにふさわしい自然環境について考える。

到達目標(学習の成果)

・「地球環境問題」が自分たちの身近な生活と直結していることを理解し、自分なりに対策を考え実行できるようになる。
・身近な自然の生態系で生物たちが共生している姿（生活史）に感心を持ち、自身の生活に取り入れる工夫ができる。
・「持続可能な社会のあるべきすがた」と「その社会における自分の生き方」を関連付ける。
・子どもと共に自然の中で遊ぶ重要性を理解し、自然観察ができるようになる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	物語に見る自然観 日本と海外の物語にみられる「自然観」を学ぶ	事前	授業内で提示する書籍「狼森と笊森、盗森」を読む。(4時間)
		事後	
2	生態系における生物の共生 生態系とは何か。植物と鳥、昆虫における共生の姿を知る。	事前	授業内で提示する書籍「ギルガメシュ叙事詩」を読む。(4時間)
		事後	
3	地球の歴史 地球の誕生から人類の誕生までの過程を視覚化し、生物の中におけるヒトの位置づけを確認する。これらを踏まえ、自然との向き合い方を考察する	事前	興味を持った時代の生物についてまとめ、プレゼン資料を作成する。(4時間)
		事後	
4	身近な植物の観察と利用① 身近に育つ植物を観察し、その生活史や生育環境を学ぶ	事前	授業内で観察した植物を自宅周辺で探す。(4時間)
		事後	
5	身近な植物の観察と利用② 身近に育つ植物を観察し、生活への利用方法を学ぶ	事前	身近な植物を3種類以上探して写真を撮り、持参する。(1時間)
		事後	授業内で紹介された植物を自宅周辺で探してシートにまとめる。(3時間)
6	身近な昆虫の観察と利用① ナミテントウを観察し、生物多様性を学ぶ	事前	ナミテントウを探し、紋のタイプをシートに整理する。(2時間)
		事後	アサリの模様を調べる。(2時間)
7	身近な昆虫の観察と利用② ハチの仲間の進化、習性を通し、生き物の生存政略を学ぶ	事前	昆虫等を3種類以上さがし、写真を撮り持参する。(2時間)
		事後	授業内で得た知識を元にさがした昆虫の名前を図鑑で調べる。(2時間)
8	動物が作る機能性物質 ハチと人間の生活の関係、副産物から、自然の恩恵を考える。	事前	昆虫由来の生活用品（食品を含む）を探して使用し、その感想をまとめる。(4 時間)
		事後	
9	身近な環境の評価① 川の環境を取り上げ、環境指標生物について学ぶ。水質汚染をはじめ、環境問題について考える	事前	授業内で配布した資料「川の生態系」を読む。(2時間)
		事後	グループで協力し、身近な川の水を採取して持参する。(2時間)
10	身近な環境の評価② 環境指標生物を採取する。	事前	採取のための準備・服装を整える。(1 時間)
		事後	採取できた生物を調べ、シートにまとめる。3 時間)
11	身近な環境の評価③ 採取した生物および水から、その場の環境を評価する。	事前	自宅付近の川等の水を採取する。(0.5 時間)
		事後	水質検査キットで評価した水の汚染度から、自宅付近の川における課題を探る。(3.5 時間)
12	センスオブワンダー 「感性の森」を視聴し、「沈黙の春」と「センスオブワンダー」の世界観を学ぶ。子どもと共に自然に接する前の心構えを考え	事前	センスオブワンダーを読む。(2 時間)
		事後	授業内で配布したシートをまとめる。(2時間)

	る		
13	環境ホルモン① 環境ホルモンが動物の異常、女性のからだへの影響を起こす経過を知る。海洋・湖沼・河川・地下水の汚染、生物濃縮を学び、これらと水俣病・原発事故汚染などとの関係を理解する	事前 事後	分担した環境ホルモン物質を調べ、プレゼン資料を作成する。(4時間)
14	環境ホルモン② 環境ホルモン物質を調べ、発表する	事前	プレゼン資料を作成する。(2時間)
		事後	発表後の資料の修正をして提出する。(2時間)
15	循環型社会 自然生態系の物質循環を学び、都市における循環不全を考える。	事前	シート「循環型社会」に取り組む。(2時間)
		事後	授業で得た知識を元に「まとめ」シートを完成させる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
プレゼンテーション、自然観察

成績評価の方法・基準(%表記)
適宜行うミニレポート・コメントシート　70%
授業時の積極的発言、演習時の取り組みの様子 30%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
「地球環境問題」を理解し、その解決に向け自分なりに対策を考え実行できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
生態系における生物たちの生活史に感心を持ち、自身の生活に取り入れる工夫ができる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもと共に自然の中で遊ぶ重要性を理解し、自然観察ができる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

教科書
教員が作成したプリントを配布
参考書等
レイチェルカーソン「センスオブワンダー」、新潮社, 1996
レイチェルカーソン「沈黙の春」、新潮文庫, 1974
ベゴン・ハーパー・タウンゼント「生態学」　京都大学出版会,2003

履修上の注意・学習支援
毎回配布するプリントをファイルしておくこと。野外で講義を行う際には、活動に適する服装を整える事。アクティブラーニングにおいては積極的に参加すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19E3204	子どもと住環境	３～４年	秋	講義	2	桂木　奈巳

授業概要

住環境とは，居住する場をとりまく自然環境および社会環境であり，良好な住環境は、子どもを健全に育てていく基本となるものである。本講義では、快適な住環境について学び、子どもが安全に暮らせる住環境の具体例について学ぶ。「家」は家族が暮らす場であるため、子どものみならず障害を持つ方、高齢者が一緒に暮らすための配慮を考える。

到達目標(学習の成果)

- 住環境に関する基本的な知識を習得する（DP1)。
- ②具体的な生活の場において、子どもの健全な成長という観点から、住環境の何に着目し、どう評価し、その改善方法について自ら判断・対応できる知識を習得する（DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子どもと住まい・住環境 講義全体のオリエンテーションを行うとともに、子どもにとって住まいや住環境が持つ意味について考える	事前	子ども･家　をキーワードに興味深いと感じた動画を探す。(2時間)
		事後	授業時に配布した資料を読む。(2時間)
2	住まいの変遷 日本の住まいが、古代の竪穴住居から中世、近世、近代そして現代の高層住宅まで、どのように変遷してきたか、その概要を学ぶことにより住まいのあり方を考える	事前	授業時に紹介した資料を元に、自分の地域の家屋を観察し、シートにまとめる。(4 時間)
		事後	
3	様々な家の形態① 日本の家屋の実際を学ぶ。環境と家の構造の関連性を考える。住環境の変化の状況とこれからの変化の方向について学ぶ	事前	作品のデザインを考える。(4時間)
		事後	
4	様々な家の形態② テーマを決めて家の模型を作成する	事前	作品を完成させる。(4時間)
		事後	
5	様々な家の形態③ 家の模型を完成させる（着色・仕上げ）	事前	作品を完成させる。(4時間)
		事後	
6	快適な住環境について 自分自身が暮らす「家」を見つめなおす。快適に暮らせる条件を学ぶ。子どもの行動と住宅内の危険を探る。家庭内事故の実際を学ぶ	事前	授業内容を元に、自宅や自宅周辺の環境をチェックし、レポートにまとめる。(4時間)
		事後	
7	障害等を持つ人と共に暮らす家 障害を持つ人が快適に暮らすための間取りの工夫、福祉用具等を学ぶ	事前	商業施設数ヶ所を巡り、その場のバリアフリー　を調べてレポートにまとめる。(4時間)
		事後	
8	高齢者と共に暮らす家 様々な症例を持つ高齢者が快適に暮らすための工夫、福祉用具等について学ぶ	事前	公共施設数ヶ所を巡り、その場のバリアフリー　を調べてレポートにまとめる。(4時間)
		事後	
9	公園の環境① 市内の公園を調査し、子どもの遊びを支える公園の環境を考える	事前	自宅周辺の公園に行き、環境をマップにする。 発表用スライドを作成する。(4時間)
		事後	
10	公園の環境② 調査内容の発表	事前	スライドを完成させ、発表の練習をする。(4時間)
		事後	
11	いろいろな庭 家の庭、屋上庭園、文化財に隣接する庭園等、様々な庭と背景にある文化を読み取る	事前	自宅等の庭の平面図を作成して持参する。(4時間)
		事後	
12	ユニバーサルデザイン 生活の中でユニバーサルデザインが使われている場を調査し、その利用の実際を学ぶ	事前	街中のユニバーサルデザインを調べ、レポートにまとめる。(4時間)
		事後	
13	住宅周辺の防犯 子どもの安全確保について、住環境として犯罪に遭いにく	事前	自宅周辺の防犯マップを作成する。(4時間)
		事後	

	くするための工夫を学ぶとともに、住宅周辺の交通安全等の問題について学ぶ		
14	保育室の環境① ビデオ教材や自分自身の経験から理想とする保育室を考える	事前 事後	保育環境を調べ、理想の保育室・園庭を考える。 プレゼンテーション用資料を作成する。(4時間)
15	保育室の環境② 自分で考えた保育室を発表する	事前 事後	プレゼンの練習をする。(1 時間) 他者の「保育室」を見て比較検討し、レポートにまとめる。(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
制作活動、グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
プレゼンテーション　60%，レポート 40%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
住環境に関する基本的な知識を習得している(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの健全な成長という観点から、住環境における着目点や評価の方法、改善方法について自ら判断・対応できる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。
レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

教科書
教員が作成した資料を配布する

参考書
日本住宅会議関東会議 「キッズプレース―居ごこちよい子どもの住環境」萌文社、1990、
家具道具室内史学会「日本の住まいの歴史」ゆまに書房、2019

履修上の注意・学習支援
日ごろから「地域の環境」に目をむけて生活すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19E3205	環境と資源	3	春	講義	2	田渕 光与

授業概要

かつて人は、自然と共存し、人間が自然の恵みを受け、衣・食・住を賄ってきた。現代の社会では、生産地が見えないもので衣・食・住を賄うのは当たり前になっている。その常識からすると、野に住み、作物を荒らす生き物たちは排除の対象となり、大量生産された生活用品や衣服は用途を終えるとただの不用品となり、廃棄対象となる。

山の恵みを受けながら、山に住む生き物たちとの共存しながら、農業を行った岩手県タイマグラの暮らしを題材に、環境と資源のかかわりや人間と自然の共存について考える。

到達目標(学習の成果)

・世界規模で環境問題を捉え、自分の生活とのつながりを考え、足元から行動する具体策を実行できるようになる。(DP4)

・日本の風土に合わせた人々の生活や、言い伝えとしての自然と人とのかかわりについて造詣を深め、自然に沿った暮らしから現代の生活に活かせることを提案することができる。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	岩手県早池峰の地理的条件や気候、人々の暮らし、文化等について調べたことを発表し、学習内容へのレディネスを高める。	事前	岩手県早池峰の地勢や気候、文化、人々の暮らしについて調べシートにまとめる。(2 時間)
		事後	「遠野物語」を読み、明治初期の遠野市の人たちの暮らしについて調べる。(2 時間)
2	「遠野物語」について意見交換をし、タイマグラでの暮らしの DVD のはじめの部分を視聴し、早池峰山の気候や地勢を確認する	事前	「遠野物語」がどのような自然環境の中で伝承されてきたのかをシートにまとめる。(2 時間)
		事後	タイマグラの暮らしについて調べてみたい事柄を見つけ、地勢や自然環境などの資料を準備する。(2 時間)
3	自分の仮の課題を発表し合い、DVD の中盤を視聴し、早池峰山での暮らしについて意見交換をし、自分なりの自然との付き合い方を言語化する	事前	仮の課題を考え、アプローチ方法についてまとめる。(2 時間)
		事後	遠野物語「ざしきわらし」を読み、人々の心の中にあった畏れについて調べる。(2 時間)
4	「ざしきわらし」について自分の考えを発表し、共有する。DVD の後半を視聴し、追究課題を決定する。	事前	「ざしきわらし」の伝承の根底にある人間の感情について考えたことをまとめる。(2 時間)
		事後	タイマグラの暮らしについて印象に残ったエピソードを「環境と資源」の視点でまとめる。(2 時間)
5	タイマグラでの暮らしについて、率直な感想や、自分の体験に照らし合わせた意見などを視点に沿って、ディスカッションし、自分の追求したい課題を見出す。	事前	課題解決のために必要な資料や文献を探す。(2 時間)
		事後	課題解決に必要な書籍や情報を収集する。(2 時間)
6	自分の課題について、集めた情報をもとにレポートの規定に沿って項立てを決め、課題に対する資料の参照を行う。	事前	集めた資料や文献をもとに、問いを深め、課題の設定の視点をずらして資料や文献を集める。(2 時間)
		事後	完成に向けてレポートを執筆する(2 時間)
7	ずらして設定した課題について発表し、アプローチ法などについてディスカッションする。文章表現で学んだ技術を生かしてレポートを作成する	事前	レポートの執筆(2 時間)
		事後	レポートが規定に則っているか、推敲する。(2 時間)
8	レポートをもとに、プレゼンテーションを作成する。その際、視覚的効果と精選された台本にすることに留意しながら進める	事前	プレゼンテーション作成のためのデータを選ぶ。(2 時間)
		事後	視覚的なアプローチを生かしたプレゼンテーションを完成させる。(2 時間)
9	自分の課題追究についてプレゼンテーションする 他の人の課題追究とプレゼンテーションについてコメントし合う	事前	プレゼンテーションのナレーションを準備する。(2 時間)
		事後	他の人の課題追究とプレゼンテーションについてコメントシートを完成させる。(2 時間)
10	他の人の課題追究とプレゼンテーションについてコメントし	事前	他人のプレゼンテーションに対する質問を準備す

	合う。		る。(2 時間)
		事後	それぞれの課題追究について総括したレポートを書く。(2 時間)
11	自然と共存する早池峰山の暮らしの心底にあるものについて話合い、気付きをまとめる	事前	宮沢賢治「雪渡り」を読み、早池峰山の暮らしとの関連を見つける。(2 時間)
		事後	「人間が自然と共存していくには」についてレポートを書く。(2 時間)
12	自然と共存するために自分の暮らしを見つめ、何ができるか話し合う	事前	自分の現在の暮らしを、レポートの視点で見つめ、シートにまとめる。(2 時間)
		事後	話し合いで気づいたことについてまとめる。(2 時間)
13	持ち寄った文化や環境保全の取り組みを聞きあい、自分の身近なことや保育などに反映できることについて考える	事前	世界の潮流になっている環境保全の取り組みについて情報を集める。(2 時間)
		事後	環境保全につながる保育の活動案を作る。(2 時間)
14	環境と資源を守るために、幼児期に必要な経験についてそれぞれの保育の活動案から考える	事前	四季の、自然とかかわる保育案を作成する。(2 時間)
		事後	環境と資源を守る資質を培うために、幼児期に必要な経験を教育要領からまとめる。(2 時間)
15	14 回の学びを自分の気づきとしてまとめる	事前	まとめに使う資料や材をまとめる。(2 時間)
		事後	何ができるようになったかをレポートにまとめる。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型学習、反転授業

成績評価の方法・基準(%表記)

資料収集 40%(学びに向かう意欲) レポートの内容 30%(知識・理解、表現) プレゼンテーション 30%(知識・理解、技能・表現)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
世界規模の環境問題を捉え、自分の生活とのつながりを考え足元から行動する具体策を実行できたか (DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
日本の風土に合わせた人々の生活や、言い伝えとしての自然と人とのかかわりについて造詣を深め、自然に沿った暮らしから現代の生活に活かせることを提案することができる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価を用いる。

プレゼンテーション評価には、コモンルーブリック・プレゼンテーション評価を用いる。

授業ごとのワークシートは評価基準により評価し、コメントを付して返却する。クラスルームからの課題提出にはフィードバックを行う。

教科書　佐藤 誠輔「口語訳遠野物語」 河出文庫 2019 年

参考書等

澄川嘉彦監督 DVD「タイマグラばあちゃん」 早池峰プロダクション 2004 年

昭文社地図編集部 分県地図 「岩手県」 昭文社 2015 年

履修上の注意・学習支援

民俗学や、厳しい自然の中での農業を通して自然との付き合い方を学んでいくので、興味のある所から様々な情報を集めておくこと。

岩手県から自然との付き合い方を考えていくが、世界規模の環境問題についても情報を収集しておくこと。

提出物については、締め切りを守ること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]田渕　光与 小学校教員(18年) ・県教育委員会義務教育課幼児教育、特別支援教育、道徳担当指導主事(4年) ・幼児教育センター副主幹(9年)センター長(2年) ・小学校長(3年) ・学校法人の幼稚園長(4年) [実務経験と授業科目との関連性] ・小学校では環境教育主任として、自然に親しむプログラムを行ったり、環境教育の指導計画作成を行ったりした。 ・教育委員会では幼児が環境に親しむプログラムを作る研修を企画運営した。 ・校長や幼稚園長として、校外学習の教育的効果について校内・園内研修を主宰し、自然と親しむプログラムを作成した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19F1101	保育原理	１年	春	講義	2	市川　舞

授業概要

保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園などにおける保育の意義及び目的について理解する。現在の保育を支える保育に関する法令・制度、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育の基本について学び、その根底に流れる保育の思想と歴史的変遷等から理解を深める。さらに、今日の保育や子育てに関する現状や今後の課題について考える。

到達目標（学習の成果）

- 保育の意義及び目的について理解し、説明できる。(DP3)
- 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の位置づけおよび保育の基本について説明できる。(DP3)
- 子ども理解に基づく保育の過程について説明できる。(DP3.4)
- 保育の基本となる思想を理解し、今日の保育と関連づけて説明できる。(DP3)
- これからの保育の課題について考察できる。(DP3.4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育の意義及び目的:「保育」の意義、目的について学ぶ	事前	「子どもが育つ」とはどのようなことか書き出す(1.5時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2.5時間)
2	保育の方向性:「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ	事前	自分が受けた保育の思い出について書き出す（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
3	保育における発達観：保育実践の前提となる子ども観、発達観、子どもの発達をとらえる視点について学ぶ	事前	教科書Unit1を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
4	さまざまな保育の場と制度:保育所や幼稚園、認定こども園に関する諸法令および制度について学ぶ	事前	子どもが育つさまざまな場について調べる（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
5	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育の基本：「環境を通して行う」保育について学ぶ	事前	教科書Unit3を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する。(2時間)
6	「養護と教育の一体」とは:保育所保育の特性である「養護と教育の一体」という考え方について学ぶ	事前	教科書Unit4を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する。(2時間)
7	子どもの発達と保育内容1:乳児期の発達過程と保育内容の構造について学ぶ	事前	「保育所保育指針」第2章保育の内容「乳児保育に関わるねらい・内容」を読んでおく（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する。(2時間)
8	子どもの発達と保育内容2:1歳以上3歳未満児の発達過程と保育内容について学ぶ	事前	保育所保育指針」第２章保育の内容「１歳以上３歳未満児のねらい・内容」を読んでおく（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
9	子どもの発達と保育内容３：幼児期の発達過程と保育内容について学ぶ	事前	教科書Unit5（～ｐ50）を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
10	子ども理解と保育の計画：子ども理解に基づく保育の過程とその循環について学ぶ	事前	教科書Unit5（ｐ51～）を読む（2時間)
		事後	「子ども主体」と「保育の計画」について考察する（2時間)
11	保育の歴史と思想１ ：西洋の保育の歴史から保育の思想と意義について学ぶ	事前	教科書Unit8-9を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
12	保育の歴史と思想2:日本の保育の発展過程と保育思想について学び、「児童中心主義」について理解する	事前	教科書Unit10を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
13	保育の社会的役割と責任：さまざまな保育ニーズと子育て支援、就学前施設の社会的役割について学ぶ	事前	教科書Unit6-7を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)
14	保育者の専門性：保育者の役割と責務、倫理綱領、専門性について学ぶ	事前	教科書Unit11-12を読み、Workに取り組む（2時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間)

15	保育の現状と課題：子どもや子どもを取り巻く社会の現状から、現代の保育が抱える課題について学ぶ	事前	教科書Unit13を読み、Workに取り組む（2時間）
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する（2時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、プレゼンテーション、

成績評価の方法･基準(%表記)

・授業内課題・レポート：出題の主旨を理解して取り組んでいる。学習内容を踏まえて自分の考えを示している（50%）

・定期試験：保育に関する基本的な知識や考え方を身に付けている。保育の基本的な考え方等について、適切な用語を用いて説明できる（50%）

※レポート、プレゼンテーション、グループワークはコモンルーブリックを用いて評価する

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育の意義及び目的について理解し、説明できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の位置づけおよび保育の基本について説明できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子ども理解に基づく保育の過程について説明できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の基本となる思想を理解し、今日の保育と関連づけて説明できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
これからの保育の課題について説明できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業内課題やレポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書

佐伯一弥・金瑛珠編著、「Workで学ぶ保育原理」、わかば社、2023

参考書等

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館、2019

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 」フレーベル館、2019

文部科学省「幼稚園教育要領解説 」フレーベル館、2019

履修上の注意･学習支援

- 授業資料配布や課題等で使用するため、毎回の授業にchromebookを持参すること。
- 授業内課題の提出期限を厳守すること。
- 事前･事後課題については、シラバス記載に加え授業中、またclassroomにて詳細指示する。
- 受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。
- 質問等は毎授業時に受け付ける。その他、オフィスアワーを活用のこと。　（市川研究室　5-211）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19F2202	教育原理	2年	前期	講義	2	田上富男

授業概要

教育とは何か、学校とは何か、そしてそれらを支える理念や思想とは何かを考え、そうした理念や思想が生じた歴史的・社会的背景を学ぶ。また現場の教育を支えている制度や経営について学びつつ、この社会において教育に求められる社会的機能を理解しながら、現代社会において生じている様々な教育問題について理解を深める。

到達目標(学習の成果)

・教育に関しての原理・原則及び基本的な考えや概念を理解する。(DP3)

・教育の歴史と思想、制度及びその背景を知ると共に、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題について理解する。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	教育とは何か　教育の本質や目的、学校教育の必要性や目的・目標を理解し、変わりつつある学校について学ぶ。	事前	なぜ教育が必要か、考えをまとめておく。(1 時間)
		事後	教育の目的、学校教育の目的・目標をまとめる。(3 時間)
2	教育思想の変遷について、古代ギリシャ・ローマや中世及び近代までの代表的な教育家や教育思想について学ぶ。	事前	ソクラテス、プラトン、アリストテレスを調べる。(1.5 時間)
		事後	中世の代表的な教育家についてまとめる。(2.5 時間)
3	18・19世紀の教育思想、新教育運動と教育論及び現代の代表的な教育学者及び教育哲学者の考えについて学ぶ。	事前	新教育運動について調べておく。(2 時間)
		事後	ヘルバルトとデューイについてまとめる。(2 時間)
4	教育の社会的機能を踏まえ、その変遷と現代社会と学校の関係及び学校教育、家庭教育、社会教育の関係を学ぶ。	事前	家庭教育と社会教育について調べておく。(1.5 時間)
		事後	学校と社会の関係について整理する。(2.5 時間)
5	ドイツ、アメリカ、イギリス、フランスにおいて、近代学校教育制度が始まり、確立していった背景と歴史的経緯を学ぶ。	事前	近代学校教育制度について調べておく。(2 時間)
		事後	左4カ国の教育制度の経緯を整理する。(2 時間)
6	学制発布以降の日本の教育の歴史を学ぶと共に、戦後教育の根幹を成す学習指導要領の変遷について学ぶ。	事前	現行学習指導要領改訂の要点を調べておく。(2 時間)
		事後	学習指導要領の変遷について整理する。(2 時間)
7	教育を支える法制度、約 60 年ぶりに改正された教育基本法、法定研修や教員免許制度及びその創設の背景を学ぶ。	事前	教育基本法改正について調べておく。(1.5 時間)
		事後	教育関連法制度について整理する。中間課題レポートの作成。(2.5 時間)
8	教育という営みを支える学校と子供、家庭、社会、家族と家庭教育など、現代に至るまでの歴史について学ぶ。	事前	子供、家庭、社会の関係性をまとめておく。(1.5 時間)
		事後	家庭教育の重要性について整理する。中間課題レポートの作成。(2.5 時間)
9	教育における学校・家庭・地域の連携として、PTA、開かれた学校と学校評議員制度、学校運営協議会について学ぶ。	事前	PTA 活動について調べておく。(1.5 時間)
		事後	学校協議員制、学校運営協議会について整理する。(2.5 時間)
10	学力問題の変遷と戦後実施された全国学力テスト及び現在実施されている全国学力・学習状況調査について学ぶ。	事前	学力とは何かについて考えをまとめておく。(1 時間)
		事後	全国学テと PISA の関係性について整理する。(3 時間)
11	いじめ問題の現状と課題、いじめの深刻化といじめ定義の変遷及びいじめ防止対策推進法について学ぶ。	事前	過去のいじめ問題について考えをまとめておく。(2 時間)
		事後	いじめ防止対策推進法について整理する。(2 時間)
12	不登校の現状、不登校の歴史的経緯(学校恐怖症、登校拒否、不登校)及び学校の取組と課題について学ぶ。	事前	不登校数の推移を調べ考えをまとめておく。(2 時間)
		事後	不登校の歴史的経緯を整理する。(2 時間)
13	学校週5日制のためのスリム化問題、教師の子供と向き合う	事前	現在の働き方改革についてまとめておく。(1.5 時間)

	時間の確保、現在の教師の働き方改革について学ぶ。	事後	教師の多忙化の歴史的経緯を整理する。期末課題レポートの作成。(2.5 時間)
14	学校事故や不審者侵入、教職員の不祥事、毎年発生する自然災害への対策など、学校の危機管理について学ぶ。	事前	学校事故について調べておく。(1.5 時間)
		事後	学校の危機管理について整理する。期末課題レポートの作成。(2.5 時間)
15	変化の激しい先行き不透明な21世紀に生きる子供たちに必要な教育と学び続ける教師の重要性について学ぶ。	事前	学習指導要領が求める生きる力を調べておく(1.5 時間)
		事後	これからの教育と教師について整理する。(2.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
記載なし

成績評価の方法・基準(%表記)
期末に課す最終レポート60%、中間課題レポート　30%　　授業態度　10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・教育に関しての原理・原則及び基本的な考えや概念の理解(DP3)	十分できている。	ほぼ十分できている。	一定程度できている。	努力している。
教育の歴史と思想、制度及びその背景の理解と、近年の我が国の教育改革と教育の現代的課題についての理解	十分できている。	ほぼ十分できている。	一定程度できている。	努力している。

教科書
特になし

参考書等
　毎時間授業レジュメ配付及び参考資料配付
　深谷潤・広岡義之編著『教育の原理』ミネルヴァ書房，2021

履修上の注意・学習支援
授業中の課題には積極的に取り組み、指名されたらしっかり発言するなど、前向きな態度で受講してください。
話したいこと、何かわからないことがあったら、授業担当まで遠慮なく相談してください。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
１９８１年～２０２１年　小中学校教員、中学校長、教育委員会事務局指導主事、教育次長、教育事務所長、教育長

［実務経験と授業科目との関連性］
教員・校長としての学校現場での体験や教育行政機関での経験から身につけた、教育の本質的な意味や考え方は、本科目の授業内容と関連性が非常に高い。それらを生かし、現在の教育の実情を踏まえた講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19F2203	保育者論	2 年	秋	講義	2	高柳恭子

授業概要

乳幼児教育を担当する保育者には、乳幼児の教育・保育にかかわる基本的な知識や理解、技術を身に付けることが必要である。また、子どもの傍らにいて、その心の揺れを感じながら応答的にかかわるみずみずしい感性が求められる。保育者の役割、仕事の内容、保育者の責任・倫理観、求められる知識と技術、専門性等について学ぶ。子どもを取り巻く今日の社会状況から、これからの時代に求められる保育者像について、多角度から考えていく。

到達目標（学習の成果）

- 保育者の役割と責任・倫理について理解する（DP3）。
- 保育者として働くことができる場、免許や資格について、制度的な位置づけを理解する（DP3）。
- 保育者の専門性と専門職としての職務内容について理解する（DP2）。
- 保育者が日々幼児と生活を共にし、発見や喜びを分かち合い、成長を見守り、必要な時に援助する存在であることを認識する（DP1）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「保育者になる」ということ 保育者を目指したきっかけは？保育者に求められる基本的な資質や専門性とは？保育者に求められる「自ら学ぶ姿勢」とは？など本科目を学ぶ意義を知り、自身の課題を持つ。	事前	教科書第 1 章を読む。(2 時間)
		事後	「なりたい保育者像」を明確にする。(2 時間)
2	保育の基本と求められる保育者像 「保育の基本」に立ち戻り、乳幼児の教育・保育における不易と流行の視点から乳幼児の教育・保育の機能と求められる保育者の役割について考える。	事前	教科書第３章―第 1 節、2 節を読む。(2 時間)
		事後	「求められる保育者像」を明確にする。(2 時間)
3	保育者の専門性 幼稚園や認定こども園、保育所をめぐる社会状況の変化と現代的課題を把握し、それに対応する保育者の専門性や職務内容について考える。	事前	教科書第 3 章―第 3 節、4 節を読む。(1 時間)
		事後	実際に行われている園内研修、園外研修について事例を調べる。（3 時間）
4	法令から見た保育者 幼稚園教諭、保育教諭、保育士の免許・資格等について、法令に基づいた知識を理解し、専門職としての役割・責務を考える。	事前	教科書第 2 章―第 1 節を読む。(1 時間)
		事後	ワークシート（保育者の働く場）を作成する（3 時間）。
5	認定こども園と保育者仕事 幼保連携認定こども園の概要や設置基準、保育教諭の一日の仕事や職務内容について理解する。	事前	配布資料を読んでおく。(2 時間)
		事後	ワークシート（各施設の特徴）を作成する。(2 時間)
6	保育所と保育者の仕事 保育所の概要や設置基準、保育士の一日の仕事や職務内容について理解する。	事前	配布資料を読んでおく。(2 時間)
		事後	ワークシート（各施設の特徴）を作成する。(2 時間)
7	児童福祉施設と保育者の仕事 様々な児童保育施設の概要について理解するとともに、各保育施設と特徴や相違点について理解を深める。	事前	配布資料を参照し、保育士資格で働ける様々な施設を調べる。(2 時間)
		事後	ワークシートを作成する。(2 時間)

8	クラス担任の仕事と園組織の一員としての仕事 クラス担任の役割と仕事について理解を深め、園全体で保育者同士が協力して保育に当たる体制（保育者の協働と連携）とその意義について理解する。	事前	配布資料を読んでおく。(1 時間)
		事後	実習や保育のボランティアで見てきたさまざまなティーム保育について、役割分担や留意事項についてまとめる。(3 時間)
9	保育の中での協働の必要性と実際 保育者同士、保護者、専門機関、小学校、地域等との様々な連携、接続、協働の実際を知り、そこにかかわる保育者の在り方について考える。	事前	教科書第 3 章―第 4 節を読む。(1 時間)
		事後	小学校との連携・接続の方法をグループで話し合い多様な連携・接続について考える。(3 時間)
10	子育て支援に求められる保育者の専門性 各保育・幼児教育施設における「子育て支援」の必要性や意義について理解を深めるとともに、それに求められる保育者としての専門性や課題について明らかにする。	事前	居住する地域（行政）や各園での子育て支援プログラムを調べる。(3 時間)
		事後	友達の調べたものと情報を共有し、地域ごとの特徴を考える（1 時間）
11	教職の研修 幼稚園教諭・保育士・保育教諭には職務内容に応じた専門性の向上を図るためのキャリアステージに応じた研修の必要性や具体的方法について考える。	事前	居住する地域（行政）や研究団体の現職研修プログラムの実際を調べる。(3 時間)
		事後	友達が調べたものと情報を共有し、研修の必要性についてまとめる。(1 時間)
12	日本における幼稚園・保育所の始まりと保育者の位置づけ 日本の保育・幼児教育者の実践から、保育者の役割の変遷や求められる保育の内実について考える。	事前	教科書第 2 章―第 2 節を読む。（２時間）
		事後	新たに生じた疑問について調べる。（２時間）
13	世界の保育と保育者の資格・研修 海外の保育・幼児教育の実践から、現代の保育・教育の専門職を志す学生が継承すべき理論や実践について考える。	事前	教科書第 2 章―第 3 節を読む（2 時間）
		事後	教科書に掲載された国以外の保育事情について調べる。(2 時間)
14	保育の魅力と保育者のやりがい 保育者に関する現状と課題を把握し、保育者としての成長、人間としての成長について考える。	事前	表題について、先輩保育者の実際の声を集める（3 時間）
		事後	情報を共有し、保育者のやりがいについて自分の考えをまとめる（1 時間）
15	保育者としての専門的成長 自らの保育者としての資質能力を高めていこうとする「学び続ける保育者像」の確立に向けて、現段階での自己の保育者像を確立する。	事前	これまでの資料をまとめ、「めざす保育者像」を明らかにする。(2 時間)
		事後	目指す保育者像に向けてライフプラングリッドを作成する。(2 時間)
授業形式（アクティブラーニングの内容） グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施する。			

成績評価の方法（%表記）

・授業時の課題(コメントシート)提出　30%

・調べ学習とその発表　40%

・期末試験（またはレポート）30%

成績評価の基準

・プレゼンテーションとレポートの評価は、共通ルーブリックを使用する。

① 課題について、自分の考えが論理的に述べられているか

② 適切な文献や資料で調べてわかるように整理さているか

③ 学習の到達目標の理解ができているか、などを基準に行う。

観点	S	A	B	C
保育職の専門性や専門職としての職務内容を理解し、自分なりのめざす保育者像を描く(DP1.2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育職の制度的位置づけについて理解し、責任感や倫理感、使命感をもって臨む姿勢の必要性に気づく(DP2.3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

学生へのフィードバック

・毎時のコメントシートに質問・疑問の欄を設け、次回の授業に活かす

・毎時のコメントシートについて、具体的なコメントを提示し返却する

・課題やレポートについて、よく理解できているものを紹介し、各自の学習目標レベルを上げるようにする

教科書

「子どもの未来を拓く　保育者論」名須川知子編著　青鞜社　2024

参考書

中村悦子　「保育者は語る」～栃木の保育文化を拓く試み～　随想舎　2014
秋田喜代美著「保育の心もち」　ひかりのくに　2009
秋田喜代美著「続　保育のみらい」　ひかりのくに　2015
伊瀬玲奈編著「『あたりまえ』を見直したら保育はもっとよくなる」　学研　2018
津守　真著「保育の一日とその周辺」　フレーベル館　2000
鯨岡　峻「＜育てられるもの＞から＜育てる者＞へ」　日本放送出版協会　2002
倉橋惣三著「育ての心　上巻・下巻」　フレーベル館

履修上の注意・学習支援

・毎回次の授業のテーマを確認する。必ず事前学習をして授業に臨むこと。
・毎回の授業時のコメントシートを必ず提出すること。
・この授業で扱う情報は日々更新されるので、「自ら調べる」習慣を付けること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1. 幼稚園教諭として 25 年間、幼稚園副園長として 13 年間勤務し、保育全般、保護者への対応、地域との連携・交流活動、地域の子育て支援、地域の幼稚園教員の研修の場の提供等の実務を経験してきた。
2. 栃木県幼稚園連合会の理事や研究委員として、教員のキャリアアップのための研修の企画及び、その講師等を務めた。

[実務経験と授業科目との関連性]

3. 幼稚園での実務経験は、本科目分野（保育方法論・保育者論・保育内容基礎演習等）との関連性は極めて高く、子どもの実態や環境構成、具体的なかかわり方等について具体的な内容の講義が実施できる。
4. 栃木県幼稚園連合会での経験は、県内幼稚園の実情を熟知することとなり、教育実習指導においては学生と各園とのパイプ役となり実習をコーディネートすることが可能である。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19F3204	教育制度	３年	春	講義	２	寺内孝夫

授業概要

教育制度とは、教育上の様々な目的を達成するための機能を持つものとして広く社会的に公認された組織をいう。授業では、教育制度の意義・基本原則・法制度を理解することから始まり、わが国の学校教育制度、教職員制度、教育行政制度、社会教育制度等の概要と課題を把握することをねらいとする。

このことにより、幼稚園、認定こども園に勤務する教員として必要な教育制度に関する基礎概念を身につけることを目標とする。また、保育所、児童福祉施設等で保育に携わる専門家として必要な教育制度についての基本的概念を理解し、学校教育・社会教育との連携に関する理解及び学校安全に関する対応能力を育成する。

到達目標

・公教育の原理及び理念を理解している（DP1）。
・公教育制度を構成している教育関係法規を理解している（DP1）。
・教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している（DP1）。
・学校教育制度、教職員制度、教育行政制度、社会教育制度等の教育制度をめぐる諸課題について理解、例示することができ、解決に向けた対応策を考察することができる（DP3）。
・学社連携による学校教育活動の意義及び方法を理解している（DP1）。
・危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している（DP1）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	教育制度の意義：現行の学校体系を素材として、私教育と公教育との関係、学校教育と生涯学習との関係を体系的に理解する。	事前	学習内容をシラバスに目を通して確認しておく(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
2	教育制度の基本原理：教育制度の法律的な背景となる「憲法」を学習し、その教育条項、教育権と学習権、就学機会と就学義務等の意義と課題を考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
3	教育基本法の理念：現行教育基本法の基本的な考え方について、その特徴を理解する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
4	乳幼児期の保育・教育制度：保育制度の歴史、保育施設の目的と内容、幼保一元化と保育制度の課題等を理解するとともに、乳幼児期の保育・教育制度のあり方を考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
5	学校教育制度１　初等教育制度：初等教育制度に関する基本的な事項の理解を深めるとともに、近年進められている初等教育改革の方向性について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
6	学校教育制度２　中等教育制度：中等教育制度に関する基本的な事項の理解を深めるとともに、近年進められている中等教育改革の方向性について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
7	学校教育制度３　高等教育制度：高等教育制度に関する基本的な事項の理解を深めるとともに、近年進められている高等教育改革の方向性について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
8	学校教育制度４　私学教育：私学教育の現状と課題について、本学の歴史と教育理念を素材に学び、私学の果たしてきた歴史的、社会的役割について理解を深める。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
9	学校教育制度５　特別支援教育：特別支援教育の歴史、特別支援教育の理念、就学指導について、基本的な事項の理解を深める。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
10	教職員制度：幼・小・中・高における教職員の種類、教員の資格・養成・任用・研修、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性など、勤務上の課題について考察し、基本的事項の理解を深める。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)

11	教育行政制度１　役割と機構：文教政策と施策、文部科学省と教育委員会の役割と機構について学び、学校現場との関連について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
12	教育行政制度２　教育委員会制度：教育行政の地方分権化、合議制の執行機関、制度をめぐる最近の議論等を学び、基本的な事項についての理解を深める。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
13	教育課程行政：小・中・高校におけるカリキュラム行政について基本的な事項を理解するとともに、幼児教育との関連について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
14	生涯学習社会と社会教育行政：生涯学習社会の実現を目指す社会教育行政の概要について、学社連携・開かれた学校づくりなどの基本的な事項を理解するとともに、幼児教育の重要性について考察する。	事前	次時の予習となる「ワークシート」の記入(2時間)
		事後	特に、キーワードや専門用語については、参考文献やネット情報等を活用し、確認しておくこと(2時間)
15	教育制度に関する学修のまとめ：教育制度全般に関する学修を総括するとともに、それぞれの制度の理念、目的、改革の方向性について、自らの体験や学修の成果を踏まえて各自の意見を的確に表明できるようにする。	事前	「授業アンケート」の記入(2時間)
		事後	期末試験に向けて、講義レジュメ等資料の整理・確認をしておくこと(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

〇グループディスカッション　～　ワークシートの記述内容や新聞記事など資料をもとに、意見交換や協議を行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

①　期末試験　７０％　　②授業への取り組み（ワークシートの内容等）　　３０％　により総合的に評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
公教育の原理や理念、教育関係法規を理解している（DP1）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している（DP1）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
教育制度をめぐる諸課題について、対応策を考察することができる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

＊提出されたワークシートは次の授業で取り上げ、コメントすることでフィードバックする。

教科書

特になし。必要に応じて「ワークシート」（原則毎回）や資料を配付する。

参考書等

勝野　正章、窪田　眞二他　2024『教育小六法』学陽書房

高見 茂 、若井彌一 他　2024『必携教職六法』協同出版

解説教育六法編修委員会　2021『解説教育六法』三省堂

など手元に一冊あると便利。授業中にも資料を配付する。

履修上の注意・学習支援

1　出席確認と資料の配付及び回収をスムーズに行うため、指定された箇所に着席すること（学籍番号順）。

2　授業中は講義内容を必ずノートにとること。

3　他の学生の学習を妨げるような授業態度は一切しないこと。特に、私語は厳に慎むこと。

4　疑問や不明な点があった場合は、担当教員まで早めに相談に来ること。

5　日々の新聞等（特に教育関係記事）に目を通すこと。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ① 公立高校の教諭・管理職（校長・教頭）としての勤務経験 ② 栃木県教育委員会事務局での教育行政経験 ③ 栃木県総合教育センター教育研修専門員としての指導経験（新採教員研修から校長・教頭研修まで） ［実務経験と授業科目との関連性］ ① 学校教育制度について、特に中等教育制度（高校教育）の指導に当たり、学校現場での実務経験が活かされている。 ② 教育行政での勤務経験が、教職員制度、教育行政制度、教育委員会制度、社会教育制度等について、より具体的・実践的に学べるという点で活かされている。 ③ 教育現場の諸課題、危機管理や学校安全についての学びに、管理職(校長)及び教員研修指導者としての指導経験が活かされている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G1101	発達心理学	1 年	秋	講義	2	松岡　展世

授業概要

人間の発達について、特に乳児期から幼児期を中心に、その作用と仕組みを理解する。発達における乳幼児期の重要性に気づき、それらの知識を、生涯発達を見通した全体的で連続性のある知識へと深め、生涯発達がどのようにして遂げられていくかを考える。これらを通して、子どもとかかわる者に必要な「子どもを捉える力」「親を捉える力」「自分を捉える力」「それぞれの関係性を捉える力」の基礎を身につけられるようにする。

到達目標(学習の成果)

・子どもの発達にかかわる心理学の基礎や保育実践にかかわる心理学の基礎知識を習得し説明できる（DP3)。
・発達心理学の知識をもとに、子どもの育ちや保育との関連を考え、考察を書き示すことができる（DP3)。
・発達心理学の研究領域に触れ、発達障害も含めたさまざまな領域における現状や新たな展開、実践への関心や問題意識を示し発言することができる（DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子どもの発達の理解とその意義：発達観、子どもの発達を理解することの意義を学び、発達を見る目を養う。	事前	“子どもの発達”という言葉から連想する言葉を10個書き出し、発達のイメージを言語化する（1 時間)。
		事後	子どもの発達を理解することの意義をまとめる(3 時間)。
2	子どもの発達と環境:子どもを取り巻く環境と発達について学び、保育実践と発達を捉える視点を養う。	事前	発達に影響を及ぼす環境因として何があるのか考え、まとめる(1 時間)。
		事後	発達と環境についてまとめる(3 時間)。
3	発達観、子ども観と保育観:自らの価値観を自覚し、子どもと関わる上での価値観の多様性や課題について考える。	事前	“子ども”から連想する言葉や文章を 10 個書き出し、自身の子どもイメージを言語化する(1 時間)。
		事後	子ども観の歴史と多様性について整理する。
4	乳幼児期の発達：母子の出会いの時期の大切さを知り、乳幼児期の発達について理解する。	事前	赤ちゃんと親のやりとりがみられる動画を3つ以上探して視聴する(1 時間)。
		事後	代表的な発達理論について整理する(3 時間)。
5	社会情動的発達①情緒の発達と自我:乳児期からの感情発達と感情調整について学ぶ。	事前	気持ちの言葉を思いつくだけ書き出し、それらの単語の共通項や特徴をまとめる(1 時間)。
		事後	自己と感情について学びを整理する。(3 時間)
6	社会情動的発達②自己主張と自己抑制:子どもたちが他者とどのように関わり、自分や他者の理解をどのように深めていくのか学ぶ。	事前	自分の一番古い記憶のエピソードを書き出す(1 時間)。
		事後	他者理解についての学びを整理する（3 時間)。
7	社会情動的発達③愛着の形成と社会的相互作用:愛着の発達を学び、その育ちを支える関わりについて考える。	事前	自分が安心できる人を思い浮かべ、連想される言葉を 10 個書き出し、共通する要因をまとめる(1 時間)。
		事後	他者とのかかわりの発達の経緯と支援についてまとめる（3 時間)。
8	身体的機能と運動機能の発達:乳幼児期の身体と運動の基本的な発達を学び、保育者のかかわりを考える。	事前	0 歳、1 歳、2 歳の子どもの動画を各 2 本以上探して視聴する(1 時間)。
		事後	身体と運動発達について整理する(3 時間)。
9	認知と言語の発達①知覚と認知:乳幼児期の知覚と認知の発達を理解する。	事前	自分の五感それぞれにとって心地よい刺激を各感覚器官につき3つ以上書き出す。(1 時間)。
		事後	乳幼児期の知覚と認知の特徴を整理する(3 時間)。
10	認知と言語の発達②言葉の発達:乳幼児期の言葉に関する発達を学ぶ。	事前	3～6 歳の子どもの会話の様子をおさめた動画を探して視聴する(1 時間)。
		事後	言葉の発達について学びを整理する（3 時間)。
11	基本的生活習慣の獲得と発達：乳幼児の	事前	教科書第 11 章について読んでおく(1 時間)。
		事後	言葉と文字の発達について整理する(3 時間)。
12	乳児期の学びにかかわる理論：「学び」に関わる様々な心	事前	ピアジェとエリクソンについて調べ、わからない用語

	理学的理論を学び、子どもの学びの場面を深く理解する。		を確認する(1 時間)。
		事後	学習理論について整理し、まとめる(3 時間)。
13	乳児期の学びの過程と特性:遊びを通した学びの重要性と保育者の関わりについて学ぶ。	事前	自分が子どもの頃に夢中になった遊びを書き出す(1 時間)。
		事後	遊びを通した子どもの学びについて整理する(3 時間)
14	乳児期の学びを支える保育:子どもたちの主体的な学びを支える視点や発達援助について学ぶ。	事前	子どもの頃に嬉しかった関わりとイヤだった関わりを書き出す(1 時間)。
		事後	主体的な学びを支える関わりについて整理する（3 時間)。
15	乳幼児期の学びを支える保育：学びを支える保育について、理論的観点と実践を双方向に結びつけるとはどういうことなのかを学ぶ。	事前	1～14 までを振り返り、まとめと質問を書き記す。
		事後	学びを支える保育の要点を整理する。試験に備え全体を総復習し疑問は解決しておく（3 時間）。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、ペアシェア、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業後の復習課題：授業に関する理解と自身の学び、気づきが述べられていること（30%）
・受講態度：授業時の積極的発言、演習時の取り組みの様子を評価する（20%）
・試験の評価：授業内容を理解し適切な解答の選択および的確な記述ができる（50%）
＊課題に対しては、次回の授業内でフィードバックを行い、適宜補足説明を加える。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの発達や保育実践にかかわる心理学の基礎知識を習得し説明できる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
発達心理学の知識をもとに、子どもの育ちや保育との関連を考え考察を記述できる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児期の発達や発達障害も含めたさまざまな領域における現状や新たな展開、実践への関心や問題意識を示し発言できる（DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
使用しない
その他、毎回内容に合わせて理解を深めるための脅威因作成資料を配布する。適宜映像資料・スライド資料を視聴する。

参考書等
井戸ゆかり編著　「保育の心理学　実践につなげる、子どもの発達理解」萌文書林　2019 年
文部科学省・厚生労働省・内閣府　「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉（平成 29 年告示）　2017 年
河原紀子 監修・執筆「0 歳～6 歳子どもの発達と保育の本」学研教育出版　2022 年
青木紀久代 他編「実践・発達心理学ワークブック」(株)みらい　2019 年

履修上の注意・学習支援
履修にあたって個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。
授業内で、質問を随時受け付ける。積極的に質問し、できる限りその場で解決すること。
講義と自分の体験したこと・見聞きしたことと照らし合わせながら学び、好奇心や違和感が生じたらそれを言葉にして、主体的に学ぶことを期待する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・東京都世田谷区教育委員会の教育相談室にて（10 年）
　幼児期から中学生までの子どものプレイセラピーや発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談
・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14 年）
　1 歳 6 か月健診、3 歳児健診、5 歳児健診および子育て教室（心理相談）、保健師・保育士へのコンサルテーション等
・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5 年）
　児童生徒および保護者の相談、教員コンサルテーション、心理アセスメント等
・栃木県公立小学校でのブレインジム事業
　クラス単位での授業参観及びブレインジム®を用いた授業実施、教員へのコンサルテーション

[実務経験と授業科目との関連性]
・臨床心理士として心理臨床の現場で、乳児期から中学生まで幅広い子どもに対しての発達援助に関わり、親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。保護者および保育者・教育者への支援等の経験を踏まえ、乳幼児期からの子どもの発達上の諸問題とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行っている。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19G2202	子ども家庭支援の心理学	２年	秋	講義	2	杉本太平

授業概要

本講義では、人の生涯発達における心理学の基礎的な知識から、乳幼児期の経験の重要性を理解し、保育の場において具体的に支援する視点を学ぶ。また、子どもの成長・発達を共通の基盤として、その家族・家庭にも適切な支援が可能となるために、子どもの発達や親子関係、家族関係の状況を包括的にアセスメントできるための基礎を修得する。

到達目標(学習の成果)

・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し初期経験の重要性 、各時期の移行、発達課題等の学びをまとめることができる（DP3.4)。
・子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について整理することができる（DP3.4)。
・子どもの精神保健とその課題について理解している（DP3.4)。
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点が得られている（DP3.4)。
・行為法（心理劇・サイコドラマ）を用いた実践学習によってアセスメントと支援の実際を検討できる（DP2.3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	生涯発達に関する基本的な心理学の概念や子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を学ぶ。	事前	子育て支援に関する学びを復習する。(2 時間)
		事後	授業で学んだ社会状況と課題を復習する。(2 時間)
2	生涯発達の観点から乳幼児期を捉え、初期経験の大切さと発達課題について理解する。	事前	基本的信頼感の形成について調べる。(2 時間)
		事後	感覚運動的知能について復習する。(2 時間)
3	乳幼児期のアタッチメントの形成とこころの自律について理解し、家族や家庭への保育者としての支援を学ぶ。	事前	乳幼児の愛着の形成について調べる。(2 時間)
		事後	愛着的行動・前操作的知能を復習する。(2 時間)
4	乳幼児期の遊びを通した、自己の形成と社会性の育ちについて理解し、保育者としての支援を学ぶ。	事前	ウィニコットの移行対象について調べる。(2 時間)
		事後	遊びの意義と対象恒常性を復習する。(2 時間)
5	生涯発達の観点から学童期を捉え、幼児期からの移行と思春期前期の諸課題と支援について考える。	事前	幼児期の「自己中心性」について調べる(2 時間)。
		事後	マズローの欲求段階説について復習する。(2 時間)
6	学童期に起こりうる精神保健の問題や様々な危機状況とその支援について、事例を通して学ぶ。	事前	学童期の精神保健の問題を調べる。(2 時間)
		事後	授業で学んだ支援方法を復習する。(2 時間)
7	学生による自主学習課題として、グループによる子ども家庭支援に関するテーマを検討し、問題を整理する。	事前	事例研究のためのテーマを検討する。(2 時間)
		事後	事例研究のための文献調査を行う。(2 時間)
8	生涯発達の観点から思春期・青年期を捉え、アイデンティティの確立と思春期・青年期の諸課題と支援を考える。	事前	レポート制作のための文献を読む。(3 時間)
		事後	アイデンティティの確立ついて復習する。(1 時間)
9	思春期・青年期に起こりうる精神保健の問題や様々な危機状況とその支援について、事例を通して学ぶ。	事前	レポート制作のための文献調査をまとめる。(3 時間)
		事後	事例研究について考察をまとめる。(1 時間)
10	グループで設定した子ども家庭支援に関するテーマについて、具体的な事例としてまとめ、支援課題を整理する。	事前	レポートを完成させる。(2 時間)
		事後	事例研究のシナリオを検討する。(2 時間)
11	生涯発達の観点から成人期・老年期を捉え、キャリア形成の問題やエイジズムなどの基本的問題を理解する。	事前	事例研究のための支援内容を検討する。(2 時間)
		事後	成人期・老年期の問題を復習する。(2 時間)
12	子ども家庭支援に関する家族問題事例を行為法用いて実践・検討し、援助技術の習得を図る。グループワーク①	事前	事例研究のためのリハーサルを行う。(2 時間)
		事後	事例研究からの学びを考察する。(2 時間)
13	子ども家庭支援に関する保育事例を行為法用いて実践・検討し、援助技術の習得を図る。グループワーク②	事前	事例研究のためのリハーサルを行う。(2 時間)
		事後	事例研究からの学びを考察する。(2 時間)
14	子ども家庭支援に関する子育て支援事例を行為法用いて実践・検討し、援助技術の習得を図る。グループワーク③	事前	事例研究のためのリハーサルを行う。(2 時間)
		事後	事例研究からの学びを考察する。(2 時間)
15	授業の振り返りとグループ内で事例研究の成果をまとめる。	事前	事例研究のまとめレポートを作成する。(2 時間)
		事後	授業の振り返りと今後の課題を整理する。(2 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)を用いた事例研究を行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・事例研究・課題の提出（50%：子ども家庭支援における学生自身が共同で行う事例研究を実施するために、最低限2冊以上の文献研究を課す。また、ミニレポートやシナリオ、事例研究のまとめなどの課題から内容を評価する）
・期末テスト（30%：授業内容の理解度を評価するための論述形式のまとめテストを行う）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、まとめることができる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの精神保健とその課題について理解し、具体的な支援を検討できる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもとその家庭を包括的に捉えアセスメントし、支援方法を検討できる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書
・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料（子ども家庭支援の心理学・アセスメント事例）を配布する。

参考書等
・春原由紀編・杉本太平他著　『精神保健』　樹村房　2005年
・小田豊・菅野信夫・中橋美穂 編著 『保育臨床相談』　北大路書房　2009年
・吉田圭吾 著『教師のための教育相談の技術』　金子書房　2007年
・氏原寛・東山紘久編著『幼児保育とカウンセリングマインド』ミネルヴァ書房　2000年

履修上の注意・学習支援
・授業内容を理解するために、参考書等での予習を必要とする（毎回の講義で範囲を指定）。
・事例研究課題を授業内で完成・提出するために、事例を熟読する（毎回の講義で範囲を指定）。
・事例研究のグループワークでは自分の意見を積極的に発言し、課題は期限内に提出すること。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・授業を欠席した場合は必ず個人的に担当教員まで配布資料を取りに来て、自己学習を行うこと。
・子ども家庭支援の実際における学生自身が共同で行う事例研究の際には、グループ内での協働作業が円滑に進められるように努力し、教員にも適宜アドバイスを求めること。
・授業で解決できなかった疑問点・質問があるときは積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp）　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991年4月～19998年9月）として心理職の実務
2．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997年4月～2020年3月）として心理職の実務
3．文教大学心理劇研究会主宰（1990年4月～2012年3月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010年4月～2019年12月）、人間関係・HRST研究会主宰（2020年1月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健－子どもと家族の援助のために－」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員名
19G2203	子ども理解の方法と評価	2年	春	講義	2	市川舞 高柳恭子

授業概要

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活及び遊びの実態に即して、幼児の発達及び学び、ならびにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができるようになる。

到達目標（学習の成果）

- 幼児理解の意義や、幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解し、説明できる。(DP3)
- 幼児理解を深めるための教師の基本的な態度について説明できる。(DP3)
- 観察や記録の目的や意義、目的に応じた観察法などさまざまな幼児理解の方法を理解し、記述できる。(DP4)
- 個と集団の関係をとらえる意義や方法を理解し、考察できる(DP4)
- 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から考察することができる。(DP4)
- 保護者の心情に応じた基礎的な対応の方法を提示できる。(DP4)

授　業　計　画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	幼児理解の意義:幼児の遊び及び生活の実態に即した幼児理解の意義を理解する。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」 P1-10、「幼児理解に基づいた評価」P1-8 を読む。(2 時間)
		事後	保育における幼児理解の意義について整理する。(2 時間)
2	日々の保育と幼児理解:日々の保育実践は幼児理解が基本となることを具体的な実践例を基に理解する。(市川)	事前	教科書「幼児理解に基づいた評価」P14-27、「幼児理解の理論と方法」 P10-18 を読む。(2 時間)
		事後	事例をもとに幼児理解と保育者の援助、幼児の発達する姿をとらえる。(2 時間)
3	幼児を取り巻く環境と幼児理解:家庭、幼稚園、地域等の幼児を取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解する。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P31-43 を読む。(2 時間)
		事後	事例から、多面的な子どもの姿の理解を試みる。(2 時間)
4	幼児理解と教師の姿勢:幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度と「カウンセリングマインド」について理解する。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P56-P65、「幼児理解に基づいた評価」P30-37 を読む。(2 時間)
		事後	幼児理解を深める教師の基本姿勢について整理する。(2 時間)
5	遊びと幼児理解:幼児が遊びに取り組む姿から発達や学びを捉える幼児理解の意義と方法について理解する。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P44-P55、「幼児理解に基づいた評価」P64－P70を読む。(2 時間)
		事後	事例をもとに幼児の発達や学びの捉え方を整理する。(2 時間)
6	幼児理解の方法(1):幼児理解の目的に応じて様々な方法があることを理解する。情報機器を活用した効果的な記録や工夫について学ぶ。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P82-93、「幼児理解に基づいた評価」P44-51 を読む。(2 時間)
		事後	具体的な事例から記録を作成してみる。(2 時間)
7	幼児理解の方法(2):実際の保育場面を観察・記録し、整理し、分析、考察したものをグループ協議することを通して多面的な理解の実際を体験する。(高柳)	事前	「幼児理解に基づいた評価」のP51～P55を読んでおく。(2時間)
		事後	友達の捉えから、視点を変えた理解をしてみる。(2 時間)
8	幼児理解の方法(3):指導計画や教師の援助等と関連させて評価を実施し、指導と評価の一体化について具体的に理解する。(高柳)	事前	「幼児理解に基づいた評価」の P67,P109 を読んでおく。(2 時間)
		事後	保育者の具体的な援助から保育者の意図を探ろう。(2 時

			間）
9	幼児理解の方法(4):幼児のけんかやつまずきの具体的な場面を基に、幼児の内面をとらえる視点について体験的に理解する。(高柳)	事前	「幼児理解に基づいた評価」の P38～P51 を読んでおく。(2 時間)
		事後	提示された事例を時間の推移の中で理解してみよう。(2 時間)
10	幼児理解の方法(5):個と集団の関係性を捉える意義を理解し、個の理解から集団の理解へ、集団の理解を通して個の理解を深める方法について具体的に理解する。(高柳)	事前	「幼児理解に基づいた評価」の P24 を読んでおく。(2 時間)
		事後	提示された事例を他との関係の中で理解してみよう。(2 時間)
11	保育における評価と小学校の評価:様々な「評価」について理解し、小学校教育と異なる幼児期の教育の理解を深める。(高柳)	事前	「幼児理解に基づく評価」の P71～P80 を読んでおく。(2 時間)
		事後	「幼児理解に基づく評価」P9～P13を読み、「保育における評価」をよく理解する。(2 時間)
12	幼児指導要録の意義:幼稚園幼児指導要録の役割を理解し、指導をつなぐ意味合いから記載される内容について考える。(高柳)	事前	「幼児理解に基づく評価」の P81～P87 を読んでおく。(2 時間)
		事後	事例から 4 歳児の成長、5歳児の成長をとらえてみる。(2 時間)
13	日々の記録と幼児指導要録:日々の記録を活用し幼児指導要録に生かすための方法を具体的な事例を通して考える。(高柳)	事前	「幼児理解に基づく評価」の P118～P138 を読んでおく。(2 時間)
		事後	12回の事例をもとに指導要録を作成する。(2 時間)
14	家庭との連携と幼児理解:保護者の子育てへの不安や葛藤等を受け止め、理解し、対応する方法を具体的な事例を通して考える。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P152-155、「幼児理解に基づいた評価」P70 を読む。(1 時間)
		事後	事例をもとに保護者宛を想定した「おたより」をかく。(3 時間)
15	地域との連携と幼児理解:幼児の生活や遊びにかかわる専門機関等との連携の意義や園内の協力体制について具体的な事例を通して考える。(市川)	事前	教科書「幼児理解の理論と方法」P156-164 を読む。(1 時間)
		事後	地域連携における保育者の役割について考察する。(3 時間)

授業形態（アクティブラーニングの方法）

グループワーク，グループディスカッション

成績評価方法（%表記）

定期試験　50%

授業時の提出課題（ワークシート、小レポートなど）50%

・授業で学習した内容を理解しているか

・授業で学んだ内容を活かして自分の考えを明確にしているか

※レポートはコモンルーブリックを用いて評価する

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子ども理解に関する基本的知識を身に付け、説明できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
具体的場面から子どもを理解し、個の子ども理解、集団としての子ども理解について適切な語句を用いて記述できる（DP４）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業内課題やレポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、受講者で共有する。

教科書

文部科学省　　「幼児理解に基づいた評価」チャイルド本社、2019 年

神長美津子編著「幼児理解の理論と方法」　中央法規出版　、2025 年

参考書等

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館、2018 年

厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館、2018 年

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館、2018 年

履修上の注意・学習支援

- 日頃から子どもの姿に着目し、子どもが興味・関心を寄せる物事とそのかかわり、子どもの内面、おとなのかかわりやその意図について考えること。
- 授業時の提出課題は、必ず指示に従って提出すること。
- ペーパープリントおよび Google　classroom を活用して授業資料を配布する。授業時には chromebook 等の情報機器を持参のこと。
- 受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。
- 質問等はそのままにせず、授業担当者に問い合わせること。

実務経験のある教員による授業科目

高柳　恭子

［実務経験の概要］

1. 幼稚園教諭として 25 年間、幼稚園副園長として 13 年間勤務し、保育全般、保護者への対応、地域との連携・交流活動、地域の子育て支援、地域の幼稚園教員の研修の場の提供等の実務を経験してきた。
2. 栃木県幼稚園連合会の理事や研究委員として、教員のキャリアアップのための研修の企画及び、その講師等を務めた。

［実務経験と授業科目との関連性］

1. 幼稚園での実務経験は、本科目分野（保育方法論・保育者論・保育内容基礎演習等）との関連性は極めて高く、子どもの実態や環境構成、具体的なかかわり方等について具体的な内容の講義が実施できる。
2. 栃木県幼稚園連合会での経験は、県内幼稚園の実情を熟知することとなり、教育実習指導、保育教職実践演習等の授業科目においては学生と各園とのパイプ役となり実習や実践をコーディネートすることが可能である。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G2204	子どもの理解と援助	2年	秋	演習	1	星　順子

授業概要

保育は「子ども理解」から始まる。保育実践において、子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義や子どもの体験や学びの過程における子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。そうした「理解」が保育者のどのような「援助」に関係してくるのか、子ども理解を深めるための具体的な手立てや態度について演習を通して実践的に学ぶ。

到達目標(学習の成果)

・保育実践における子ども理解の意義を理解し、説明できる。(DP3)
・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解し、説明することができる。(DP3)
・子どもを理解するための具体的な手立てや方法、態度を理解し、具体的な提案ができる。(DP4)
・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、自分のことばで表現できる。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育における「子ども理解」とは：これまでの学びを振り返り、「子ども理解」の意義と重要性について確認する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	自分の子ども観を言語化してまとめる(0.5 時間)
2	子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開:保育における養護と教育の一体化を具体的な事例から理解する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり：子どもを理解するための保育者のまなざしについて考察する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
4	子どもを取り巻く環境の理解：子どもを取り巻くさまざまな環境を発達と学習の視点から捉える	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
5	子ども理解における発達的観点:保育者のまなざしの背景にある発達観について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
6	子ども理解における保育者の姿勢と共感的理解:事例を通して、保育者の姿勢や共感的理解の実際を理解する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
7	保育における観察とは：保育の場で子どもを「観る」ための視点について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
8	保育における記録とは①：保育記録の意味や具体的な書き方について理解する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	授業での学びをまとめる(0.5 時間)
9	保育における記録とは②：映像を通して、保育記録を作成し実践的にその方法を学ぶ	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	授業での学びをまとめる(0.5 時間)
10	記録にもとづく保育カンファレンス：保育カンファレンスの意味や具体的な方法を実践的に学ぶ	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
11	保育における個と集団の関係の理解と援助：個の世界と集団の世界がどのようにつながり育ち合うのか、それを支える保育のあり方を考察する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
12	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助①：特別なニーズのある子どものニーズについて考察する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
13	一人一人の子どもの特別なニーズの理解と援助②：特別なニーズのある子どもを支える保育について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
14	保護者理解と援助の基本：保育の専門性を活かした子育て支援について事例を通して学ぶ	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)
15	子ども理解を深めるために：子どもを協同的に見るための職員間の関係や連携について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する(0.5 時間)
		事後	グループワークでの学びをまとめる(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
　個人ワーク、グループワーク、グループディスカッションなど

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解(10%:リアクションペーパー)
・レポート (60%)
・授業への取り組み (30%:グループワーク、授業中の発言や質問等の積極的な参加)
　レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育実践における子ども理解の意義を理解し、説明できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解し、説明することができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもを理解するための具体的な手立てや方法、態度を理解し、具体的な提案ができ。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、自分のことばで表現できる(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
　グループワーク課題には、クラスルームまたは口頭でコメントする

教科書
　『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子編著、ミネルヴァ書房、2019 年

参考書等
　『保育所保育指針解説書』厚生労働省編、フレーベル館、2018 年
　『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2018 年
　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018 年

履修上の注意・学習支援
　演習のため、グループワークを多く取り入れます。積極的な参加を求めます。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・保育所保育士として、乳児・幼児クラス担任、インクルーシブ保育、子育て支援、実習生指導、災害支援等の実務に携わってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]
・保育士としての実務経験を生かし、子どもを理解する視点やまなざし、子ども理解にもとづいた援助について、実践的な事例を基に指導を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G4205	発達支援論	４年	春	講義	２	小野貴之

授業概要
発達や障害への理解と支援、また、幼稚園や保育所等における個と集団の発達の理解と支援について学ぶ。子どもや子育て家庭が抱える現代的課題にも触れ、問題の把握の仕方や支援について理解を深める。その上で事例研究等を通し、学んだことを実践での支援に活かす方法を考える。

到達目標(学習の成果)
・発達や障害の捉え方の変遷を学び、現在の分類における障害特性及び支援について理解する(DP3)。
・保育の場における個と集団に対する発達支援について理解する(DP3)。
・子どもの発達支援を意図した関わりや保育環境を、実践を意識して考えることができる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	発達支援とは：発達支援の定義・意義を知り、保育現場の役割について考える。	事前	発達支援とは何か考えておく（2 時間）
		事後	配布プリンを読み、発達とは何か復習する(2 時間)
2	発達とは:発達の定義と乳幼児期の重要性について知り、その評価の方法を学ぶ。	事前	配布プリントを読んであらかじめ理解しておく（2 時間）
		事後	配布プリントの発達段階説について復習する(2 時間)
3	乳幼児の体の発達:乳幼児期の体やその機能の発達について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	新生児期から幼児期までの発達についてまとめる(2 時間)
4	乳幼児の心の発達①:乳幼児期の心の発達について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	自己意識の成立について復習する（2 時間）
5	乳幼児の心の発達②:親と子のコミュニケーションのタイプや気質について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（1 時間）
		事後	愛着についてレポート作成（3 時間）
6	乳幼児の言葉の発達:乳幼児期の言葉の発達について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	言葉の発達過程について復習する（2 時間）
7	自閉症について:「自閉症スペクトラム障害／自閉スペクトラム症」について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	自閉症スペクトラムについて理解をまとめておく（2 時間）
8	保育における発達支援①:保育所で行う発達支援の取り組みや教材について知る。	事前	配布プリントを読んで予習する（1 時間）
		事後	動画視聴の感想レポート作成（3 時間）
9	保育における発達支援②:発達に難しさをかかえる子どもをもつ保護者・家庭への支援について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（1 時間）
		事後	動画視聴の感想レポート作成（3 時間）
10	保育における発達支援③：関係機関との連携について学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	定期健診の内容について調べる（2 時間）
11	発達支援の地域資源との連携①発達支援センター他専門機関の取り組みを学ぶ。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	地域にどのような社会資源があるが調べる(2 時間)
12	発達支援の地域資源との連携②:地域の各機関と保育所との連携を考える。	事前	配布プリントを読んで予習する（1 時間）
		事後	事例について感想レポート作成（3 時間）
13	集団の中の個の支援:保育現場のクラス活動などの集団の中でどのように個別の支援を行うか考える。	事前	配布プリントを読んで予習する（1 時間）
		事後	動画視聴の感想レポート作成（3 時間）
14	生涯発達とインクルーシブな社会:発達支援に必要な長期的な発達の視点を学ぶ。:	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	インクルーシブな取り組み事例を調べる（2 時間）
15	発達支援の課題:各保育所での事例等から発達支援の課題について考える。	事前	配布プリントを読んで予習する（2 時間）
		事後	発達支援の意義と保育の場での実践についてまとめる（2 時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・コメントシート 40%(課題に関する理解と、自身の学び・気づきが述べられていること)
・レポート・課題 40%(自身の視点でテーマを切り取り、現状と課題の理解が具体的に表現されていること)
・受講・出席態度 20% (授業時の積極的発言、演習時の取り組みの様子を評価する)

成績評価の基準 :
レポート、グループワークについては、コモンルーブリック評価基準を用いる
その他の演習等に関する評価基準

観点	S	A	B	C
発達や障害の捉え方の変遷を学び、現在の分類における障害特性及び支援について理解する (DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の場における個と集団に対する発達支援について理解する (DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの発達支援を意図した関わりや保育環境を、実践を意識して考えることができる (DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
指定しない。必要な資料は、授業中にプリントで配布する。
参考書
岩井正憲 「ママ&パパと医療者のための 月齢別 発達が気になる子どもの早期療育・育児支援ガイドブック―生まれてから6歳までのおうちでできる療育ヒント集」 メディカ出版 2019
渡辺千歳「はじめて学ぶ発達心理学ー乳幼児を中心に」大学図書出版 2017

履修上の注意・学習支援
配布する資料やプリントをファイルしておくこと。講義で指摘する重要な事項を聞き逃さないように集中力を保ち、講義内容のポイントはノートに書き取ること。
課題は指定された期日までに必ず提出すること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
認定こども園 保育教諭(3年)
幼稚園 教員(3年)
茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画、内容の検討を行う。(2年)

[実務経験と授業科目との関連性]
子どもの発達支援の課題について保育現場の実態からも解説する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G4206	発達臨床心理学	4 年	春	講義	2	松岡　展世

授業概要

胎児期から高齢期まで生涯にわたる発達の中で生じる心理臨床的な課題や精神疾患について概観する。特に、乳児期・幼児期・児童期について、発達過程における心理臨床的な課題、気になる行動に対する支援について学ぶ。事例等を通して具体的にイメージできるようにしながら、その実態、見立て、生起・維持のメカニズム、心理的援助について理解し、問題の改善や予防について考えられるようにする。

到達目標(学習の成果)

・子どもの心理臨床的な課題について、見立てと具体的援助方法を述べることができる（DP3)。
・各発達段階で現れやすい課題とその支援について説明できる（DP3)。
・子どもの見せる言動や他児・大人との相互作用に対し、発達過程において生じる心理的課題との関連で考え判断できる（DP3)。
・子どもの心理臨床的な課題について、専門的な見立てや援助方法に触れ、保育にどう生かすか関心をもって参加する（DP4)。
・子どもの心の問題について、必要な情報を収集し適切な方法で表現できる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	発達の基本原則と適応の問題について学び、子どもの呈する心理臨床的な課題の概略を知る	事前	子どもの発達について復習をしておく(1 時間)
		事後	子どもの心理臨床的課題を整理する(3 時間)
2	発達臨床の背景としての人間観と発達の基礎理論について学ぶ	事前	基本的な発達原則について復習しておく(1 時間)
		事後	発達の基礎用語について整理する(3 時間)
3	胎児期および乳児期の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ	事前	胎児期、乳児期の発達について参考文献一読する(1 時間)
		事後	胎児期、乳児期についての学びをまとめる(3 時間)
4	周産期・育児期にある母親の精神的問題と、それが子どもに及ぼす影響について理解する	事前	周産期の母親の精神で気になることを書き出す(1 時間)
		事後	周産期の母親の精神的特徴と留意点をまとめる(3 時間)
5	心理発達や精神面と大きな関連がある脳や神経系の発達とその問題について学ぶ。	事前	脳のはたらきや発達について調べておく(1 時間)
		事後	脳と神経系の発達についての学びをまとめる(3 時間)
6	生活習慣の問題の意味について、特に食事栄養、睡眠を中心として、その表れ方と対応について理解する	事前	子どもの生活習慣で気になることを書き出す(1 時間)
		事後	生活習慣の問題と対応についてまとめる(3 時間)
7	発達臨床的な心理理解に基づく支援の基本的な視点と発達支援を支える理論について学ぶ	事前	子どもの心の問題で気になることを書きだす(1 時間)
		事後	発達臨床的心理理解の基本をまとめる(3 時間)
8	幼児期の各年齢の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ	事前	1～6 歳の各時期にみられる問題を書き出す(1 時間)
		事後	幼児期に見られる課題と支援についてまとめる(3 時間)
9	児童期の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ	事前	小学生時代に見られる問題をいくつか書き出す(1 時間)
		事後	児童期にみられる特徴と課題についてまとめる(3 時間)
10	青年期の発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ	事前	青年期に見られる問題をいくつか書き出す(1 時間)
		事後	青年期にみられる特徴と課題をまとめる(3 時間)
11	精神的な障害の発達的な問題の意味と、代表的な精神疾患の特徴について学ぶ	事前	メンタルヘルスの問題で気になることを書き出す(1 時間)

		事後	精神的な障害の症状と支援についてまとめる(3時間)
12	代表的な発達障害の特徴について学び、発達障害を持つ児・人への支援の基本的姿勢について学ぶ	事前	子どもの発達障害で気になることを書き出す(1 時間)
		事後	発達障害の現れ方と支援についてまとめる(3 時間)
13	成人期および高齢期発達の特徴およびこの時期に生じる課題とその支援について学ぶ	事前	成人期の問題として気になることを書きだす(1 時間)
		事後	成人期、高齢期の特徴と課題についてまとめる(3 時間)
14	育児ストレスと児童虐待、虐待などによる愛着の障害や心理的トラウマが子どもに及ぼす影響と支援について学ぶ	事前	愛着や虐待について気になることを書き出す(1 時間)
		事後	愛着障害やトラウマの影響と支援をまとめる(3時間)
15	発達臨床心理学的視点の有用性と、発達期にある個人への全人的な成長を促す営みについて考える	事前	1 から 14 回の学びを振り返り、質問を書き出す(1 時間)
		事後	自らの幼少期～現在までの心理的発達を振り返りまとめる(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内レポート：各回の学習内容の理解度と率直な気づき内省の表現（30%）
・授業取組み：グループワーク等に積極的に取り組み、発表時には意見を分かりやすく述べることができる（20%）
・最終レポート：子どもの心理臨床的課題について、授業内容を理解し、自らの考えをまとめ、根拠とともに述べることができる（50%）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの心理臨床的な課題について、見立てと具体的援助方法を述べることができる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
各発達段階で現れやすい課題とその支援について説明できる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの言動や他者との相互作用を、発達過程で生じる心理的課題との関連で考え判断できる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの心理臨床的な課題について、専門的な見立てや援助方法に触れ、保育にどう生かすか関心をもって参加する（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの心の問題について、情報を収集し適切に表現できる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

＊課題に関しては次の授業内で口頭もしくは課題の返却などでフィードバックを行う。

教科書

特になし

毎回、内容に合わせて理解を深めるための資料をコピーして配布する。その他、映像資料・スライド資料を視聴する。

参考書等

田中千穂子著「関係を育てる心理臨床―どのようにこころをかよわせあうのか 専門家への手引き 日本評論社　2021 年
大河原美以著「子どもの感情コントロールと心理臨床」日本評論社　2015 年
ディー・C・レイ著 小川 裕美子、湯野 貴子監訳　「セラピストのための子どもの発達ガイドブック：0 歳から 12 歳まで 年齢別の理解と心理的アプローチ」　誠信書房　2021 年

履修上の注意・学習支援

授業では、心の問題をより深く扱うことになる。その準備として、まず自分自身の心のケアや心身の変調に留意して臨むこと。

個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。
授業内で質問を随時受け付ける。積極的に質問し、できる限りその場で解決すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

・東京都世田谷区教育委員会の教育相談室（10 年）及び栃木県の大学院附属臨床センター（10 年）にて　心理相談員
　幼児期から中学生までの子どもの発達援助、発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談

・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14 年）
　1 歳 6 か月健診、3 歳児健診、5 歳児健診および子育て教室（心理相談）、保健師・保育士へのコンサルテーション等

・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5 年）
　児童生徒および保護者の相談、教員コンサルテーション、心理アセスメント等

［実務経験と授業科目との関連性］

・臨床心理士として、乳児期から中学生までさまざまな背景をもつ子どもの発達・心理アセスメントと援助に関わり、親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。子どもの心理臨床的な課題の理解とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G3207	教育心理学	3 年	秋	講義	2	小浜 駿

授業概要

毎回の講義は、授業感想の返答 10 分、講義 60 分、関連トピック紹介 10 分、感想記入 10 分の計 90 分で行う。講義の 60 分では昔から重要視されてきた教育心理学の基礎理論を紹介する。関連トピックでは、講義内容を応用した身近な知見を紹介する。教員や親として、児童・生徒(子ども)に接するうえで役に立つ知見を紹介することに重点を置く予定である。

到達目標(学習の成果)

全体目標

a)幼児, 児童および生徒の心身の発達の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。b)彼らの学習の過程に関する基礎的な知識を身に着ける。そのうえで, 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

(a) 幼児, 児童および生徒の心身の発達の過程における到達目標 (DP3)

1) 幼児, 児童および生徒の心身の発達に関する代表的な理論を理解している
2) 幼児, 児童および生徒の発達を多数の側面（運動, 言語, 認知, 社会性）から複合的に理解している

(b) 幼児, 児童および生徒の学習の過程における到達目標 (DP3)

1) 幼児, 児童および生徒の発達的特性を踏まえたうえで, 学習支援および学習評価に関する基礎事項を理解している。
2) 幼児, 児童および生徒の発達的特性を踏まえたうえで, 主体的な学習を支援するための要因について広く理解している。
3) 幼児, 児童および生徒による主体的な学習を支援するために必要な実践的な指導知識を得ている

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	本講義と教育心理学の概要を述べる。また、評価方法や注意事項などについて説明する	事前	シラバスを読んでおく(1 時間)
		事後	参考書を軽く眺め, 本の構成を理解しておく(3 時間)
2	発達と成長の違いについてまず説明し、発達に必要な要因に関する諸理論を紹介する。また、発達曲線について解説する	事前	参考書第 10 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007160809 (3 時間)
3	学習の定義についてまず説明し、その後に条件付けをとりあげながら学習の諸理論について説明する	事前	参考書第 2 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130007954403 (3 時間)
4	ピアジェの認知発達理論における4つの発達段階について説明する	事前	参考書第 9 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120006479147 (3 時間)
5	子どもの感情と愛着の発達について述べる。また、エリクソンを中心に人格発達に関する諸理論を紹介する	事前	参考書第 10 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://jascg.info/wp-content/uploads/2015/03/875f4ff6c32c1012085a516f05e610a0.pdf (3 時間)
6	代表的な知能テストを紹介するとともに、知能観と学業成績との関連についても説明する	事前	参考書第 9 章を読むことが望ましい (1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/110006429015 (3 時間)
7	児童・生徒の習熟度を適切に測るために、テスト作成ではどのように工夫するべきか説明する	事前	参考書第 7 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130003376533(3 時間)
8	教師のリーダーシップや児童・生徒への言葉かけについて概説する	事前	参考書第 6 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120006819232(3 時間)
9	知識を定着させやすい学習方略や授業方法について紹介する	事前	参考書第 2 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130006391553(3 時間)
10	動機づけの自己決定理論を中心に、児童・生徒の動機づけを左右する要因について紹介する	事前	参考書第 4 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007037266(3 時間)
11	学業場面でつまずいた児童・生徒への援助方法を具体的に説明する	事前	参考書第 12 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/110004570824(3 時間)
12	セルフ・ハンディキャッピングや先延ばしの原理について説明を行う	事前	参考書第 4 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130005062916(3 時間)
13	学校適応の測定方法および学校適応が精神的健康に与える影響について概説する。	事前	参考書第 5 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130007378893(3 時間)

14	学校適応の規定因として考えられている対人特性について紹介する	事前	参考書第 5 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/120007100235(3 時間)
15	挫折は，単なる失敗とどのように異なるのか。また，挫折を経て成長するために必要なマインドセットは何か，解説していく	事前	参考書第 11 章を読むことが望ましい(1 時間)
		事後	https://ci.nii.ac.jp/naid/130008116965(3 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)
テストとレポートによって 50%ずつ評価する。
前半6回は暗記を要する基礎的な事項であるため、第7回開始時に 30 分の小テストを行う。第8回以降は教育実践に役立つ知識を提供するため、内容理解と応用的な発想をレポートによって評価する。このレポートを期末課題とする。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
諸理論や用語の理解	十分に暗記し，応用的な理解もある	十分に暗記している	ある程度暗記している	最低限暗記している
実践的な理解	実践理解が十分であり，的確に文章化されている	十分な実践理解がある	ある程度の実践理解がある	最低限の実践理解がある

教科書
使用しない。毎回授業資料を配布する。

参考書等
鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 第 4 版』有斐閣アルマ 2015 年 2052 円

履修上の注意・学習支援
事後学習欄に添付した URL は，授業内容に関わる文献の書誌情報である。
参考書の購入は必須ではない。授業外の学習方法において「読むことが望ましい」とある欄は，類似した内容の専門的文献を読むことで代替できる。例えば「参考書第 4 章を読むことが望ましい」とあった場合は，“やる気”や“動機づけ”といったキーワードで CiNii(論文検索フォーム)で調べて論文を読むことでも，事前学習をしたこととみなす。

毎回授業感想を記入する時間を設ける。考えついたことは何でも書いてほしい。自分の着想を否定しないことが勉学上達の一番の近道である。記入された感想・質問には次回講義時間の冒頭で返答を行う。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G2208	子どもの保健	2年	春	講義	2	菊池芳子

授業概要

生まれてきた子どもの心身の健康増進を図るために小児の保健の基礎を学ぶ。多様な環境下におかれた小児が子どもらしく、身体的、精神的、社会的に健やかな生活を過ごすためにはどうしたらよいのか。子どもの健康保持増進と、保育実践に必要な対象の特性や特徴を理解するために、基本的な「発育・発達、人体の構造と生理機能、疾病等」について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

- 社会構造と家庭環境の変化を踏まえ、子どもを取り巻く多様な環境を理解できる(DP3)。
- 多様な疾病とその特徴を理解し、保育現場で役立てられる (DP3)。
- 子どもの発育発達過程を踏まえ、健康についての問題意識を持つことができる (DP3)。
- 子どもの発育発達という視点から、人体の構造と機能について理解できる (DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子どものこころとからだの健康と保健の意義	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・子どもの健康と保健について整理しておく。 ・子どもの保健における子どもとは？考えまとめる。 ・児童福祉法、児童憲章、児童の権利条約、子ども基本法についてまとめておく。 ・自分の健康観をまとめる。(課題) (3時間)
2	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・子どもに関わる保健統計について理解する。 ・子どもの虐待に関する学習と保育者に求められることは何かを考える。 (3時間)
3	地域における保健活動	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・健やか親子 21、母子健康手帳、乳幼児健康診査についてまとめておく。 ・母子保健における保育者の役割を考え、まとめる。 (3時間)
4	子どもの成長と発達	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・受精から出生、発育・発達の原則についてまとめる。 ・乳児期の原始反射、微細運動、粗大運動をまとめておく。 ・自分自身の成長発達を振り返りながら、スキャモン発育曲線を書けるようにする。 (3時間)
5	子どもの生理機能の発達 (1) ① 生理機能の発達と保健	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・人体の生理機能をまとめておく。(バイタルサイン、歯と消化・吸収、排泄、水分代謝、免疫、感覚器官、皮膚) (3時間)
6	子どもの生理機能の発達 (2) ② 子どもの食・栄養と保健	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・乳児期から幼児期の離乳栄養についてまとめる。 (3時間)
7	子どもの生活と保健 子どもの基本的な生活習慣	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・自分自身の生活習慣を振り返りながら、子どもの基本的な生活習慣について考えをまとめる。 (3時間)
8	子どものこころとからだの健康状態 第1回目確認テスト	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	子どもの健康な状態とはどのようかを考えながら、入園前・入園後の健康診断についてまとめる (3時間)

9	保護者との情報共有	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・子どもの一人ひとりの健康状態の把握と、保護者との情報共有による連携の取り方等、子どもの保健活動の必要性について考える。 (3時間)
10	子どもによくみられる症状	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・子どもの症状と対応についてまとめる。 (3時間)
11	子どもの主な病気の特徴 (1) ① 感染症を予防する ② 学校保健安全法、予防接種、感染症の基礎知識、園における感染症対策	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	・自分の予防接種歴を確認する。(母子健康手帳等) ・配布資料をまとめる。 (3時間)
12	子どもの主な病気の特徴 (2) ③ 子どもの注目される感染症	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	子どもの病気(感染症)の特徴をまとめておく(3時間)
13	子どもの主な病気の特徴 (3) ④ 子どもの注目される疾患 先天性疾患、アレルギー疾患、血液・内臓疾患、消化器・腎系疾患	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	子どもの病気の特徴をまとめておく。 (3時間)
14	子どもの主な病気の特徴 (4) ⑤ 子どもの注目される疾患 神経・精神疾患	事前	講義内容を教科書から把握して授業に臨む(1時間)
		事後	子どもの病気の特徴をまとめておく。 (3時間)
15	講義内容の振り返り 第2回目確認テスト	事前	今までの講義内容を復習して授業に臨む (1時間)
		事後	「子どもの保健」を学ぶ意義について改めて自分自身の考えを明確にする (3時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準（%表記）
- 定期試験（50%）
- 授業内確認テスト2回（30%）
- 課題レポート（コモンルーブリック評価基準を用いる）・ リアクションペーパー（20%）
- 授業への取り組み

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの環境について理解できる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
多様な疾病を理解し、保育現場で役立てられる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
発達評価ができ、健康問題も考えることができる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
山下 雅佳実 著者代表，「イラスト 子どもの保健・健康と安全」東京教学社，2023

参考書等
随時授業の中で紹介する。

履修上の注意・学習支援
・授業は「教科書は既読である」として進めますので必ず熟読すること。
・提出された課題レポート、ワークシートは、コメントをつけて返却する。
・各回の授業内容に係る確認テスト(2回)実施するので、必ず復習すること。
・日頃から新聞紙上に取り上げられる子どもに関する記事、社会事象に注目して情報収集をすること。
・自分自身の生活を振り返り、「健康」を意識した生活を送るよう心掛ける。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
看護師として、病院(小児科・内科・外科)等の医療機関において患者の医療や生活を含む看護に関する業務に、また認定こども園の看護師として、乳幼児の健康管理に従事してきた。

［実務経験と授業科目との関連性］
医療機関や認定こども園における看護の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を活かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
22G2209	子どもの食と栄養Ⅰ	２年	秋	演習	1	布川　かおる 鈴森　瑶子

授業概要

子どもの栄養と食生活が、生涯にわたる健康の基礎を形成し、その後の心と身体の健康に与える影響が大きいことを知る。子どもの成長・発達にかかわる専門職として、年齢に応じた身体づくりと心の健康をはぐくむ食育を行うことができるようになることを目的とする。子どもの食生活の現状と課題を把握し、胎児期(妊娠期)の食生活のあり方、乳児期における子どもの心身の発達に応じた乳汁栄養、離乳食のあり方等を演習・実習を通して理解、実践できるようになることを目標とする。

到達目標(学習の成果)

子どもの成長・発達にかかわる専門職として、豊かな食育活動を通して、子どもが主体となる食生活を作り出す能力を身につける。具体的には、人と食との関係、栄養に関する基礎的な知識を理解し、説明できるようになる(DP1)。日本人の食摂取基準の意義と活用法を知り、自己の食生活に反映できる(DP1)。子どもの食生活の現状から生じているさまざまな影響と課題を理解し、心身ともに健康な子どもを育てるための食生活のあり方を考え、問題解決できるようになる(DP3.4)。妊娠期、乳児期の子どもの発育・発達に応じた食生活の実践と支援ができるようになる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法※	
1	授業の進め方。子どもの栄養と 健康な生活の基本としての食生活の意義、健康のとらえ方を知る。国民健康栄養調査、乳幼児栄養調査から子どもの食生活の現状と課題を知り、解決策を考える。(布川)	事前	シラバスを読んで授業に臨み、授業の進み方について理解する。 (0.5 時間)
		事後	調査結果から食育を読み取る (0.5 時間)
2	栄養素(糖質・ 脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル)とその働きを理解する。(布川)	事前	FFQ(自分の食事の頻度調査を行い、栄養素の種類についてテキストを読んでくる(0.5 時間)
		事後	栄養素の種類と働きをまとめる(0.5 時間)
3	食品群の種類とその特徴について理解する。食品表示に関連する法制度、添加物について理解する。(布川)	事前	自分の食事の振りかえりができるように、食べたものを記録する (0.5 時間))
		事後	自分の食事の過不足を食品群で確認する。(0.5 時間)
4	「日本人の食事摂取基準」の意義とその活用法を理解し、成長のためのエネルギーおよび栄養素の基準値を理解する。(布川)	事前	食事摂取基準 2025とは何かを調べておく、(0.5 時間)
		事後	自分の食事の過不足を、バランスガイドを使って判断し自分と幼児の食事摂取基準の違いを比較する。
5	ライフステージの区分を知る。子どもの心身の特徴を学び、栄養素の消化・吸収・排泄についての基礎を学ぶ。(布川)	事前	食事に関する発育機能を調べる(0.5 時間)
		事後	栄養素と消化機能をまとめる(0.5 時間)
6	乳幼児の食べる機能・消化吸収機能発達と栄養の摂取方法を学ぶ。身体発育と栄養状態の把握の方法を理解する。(布川)	事前	自分の母子手帳をみて成長曲線やあ成長の記録を確認する(0.5 時間)
		事後	乳幼児の身体、消化、食べる機能の発達をまとめる(0.5 時間)知識テストを行う(0.5 時間)
7	妊娠のメカニズムと胎児の成長・発達、妊娠中の妊婦の栄養・食生活のあり方について学び、その大事さを理解する。妊娠中にみられるさまざまな症状の予防と対策を知る。(布川)	事前	妊娠中の様々な症状を調べる(0.5 時間)
		事後	妊娠や授乳により付加が必要な栄養素をまとめる(0.5 時間)
8	献立作成の手順と調理の基本を知る。調理器具や調理方法、調理から食事の提供に至るまでの食品の衛生的な取り扱いについて学ぶ。(鈴森)	事前	食中毒の発生原因と児童福祉施設における食事支援の留意点を調べる(0.5 時間)
		事後	知識テスト(調理・食品の衛生)を行う(0.5 時間)
9	授乳期の母親の栄養・食生活のあり方を理解する。乳児期の発育・発達の特徴と、乳汁栄養の種類を学ぶ。育児用ミルクの種類と特徴を知り、子どもの状態に合わせた対応を理解する。 (鈴森)	事前	母乳栄養と人工栄養の利点をまとめる (0.5 時間)
		事後	知識テスト(乳児期の発達・乳汁栄養)を行う(0.5 時間)
10	妊娠期の食事と調乳の実践　調理実習 鉄分、カルシウム、食物繊維の多い料理を作る。	事前	レシピを見て調理手順を確認する、哺乳瓶の消毒および調乳の方法を確認する(0.5 時間)

11	調乳用品の種類、消毒方法の種類、授乳後の調乳用品の管理方法および育児用ミルクの調乳の仕方を学ぶ。(鈴森)	事後	実習の振り返りを行う(ワークシート) (0.5 時間)
12	離乳食開始期から完了期の発育・発達の特徴と、離乳食の特徴を学ぶ。摂食機能に応じた食品の選択や適切な支援方法を理解する。(鈴森)	事前	乳児用調整粉乳とフォローアップミルクの栄養成分を比較する(0.5 時間)
		事後	知識テスト(離乳期の発達・離乳食)を行う(0.5 時間)
13	離乳食の実践　調理実習 5・6か月、7・8か月、9～11か月の離乳食の食材・献立の特徴と調理方法を理解する。(鈴森)	事前	レシピを見て調理の手順を確認する(0.5 時)
14		事後	実習の振り返りを行う(ワークシート) (0.5 時間)
15	離乳の必要性と離乳食の役割を学ぶ。 離乳食に関する保護者への支援方法と保育者の役割を理解する。全体のまとめと振り返り。(鈴森)	事前	胎児～離乳期の栄養を振り返る(0.5 時間)
		事後	知識テスト(まとめ)を行い、間違えたところを確認する(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク(調理実習)、グループディスカッション、演習、

成績評価の方法・基準(%表記)

① 事後課題知識テスト (60%) 小テストは採点後に返却する

② ワークシート、レポート(40%):設定した課題に対して、わかったことを自分の意見でまとめることができているかどうかを評価
レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
栄養・調理に関する基本的知識を習得している(DP1)	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。
子どもにとって食の大切さを理解している(DP3)				
胎児期・乳児期の発達に合わせた望ましい食生活、内容を実践できる(PD4)				
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点

教科書

森脇千夏ら著「イラスト子どもの食と栄養」、東京教学社、2023 年、2,640 円(税込み)
必要に応じてクラスルームにて資料を配付する。各自ダウンロードして使用する

参考書等

「保育所における食事の提供ガイドライン」(厚生労働省 HP)「日本人の食事摂取基準 2025」厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省 HP)国民健康栄養調査、乳幼児栄養調査(厚生労働省 HP)

履修上の注意・学習支援

1. 日常生活の中で、食に関するさまざまな情報や問題を意識して収集し、授業に望むこと。
2. 家政実習室の調理実習では、シューズを履くこと。きれいに洗濯した三角巾とエプロンを着用すること。
3. 学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
4. 授業の終わりにワークシート等をまとめる。復習ができるように整理しておくこと。
5. 質問があるときは、オフィス・アワーを利用すること。fukawa@kyowa-u.ac.jp(1－7)suzumori@kyowa-u.ac.jp(8-15)まで
6. 調理実習は 2 コマ続きで行う。日時は追って連絡する。
7. Google クラスルームを活用し、課題・資料を配布する。課題もクラスルームにて提出とする。

実務経験のある教員による授業科目　布川　かおる

[実務経験の概要]
市民セミナーとして子どものお弁当講座や、子どもの食の試食を交えたセミナーの開催を行ってきた。
総合病院にて小児病棟の食のアドバイス(疾患やアレルギーに対しての栄養相談)や子供向け献立作成を行ってきた。また産婦人科ではマザースクラスを担当し、妊産婦の食事、授乳・調乳の教室を開催してきた。ボーイスカウトのデンリーダーとして農作物の収穫やキャンプ、クッキングなどの企画・サポートを行ってきた。
[実務経験と授業科目との関連性]
病院における食へのサポートは、子どもの発達段階、疾病、障がい等の心身の状態に応じた適切な食生活に関する講義が行える。また市民セミナーで親子向けの企画は本科目の授業内容と関連性が非常に高く、経験を活かした講義・実習が実施できる。ボーイスカウトでの企画は本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

※　本科目は、講義科目(1単位)であるから、授業時間と同じ準備学習時間が必要となる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G3210	子どもの食と栄養Ⅱ	３年	春	演習	1	布川　かおる 鈴森　瑶子

授業概要

子どもの成長・発達にかかわる専門職として、食育は不可欠のものである。幼児から学童期までの心身の発達に応じた食生活のあり方と実践方法、疾病や体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応の仕方について学ぶ。更に、子どもの食育の必要性と年齢に合わせた食育の内容について学び、保育者として家庭や地域社会と連携をとった食育の環境作りとその実践が求められていることを理解する。子どもの年齢に合わせた食育の実践について、事例を通して学習する。

到達目標(学習の成果)

子どもの成長・発達にかかわる専門職として、豊かな食育活動を通して、子どもが主体となる食生活を作り出す能力を身につける(DP4)。具体的には、子どもにとっての食生活の大切さを理解し、説明できるようになる(DP2)。子どもと共に生活する保育者として、子どもの発達段階、疾病、障がい等の心身の状態に応じて適切に食生活に関する実践と支援ができるようになる(DP1, 2)。食育の大切さを理解し、他科目の学びも取り入れて、いろいろな素材・内容を用いて食育が実践できるようになる(DP1.3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	授業の進め方。幼児期の栄養・食生活の実態と問題に対し保育者としての対応を学ぶ。保育者として幼児期に必要な食事内容を充実させ、リズムある食生活になるように支援する方法を考える。(布川)	事前	事前にシラバスを読んで授業に臨み、授業の進み方について理解する。(0.5 時間)
		事後	把握した問題点よりどんな食育が必要なのかをまとめる (0.5 時間)
2	学齢期の食生活の問題解決のための学校給食と食育のあり方、栄養教諭と連携した食育の実践について理解し、幼稚園教育と小学校教育とで教育課程のつながりを考える。(布川)	事前	学童期における問題点を把握する (0.5 時間)
		事後	学童期まとめのワークシートを行う (0.5 時間)
3	食物アレルギーについて知り、対応を学ぶ。 乳幼児にとっての間食の必要性と意義と間食の与え方を学ぶ。年齢に合わせた間食の内容と形態を理解する。(布川)	事前	子どもの好きなおやつは何か調べる (0.5 時間)
		事後	疾病及び体調不良の子どもの対応のまとめテストを行う (0.5 時間)
4 5	子どもと一緒に作ることができるおやつの種類と作り方を、調理実習を通して学ぶ。実際に子どもと一緒におやつ作りをする時の説明の仕方や注意事項について考える。アレルギー対応や誤飲防止のおやつについても学ぶ。(布川)	事前	レシピをみて作り方を予習する。食物アレルギー食品の代替を確認してくる (0.5 時間)
		事後	実習記録をまとめる (0.5 時間)
6	子どもの疾病の特徴と食生活、保育者としての対応を学ぶ。(布川)	事前	子どもに起こりうる疾患を調べる (0.5 時間)
		事後	疾患に対する食事での予防や対応をまとめシートを行う (0.5 時間)
7	障がいをもつ子どもの食生活の留意点を学ぶ。症状・障がいに応じた食生活と保育者としての対応の仕方、支援の方法を学ぶ。(布川)	事前	子どもの障がいにはどのようなものがあるかを調べる (0.5 時間)
		事後	障がいのある方の食生活と留意点をまとめる(0.5 時間)
8	食育基本法と食育の必要性、保育における食育の意義と基本的考え方を理解する。発育・発達過程に応じた食育の内容を知る。食育の計画と評価の方法を学ぶ。(鈴森)	事前	食育に関する意識調査に回答する(0.5 時間)
		事後	食育活動と教育の結びつけを考える(ワークシート)(0.5 時間)
9	保育所・幼稚園における食育のための環境づくりと地域の関係機関や職員間の連携、保護者への支援方法を学ぶ。お弁当作りの基本と衛生管理について理解する。食育活動と教育の結びつけを考え、実践を踏まえた食育計画を立案する。(鈴森)	事前	「児童福祉施設における食事の提供ガイドライン」を読む(0.5 時間)
		事後	食育計画に沿ったお弁当作りの内容を考える(0.5 時間)
10	食育の取り組みの視点を理解する。絵本やかるた、その他保育の現場で実施されている食育の内容を参考に、対象の月・年齢に合わせた食育指導案を作成し、	事前	「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」を読み、対象別のアプローチを考える(0.5 時間)

	自己の課題を考える。（鈴森）	事後	最終授業で発表する指導案をまとめる（ワークシート）（0.5 時間）
11	幼児のお弁当の実践 調理実習 調理および衛生管理を理解する。キャラ弁をはじめ、子どもが食に興味を持ち、教育につながる食育活動を実践する。（鈴森）	事前	幼児のお弁当の調理と盛り付けを班で考え、役割を確認する（0.5 時間）
12		事後	実習の振り返りを行う（ワークシート）（0.5 時間）
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養、給食の意義を学び、望まれる保育者の対応の仕方を理解する。災害時の栄養・食生活支援体制について学ぶ。（鈴森）	事前	児童福祉施設での食事提供の特徴を捉える（0.5 時間）
		事後	児童福祉施設の食支援をまとめる（0.5 時間）
14	エプロンシアターやパネルシアター、絵本を活用した食育を実践する。食育実践の場の幅広さを学び、保育者の食育への関わり方と方法を理解する。（鈴森）	事前	発表準備（0.5 時間）
15		事後	発表の評価を行う（ワークシート）（0.5 時間）

授業形式（アクティブラーニングの内容）
グループワーク（調理実習）、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型学習

成績評価の方法・基準（%表記）
① 知識テスト（20%）
② 発表(20%)
③ ワークシート、レポート(60%)：設定した課題に対して、わかったことを自分の意見でまとめることができているかどうかを評価
レポート評価、プレゼンテーション評価、グループワーク評価には、コモンルーブリック・レポート、プレゼンテーション、グループワーク評価基準を用いる

成績評価の方法・基準（%表記）

評価項目	S	A	B	C	D
1．幼児期の食生活、内容を理解できる 2．食育を行う知識とスキルを習得し、実践できる 3．特別な配慮を要する子どもの食と栄養を理解している	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

教科書
「子どもの食と栄養 1」で使用したもの 森脇千夏ら著「イラスト子どもの食と栄養」、東京教学社、2021 年、2,640 円（税込み）
必要に応じてクラスルームにて資料を配付する。各自ダウンロードして使用する
参考書等
「保育所における食事の提供ガイドライン」（厚生労働省 HP）「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（厚生労働省 HP）「日本人の食事摂取基準 2025」（厚生労働省 HP）

履修上の注意・学習支援
1. 日常生活の中で、食に関するさまざまな情報や問題を意識して収集し、授業に望むこと。
2. 家政実習室の調理実習では、シューズを履くこと。きれいに洗濯した三角巾とエプロンを着用すること。
3. 学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
4. 授業の終わりにワークシート等をまとめる。復習ができるように整理しておくこと。
5. 質問があるときは、オフィス・アワーを利用すること。fukawa@kyowa-u.ac.jp suzumori@kyowa-u.ac.jp まで
6. 調理実習は 2 コマ続きで行う。日時は追って連絡する。
7. Google クラスルームを活用し、課題・資料を配布する。課題もクラスルームにて提出とする。

実務経験のある教員による授業科目 布川 かおる

[実務経験の概要]
市民セミナーとして子どものお弁当講座や、子どもの食の試食を交えたセミナーの開催を行ってきた。
総合病院にて小児病棟の食のアドバイス（疾患やアレルギーに対しての栄養相談）や子供向け献立作成を行ってきた。また産婦人科ではマザースクラスを担当し、妊産婦の食事、授乳・調乳の教室を開催してきた。ボーイスカウトのデンリーダーとして農作物の収穫やキャンプ、クッキングなどの企画・サポートを行ってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]
病院における食へのサポートは、子どもの発達段階、疾病、障がい等の心身の状態に応じた適切な食生活に関する講義が行える。

また市民セミナーで親子向けの企画は本科目の授業内容と関連性が非常に高く、経験を活かした講義・実習が実施できる。ボーイスカウトでの企画は本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

※　方法本科目は、講義科目（１単位)であるから、授業時間と同じ準備学習時間が必要となる

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19G3210	子どもの食と栄養Ⅱ	３年	春	演習	1	布川　かおる 鈴森　瑶子

授業概要

子どもの成長・発達にかかわる専門職として、食育は不可欠のものである。幼児から学童期までの心身の発達に応じた食生活のあり方と実践方法、疾病や体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応の仕方について学ぶ。更に、子どもの食育の必要性と年齢に合わせた食育の内容について学び、保育者として家庭や地域社会と連携をとった食育の環境作りとその実践が求められていることを理解する。子どもの年齢に合わせた食育の実践について、事例を通して学習する。

到達目標(学習の成果)

子どもの成長・発達にかかわる専門職として、豊かな食育活動を通して、子どもが主体となる食生活を作り出す能力を身につける(DP4)。具体的には、子どもにとっての食生活の大切さを理解し、説明できるようになる(DP2)。子どもと共に生活する保育者として、子どもの発達段階、疾病、障がい等の心身の状態に応じて適切に食生活に関する実践と支援ができるようになる(DP1, 2)。食育の大切さを理解し、他科目の学びも取り入れて、いろいろな素材・内容を用いて食育が実践できるようになる(DP1.3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	授業の進め方。幼児期の栄養・食生活の実態と問題に対し保育者としての対応を学ぶ。保育者として幼児期に必要な食事内容を充実させ、リズムある食生活になるように支援する方法を考える。(布川)	事前	事前にシラバスを読んで授業に臨み、授業の進み方について理解する。(0.5 時間)
		事後	把握した問題点よりどんな食育が必要なのかをまとめる (0.5 時間)
2	学齢期の食生活の問題解決のための学校給食と食育のあり方、栄養教諭と連携した食育の実践について理解し、幼稚園教育と小学校教育とで教育課程のつながりを考える。(布川)	事前	学童期における問題点を把握する (0.5 時間)
		事後	学童期まとめのワークシートを行う (0.5 時間)
3	食物アレルギーについて知り、対応を学ぶ。 乳幼児にとっての間食の必要性と意義と間食の与え方を学ぶ。年齢に合わせた間食の内容と形態を理解する。(布川)	事前	子どもの好きなおやつは何か調べる (0.5 時間)
		事後	疾病及び体調不良の子どもの対応のまとめテストを行う (0.5 時間)
4 5	子どもと一緒に作ることができるおやつの種類と作り方を、調理実習を通して学ぶ。実際に子どもと一緒におやつ作りをする時の説明の仕方や注意事項について考える。アレルギー対応や誤飲防止のおやつについても学ぶ。(布川)	事前	レシピをみて作り方を予習する。食物アレルギー食品の代替を確認してくる (0.5 時間)
		事後	実習記録をまとめる (0.5 時間)
6	子どもの疾病の特徴と食生活、保育者としての対応を学ぶ。(布川)	事前	子どもに起こりうる疾患を調べる (0.5 時間)
		事後	疾患に対する食事での予防や対応をまとめシートを行う (0.5 時間)
7	障がいをもつ子どもの食生活の留意点を学ぶ。症状・障がいに応じた食生活と保育者としての対応の仕方、支援の方法を学ぶ。(布川)	事前	子どもの障がいにはどのようなものがあるかを調べる (0.5 時間)
		事後	障がいのある方の食生活と留意点をまとめる (0.5 時間)
8	食育基本法と食育の必要性、保育における食育の意義と基本的考え方を理解する。発育・発達過程に応じた食育の内容を知る。食育の計画と評価の方法を学ぶ。(鈴森)	事前	食育に関する意識調査に回答する (0.5 時間)
		事後	食育活動と教育の結びつけを考える(ワークシート) (0.5 時間)
9	保育所・幼稚園における食育のための環境づくりと地域の関係機関や職員間の連携、保護者への支援方法を学ぶ。お弁当作りの基本と衛生管理について理解する。食育活動と教育の結びつけを考え、実践を踏まえた食育計画を立案する。(鈴森)	事前	「児童福祉施設における食事の提供ガイドライン」を読む (0.5 時間)
		事後	食育計画に沿ったお弁当作りの内容を考える (0.5 時間)
10	食育の取り組みの視点を理解する。絵本やかるた、その他保育の現場で実施されている食育の内容を参考に、対象の月・年齢に合わせた食育指導案を作成し、	事前	「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」を読み、対象別のアプローチを考える (0.5 時間)

	自己の課題を考える。（鈴森）	事後	最終授業で発表する指導案をまとめる（ワークシート）（0.5時間）
11	幼児のお弁当の実践 調理実習 調理および衛生管理を理解する。キャラ弁をはじめ、子どもが食に興味を持ち、教育につながる食育活動を実践する。（鈴森）	事前	幼児のお弁当の調理と盛り付けを班で考え、役割を確認する（0.5時間）
12		事後	実習の振り返りを行う（ワークシート）（0.5時間）
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養、給食の意義を学び、望まれる保育者の対応の仕方を理解する。災害時の栄養・食生活支援体制について学ぶ。（鈴森）	事前	児童福祉施設での食事提供の特徴を捉える（0.5時間）
		事後	児童福祉施設の食支援をまとめる（0.5時間）
14	エプロンシアターやパネルシアター、絵本を活用した食育を実践する。食育実践の場の幅広さを学び、保育者の食育への関わり方と方法を理解する。（鈴森）	事前	発表準備（0.5時間）
15		事後	発表の評価を行う（ワークシート）（0.5時間）

授業形式（アクティブラーニングの内容）
グループワーク（調理実習）、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型学習

成績評価の方法・基準（%表記）
① 知識テスト（20%）
② 発表(20%)
③ ワークシート、レポート(60%)：設定した課題に対して、わかったことを自分の意見でまとめることができているかどうかを評価
レポート評価、プレゼンテーション評価、グループワーク評価には、コモンルーブリック・レポート、プレゼンテーション、グループワーク評価基準を用いる

成績評価の方法・基準（%表記）

評価項目	S	A	B	C	D
1．幼児期の食生活、内容を理解できる 2．食育を行う知識とスキルを習得し、実践できる 3．特別な配慮を要する子どもの食と栄養を理解している	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している。	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	到達目標の最低限を達成している。	到達目標を達成していない。
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

教科書
「子どもの食と栄養1」で使用したもの　森脇千夏ら著「イラスト子どもの食と栄養」、東京教学社、2021年、2,640円（税込み）
必要に応じてクラスルームにて資料を配付する。各自ダウンロードして使用する
参考書等
「保育所における食事の提供ガイドライン」（厚生労働省HP）「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（厚生労働省HP）「日本人の食事摂取基準2025」（厚生労働省HP）

履修上の注意・学習支援
1. 日常生活の中で、食に関するさまざまな情報や問題を意識して収集し、授業に望むこと。
2. 家政実習室の調理実習では、シューズを履くこと。きれいに洗濯した三角巾とエプロンを着用すること。
3. 学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。
4. 授業の終わりにワークシート等をまとめる。復習ができるように整理しておくこと。
5. 質問があるときは、オフィス・アワーを利用すること。fukawa@kyowa-u.ac.jp　suzumori@kyowa-u.ac.jp まで
6. 調理実習は2コマ続きで行う。日時は追って連絡する。
7. Google クラスルームを活用し、課題・資料を配布する。課題もクラスルームにて提出とする。

実務経験のある教員による授業科目　布川　かおる

[実務経験の概要]
市民セミナーとして子どものお弁当講座や、子どもの食の試食を交えたセミナーの開催を行ってきた。
総合病院にて小児病棟の食のアドバイス（疾患やアレルギーに対しての栄養相談）や子供向け献立作成を行ってきた。また産婦人科ではマザースクラスを担当し、妊産婦の食事、授乳・調乳の教室を開催してきた。ボーイスカウトのデンリーダーとして農作物の収穫やキャンプ、クッキングなどの企画・サポートを行ってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]
病院における食へのサポートは、子どもの発達段階、疾病、障がい等の心身の状態に応じた適切な食生活に関する講義が行える。

また市民セミナーで親子向けの企画は本科目の授業内容と関連性が非常に高く、経験を活かした講義・実習が実施できる。ボーイスカウトでの企画は本科目の授業内容との関連性が非常に高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

※　方法本科目は、講義科目（１単位）であるから、授業時間と同じ準備学習時間が必要となる

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H1201	保育内容総論	1年	秋	演習	2	市川　舞

授業概要

「保育内容」の理解を深める。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。要領・指針に示される保育の基本と、保育の目標、「育みたい資質・能力」「保育内容」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について理解する。

子どもの生活を取り巻く社会環境の変化と保育の歴史的変遷等を辿りながら児童中心主義の考え方について理解するとともに、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。さらに、子どもの生活の実態や保育をめぐる現代的な課題と保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

到達目標(学習の成果)

・保育の全体的な構造について知り、説明できる (DP3)。
- 保育の目標と「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育内容」との関連を理解し、説明できる。(DP3)
- 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景および保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。(DP3.4)
- 保育の現代的課題に応じた多様な展開について具体的に理解し、説明することができる。(DP3.4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育内容とは:「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される保育の基本と保育内容の捉え方について学ぶ。	事前	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の目次を確認する(1時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(3時間)
2	子どもの発達と保育内容:乳幼児期の発達と生活に即した保育の基本的な考え方、保育内容の構造について理解する。	事前	事前配布課題で乳幼児期の発達過程をとらえる(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
3	保育の基本と保育内容1:一日の生活の流れと、生活や遊びにおける乳幼児の経験(学び)について理解し、乳幼児期の教育及び保育における見方・考え方について学ぶ。	事前	各年齢ごとのデイリープログラムを調べる(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
4	保育の基本と保育内容2:養護と教育を一体的に展開する保育と子どもの主体性を尊重する保育について学ぶ。	事前	保育所保育指針第1章総則2養護に関する基本的事項をワークシートに整理しておく(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
5	保育の基本と保育内容3:「環境を通して行う」「遊びを通した総合的な指導」の考え方と保育の展開、保育者の役割について具体的な場面を通して理解する。	事前	子どもの頃、熱中した遊び経験について書き起こしておく(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
6	保育の基本と保育内容4:個と集団の発達を踏まえた保育の展開について学ぶ	事前	社会性の発達についてワークシートに整理する(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
7	子ども理解と保育内容1:子ども理解の意義と子ども理解を深める方法としての観察・記録の意義や観点について学ぶ。	事前	保育の記録を用意しておく(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
8	子ども理解と保育内容2:幼児理解からはじまる保育内容の展開[実践-省察・評価(記録)-計画-実践]について学ぶ。	事前	保育の記録を用意しておく(2時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2時間)
9	子ども理解と保育内容3:乳幼児期の発達を通した指導計画	事前	要領・指針の該当箇所を読んでおく(2時間)

	の意義および作成の手順と配慮点について理解する。	事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
10	子ども理解と保育内容4:長期指導計画と短期指導計画の関係、指導計画の評価の考え方やその意義、具体的方法について理解する。	事前	指導計画を収集しておく(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
11	日々の保育と行事:子どもにとっての行事の意味を理解し、園行事の在り方について理解する。	事前	園行事について調べ、書き出す(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
12	多様な保育の展開:乳児保育、長時間保育、特別な支援を必要とする子どもの保育、多文化共生社会における保育など多様な保育の展開について学ぶ。	事前	さまざまな保育ニーズについて調べておく(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
13	家庭や地域、小学校との連携・接続:家庭・地域・園など子どもの生活の広がり、発達や学びの連続性を踏まえた小学校との連携・接続について理解する。	事前	10の姿について復習し、要領・指針の該当箇所を読んでおく。(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
14	保育内容の歴史的変遷:子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史的変遷について理解する。	事前	事前配布資料を読んでおく(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)
15	保育内容と保育者の役割:保育の基本と保育の全体的な構造について振り返り、豊かな保育内容をつくり出すための保育者の役割について考察する。	事前	これまでの授業資料を整理しておく(2 時間)
		事後	授業内容について、ワークシートにまとめる(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション　など

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内課題（記録・小レポート）：子どもの姿から保育内容を読み解く。子どもと環境との関わりや保育者の援助の意図を考察できる。授業で学習した内容を活かして自分の考えをまとめ、明確に記述する（50%）

・定期試験（論述問題含む）：授業の学習内容を理解している。授業で学習した内容を生かし、適切な用語を用いて論述している（50%）

※レポート、プレゼンテーションはコモンルーブリックを用いて評価する

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育の全体的な構造を理解し、説明できる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育内容」との関連を理解し、説明できる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程とつなげて理解する	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の多様な展開について具体的に理解する	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業内課題やレポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書

「平成 29 年告示　幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」

チャイルド本社、2018

参考書等
文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館、2018 厚生労働省「保育所保育指針解説 平成30年3月」フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月」フレーベル館、2018
履修上の注意･学習支援 ・授業内課題は、必ず指示に従って提出すること。 ・授業資料配布や課題等で使用するため、毎回の授業にchromebookを持参すること。 ・事前・事後学習については、シラバス記載とともに授業時やclassroomにて指示する。 ・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。 ・疑問・質問等は、授業中に受け付ける。またオフィスアワー等活用して、授業担当者まで相談に来ること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2202	保育内容　環境	2年	春	演習	2	桂木　奈巳

授業概要

領域「環境」の意義を捉え、その指導法の習得を目的とする。

幼稚園教育要領と保育所保育指針を踏まえ、子どもが成長する過程に置かれる環境について学習する。子どもにとって望ましい環境を考察し、身近な自然や素材に触れ、これらをどのように遊びに展開するかを演習形式で学ぶ。

到達目標（学習の成果）

- 保育内容「環境」のねらいと内容を理解することができる（DP3）。
- 保育者として子どもたちが意欲的に遊びを展開できる保育環境を整えることができるようになる（DP3）。
- 積極的に自然を保育に取り入れ、生態系の概念を踏まえて生きているものの姿を伝えることができるようになる（DP1）。
- 周囲の環境との関わりの過程で子どもの知的好奇心や探求心の芽生えを促すことができるようになる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	領域「環境」について 幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「環境」の内容を確認し、実際の保育の中での取り扱いについて学ぶ。	事前	教育要領・保育指針の「環境」を読む。（2時間）
		事後	受講後に再び蒸気を読む。（2時間）
2	現代の生活環境と保育 子どもを取り巻く環境の現状を把握し、保育者の役割について学ぶ。	事前	教科書を読む（授業時に指定した部分）。（1 時間）
		事後	現代の環境課題が保育に及ぼす影響をまとめる。（3 時間）
3	自然と遊び① 五感を使って自然を感じる。身近な自然をとりあげ、「散歩」の途中に自然とふれあう方法について実際に体験しながら考える。同時に園外保育における配慮点を学ぶ。	事前	自宅周辺の自然物を 10 探し撮影する。（2時間）
		事後	テキストのワークの解説を読む。（2時間）
4	自然と遊び② 自然の素材の種類を学ぶ。これらを使って「草花あそび」を体験する。同時に危険な植物の知識を得る。	事前	草花遊びノートを作成する。（4 時間）
		事後	
5	自然と遊び③ 自然体験をする中で様々な不思議を発見する。この実体験をもとに、子どもの内発的動機づけについて考える。	事前	草花遊びノートを作成する。（4 時間）
		事後	
6	身近な生き物との関わり① 身近な生き物である「虫」の種類、特性について採集を通して学ぶ。	事前	指定した絵本を読む。（0.5 時間）
		事後	振り返りシートを完成させる。（3.5 時間）
7	身近な生き物との関わり② 園内での動物等の飼育が子どもたちにどのような影響を与えるかを考える。また、「命」の取り扱いについて考える。	事前	生き物の命に関する事例を調べて持参する。（1 時間）
		事後	授業で学んだ内容をもとに振り返りシートを作成する。（3 時間）
8	身近な生き物との関わり③ 身近に育つ植物の種類を学ぶ。同時に危険な植物についての知識を得る。	事前	自宅周辺等の有害な生物をさがし、シートにまとめる。（4 時間）
		事後	
9	数・数量・図形との関わり 「数・量・図形」について、遊びと生活を通して接する方法について、体験を通して学ぶ。	事前	教科書を読む（授業時に指定した部分）。（1 時間）
		事後	身近な事例をシートにまとめる。（3 時間）
10	物との関わり 身近な素材の特性を知り、教材の研究を行う。	事前	教科書を読む（授業時に指定した部分）。（1 時間）
		事後	身近な事例をシートにまとめる。（3 時間）
11	活動の指導法・授業計画① 保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成する。特に自然やモノの性質に特化した内容を取り上げる。	事前	指導案を完成させる。（4 時間）
		事後	
12	活動の指導法・授業計画② 指導案に基づき、実践するための準備、練習等を行う。子どもが意欲的に活動に取り組める環境構成について考える。	事前	実践の準備を行う。（4 時間）
		事後	

13	活動の指導法・授業計画③ 指導案に基づき、実践をする。この過程で、子どもたちの探求心を引き出す工夫について考える。	事前 事後	他グループの実践を元に、自分の実践を振り返り、シートに記入する
14	活動の指導法・授業計画④ 上記の実践に対する評価を行う。改善点を見いだし、再度立案する。また、自らの課題を見つける。	事前	改善案を作成する。(1 時間)
		事後	振り返りシートを完成させる。(3 時間)
15	総括 子ども・保育者・自然の関わりについて考える	事前 事後	授業時に提示した課題に取り組む。(4 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション、制作活動

成績評価の方法・基準(%表記)
試験または課題レポート 50% 子どもと環境との関わりの意義を記述でき、保育実践につながる具体的な内容が示されているかを評価する。評価方法は「レポート評価基準」に沿って行う。
コメントシート 40% シートの8割以上記入することを義務づける。各授業のねらいと演習等により得られた考察内容を評価する。
授業参加態度 10% 演習時の積極的な参加や発言を加点する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育内容「環境」のねらいと内容を理解している(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育者として子どもたちが意欲的に遊びを展開できる保育環境を整えることができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
積極的に自然を保育に取り入れ、生態系の概念を踏まえて生きているものの姿を伝えることができる(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
周囲の環境との関わりの過程で子どもの知的好奇心や探求心の芽生えを促すことができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※ 課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。
レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

教科書
神長美津子・高柳恭子他「子どもと環境」、中央法規出版、2024

参考書等
文部科学省 「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」 フレーベル館, 2018
厚生労働省 「保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月」 フレーベル館, 2018
内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月」 フレーベル館, 2018
田尻由美子、無藤隆「子どもと環境」同文書院,2010
萌文書林編集部「子どもに伝えたい年中行事・記念日」萌文書林,2015
レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」新潮社、1996

履修上の注意・学習支援
屋外での授業時には季節を問わず、帽子、長袖、長ズボンを着用のこと。夏季には水分補給ができるように用意しておくこと。
疑問点は質問すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2203	保育内容　健康	2 年	春	演習	2	霜触　智紀

授業概要

子どもは安定した情緒のもと様々な活動に取り組み、充実感・満足感を味わいながら健康な心身を育んでいく。本授業では、健康とは何か、その意義と子どもの心身の発達の道筋について学ぶ。さらに、学生自身の生活の振り返り、討議、演習を通して、幼児期における健康な生活の意義について、様々な遊びを取り入れることや楽しく体を動かす時間の確保の必要性や、発達の特性に応じた遊びの重要性について理解を深める。

到達目標（学習の成果）

領域健康に示される内容を理解し、子ども自らが健康で安全な生活をつくり出す力を養うための保育者の指導法・役割について学び、実践に生かす。

・領域「健康」のねらい内容について基本的な知識・技能を身に着け、幼児と体を使った遊びを展開できる。（DP3）

・子どもの生活実態や心身の発達について関心を高め、様々な生活の場面で子どもへの援助ができる。（DP3）

・乳幼児期の子どもたちの学びや発達に応じた保育の方法を踏まえ、指導案を書き、模擬保育をする。（DP3）

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「保育における領域『健康』のねらい」 健康にかかわる子どもの生活実態とその背景について理解し、子どもの健康について関心を高める。	事前	領域「健康」のねらいと内容についてシートにまとめる。（1.5 時間）
		事後	幼児期から現在までの自分の生活を「健康」の内容に沿って振り返り、シートにまとめる（2.5 時間）
2	「発育発達論」 子どもの身体発達の特徴を知り、子どもにとって身体・運動が発達することの意味や体を動かすことの意義を理解する。	事前	身近にいる乳児、幼児、小学生、大人の身体について、大きさのほかにどのような特徴があるか調べる。（2 時間）
		事後	乳幼児の体の発育・発達の特徴からいくつかの視点で具体的な支援をまとめる。（2 時間）
3	「幼児期の運動」 幼児期に必要な多様な体の動きの獲得や幼児期の運動発達の特徴について理解する。	事前	幼児期から特定の運動を集中的に経験することのメリットとデメリットをまとめる。（2 時間）
		事後	「幼児期運動指針」の動画を視聴し、幼児が経験している体の動きをシートにまとめる。（2 時間）
4	「乳幼児期の健康をめぐる問題」 乳幼児期の生活をめぐる諸問題について理解を深め、体をよく動かす子どもを育てるための環境について考える	事前	乳幼児期の子どもの健康をめぐる課題を統計から調べてまとめる。（2 時間）
		事後	子どもの健康な生活を育むための環境の在り方について、自分の考えをレポートに 800 字程度にまとめる。（2 時間）
5	「他の領域及び幼少連携を視野に入れた健康の視点」 領域健康のねらい、内容や子どもの健康の考え方について理解する。また、他の領域との関係や小学校教育との関連性についても理解を深める。	事前	幼児期に経験させたい運動遊びを 3 つ挙げ、その根拠をまとめる。（2 時間）
		事後	小学校学習指導要領「体育」（第 1 学年及び 2 学年）の目標（1）（3）の内容 A を調べ、幼児期にどのようなことを経験すればよいかまとめる。（2 時間）
6	「0～2 歳児の生活と動き」 0～2 歳児の生活と動きについて画期的な発達の姿を理解する。また、生活習慣の獲得の過程について理解し、この時期ならではの特徴を踏まえた関わり方について学ぶ。	事前	0～2 歳の間の子どもができるようになる体の動きについて順番にまとめる。（2 時間）
		事後	教科書 P65 の事例から、生活習慣の獲得において保育者の大切な役割は何かレポートに 400 字でまとめる。（2 時間）
7	「0～2 歳児の生活と遊び」 0～2歳児の遊びの姿から、そこで経験していることを理解し遊びと生活、生活習慣が一体となって発達していくことについて理解を深め、その指導法に学ぶ	事前	基本的生活習慣の獲得の過程で自分の親御さんが工夫したことをインタビューしてまとめる。（2 時間）
		事後	保育所保育指針第3章2, を読んで食育についてまとめる。（2 時間）
8	「3～5 歳児の生活と動き」 3～5 歳児の生活と動き、生活習慣の獲得について具体的な姿からこの時期ならではの特徴について理解する。特に、集	事前	教科書 P59の表から0,1,2歳での生活習慣が3歳以上児の生活習慣にどのようにつながっているのかまとめる。（2 時間）

	団での生活や教育力を生かした指導法について理解する	事後	生活習慣の獲得に関して、保育者が配慮しなくてはならないことについてまとめる。(2 時間)
9	「3～5 歳児の生活と遊び」 3～5 歳児の遊びについて、固定遊具、大型遊具、小型遊具、移動遊具を使った遊びのそれぞれの特徴を理解し、遊びの展開の仕方を考える。	事前	幼少期の運動体験で楽しかったこと、つまらなかったことを思い出し、その理由について書き出す。(2 時間)
		事後	子どもの内発的な動機づけを高める運動指導の工夫をレポートで 800 字程度にまとめる。(2 時間)
10	「子どもの自主的・主体的な遊び」 子ども自らが生み出す遊びについて理解を深め、3～5 歳児の遊びの動機付けや指導のポイントについて学ぶ。	事前	3～5 歳児の集団遊びを考え、子どもが感じる楽しさをまとめる。(2 時間)
		事後	子どもが、自分たちで遊びを進めることができる場や教材を考え、ねらい、内容について書き出す。(2 時間)
11	「安全への配慮」 安全への配慮について、子どもが体験的に理解し、自らの身を守る力をはぐくむためには、保育者はどのように保育に携わるのか理解を深める。	事前	メディアで報道された乳幼児期のけがや事故について、①なぜ事故は起こったのか②事故を防ぐための方法についてまとめる。(2 時間)
		事後	子どものリスクに向き合うとき保育者の構えとして留意する点についてまとめる。(2 時間)
12	「遊具や用具、教材と発達にあわせた遊び方」 園生活のすべての場面を視野に入れ、保育を構想していくことを学ぶ。遊びに使う遊具や用具、教材についてよく知り、吟味していく態度を養う。	事前	遊具や用具、教材と発達にあわせた遊び方について 5 つ書き出し、シートにまとめる。(2 時間)
		事後	他の学生の遊びも参考に、遊びカードを作成する。(2 時間)
13	「遊具や用具、教材と発達にあわせた遊び方」 1 日(1 週間)の生活の流れや生活のリズムを考慮し、生活を組み立てていくことを理解する。活動の展開と環境の構成について理解し、実際に指導案を作成する。	事前	子どもの様子やねらい、内容をもとに、どのような遊具や用具、教材を使うか指導案に記入する。(2 時間)
		事後	予想した子供の活動をより具体的に書き直すとともに、それに対する保育者の配慮、援助も改善する。(2 時間)
14	「健康に着目した模擬保育」 子どもとの実際保育を展開し、活動の展開と環境の再構成について省察する。省察を通して保育の評価の意義やあり方について学ぶ。	事前	模擬保育を行う際の用具や遊具、教材を準備する。(2 時間)
		事後	模擬保育を行った記録から、ねらい内容とのずれを把握し、次週の環境構成を書く。(2 時間)
15	「心身の健康増進のための保育者の役割」 健康な心と体を育てるために保育者の果たす役割について理解し、実践につなげる。	事前	領域「健康」の保育所、子ども園、幼稚園における指導の問題について調べる。(2 時間)
		事後	健康な心と体を育てるために保育者の果たす役割についてレポートにまとめる。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、反転授業、模擬授業、保育の観察

成績評価の方法・基準(%表記)

提出物40%　期末試験30%　授業への取り組み30%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
領域「健康」のねらい内容について基本的な知識・技能を身に着け、幼児と体を使った遊びを展開できる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの生活実態や心身の発達について関心を高め、様々な生活の場面で子どもへの援助ができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

乳幼児期の子どもたちの学びや発達に応じた保育の方法を踏まえ、指導案を書き、模擬保育をする。（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書
河邉貴子編著、「演習「保育内容　健康」 ―基本的事項の理解と指導法―」、建帛社、2020、1,760 円
参考書等
文部科学省、「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館、2018
厚生労働省、「保育所保育指針」、フレーベル館　2018
文部科学省「幼児期運動指針」https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm

履修上の注意・学習支援
日頃から幼児などの体の動かし方、基本的な生活習慣の身に付け方などを観察し、記録しておくこと。
事前事後学習は毎回提出すること。提出期限は守ること。
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
何かわからないことがあったら、授業担当まで早めに相談すること。
質疑応答はオフィスアワーを利用すること。またはメールアドレスに連絡・相談すること。
メールアドレス shimofure@kyowa-u.ac.jp

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要] [実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2204	保育内容　言葉	２年	秋	演習	２	小野　貴之

授業概要
保育内容　言葉は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指す。乳幼児期は言葉を獲得する基礎を培う大切な時期であり、能動的に自分で言葉を獲得し使おうとしている等、言葉を獲得していく実際の過程に目を向け、その過程を明らかにしていく。言葉は生活の中で育っていくことを理解し、そのための乳幼児にふさわしい生活の在り方を学ぶ。

到達目標(学習の成果)
・乳児期から繋がる領域「言葉」のねらい及び内容を理解し説明ができる(DP3)。
・乳幼児が経験を通して身に着けていく内容と保育の留意点を理解し実践に結び付けることができる(DP3)。
・「言葉」に関わる具体的な場面を想定し、指導案を作成することができる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	乳幼児の豊かな言葉が育つための領域: 領域「言葉」の全体像を掴む	事前	子どもの言葉に触れた経験をまとめておく(2 時間)
		事後	授業内で示された子どもの事例を言葉のねらいから分析しレポートを書く。(2 時間)
2	乳児期の言葉の発達過程① ヒトのコミュニケーションの特徴について学ぶ	事前	０歳から６歳の乳幼児のコミュニケーションについてシートにまとめる。(2 時間)
		事後	本日の学びの内容をニュースレターにまとめる。(2 時間)
3	乳児期の言葉の発達過程② 言葉の発達の個人差について理解する	事前	教科書第 2 章 P19-32 にある事例について、言葉を視点として発達の課程を考えシートにまとめる。(2 時間)
		事後	本日の学びの内容をシートにまとめ、振り返る。(2 時間)
4	幼児期の言葉の発達過程② 言葉の楽しさや美しさへの出会いについて知る	事前	教科書第 3 章 P45-55 にある事例について子どもの言葉の発達過程をシートにまとめる。(2 時間)
		事後	課題)実際に聞いた子どもの言葉について事例をまとめる(2 時間)
5	幼児期から児童期の言葉 言葉による伝え合い、幼児期の読み書きについて学ぶ	事前	教科書第 5 章 P105-112 から、教師の援助の概要をまとめる。(2 時間)
		事後	課題)文字による伝え合いにかかわる教師の援助について重要なポイントを3つにまとめる。(2 時間)
6	保育者の専門性と言葉 子どもの遊びや学びを支える保育者の援助について考える	事前	教科書第 4 章 P73-81 を読む(1 時間)
		事後	「お話」を考え、レポートを作成する (3 時間)
7	保育環境と言葉 伝え合う言葉を育むための保育環境について考える	事前	教科書第 4 章 P99-102 を読む(1 時間)
		事後	絵本についてのレポート作成 (3 時間)
8	保育と児童文化財① 児童文化財の種類とその特徴を知る	事前	「児童文化財」の種類を予習する(2 時間)
		事後	指定の材料で文化財を制作する(2 時間)
9	保育と児童文化財② オリジナルの児童文化財を制作する	事前	指定の材料で文化財を制作する(2 時間)
		事後	指定の材料で文化財を制作する(2 時間)
10	保育内容と指導案 オリジナルの児童文化財を使った指導案を考える	事前	文化財を制作し発表練習をする(2 時間)
		事後	制作物と指導案の振り返りを行う(2 時間)
11	遊びと生活のなかの保育 園での子どもの言葉を知る	事前	「子どもの言葉」の配布資料①を読む(2 時間)
		事後	「子どもの言葉」の配布資料②を読む(2 時間)
12	言葉についての配慮や支援 一人ひとりの特性に応じた配慮について理解する	事前	教科書第 7 章 P157-162 を読む(1 時間)
		事後	課題)配慮と支援についてのレポート作成 (3 時間)
13	保育計画と評価 全体的な計画から個別の指導計画まで作成の流れと配慮点	事前	教科書 P208-209 を読む(1 時間)

	を学ぶ	事後	課題）発達に応じた保育内容についてのレポート作成（3 時間）
14	保育の現代的課題と「言葉」 子どもが育つ社会の変化に応じた援助について学ぶ	事前	教科書第 8 章 P177-180 を読む（1 時間）
		事後	課題）事例に対する感想レポート（3 時間）
15	保育者の関わりと言葉 保育者の言葉の重要性を考える。	事前	保育者の関りと言葉について考えをまとめておく（1 時間）
		事後	課題）事例に対する感想レポート（3 時間）

授業形式（アクティブラーニングの内容）
グループワーク、児童文化財の制作、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準（%表記）
・児童文化財の演習３０％（対象に応じた計画性、題材の選択と実践力）
・課題・レポート４０％（乳幼児期の言葉の発達等学習内容を要約し自らの考えを表明できる）
・指導案作成や模擬保育の実践力３０％（積極的な取り組み）

成績評価の基準 ：
　各レポート、グループワークについては、コモンルーブリック評価基準を用いる
その他の演習等に関する評価基準

観点	S	A	B	C
乳幼児が経験を通して身につけていく内容と保育の留意点を理解し実践に結び付けることができる（DP1.3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
「言葉」に関わる具体的な場面を想定し、指導案を作成することができる。（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
　大豆生田啓友 佐藤浩代編著 言葉の指導法 改訂第 2 版『』2019 年 玉川大学出版部
参考書等
　文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」

履修上の注意・学習支援
配布する資料やプリントをファイルしておくこと。講義で指摘する重要な事項を聞き逃さないように集中力を保ち、講義内容のポイントはノートに書き取ること。
課題は指定された期日までに必ず提出すること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
認定こども園 保育教諭（3年）
幼稚園 教員（3年）
茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画、内容の検討を行う。（2年）

[実務経験と授業科目との関連性]
子どもの遊びの研究において、幼児の言葉や行動に焦点を当てて事例を収集し、保育の在り方や教師の援助を考察した。
ICT の研究において、ICT 機器の活用によって子どもが新たな発見や自分の思いを言葉にして表現しやすくなることを考察した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2205	保育内容　表現	２年	春	演習	2	月橋　春美

授業概要

本授業の趣旨は、子どもの人間的な育ちに大切な感性を豊かに育てるとともに、感じたことや考えたことを楽しむ意欲を養い、創造性を培うことである。また、本授業では，保育者役の学生が、音楽・造形・身体表現を取り入れた遊びを設定・模擬保育を行い、保育者視点から幼児の表現力を高める環境構成や言葉掛けを学ぶ。一方で子ども役の学生は、子ども視点で、歌う、演奏する、遊ぶ、演じる、作るなど、さまざまな表現の方法を知り、表現力を高める。これら両視点の実践体験と振り返りを行うことで、保育に携わる専門家として、表現の場を多彩に展開できるような資質と能力を育てる。

到達目標(学習の成果)

・表現における幼児の思いや気付き心の動きなどを読み取り、領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力との関連について理解している（DP4)。

・年齢や発達（心情、認識、思考及び動き等）に応じ，幼児の素朴な表現を生かした保育を想定した指導案の作成・模擬保育・評価（振返り）を行い，幼児の表現がより豊かになったり深まったりするような環境の構成や言葉掛けについて知っている（DP3)。

・幼児期の表現の学びには、小学校の音楽科・図画工作科だけでなく、国語・算数・生活・体育など多教科にわたる教科内容につながりがあることを知っている（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	幼児期の表現の特性 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、幼児の世界に関心をもつ。	事前	領域「表現」のねらいと内容についてまとめる(2 時間)
		事後	幼児期の自分の表現活動の特徴をまとめる(2 時間)
2	表現の多様性と生成の過程 様々な表現を体験することを通し、表現の多様性について知る。また、表現を生成する過程について、学生自身の体験を通して分析する。	事前	身近にいる幼児の表現活動の特徴について調べる(2 時間)
		事後	表現の多様性についてまとめる(2 時間)
3	「におい」をテーマにした音楽・造形・身体表現 嗅覚を通し、身近な素材を用いた表現活動に取り組み、子ども主体の保育活動における，その面白さや可能性、重要性を説明する。また保育者の立場から「におい」の成分と性質について知り，安全な取扱い方法，保存方法等を理解する。	事前	身近にある「におい」の種類について調べる(2 時間)
		事後	「におい」をテーマにした表現活動の面白さと安全面におけるポイントをまとめる(2 時間)
4	「対話」をテーマにした音楽・造形・身体表現 生活と文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構成し表現したりする。	事前	身近にいる幼児の「会話」から、子どものイメージについてまとめる(2 時間)
		事後	生活と文化における様々な表現についてまとめる(2 時間)
5	「動物」をテーマにした音楽・造形・身体表現 動物園の環境を設定し，幼児がなぜ動物園に興味や関心をもつのか理解し、その環境での感性的な出会いや思いを，意図をもって音楽での表現方法，造形を通しての表現方法，身体を使っての表現方法で楽しめる環境の構成を考える。	事前	動物を一つ選び、その動物の動きや特徴について調べる(2 時間)
		事後	動物をイメージした身体活動を考える(2 時間)
6	「水あそび」をテーマにした音楽・造形・身体表現 「水」という身近な物質への，年齢や発達段階で生じる興味の観点の違いを知り，年齢や発達に応じた幼児の素朴な表現を生かした保育構想を指導案に取り上げる。	事前	幼児期の自分の「水あそび」についてまとめる(2 時間)
		事後	「水」に対する幼児の興味・関心についてまとめる(2 時間)
7	「協同」をテーマにした音楽・造形・身体表現 幼児の協同的な表現を育むための、様々な素材を活用した表現活動に関する園内外の取組を紹介し、幼児の表現活動について様々な視点から考える。また，協同の中で生じる幼児のつまずきとすれ違いに対する保育者の言葉掛けや環境工夫による援助技術を学ぶ。	事前	「協同とは」について調べる(1時間)
		事後	「協同」の中で生じる幼児のつまずきやすれ違いの事例について調べる(3 時間)

8	「さわる」をテーマに学生主体の模擬保育1 自然物や人工物へ「さわる」活動を通し、保育者役の学生は，触覚をテーマにした保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う。	事前	「さわる」をテーマにした幼児の活動を考える(2 時間)
		事後	「さわる」活動における、子どもの気付きについてまとめる(2 時間)
9	「光と色と音」をテーマに学生主体の模擬保育2 幼児が美しいものに心を動かしている姿に気付き、幼児自身のイメージをより豊かにする環境の構成や言葉掛けについて考えるための保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う。	事前	幼児にとって「美しいものとは」について考える(2 時間)
		事後	「光と色と音」をテーマにした活動を考える(2 時間)
10	「伝承遊び」をテーマに学生主体の模擬保育3 幼児が伝承遊びのおもちゃをつくって遊ぶことを通して，伝承遊びにこめられた様々な表現力を感じたり，そのイメージを再構成し表現したりすることを，保育者の視点と子どもの視点から学ぶ。	事前	幼児期に自分が体験した「伝承遊び」についてまとめる(2 時間)
		事後	さまざまな伝承遊びについてまとめる(2 時間)
11	「鬼ごっこ」をテーマに学生主体の模擬保育4 鬼ごっこを通して，「協同性」や「言葉による伝え合い」の育ち、「思考力の芽生え」等、他領域との関連も含めた保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う。	事前	幼児期に自分が体験した「鬼ごっこ」についてまとめる(2 時間)
		事後	「鬼ごっこ」の効果についてまとめる(2 時間)
12	「素材あそび」をテーマに学生主体の模擬保育5 乳幼児の日常生活から，表現の育ちについての観察力をつけるために，触覚，嗅覚，味覚を通したあそび方の違いを学ぶ。なお，模擬保育の構想前に各年齢における関わり方を ICT を活用して，乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を調べ，表にまとめて説明する。	事前	「素材あそび」について調べる(2 時間)
		事後	乳幼児のあそび方の違いをまとめる(2 時間)
13	「劇あそび」をテーマに学生主体の模擬保育6 幼児の表現したい気持ちを大切にし、さらに意欲的に表現活動に取り組める工夫として、幼児の表現がより豊かになったり深まったりするような，劇あそびをめざした模擬保育を行う。	事前	幼児期の自分が体験した「劇あそび」についてまとめる(1 時間)
		事後	グループの仲間と協力して、「劇あそび」の台本を考える(3 時間)
14	子どもとあそぶ実演・交流会1 保育者が得意とする演技・教材で，子どもとあそぶ実演会・交流会を開く。幼児の創造的な表現力を育むことを意識し，保育者志望の学生自身の表現力を育む。	事前	「劇あそび」の発表の準備を行う(2 時間)
		事後	「劇あそび」の発表の準備を行う(2 時間)
15	子どもとあそぶ実演・交流会2　劇あそびの発表を行う。	事前	「劇あそび」の発表の準備を行う(2 時間)
		事後	「劇あそび」を振り返る(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、創作活動・発表、模擬授業

成績評価の方法・基準(%表記)
・レポート 40%(課題に対応した内容が論理的に述べられているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる)
・発表 40%(グループで創作した作品を、表現力豊かに発表できているかを評価する)
・授業への取り組み 20% (授業時の積極的や発言や取り組みを評価する。グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力との関連について理解している (DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
幼児の素朴な表現を生かした保育を想定した指導案の作成・模擬保育・評価(振返り)を行うことができる (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
幼児期の表現の学びには、多教科にわたる教科内容につながりがあることを知っている (DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※ 課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
授業時に、資料を配布
参考書等
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本)」株式会社チャイルド本社、2015 年
堂本真美子編『保育内容 領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現』わかば社 2018 年
池田裕恵・猪崎弥生著『保育内容「表現」ーからだで感じる・表す・伝えるー』事例で学ぶ保育内容領域表現』萌文書林 2007 年

履修上の注意・学習支援
演習の際には、指定された服装(シューズも含む)を着用すること
疑問点は授業担当に質問すること

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19H2206	保育内容 人間関係	2年	秋	演習	2	杉本太平・小倉庸寛

授業概要

保育内容「人間関係」では、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることをねらいする。また、幼児の発達に即した主体的で対話的な学びのプロセスを通して、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び背景となる乳幼児期に育みたい資質能力や他の専門領域と関連させて理解を深める。さらに、子ども集団の中における乳幼児の「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」という、領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。

到達目標

・乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する(DP3)。
・乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する(DP3)。
・幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する(DP3)。
・幼児の発達や学びの過程を理解し、実践から得た学びを掘り下げ、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想に生かせる力を身につける(DP1.3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	1950年代以降の変化と事例をもとに、幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を学び、人と関わる力の育ちがその後の人生の基盤になることを理解する。(杉本)	事前	日本の近代化以降の社会的な変化と新たな家族問題について、学んだことを整理し、特にメディア問題についてまとめる。(4時間)
		事後	
2	幼稚園教育要領や指針等における基本と領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造や留意点を理解する。(杉本)	事前	幼稚園教育要領解説 P167－P192 を読んでおく。(2時間)
		事後	授業で学んだことを整理する。(2時間)
3	子育て支援の事例をもとに、乳児期の人と関わる力の基盤となる周りの大人との愛着や基本的信頼感の形成の重要性やこころの自律などの発達のプロセスを理解する。(杉本)	事前	乳児期の愛着について他科目での学びを復習しておく。(2時間)
		事後	乳児期の心の自律に向けた保育者としての支援を整理する。(2時間)
4	自然と関わる遊びや自然素材を使った遊びの例を通して、遊びや生活の中でのものと関わりや、人と関わる力（教師と幼児・友達関係・集団関係）の育ちの意義を考える。(杉本)	事前	自身の幼児期の遊びのエピソードから、遊びを通した育ちを考える。(2時間)
		事後	遊びの中の育ちについて、学んだことを整理し、まとめる。(2時間)
5	集団の中で見られる具体的な幼児の姿から、幼児の自立心の形成、幼児同士の関係を援助する保育者の働きかけについてエピソードから学ぶ。(小倉)	事前	エピソード記録とその意義について、考える。(1時間)
		事後	エピソード記録からの学びをまとめる。(3時間)
6	3歳未満児が大人や他児と親しみながら、モノをどのように共有しているかについて、映像を通して関係性の発達と保育者の働きかけについて学ぶ。(小倉)	事前	「イヤイヤ期の子ども」についてイメージを沸かせておく。(2時間)
		事後	保育者との信頼関係はどのようにして育つのか整理する。(2時間)
7	幼児の仲間意識形成と、協同する存在へと変容する過程を理解し、保育者の役割を考える。(小倉)	事前	幼稚園教育要領解説 P176、P186 を読んでおく。(2時間)
		事後	学んだ事例をもとに「協働性」と「協力・協調」との相違について考えをまとめる。(2時間)
8	幼児は仲間と共に生活する中で様々な葛藤体験を味わう。葛藤体験の中で育つ規範意識の芽生えや	事前	乳幼児期から小学校段階までの規範意識の発達について調べておく。(2時間)

	社会性の育ちなどについて理解する。(小倉)	事後	幼稚園教育要領解説 P177、P190 を読み、保育者の役割をまとめる。(2 時間)
9	保育者や友達と関わる中で、幼児は喜怒哀楽の感情を体験する。感情の表現や抑制の発達と感情調整の発達の過程について理解する。(小倉)	事前	乳幼児期から小学校段階までの道徳性の発達について調べておく。(2 時間)
		事後	幼稚園教育要領解説 P179、P188 を読み保育者の役割をまとめる。(2 時間)
10	トラブル場面で子どもが体験していることへの理解を深め、子どもにとってプラスの体験に変えていく保育者のかかわり方について具体的に学ぶ。(小倉)	事前	実習体験をもとに幼児のトラブル場面のエピソードをまとめる。(2 時間)
		事後	論文「保育者はトラブルにどうかかわっているか」を参照し、保育者の援助についてまとめる。(2 時間)
11	集団の中での自己発揮が困難な子ども、友達とのかかわりが困難な子どもなどについての理解を深め、多様な指導の在り方について学ぶ。(小倉)	事前	実習体験をもとにかかわりが困難な子どものエピソードをまとめる。(2 時間)
		事後	友達の考えを参照し、多様な援助がある事についてまとめる。(2 時間)
12	人とのかかわりを育てるための保育の計画(指導計画・環境構成・指導案の作成)や保育者の役割について学ぶ。(小倉)	事前	6 回から 11 回で学んだ具体的な事例を手掛かりに人間関係の発達を自分なりに説明できるようにする。(2 時間)
		事後	幼稚園教育要領解説 P182～P185 を読んで人間関係を育てる大人の役割について整理する。(2 時間)
13	人とかかわる力は様々な人々とかかわることによって育まれる。同年齢集団、異年齢集団、小・中学生、地域の人々などとの交流の具体例からその在り方や保育者の役割について学ぶ。(小倉)	事前	観察実習でのエピソードや学びを整理する。(2 時間)
		事後	エピソード報告やグループディスカッションからの気付きをまとめる。(2 時間)
14	子どもの育ちを支える上で保護者と保育者が互いの良さを理解しあいその役割を意識しあうことが大切であることを理解し、保護者と保育者の協同的な関係づくりについて学ぶ。(杉本)	事前	保護者とのかかわりについて観察実習でのエピソードや学びを整理する。(2 時間)
		事後	保護者と保育者の協同的な関係づくりについて、学んだことを整理する。(2 時間)
15	ティーム保育の具体的事例を通して、保育者同士が連携することの子どもにとっての意義や保育者の成長にとっての意味について理解を深める。(杉本)	事前	ティーム保育について観察実習でのエピソードや学びを整理する。(2 時間)
		事後	より良い保育同士の連携のために、必要なこととは何か、学びを整理する。(2 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

保育場面の具体的なエピソードについてグループディスカッションする。

成績評価の方法

・毎時実施する演習課題の提出　60%

様々な事例から幼児理解を深め、多様な指導のあり方について理解し、自分なりの考えをまとめる。
幼稚園や保育所での人間関係を育む場面への理解を深める。

・小テスト(各担当者で 2 回) 40%

保育における子どもの人とかかわる力の捉えや基盤について理論的に理解する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもを取りまく人間関係をめぐる現代的課題を理解する(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児時期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

	具体的なエピソードや保育実践を掘り下げ、整理・省察し、保育を構想できる力が身につく(DP1.3.4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。毎回担当教員が作成した資料を配布する。

参考書等

・無藤隆・岩立京子編著「事例で学ぶ保育内容＜領域＞人間関係」　萌文書林　2007 年
ISBN978-4-89347-097-3
・文部科学省「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」ひかりのくに株式会社 2015 年
・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2018 年
・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館　2018 年
・春原由紀編著・杉本太平共著『精神保健』　樹村房　2005 年

履修上の注意・学習支援

・幼稚園教育要領解説を熟読し授業に臨み、教育用語を使って語れるようにする。
・教科書で次回の学習範囲を指定するのでよく読んで、わからないことはそのままにせず質問をすること。
・配布物、ノートなどを用いて、理解したことを整理して、小テストに臨むこと。
・子どもの人と関わる力について各自が発展させて考えられるよう他の授業科目と関連させてとりくむこと。
・課題は課題名・番号・氏名を書いた表紙をつけて作成し、必ず期限内に提出すること。
・何かわからないことがあったら、授業担当まで早めに相談すること。

実務経験のある教員による授業科目

（杉本太平）
[実務経験の概要]
1. 文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
2. 埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）としての心理職実務
3.文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会での講師
[実務経験と授業科目との関連性]
　心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ･ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健ー子どもと家族の援助のためにー」を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授できる。
（小倉庸寛）
[実務経験の概要]
幼稚園教諭として 10 年間、幼稚園副園長として 5 年間、認定こども園長を 7 年間、保育園長を 2 年間勤務し、保育全般、保護者への対応、地域との連携・交流活動、地域の子育て支援、地域の幼稚園教員の研修の場の提供等の実務を経験してきた。
栃木県幼稚園連合会の常任理事や研究委員として、教員のキャリアアップのための研修の企画及び、その講師等を務めた。
[実務経験と授業科目との関連性]
幼稚園での実務経験は、本科目分野（保育方法論・保育者論・保育内容基礎演習等）との関連性は極めて高く、子どもの実態や環境構成、具体的なかかわり方等について具体的な内容の講義が実施できる。
栃木県幼稚園連合会での経験は、県内幼稚園の実情を熟知することとなり、教育実習指導、保育教職実践演習等の授業科目においては学生と各園とのパイプ役となり実習や実践をコーディネートすることが可能である。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H3207	保育指導法Ⅰ	3 年	秋	演習	1	宮里暁美・永田文子・中山早苗・田渕光与

授業概要

・幼稚園・保育園・認定こども園での多様な保育方法について学ぶ。
・実際の子どもの生活や遊び・行事、また小学校との連携などを事例や映像を通して理解し、実際の保育現場の取り組みと合わせて考察する。
・保育の形態の違いや様々な指導法があることを理解する。
・子ども理解・環境構成・教師の援助など、これまで学習した知識・技術を実際の保育実践とつなげて考察し、自己課題を明確にしていく。

到達目標(学習の成果)

・幼稚園・保育園・認定こども園の保育を、これまで学習した知識・技能を土台により深く理解することができる(DP4)。
・幼児期の終わりまでに育てたい姿や育てたい資質・能力を捉えられるようになる(DP3)。
・園内外の環境の活用と、指導計画や子どもの姿に即した環境構成と援助の実際を理解できるようになる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	授業計画・到達目標・評価について DP とのかかわりを踏まえ、科目の到達目標を知る。多様な保育方法と計画的な環境構成について理解をする　(田渕)	事前	多様な保育方法について調べてまとめる。
		事後	環境の構成についてレポートを作成する(1時間)
2 3	環境を通して行う保育 実践事例を基に、日々の保育を、環境を通して行うことの意味を学ぶ　(中山)	事前	幼稚園教育要領解説の指定箇所P28～P49、P248～259 を読み内容を理解する(1 時間)
		事後	ワークシート:2・3回目分を作成する(1 時間)
4 5	幼児理解とその方法 実際の記録やエピソードから、遊びを通した指導の過程と幼児の変容を捉え、幼児理解の方法を学ぶ　(中山)	事前	幼稚園教育要領解説の指定箇所P96～P123 を読み理解する(1 時間)
		事後	配布資料を読む(1 時間)
6	指導計画の特徴と実際(長期・短期)環境構成・教材研究 遊びや生活を通して幼児が育っていく道筋に見通しをもち、発達の各時期にふさわしい指導計画と環境構成を学ぶ (中山)	事前	幼稚園教育要領解説の指定箇所P96～P123 を読み理解する　(0・5 時間)
		事後	レポートを作成する(0.5 時間)
7 8	保育者の役割と求められる専門性・子どもを尊重する保育 実際の保育の様子の動画を視聴したうえで、保育者としての専門性を考える。さらに、「尊重」を考える。　(永田)	事前	教育・保育要領解説の指定個所を読み、理解する
		事後	レポートを作成する(1 時間)
9 10	指導計画・子ども理解・環境構成・教材研究等 実際の園の様子を動画で見ながら、環境構成の意味やこどもの育ちの姿に理解を深める　(永田)	事前	教育・保育要領解説の指定個所を読み、理解する
		事後	レポートを作成する(1 時間)
11	園の実践を踏まえて、子どもを中心とした地域との関わりやこども園としての地域のなかでの役割・機能を学ぶ　(永田)	事前	レポートを作成する(0.5 時間)
		事後	レポートを作成する(0.5 時間)
12 13	様々な指導法の理解 特色ある園の実践から、地域に開かれた教育課程について学ぶ　(宮里)	事前	配布資料を読む(1 時間)
		事後	レポートを作成する(1 時間)
14 15	幼児期の教育が果たす役割 幼児期の終わりまでに育てたい姿を実際の子どもの姿から学び、幼小接続について学ぶ。　(宮里)	事前	配布資料を読む(1 時間)
		事後	学びのまとめを、見える化する(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・ワークシートの提出・内容　80%
・授業への取り組み　20%　課題の未提出については減点をおこなう。
・ワークシートの評価には、コモンルーブリック評価基準をも用いる。
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
幼稚園・保育園・認定こども園の保育を、これまで学習した知識・技能を土台により深く理解することができたか、ワークシートやパフォーマンスで評価する(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
園内外の環境の活用と、指導計画や子どもの姿に即した環境構成と援助の実際を理解できたかワークシートや授業内の活動から評価する(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
提出物については、評価し、コメントをつけて返却する。
全体にかかわるものについては、次の授業冒頭で、全員に口頭でフィードバックする。

教科書
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成 30 年 3 月」、フレーベル館、2018、
厚生労働省「保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月」、フレーベル館、2018
文部科学省「幼稚園教育要領解説　平成 30 年 3 月」、フレーベル館、2018

参考書等
無藤隆・大豆生田啓友、「新しい指導計画の考え方」、フレーベル館、2019
無藤隆、「10 の姿プラス５・実践解説書」、ひかりのくに、2018
神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎、「保育方法論」、光生館、2018
高山静子、「改訂保育者の関わりの理論と実践　教育と福祉の専門職として」、エイデル研究所、2021
宮里暁美・田島大輔・中村、「「ずれ」を楽しむ保育　子どもの思いが輝く遊び・生活」他　中央法規、2024

履修上の注意・学習支援
・止むを得ず欠席・遅刻する場合は、大学事務局又は担当教員に必ず連絡すること。
・何かわからないことがあったら、授業担当まで早めに相談すること（メールアドレス　）
・提出物は期限までに必ず提出する。提出期限を過ぎた場合は減点とし、課題未提出の場合は、評価不可能なため 0 点とする。
・Google Classroom を持参すること。

務経験のある教員による授業科目

中山　早苗
[実務経験の概要]
幼稚園(クラス担任16年)、保育園(副園長1年、園長3年)認定こども園(園長3年)として勤務。

[実務経験と授業科目との関連性]
幼稚園クラス担任として、幼児理解に基づき、環境を通した保育を実践した。
保育園長、幼稚園長として、園の実態に合わせた指導計画の見直しや園行事の見直しを行った。

永田　文子 ［実務経験の概要］ 宇都宮大学教育学部附属幼稚園において非常勤教諭、学校法人さくら学園において教諭、副園長、園長を歴任 ［実務経験と授業科目との関連性］ 幼稚園教諭(保育教諭)として現場で行う教職員の責務の整理 副園長、園長として幼保連携型認定こども園の管理職の責務の整理を行いながら、実際の保育計画や記録・振り返りの作成、園内外研修等の企画・運営その他保育者育成の実務を行っている。
宮里　暁美 ［実務経験の概要］ 幼稚園（クラス担任・副園長）、保育園（副園長・園長）、認定こども園（園長）として勤務。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 幼稚園・保育園・認定こども園での多様な保育方法の実際について講義 子ども理解・環境構成・教師の援助の在り方について、実際の経験をもとに、具体的に講義、学生に助言 保育の形態の違いや様々な指導法があることについて、多様な園の在り方についての情報をもとに、学び合う機会の提案

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H4208	保育指導法Ⅱ	4年	春	演習	1	田渕　光与

授業概要

保育指導法Ⅰに続いて、1 年生から 3 年生までに学んだ保育の基礎知識を基に、実際の現場で応用することのできる保育実践力を養うことを目的としている。4年春学期に予定されている教育実習（本実習）に向け、幼児理解に基づく教材研究を行い、指導計画立案、模擬保育、保育の評価、改善のサイクルを経験し、実際の保育に備える。模擬保育の体験を通して、子どもの発達と模擬保育が適切であったか、分析と客観化を図る。個人ないしはグループ討議による演習活動を中心に授業を進める。

到達目標（学習の成果）

・子どもの発達をもとに日々の保育があることを念頭において、様々な視点で教材を研究し、環境を構成することができる（DP3）。
・指導案を構想する中で、子どもに育てたい資質・能力と関連付けてねらい、内容を導き出すことができる（DP4）
・模擬保育を通して、環境構成と子どもの興味・関心のマッチングを評価し、指導案を改善することができる（DP4）。
・子どもとともに行事を作り上げる過程を体験し、普段の生活で育った力が、生活の節目となる行事でどのように発揮されるのか、その関連について述べることができる（DP3.4）。
・様々な園の教育方針、教育観、子ども観と多様な保育指導法について理解を深め、配属園を想定した指導案を立てることができる（DP3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	紙袋について教材研究し、グループで遊びを発展させる。	事前	紙袋でどのような遊びができるか、3, 4, 5歳児の 6 月を想定してシートにまとめる。（1 時間）
		事後	子どもはどのように遊びを発展させていくか、予想を立て、書き出す（1 時間）
2	6月の3, 4, 5歳児の発達を踏まえ、ねらい、内容を導き出し、指導案を作成する。	事前	6 月の 3, 4, 5 歳児の「環境」とのかかわりと人間関係の発達をシートにまとめる。（1 時間）
		事後	時系列型指導案を環境構成図型指導案へ、環境構成図型指導案は時系列型指導案へ書き直してみる。（1 時間）
3	実習配属先の保育形態や地域や家庭との連携、職員間の連携、園の情報発信など、観察実習での経験も想起しながら理解し、本実習での保育方法についてグループで討議する。	事前	配属先の教育理念や保育形態などの情報を、紙媒体を中心に集める。（1 時間）
		事後	日本の幼児教育の保育方法を調べその特徴をシートにまとめる。（1 時間）
4	模擬保育をもとに、発達を踏まえた教材研究、環境構成、指導・援助、ねらい、内容について振り返りをし、遊びの充実に向けて保育の改善を図る。（1）	事前	模擬保育の指導案に、予想される活動を記入する。（1 時間）
		事後	模擬保育の振り返りをもとに、ねらい内容、環境構成、指導・援助などについて改善を加え、自分の指導案を完成させる。（1 時間）
5	模擬保育をもとに、発達を踏まえた教材研究、環境構成、指導・援助、ねらい、内容について振り返りをし、遊びの充実に向けて保育の改善を図る。（2）	事前	模擬保育の指導案に、予想される活動を記入する。（1 時間）
		事後	模擬保育の振り返りをもとに、ねらい内容、環境構成、指導・援助などについて改善を加え、自分の指導案を作成する。（1 時間）
6	模擬保育をもとに、発達を踏まえた教材研究、環境構成、指導・援助、ねらい、内容について振り返りをし、遊びの充実に向けて保育の改善を図る。（3）	事前	模擬保育の指導案に、予想される活動を記入する。（1 時間）
		事後	模擬保育の振り返りをもとに、ねらい内容、環境構成、指導・援助などについて改善を加え、自分の指導案を作成する。（1 時間）
7	模擬保育をもとに、発達を踏まえた教材研究、環境構成、指導・援助、ねらい、内容について振り返りをし、遊びの充実に向けて保育の改善を図る。（4）	事前	模擬保育の指導案に、予想される活動を記入する。（1 時間）
		事後	模擬保育の振り返りをもとに、ねらい内容、環境構成、指導・援助などについて改善を加え、自分の指
8	模擬保育をもとに、発達を踏まえた教材研究、環境構成、指	事前	導案を作成する。（2 時間）

	導・援助、ねらい、内容について振り返りをし、遊びの充実に向けて保育の改善を図る。(5)	事後	模擬保育の振り返りをもとに、ねらい内容、環境構成、指導・援助などについて改善を加え、自分の指導案を作成する(1 時間)
9	本実習の体験を整理し、保育指導法について各自の課題を明確にし、以後の学習テーマを決める。	事前	5 回の教育実習を振返って、子どもと、保育者と、保護者と、地域との様々な場面のエピソードを書く。(1 時間)
		事後	学習テーマに沿った課外学習の計画を立てる。最終回にリポート発表(PP)(1 時間)
10	生活発表会を作ることを想定し、「スイミー」を読み、子どもがイメージを表現することを体験する。(1)	事前	スイミーで劇あそびをすることを想定し、長期の指導計画を立てる。(3 時間)
		事後	場面 1 で子どもが受け取る物語の世界を絵と言葉でシートにまとめる。(1 時間)
11	生活発表会を作ることを想定し、「スイミー」を読み、子どもがイメージを表現することを体験する。(2)	事前	場面2の背景画を A#用紙に描く。(1 時間)
		事後	表現を引き出すためのポイントをシートにまとめる。(1 時間)
12	グループごとに子どものイメージを表現に引き出すための指導について考える。	事前	子どもたちの話し合いを想定し、子どもたちの発言を生かすポイントをまとめる。(1 時間)
		事後	劇あそびに必要な小道具と必要な材料を書き出す。予算化もしてみる。(1 時間)
13	絵本「スイミー」をテーマに子どもたちと共に、発表会を作り上げていく過程を模擬保育する。	事前	教師の言葉かけやこどもの要求など、具体的に予想し、指導案に書く。(1 時間)
		事後	子どもが表現することで得ているもの、育っていることをシートにまとめる。(1 時間)
14	発表会に至る保育の過程について振り返り、計画を改善する。	事前	絵本からイメージを沸かせて表現する過程の指導のポイントをまとめる。(1 時間)
		事後	表現活動における保育のポイントをPPにまとめる。(1 時間)
15	指導法について、自分の課題をどのように解決していくか、レポートを発表しあい、他の学生の取り組みで、自分に有効であると思われることを取り入れる。	事前	実践的に役立つボランティア活動などを調べる。(1 時間)
		事後	子どもの発達のとらえ方、教材の考え方、環境構成、保育の振り返り、改善、行事の指導法で学んだことをレポートにまとめる。(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション、模擬保育、課題解決型学習、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・学習シートの内容　30%
・表現活動への参加とパフォーマンスの質　30%
・課題追及のレポート内容　40%
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
発達に応じて多様な視点で教材研究を行い、環境を構成することができたか (DP3)	すべての点で目標より優れていた	目標より、優れている箇所が見られた	目標に到達している	もう少しで目標に到達する
子どもの生活する姿や時期の発達の姿を想定して、ねらい、内容をしっかり押さえ、指導案を作ることができる。(DP4)	すべての点で目標より優れていた	目標より、優れている箇所が見られた	目標に到達している	もう少しで目標に到達する

授業中のグループ討議には、適切な助言を行い、指導案や教材研究シートには、コメントを入れ返却する。指導案や教材研修で全体に啓発するような内容があれば、授業冒頭でフィードバックを行う。

教科書 　神長美津子「教育課程論」 中央法規　2025 年(保育・教育課程論で使用したもの) 　文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成 30 年　フレーベル館 　厚生労働省 「保育所保育指針解説」平成 30 年　フレーベル館 参考書等 　レオ＝レオニ 「スイミー」 好学社　2020 年
履修上の注意・学修支援 ・同時期に開催されている「保育内容総合演習Ⅳ」と連携して授業しているので、関連をとらえて理解していくようにすること。 ・乳幼児を観察する機会をとらえて、発達の理解に努めること。 ・乳幼児関連のボランティア活動に参加することが望ましい。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要] 小学校教員(18年)副校長(3年)校長(2年) 栃木県教育委員会幼児教育担当(3年) 栃木県幼児教育センター副主幹(6 年)、センター長(2年) 学校法人の幼稚園長(4年) [実務経験と授業科目との関連性] 　幼児教育センターにおいて、子どもの発達と教材、環境構成について、研修プログラムの策定を行った。 　幼稚園長として、幼児理解と発達に沿った指導計画の立案、保育、振り返り、改善のサイクルが円滑に運用されるように園内研修の担当者をリードし定着を図った。 　地域や保護者との連携の手段として、園だよりを配布、ネットに公開し、協力して子どもを育てられるようにした。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H1209	保育内容総合演習Ⅰ	1年	集中	演習	1	市川舞・河田隆 小野貴之

授業概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される幼児教育・保育の基本、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と、「保育内容」とを関連づけながら理解する。「環境を通して行う」保育の過程について理解し、主体的・対話的で深い学びが実現する保育を構想する力の基礎を培う。なお、本授業は、毎時上記の担当教員が担当する。それぞれの専門の立場から指導助言し、総合的に保育を理解し構想する視点を養う。

到達目標（学習の成果）

・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される幼児教育・保育の基本および各領域に示されるねらい・内容について、総合的に理解する（DP2）。
・乳幼児期の教育・保育における指導・援助の考え方について理解する（DP2）。
・乳幼児期の教育・保育における学びの過程について理解し、保育を構想する力の基礎を身に付ける（DP2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	幼児教育・保育の基本：保育の基本（環境を通した教育）について学習する。	事前	事前に指定したプリントを読んでおく（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む。（0.5 時間）
2	遊具・玩具とのかかわり1：子どもに親しまれている遊具や玩具（例：積み木、ブロックなど）にかかわって遊ぶことを通して、子どもが経験し身につけていく内容を経験的に理解する。	事前	指定した教材とのかかわり経験について振り返り、まとめる（0.5 時間）
		事後	演習の感想について、ワークシートに整理する。（0.5 時間）
3	遊具・玩具とのかかわり2：遊具・玩具での遊びからもたらされる経験内容について、領域健康・人間関係・環境を中心に各領域の視点からグループ討議を通して理解する。	事前	配布プリントにそって演習の経験内容を整理する（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
4	遊具・玩具とのかかわり3：グループ討議の結果について発表し、モノとかかわる遊びにおける子どもの経験内容や指導上の留意事項、学びの過程について総合的に理解する。	事前	プレゼンテーションを準備する（1 時間）
		事後	コメントシートを整理し、学びと課題をまとめる。（0.5 時間）
5	自然とのかかわり1：身近な自然（例：泥、砂、水、草花など）とかかわって遊ぶことを通して、子どもが経験し身につけていく内容を経験的に理解する。	事前	指定した教材とのかかわり経験（0.5 時間）について振り返り、まとめる
		事後	演習の感想について、ワークシートに整理する。（0.5 時間）
6	自然とのかかわり2：身近な自然との遊びからもたらされる経験内容について、領域環境・人間関係・表現を中心に各領域の視点からグループ討議を通して理解する。	事前	配布プリントにそって演習の経験内容を整理する（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
7	自然とのかかわり3：グループ討議の結果について発表し、自然とかかわる遊びにおける子どもの経験内容や指導上の留意事項、学びの過程について総合的に理解する。	事前	プレゼンテーションを準備する（1 時間）
		事後	コメントシートを整理し、学びと課題をまとめる。（0.5 時間）
8	運動用具とのかかわり1：運動用具（例　ボール、縄、巧技台、平均台、マットなど）とかかわって遊ぶことを通して、子どもが経験し身につけていく内容を経験的に理解する。	事前	指定した教材とのかかわり経験について振り返り、まとめる（0.5 時間）
		事後	演習の感想について、ワークシートに整理する。（0.5 時間）
9	運動用具とのかかわり 2：運動用具での遊びからもたらされる経験内容について、領域健康・環境・表現を中心に五領域の視点からグループ討議を通して理解する。	事前	配布プリントにそって演習の経験内容を整理する（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
10	運動用具とのかかわり 3：グループ討議の結果について発表し、運動遊びにおける子どもの経験内容や指導上の留意事項、学びの過程について総合的に考察する。	事前	プレゼンテーションを準備する。（1 時間）
		事後	コメントシートを整理し、学びと課題をまとめる。（0.5 時間）
11	素材・用具とのかかわり1：身近な素材や用具（例：新聞紙、牛乳パック、テープ、はさみ、など）にかかわって遊ぶことを通し	事前	指定した教材とのかかわり経験について振り返り、まとめる（0.5 時間）

	て、子どもが経験し身につけていく内容を経験的に理解する。	事後	演習の感想について、ワークシートに整理する。(0.5 時間)
12	素材・用具とのかかわり2:身近な素材や用具での遊びからもたらされる経験内容について、領域環境・表現・言葉を中心に五領域の視点からグループ討議を通して理解する。	事前	配布プリントにそって演習の経験内容を整理する(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
13	素材・用具とのかかわり3:グループ討議の結果について発表し、身近な素材における子どもの経験内容や指導上の留意事項、学びの過程について総合的に理解する。	事前	プレゼンテーションを準備する(1 時間)
		事後	コメントシートを整理し、学びと課題をまとめる。(0.5 時間)
14	乳幼児期の教育・保育における評価と指導:乳幼児期の教育・保育における評価と指導／援助の考え方について学び、子ども理解が保育の出発点となることを理解する。	事前	乳幼児期の子どもの発達過程と保育の基本について、幼稚園教育要領・保育所保育指針、配布資料から復習しておく(0.5 時間)
		事後	プレゼンテーションを準備する(1 時間)
15	「主体的・対話的で深い学び」が「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」において実現することを理解する。	事前	
		事後	授業内容を振り返り、成果と課題についてまとめる(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

・演習への意欲的な参加 (50%) 演習への積極的な取り組み、協同的な態度。
グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

・コメントシート (50%) かかわった教材の特性やよさをとらえ経験内容を保育の基本と関連づけて述べているか。
課題レポート
レポートの評価にはコモンルーブリック評価基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
教育・保育の基本および各領域に示されるねらい・内容について、総合的に理解する (DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児期の教育・保育における指導・援助の考え方について理解する (DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児期の教育・保育における学びの過程について理解し、保育を構想する力を身につける (DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

コメントシートや課題レポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、受講者で共有する。

教科書

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館、2018
厚生労働省「保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館 2018
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月」フレーベル館、2018、

参考書等

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド本社、2018

履修上の注意・学習支援

・子どもが親しむ素材や遊具や用具、教材などについて日常から関心を持ち、名称や用途について理解すること。
・演習を中心に行う。各授業に連続性があるので、欠席しないように心掛けること。
・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。
・分からないこと等は授業担当者に質問・相談すること。 (小野研究室 5-204, 市川研究室 5-211)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

小野貴之
[実務経験の概要]

認定こども園　保育教諭(3年)
幼稚園　教員(3年)
茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画、内容の検討を行う。(2年)

[実務経験と授業科目との関連性]
子どもの遊びの研究において、幼児の言葉や行動に焦点を当てて事例を収集し、保育の在り方や教師の援助を考察した。
ICT の研究において、ICT 機器の活用によって子どもが新たな発見や自分の思いを言葉にして表現しやすくなることを考察した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2210	保育内容総合演習Ⅱ	2年	集中	演習	1	月橋春美・小野貴之 (新井祐子)

授業概要

保育内容総合演習Ⅰの学びを発展させ、保育内容表現および言葉を中心に教材研究し、指導案の作成、模擬保育の実践を通して、教材の特性やよさ、活用法を探り、五領域の視点から子どもの経験内容を豊かにするための具体的な指導方法について考察する。また、模擬保育の振り返りを通して、保育における評価や保育を改善する視点について考察し、総合的に保育を構想する力の基礎を培う。なお、本授業は、毎時上記の担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標(学習の成果)

・教材研究の意義を経験的に理解し、教材の特性と保育内容の関連を意識して保育を構想しようとする(DP3)。
・模擬保育とその振り返りを通して、乳幼児期における評価の考え方を知り、保育を改善する視点を理解する(DP3)。
・指導案の立案-模擬保育-振り返りを通して、乳幼児が経験し身に付けていく内容について五領域の視点から総合的に理解する(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育の基本と保育内容のとらえ方 環境を通して行う教育である保育において、保育内容は遊びを通して総合的に子どもに経験されることを学習する。	事前	教育要領・保育指針を読む(指定した箇所) (2時間)
		事後	授業内で配布する課題に取り組む (2時間)
2	保育内容とさまざまな表現方法 さまざまな表現方法(お話、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、手遊び・歌遊びなど)を体験し、児童文化財における多様な表現と子どもが経験し身に付けていく内容について学ぶ。	事前	生活の中で身近にある教材を調べる (2時間)
		事後	授業内で配布する課題に取り組む (2時間)
3	乳幼児期の発達とさまざまな表現 乳幼児期の認識や思考などの発達過程を踏まえ、多様な表現方法の工夫をしながら保育を構想する必要性と指導上の留意点について理解する。	事前	乳幼児期の表現について調べる (1時間)
		事後	乳幼児期の遊びについて振り返りシートを完成させる (3時間)
4	遊びと表現-演じる-1 表現をつくる グループごとに題材を決め、幼児教育の基本を踏まえて表現活動をつくることを通して、教材の特性と活用方法、指導法について検討する。	事前	遊びと表現で使用する教材の準備 (3時間)
		事後	表現遊びの内容を考え、教材研究を深める(1時間)
5	遊びと表現-演じる-2 指導案の作成 指導案の構成を理解し、具体的な保育(対象、時期、場面、ねらい・内容など)を想定した表現活動の指導案を作成する。	事前	表現遊びの内容を考え、教材研究を深める(1時間)
		事後	ねらいと内容、援助の在り方を指導案として作成し完成させる (3時間)
6	遊びと表現-演じる-3 表現する 作成した指導案を基に模擬保育を実践、振り返りを通して、五領域の視点から総合的に子どもの経験内容を探り、保育を改善する視点を理解する。	事前	遊びと表現をテーマに作成した教材の発表を行う。他者の発表に対して感想をシートにまとめる。 (2時間)
		事後	遊びと表現をテーマに作成した教材の発表を行う。他者の発表に対して感想をシートにまとめる。 (2時間)
7	遊びと表現-演じる-4 保育の改善、再立案 模擬保育の実践・振り返りから指導案を再立案することを通して、指導案の構造および保育の構造の理解を深める。	事前	指導案の再立案を行う。改善点の明確化。 (2時間)
		事後	遊びと表現で明らかになった課題についてまとめる (2時間)
8	遊びと表現-子どもとつくる-1 表現をつくる グループごとに題材を決め、具体的な保育場面を想定した子どもとつくる表現活動を構想する。言葉・音楽・造形・身体表現を中心に教材研究し、教材の特性と活用方法、指導法について検討する。	事前	遊びと表現で使用する教材の準備 (3時間)
		事後	表現遊びの内容を考え、教材研究を深める(1時間)
9	遊びと表現-子どもとつくる-2 素案の作成・試し 構想した活動の指導案の素案を作成し、試すことを通して環	事前	表現遊びの内容を考え、教材研究を深める(1時間)
		事後	作成した素案をもとに、指導計画の作成 (3時間)

	境構成、活動の展開、指導上の留意点について再検討する。		
10	遊びと表現-子どもとつくる-3 指導計案の作成 指導案の構成を理解し、具体的な保育(対象、時期、場面、ねらい・内容など)を想定した表現活動の指導案を作成する。	事前	遊びと表現で使用する教材の準備 (2 時間)
		事後	遊びと表現をテーマに作成した教材の発表を行う。他者の発表に対して感想をシートにまとめる (2 時間)
11	遊びと表現-子どもとつくる-4 伝えあう グループごとに構想した計画を基に、模擬保育を実践し、グループ間で伝えあい、評価し合うことを通して、保育内容の理解を深める。	事前	遊びと表現をテーマに作成した教材の発表を行う。他者の発表に対して感想をシートにまとめる (2 時間)
		事後	遊びと表現で明らかになった課題についてまとめる (2 時間)
12	遊びと表現-子どもとつくる-5- 子どもと表現する 五領域の視点から総合的に子どもの経験内容を探り、保育を改善する視点を理解する。	事前	遊びと表現で得た学びをスライドにまとめる。保育内容に触れ、保育を子どもとつくっていく意義をまとめる。 (2 時間)
		事後	遊びと表現で得た学びをスライドにまとめる。保育内容に触れ、保育を子どもとつくっていく意義をまとめる。 (2 時間)
13	遊びと表現-子どもとつる-5- 反省・評価 模擬保育の実践・振り返りから指導案を再立案することを通して、指導案の構造および保育の構造の理解を深める。	事前	プレゼンテーションの準備 (3 時間)
		事後	他者の発表に対して感想をシートに記入し、 発表から自分にも参考となることをまとめる (1 時間)
14	保育内容の充実と小学校教育への接続 表現活動を通して育まれる子どもの資質・能力について検討し、表現活動における子どもの学びの過程と小学校教育への接続について理解する。	事前	教育要領、保育指針を読む(指定した箇所) (2 時間)
		事後	子どもの発達のとらえ方、教材のとらえ方、環境構成等この授業で学んだ点をスライドにまとめる(2 時間)
15	保育内容の充実と教材研究 保育内容を充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想するための教材研究の意義について理解を深める。	事前	子どもの発達のとらえ方、教材のとらえ方、環境構成等この授業で学んだ点をスライドにまとめる(2 時間)
		事後	子どもが表現することで得ているもの、育っていることをレポートにまとめる。 (2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、反転授業、フィールドワーク、模擬授業

成績評価の方法・基準(%表記)
・コメントシート 40%(各回の授業内容を理解し、自身の学びや気づきが述べられているかを評価する)
・レポート 40%(課題に対応した内容が論理的に述べられているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる)
・授業への取り組み 20% (授業時の積極的や発言や取り組みを評価する。グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
教材研究の意義を経験的に理解している(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児期における評価の考え方を知り、保育を改善する視点を理解できている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
指導案の立案-模擬保育-振り返りを通して、幼児が経験し身に付けていく内容について五領域の視点から総合的に理解できている(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本)」株式会社チャイルド本社、2015

参考書等
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018

履修上の注意・学習支援
演習の際には、指定された服装（シューズも含む）を着用すること
疑問点は、授業担当に質問すること

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
小野 貴之
[実務経験の概要]
認定こども園 保育教諭(3年)
幼稚園 教員(3 年)

[実務経験と授業科目との関連性]
実務経験を生かし、幼稚園や保育園における子どもへの関わりついて実践的な指導を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H3211	保育内容総合演習Ⅲ	3年	集中	演習	1	桂木奈巳・市川舞・月橋春美・小野貴之

授業の概要

本授業では、保育内容総合演習Ⅰ・Ⅱの学びを発展させ、子どもの生活に身近なさまざまな素材を取り上げて教材研究し、指導計画の立案 - 模擬保育の実践 - 反省・評価を行う。これらを通して、5領域の視点から総合的に子どもの経験内容の理解を深め、教材の特性やよさ、活用法を探り、子どもの意欲や創意工夫を引き出し「主体的・対話的で深い学び」を実現するための具体的な指導法について検討するとともに、保育の過程の理解を深める。なお、本授業は、グループワークが中心となる。また、毎時上記の担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

・子どもの生活に身近な素材や情報機器等の環境を教材化する意義を理解する（DP3）。
・子どもの発達過程と教材の特性、保育内容との関連を意識して保育を構想し、指導計画を立案することができる（DP3）。
・模擬保育の実践とその振り返りを通して、保育における評価の理解を深め、改善する視点を身に付ける（DP3.4）。
・上記から、保育の過程の理解を深める（DP3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育内容の充実と教材研究:保育内容の充実のために、子どもの生活に身近な素材を教材化することの意義について理解する。	事前	幼稚園教育要領解説の指定箇所を読む(0.5時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
2	子どもの生活に身近な素材:子どもの生活に身近な環境や素材を教材化することを通して、保育の場におけるさまざまなモノ環境の活用可能性や意義について学ぶ。	事前	生活に身近な素材について、教材化したいものをリストアップしておく(0.5時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
3	教材の特性を理解する:身近な素材の活用法を試みて教材化し、教材同士のマッチングを検討することを通して、教材の特性やよさ、様々な活用法を理解する。	事前	担当する教材を収集し、特性を調べる(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
4	環境構成と保育内容:教材を活かす環境構成(大きさ、数量、形態、種類、色、配置の仕方など)と保育内容について検討し、子どもの発達を視野にいれた保育の構想の必要性を理解する。	事前	教科書の指定箇所を読む(0.5時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
5	発達過程と保育内容:子どもの発達過程による教材とのかかわり、そこからもたらされる保育内容について検討し、相互の関連を意識して保育を構想する必要性を理解する。	事前	乳幼児期の発達過程を復習、整理しておく(0.5時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
6	指導案の作成:子どもの発達過程を見通し、ねらい・内容、環境構成を関連づけながら指導案を作成する方法について学習する。	事前	教科書の指定箇所を読む(0.5時間)
		事後	授業内容を振り返り、指導案を修正する(0.5時間)
7	模擬保育の実施1:模擬保育を実践し、教材のよさを活かす活動の展開と指導法の実際について学習する。	事前	模擬保育の準備(0.5時間)
		事後	模擬保育について反省・評価をまとめる(1 時間)
8	模擬保育の反省・評価:模擬保育の振り返りから、子どもの経験内容＝保育内容について各領域の視点から総合的にとらえる視点を養うと共に、保育を改善する視点を身に付ける。	事前	
		事後	保育内容について、ワークシートに整理する(1時間)
9	環境の再構成とは:模擬保育の反省・評価から、教材の特性を活かす環境構成を再検討し、子どもの意欲や創意工夫を引き出す環境構成の工夫について学習する。	事前	
		事後	教科書の指定箇所を読む。指導計画の再立案をする(1時間)
10	指導案の再立案:模擬保育の反省・評価から指導案を再立案し、指導案の構造およびフィードバックへの理解を深める。	事前	
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5時間)
11	模擬保育の実践 2:再立案した模擬保育の実践を通して、環境構	事前	模擬保育の準備(0.5時間)

	成の工夫による子どもの経験内容＝保育内容の深まりや広がりについて五領域の視点から総合的にとらえ、保育内容の構造について理解を深める。	事後	模擬保育について反省・評価をまとめる 保育内容についてワークシートに整理する(1時間)
12	模擬保育 2 の反省-評価:模擬保育の振り返りから、子どもの意欲や創意工夫を引出す環境構成や指導法の工夫について協議し、保育を改善する視点を養う。	事前	
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5 時間)
13	保育の基本と教材研究:環境を通して行う教育において、保育内容を充実させるための教材研究の重要性とその方法について理解する。	事前	教科書の指定箇所を読む(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む プレゼンテーションの準備(1 時間)
14	遊びを通した総合的な指導と保育内容:保育を通して育みたい資質・能力は、遊びを通した総合的な指導を通して育まれることの理解を深める	事前	
		事後	他者の発表に対してコメントシートに記入する。他者からのコメントを整理する(1 時間)
15	保育者の役割と今後の課題:環境と子どもをつなげる保育者の役割と今後の保育者として自己課題について考察する。	事前	
		事後	授業を振り返り、成果と課題をまとめる(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッションフィールドワーク、模擬授業

成績評価の方法・基準(%表記)

・演習への意欲的な参加　(50%)　演習への積極的な取り組み、保育者として適切なふるまい、協同的な態度
グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

・コメントシート、課題・レポート (50%) 授業内容を理解し、自身の学びや気づきが述べられているか評価する。
レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの生活に身近な素材や情報機器等の環境を教材化する意義を理解する (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの発達過程と教材の特性、保育内容の関連とを意識し、保育を構想しようとする (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
指導案の構造を理解し、子どもの姿-ねらい・内容 - 環境構成 - 保育内容を関連づけながら指導案を作成しようとする (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
模擬保育とその振り返りを通して、保育における評価の考え方を知り、改善する視点を身に付ける	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の過程の理解を深める。(DP3.4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

コメントシートや課題レポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書

開仁志編、「これで安心！保育指導案の書き方」、北大路書房、2008

参考書等

文部科学省、「幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月」、フレーベル館、2018

厚生労働省編、「保育所保育指針解説書」、フレーベル館、2018

内閣府・文部科学省・厚生労働省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、フレーベル館、2018

履修上の注意・学習支援

・「保育内容（総論・各論）」「保育・教育課程論」「保育指導法Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」の各授業と関係づけながら学習すること。

・子どもの生活に身近な環境（遊具、用具、素材など教材）について日頃から関心を持ってかかわり、名称や用途を知りながらそれぞれの活用可能性について考えること。

・実際の保育の場では、どのように環境を重視して保育が行われているのか、実習経験や各園の HP などから情報収集しておくこと。

・グループでの演習を中心に行う。各授業の連続性を意識して取り組んでほしい。

・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で周知する。

・分からないことは授業担当者に質問すること。(桂木研究室 5-209、市川研究室 5-211、月橋研究室 5-205、小野研究室 5-204)

実務経験のある教員による授業科目
小野貴之 **[実務経験の概要]** 認定こども園　保育教諭(3年) 幼稚園　教員(3年) 茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画、内容の検討を行う。(2年) **[実務経験と授業科目との関連性]** 子どもの遊びの研究において、幼児の言葉や行動に焦点を当てて事例を収集し、保育の在り方や教師の援助を考察した。 ICT の研究において、ICT 機器の活用によって子どもが新たな発見や自分の思いを言葉にして表現しやすくなることを考察した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H4212	保育内容総合演習Ⅳ	4年	集中	演習	1	市川舞・田渕光与 桂木奈巳・小野貴之

授業の概要

保育内容総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学びをさらに発展させ、子どもの発達過程や意識の流れを見通し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法について探求する。教育課程のモデルから具体的な子どもの姿を想定し，子どもの生活に身近なさまざまな教材を取り上げて教材研究し、指導計画の立案、模擬保育の実践および振り返りを行う。これらを通して、保育内容をより豊かにするための環境構成の工夫等について考察し、幼児教育における評価と保育を改善する視点を養う。さらに、保育者としての自己課題を発見し、総合的に保育を構想する力の基礎を培う。なお、本授業は、毎時上記の担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

・子どもの生活に身近な環境を取り上げ教材研究し、子どもの発達過程に関連付けて保育内容を導くことができる（DP3）。
・子どもの姿-ねらい・内容 - 環境構成 - 保育内容を関連づけながら、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた指導計画を作成できる（DP3.4）。
・模擬保育において、子どもの主体性や個と集団の関係性に配慮しながら柔軟に環境構成／再構成する（DP3.4）。
・模擬保育の振り返りから、保育を評価し改善する視点を身に付ける（DP3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育の基本と保育：環境を通して行う教育、遊びを通した総合的な指導と保育の保育内容の構造について学修する。	事前	教育要領･保育指針を読む(指定した箇所)(0.5 時間)
		事後	授業内で提示する課題に取り組む(0.5 時間)
2	指導計画の作成1：子ども理解から保育を構想する方法について学修し、身近な素材を教材化する方法について検討する。	事前	幼稚園教育要領解説の指定した箇所を読む(0.5 時間)
		事後	担当する教材を収集し、特性を調べる(0.5 時間)
3	指導計画の作成2：子どもの意識の流れをとらえた週案の立案方法について学修する。教材の特性を活かした保育内容の展開について検討する。	事前	幼児クラスの 6 月の月案モデルを収集し、子どもの姿・ねらいを整理する(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、ワークシートに整理する
4	指導計画の作成3：指導案の立案における保育のねらい・内容と環境構成の配慮について学修する。さまざまな保育形態と環境構成の工夫について検討する。	事前	週案を作成する(1 時間)
		事後	授業を振り返り、週案を修正する（0.5 時間）
5	指導計画の作成4：活動の展開と一人一人の子どもに応じた指導、留意事項について学修する。活動の展開に応じた教材及び環境構成の配慮について検討する。	事前	＜保育者役＞ 事前　・指導計画の立案、教材準備、環境構成、事前打ち合わせ 事後・反省・評価のまとめ、指導計画の再立案 ・当日の模擬保育を本時の学びの課題から考察する ＜子ども役＞ 事前・指導計画から時期の子どもの姿を予習し、自身の演じる子ども役のペルソナを作成する 事後・本時の教材のよさや活用可能性、保育の評価をまとめる ・当日の模擬保育を本時の学びの課題から考察する ＜観察者役＞ 事前・指導計画から時期の子どもの姿を予習し、観察の視点をもつ 事後・本時の教材のよさや活用可能性、保育の評価をまとめる ・当日の模擬保育を本時の学びの課題か
6	模擬保育の実践1：模擬保育実践（1 グループ）、保育協議（反省・評価）／子どもの姿と保育のねらい・内容の妥当性について検討し、子ども理解から保育を出発する必要性について理解を深める。	事前	
		事後	
7	模擬保育の実践2　模擬保育実践（2 グループ）、保育協議（反省・評価）／ねらい・内容と環境構成および保育の展開の配慮について学修し、指導案の構造について理解を深める。	事前	
		事後	
8	模擬保育の実践3　模擬保育実践（3 グループ）、保育協議（反省・評価）／活動の流れと一人一人の子どもに応じた指導の在り方について理解を深める。	事前	
		事後	
9	模擬保育の実践4　模擬保育実践（4 グループ）、保育協議（反省・評価）／保育内容を豊かにするさまざまな保育者の役割と援助方法について理解を深める。	事前	
		事後	
10	模擬保育の実践5　模擬保育実践（5 グループ）、保育協議（反省・評価）／さまざまな保育形態と環境構成の工夫、援助の配慮事項について理解を深める。	事前	
		事後	
11	模擬保育の実践6　模擬保育実践（6 グループ）、保育協議（反省・評価）/子どもの発達過程と教材や情報機器の	事前	
		事後	

	活用方法および保育内容の展開について理解する。		ら考察する （事前・事後　各回1～2時間）
12	模擬保育の実践7　模擬保育実践（7グループ）、保育協議（反省・評価）／保育の評価と指導の改善、再立案の方法について学修する。	事前	
		事後	
13	模擬保育の実践8　模擬保育実践（8グループ）、保育協議（反省・評価）／子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連から検討し、小学校とのつながりについて学修する。	事前	
		事後	
14	保育の実践と反省・評価：模擬保育を振り返り、主体的・対話的で深い学びを実現させる保育環境の在り方や指導法、指導案の作成について理解を深める。	事前	幼稚園教育要領解説の指定した箇所を読む（0.5時間）
		事後	幼稚園教育要領解説の指定した箇所を読む これまでのコメントシートをまとめる プレゼンテーションの準備をする（1時間）
15	小学校との連携と今後の課題：模擬保育の振り返りから、保育における学びと小学校との教科等における学びのつながりを理解する。また、保育者の専門性について考察し、保育者としての自己課題を発見する。	事前	
		事後	授業を振り返り、学びの成果と今後の課題を整理する（0.5時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、反転授業、フィールドワーク、模擬授業

成績評価の方法・基準（%表記）

・演習への意欲的な参加　（50%）　演習への積極的な取り組み、保育者として適切なふるまい、協同的な態度
グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

・コメントシート、課題・レポート（50%）授業内容を理解し、自身の学びや気づきが述べられているか評価する。
レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの生活に身近な環境を取り上げ教材研究し、子どもの発達過程に関連付けて保育内容を導くことができる（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの姿-ねらい・内容 - 環境構成 - 保育内容を関連づけながら、指導計画を作成できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
模擬保育において、子どもの主体性や個と集団の関係性に配慮し、柔軟な環境構成／再構成を試みる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
模擬保育の振り返りから、保育を評価し改善する視点を身に付ける（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

コメントシートや課題レポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。
また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書

文部科学省「幼稚園教育要領解説 平成30年3月」フレーベル館、2018年
開仁志編「これで安心！保育指導案の書き方」北大路書房、2008年

参考書等

厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館、2018年
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館、2018年

履修上の注意・学習支援

・「保育方法論」「保育指導法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」との関連があるので関連づけて学習すること。
・子どもの遊びについて日頃から関心を持ち、遊びに使用される遊具や用具など教材について、その名称や用途について調べたり、活用可能性について考えるなどしておくこと。
・各園の教育課程等について、情報収集しておくこと。
・グループ演習を中心に行う。各授業の連続性を意識して受講すること。
・事前事後学習については、シラバス記載に加え授業時に具体的に指示する。
・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。

・　疑問があれば、オフィスアワー活用して質問等来ること。
　市川研究室　5-211、田渕研究室 5-206、桂木研究室 5-209、小野研究室 5-204）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
田渕光与 **[実務経験の概要]** 小学校教員(18 年) 栃木県教育委員会幼児教育担当(3 年) 栃木県幼児教育センター副主幹(9 年)、センター長(2 年) 学校法人の幼稚園長(4 年) **[実務経験と授業科目との関連性]** 幼稚園長として、ドキュメンテーションを土台に各領域の子どもの発達から教育課程の改善を行った。 幼稚園において、多様な動きを保育に取り入れる環境や教材開発を行った。 栃木県幼児教育センターでは、「幼児期運動指針」をもとに、活用を図る指導資料の作成をした。
小野貴之 **[実務経験の概要]** 認定こども園　保育教諭(3 年) 幼稚園　教員(3 年) 茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画、内容の検討を行う。(2 年) **[実務経験と授業科目との関連性]** 子どもの遊びの研究において、幼児の言葉や行動に焦点を当てて事例を収集し、保育の在り方や教師の援助を考察した。 ICT の研究において、ICT 機器の活用によって子どもが新たな発見や自分の思いを言葉にして表現しやすくなることを考察した。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19H3213	保育方法論	3 年	春	講義	2	高柳恭子・小野貴之

授業概要

保育を具体的に進めるに当たって必要な知識・技術を学ぶ。保育の目標・ねらいの確認，子どもの理解，保育環境構成の仕方，ひとり一人に応じた子どもへのかかわり方，様々な保育形態などを学び，子どもの活動に添って総合的に指導する力を身に付ける。また，情報機器の活用法を身に付ける。

到達目標（学習の成果）

・子どもと共につくる保育の基本的な考え方や保育の基礎的な事項を身に付ける。(DP1)
・保育を構想し実践する力を身に付ける為に，子ども理解の方法，環境構成の意義・方法，保育者の援助の在り方を理解する。(DP1)
・様々な保育形態とその活用の仕方を理解する。(DP2)
・個と集団のかかわりや子ども一人ひとりに応じた対応の仕方を理解する。(DP3)
・子どもへの様々なかかわり方の基本を理解する。(DP2)
・保育現場で必要な情報機器の操作を身に付ける（教材の作成，お便りの作成等）(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育の基本とその方法：保育の基本（環境を通して行う教育，幼児期にふさわしい生活の展開，遊びを通しての総合的な指導，ひとりひとりの発達の特性に応じた指導）の確認，「保育方法論」で学ぶことの理解。（高柳）	事前	教科書第 1 章―第 1 節を読んでおく。(2 時間)
		事後	なぜ，「環境を通しての教育」を基本とするのか自分なりの言葉でまとめる。(2 時間)
2	幼稚園教育要領改訂のポイント：「幼稚園教育要領」で，新しく追加された項目「幼稚園教育において育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について，保育の目標の確認。（高柳）	事前	教科書序章及び第 1 章―第 2 節を読んで理解する。(2 時間)
		事後	教科書 P52～P73 を読み，幼児期の経験をどう小学校生活につなげるか明らかにする。(2 時間)
3	小学校との接続：幼児期の教育と小学校では学ぶスタイルや指導方法などが異なることを理解し，乳幼児期特有の保育方法を学ぶ。（高柳）	事前	自身の小学校での経験を思い出し，保育との相違点を想起しておく。(1 時間)
		事後	小学校との接続の実際について調べる。(2 時間)
4	幼児理解とその方法：保育の目標を実現するためには，保育の対象である子どもの理解が必要。幼児理解の方法とその活かし方について学ぶ。（高柳）	事前	2 年時の「子ども理解の方法と評価」から自身の課題を明確にする。(2 時間)
		事後	課題事例について考察する。(2 時間)
5	遊びの指導と生活の指導：乳幼児期の教育は遊びを中心とした生活全体を通して総合的に行うものであることを理解。（高柳）	事前	配布資料を読んでおく。(1 時間)
		事後	0 歳児から 5 歳児の食事の場面について具体的な配慮を考える。(3 時間)
6	一人一人の発達の特性に応じた指導：「一人一人に応じる」ことの意味を理解し，一人一人に応じた保育の展開と指導の実際について理解。（高柳）	事前	教科書 P36～40 を読んでおく。(1 時間)
		事後	乳幼児期特有の発達の特性についてまとめる。(3 時間)
7	学び合い育ち合うクラスづくり：一人一人の成長を支える学級集団としての成長に目を視点に，それぞれの時期にふさわしい学級経営のポイント。（高柳）	事前	教科書 P116～P120 を読んでおく。(1 時間)
		事後	自分なりの「学級経営プラン」をデザインしてみる。(3 時間)

8	さまざまな指導形態：多様な保育形態とその意義について理解し，効果的な指導の方法について探る。（高柳）	事前	配布資料を読んでおく。(1 時間)
		事後	ティーム保育の実践を集める。(3 時間)
9	豊かな体験と園行事：幼稚園生活に豊かさと潤いをもたらす行事につての考え方と行事の持つ教育的価値の検討（高柳）	事前	教科書 P105～P115 を読んでおく。(1 時間)
		事後	年間指導計画を参照し，各行事がどのように位置づいているか確認する。(3 時間)
10	環境の構成と保育の展開：乳幼児期の発達の特性の理解と環境構成の意味。環境としての保育者，もの・場・空間・自然環境・文字や数などの持つ意味と遊びの展開（高柳）	事前	10～12 回のテーマについて，参考文献を中心に調べ，レポートをまとめ、プレゼンテーションする。（各 3，5 時間）
11	「主体的・対話的で深い学び」と教材研究：「主体的・対話的で深い学び」の充実を支えるための教材研究の視点とその実際（高柳）	事後	10～12 回のテーマについて，友達の発表を聞き，自分なりの考えをまとめる。(0，5 時間)
12	園内外の環境を活かした保育：保育者の願いを込めて園内環境，園外環境をデザインするとは（高柳）		
13	保育の質と評価：カリキュラム・マネージメントを通しての教育活動の質の向上を目指した評価の実施。各園で行う学校評価とは(教育課程の編成，実施，改善などのＰＤＣＡについて）（高柳）	事前	教科書 P121～P123 を読んでおく。(1 時間)
		事後	保育者の自己評価の実際を体験する。(3 時間)
14	情報機器の活用①：「情報処理入門Ⅰ・Ⅱ」（1 年次）で修得した情報機器の操作技術を確認し，教材作成への応用について学ぶ。（小野）	事前	「情報処理入門Ⅰ・Ⅱ」の学習内容を確認する。(1 時間)
		事後	教材作成への応用について学んだ内容を復習する。(3 時間)
15	情報機器の活用②：保護者向けのお便りなどの実務における文書の形式を学び，イラストや写真の入った文書を作成する。（小野）。	事前	保護者向けお便りについて調べる。(2 時間)
		事後	友達が作成したお便りを読み，文書の作成について理解を深める。(2 時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容）

プレゼンテーション，制作（2 回），グループディスカッション等

成績評価の方法（%表記）

・レポート(または授業時の課題)提出５0%，期末試験５0%（高柳）

・レポート(または授業時の課題)提出５0%，期末試験５0%（小野）

レポートの評価は，コモンルーブリックを使用する。

・評価は，授業担当教員の受け持ち回数分に応じ，按分される。

評価基準

観点	S	A	B	C
子どもとともに作る保育の基本的な考え方を踏まえ，豊かな保育活動を展開するための多様な教育方法について理解する。(DP1，2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

	保育は環境を通して行う教育であることを理解し,「主体的・対話的で深い学び」を実現するための環境構成や教材研究の意義を理解する(DP2, 3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

学生へのフィードバック

・制作した作品を学生同士評価の観点に従って評価しあう
・コメントシートから理解度を把握し、次時に補足説明をする
・確認テストを実施し、次時に返却、解説をする

教科書

内閣府・文部科学省・厚生労働省, 「園児が心を寄せる環境の構成」, フレーベル館, 2022

参考書

全国幼児教育研究協会,「ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成」, ひかりのくに, 2017

高山静子著,「学びを支える保育環境づくり」, 小学館, 2017

秋田喜代美,「秋田喜代美の写真で語る保育の環境づくり」, 2016, ひかりのくに

大豆生田啓友　編著,「「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育」, Ｇａｋｋｅｎｎ保育Ｂｏｏｋｓ, 2014

柴崎正行著,「子どもが育つ保育環境づくり」, Ｇａｋｋｅｎｎ保育Ｂｏｏｋｓ, 2013

学研教育出版編,「モンテッソーリで育つ！自分で考える子ども」, 学研プラス, 2013

学研教育出版編,「モンテッソーリの子育て　おとなが子どもにできること」, 学研プラス, 2013

学研教育出版編,「モンテッソーリの子育て　子どもの力を引き出す環境」, 学研プラス, 2013

履修上の注意・学習支援

・毎回, 次の授業のテーマを確認する。事前課題が出た場合は必ず自己学習をしてくること。
・参考文献を指定した期間までに読み込んでおくこと（授業内で指定する)。

実務経験のある教員による授業科目

高柳　恭子

[実務経験の概要]

1. 幼稚園教諭として 25 年間, 幼稚園副園長として 13 年間勤務し, 保育全般, 保護者への対応, 地域との連携・交流活動, 地域の子育て支援, 地域の幼稚園教員の研修の場の提供等の実務を経験してきた。
2. 栃木県幼稚園連合会の理事や研究委員として, 教員のキャリアアップのための研修の企画及びその講師等を務めた。

[実務経験と授業科目との関連性]

1. 幼稚園での実務経験は, 本科目分野（保育方法論・保育者論・保育内容基礎演習等）との関連性は極めて高く, 子どもの実態や環境構成, 具体的なかかわり方等について具体的な内容の講義が実施できる。
2. 栃木県幼稚園連合会での経験は, 県内幼稚園の実情を熟知することとなり, 教育実習指導, 保育・教職実践演習等の授業科目においては学生と各園とのパイプ役となり実習や実践をコーディネートすることが可能である。

小野　貴之

[実務経験の概要]

認定こども園　保育教諭(3 年)

幼稚園　教員(3 年)

茨城大学附属幼稚園で研究主任として研究会に向けた研修の企画, 内容の検討を行う。(2 年)

[実務経験と授業科目との関連性]

子どもの遊びの研究において, 幼児の言葉や行動に焦点を当てて事例を収集し, 保育の在り方や教師の援助を考察した。

ICT の研究において, ICT 機器の活用によって子どもが新たな発見や自分の思いを言葉にして表現しやすくなることを考察した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2214	保育・教育課程論	2年	秋	講義	2	田渕　光与

授業概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針において、子どもの主体的活動を基盤にしてそれを方向付け、発展させることの重要性を強調している。本授業では、保育におけるカリキュラムの意義、編成、評価について学び、よりよい保育を組み立て実践する力の基礎を培う。

到達目標（学習の成果）

・保育における教育課程・全体的な計画の意義および編成の方法について理解し、指導案作成に生かすことができる。（DP3）
・子どもの発達過程を理解し、それを踏まえた指導計画を作成することができる（DP3）。
・保育の計画―実践－省察・評価－改善の一連の過程について理解し、子ども理解を起点として保育を構想する方法について述べることができる（DP3）。
・指導案をもとに、幼児理解をしながら保育をすることができる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	カリキュラムの基本的な考え方について理解する。	事前	教科書第1章を読み、新出語を調べる。（2 時間）
		事後	「保育」の教育としての独自性と「環境」の意義についてまとめる。（2 時間）
2	保育におけるカリキュラムの考え方について理解する。	事前	カリキュラムという言葉の起源について調べ、ワークシートにまとめる。（2 時間）
		事後	なぜ計画を立てるのか、その意義についてまとめる。（2 時間）
3	長期の指導計画と短期の指導計画の関係について理解する。	事前	3～5歳の子どもの発達の道筋を人間関係について調べまとめる。（2 時間）
		事後	長期の指導計画と短期の指導計画の関係についてワークシートにまとめる。（2 時間）
4	幼稚園教育要領における教育課程、教育課程の意義、編成の手順などについて学ぶ。	事前	教育課程の構成要素についてまとめる。（2 時間）
		事後	幼稚園の教育課程について学んだことをシートにまとめる（教科書）（2 時間）
5	3歳児の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び、3歳児クラスの指導計画のポイントについて理解する。	事前	3歳の発達の特徴を5領域の観点からシートにまとめる。（2 時間）
		事後	映像の場面と、3歳の発達の特徴を結び付けてシートにまとめる。（2 時間）
6	4歳児の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び、4歳児クラスの指導計画のポイントについて理解する。	事前	4歳の発達の特徴を5領域の観点からシートにまとめる。（2 時間）
		事後	映像の場面と、4歳の発達の特徴を結び付けてシートにまとめる。（2 時間）
7	5歳児の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び、5歳児クラスの指導計画のポイントについて理解する。	事前	5歳の発達の特徴を5領域の観点からシートにまとめる。（2 時間）
		事後	映像の場面と、5歳の発達の特徴を結び付けてシートにまとめる。（2 時間）
8	保育所における全体的な計画の意義、保育所保育指針との関連について学ぶ。	事前	全体的な計画の構成要素についてシートにまとめる。（2 時間）
		事後	全体的な計画の役割についてシートにまとめる。（2 時間）
9	乳児の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び指導計画作成のポイントについて学ぶ。	事前	乳児の1年間の発達の道筋をシートにまとめる。（2 時間）
		事後	月齢3か月の乳児の環境構成を考え指導案を作成する。（2 時間）
10	1歳の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び、1歳児の指導計画のポイントについて理解する。	事前	1歳児の発達の特徴を5領域と養護の観点でシートにまとめる。（2 時間）

		事後	1歳児の環境構成を考え指導案を作成する。(2 時間)
11	2歳児の発達過程の特徴と指導計画の実際について学び、2歳児の指導計画のポイントについて理解する。	事前	2歳児の発達の特徴を5領域と養護の観点でシートにまとめる。(2 時間)
		事後	2歳児の環境構成を考え指導案を書く。(2 時間)
12	4歳児の週案をもとに時系列の部分指導案を作成する。	事前	読み聞かせの本を、流行っている遊び、行事、発達の様子などと関連付けて2冊選ぶ。(2 時間)
		事後	お話の時間の環境構成を考え、指導案を完成させる。(2 時間)
13	5歳児の保育映像をもとに、環境構成図の指導案を作成する。	事前	環境構成図の指導案を読み解き、その構成要素についてまとめる。(2 時間)
		事後	環境構成図の指導案を完成させる。(2 時間)
14	異年齢保育、個別の指導計画について学び、異年齢保育の指導案を書く。	事前	同じ教材への、3～5歳年齢ごとのかかわりについてまとめる。(2 時間)
		事後	B ちゃんを想定して、短期の目標を設定し、個別の指導計画を完成させる。(2 時間)
15	保育場面の映像を見て、計画→保育→評価→明日の保育計画というサイクルをまとめ、カリキュラムマネジメントの概念を理解する。	事前	カリキュラムマネジメントについてワークシートにまとめる。(2 時間)
		事後	子どもの姿と指導計画との関連についてシートにまとめる。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
反転授業、グループディスカッション、課題解決学習

成績評価の方法・基準(%表記)
・期末試験30%
・授業中のワークシート50%
・授業への取り組み20%
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの発達過程を理解しそれを踏まえた指導計画を構想することができる(DP3)。	すべての点で目標より優れていた	目標より、優れている箇所が見られた	目標に到達している	もう少しで目標に到達する

毎時のワークシートや指導案は内容をチェックし、コメントをつけ返却する。全体に再度知らせる事項については、授業冒頭にフィードバックする。

教科書
神長美津子、「教育課程論」、中央法規、2025 年
参考書等
文部科学省、「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館、2018
厚生労働省、「保育所保育指針解説」、フレーベル館、2018
内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、フレーベル館、2018

履修上の注意・学習支援
常日頃目にする幼児の姿を記録し、幼児理解を進めておくこと。
事前・事後学習のワークシートは期限を守って提出すること。
特に事前学習に重点を置いているため、出題の意図を理解し取り組むこと。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]田渕　光与
・小学校教員(18 年)
・県教育委員会義務教育課幼児教育、特別支援教育、道徳担当指導主事(4年)栃木県幼稚園教育課程研究集会主催
・栃木県幼児教育センター副主幹(9年)センター長(2 年)　栃木県幼稚園教育課程編成の手引き、栃木県幼稚園教育課程研究集会主催

・小学校長(3 年)
・学校法人の幼稚園長(4 年)
[実務経験と授業科目との関連性]
・小学校教諭として、分掌の教科の年間指導計画の立案、改善を行った。
・県教育委員会では、教育要領改訂ごとに、「栃木県幼稚園教育課程編成の手引き」を作成、毎年、「栃木県幼稚園教育課程研究集会」を主催した。
・小学校校長として、教育課程編成を主宰した。
・学校法人立幼稚園長として、教育課程編成、運営、改善を主宰した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2215	乳児保育Ⅰ	２年	秋	講義	２	星　順子

授業概要

乳児保育が必要とされてきた背景や歴史的変遷を知り、現代における乳児保育の必要性、意義、目的を理解する。さらに、０・１・２歳児の発達をふまえた保育の内容や保育者として配慮すべきこと等、その実践をイメージしながら乳児保育の基本を学び、実習での実践に備えていく。職員間や家庭との連携、地域の関係機関との連携についてもその必要性を理解する。また、乳児保育が行われる多様な場（乳児院、子育て支援等）を知り、現状と課題を学ぶ。

到達目標（学習の成果）

・乳児保育の現代的な意義・目的・役割・歴史的変遷について理解し説明することができる（DP3）。
・3 歳未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し、実践に備えることができる（DP3）。
・保育所、乳児院、子育て支援等多様な場での乳児保育について理解し、社会課題と関連付けて考えることができる（DP3）。
・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について、説明することができる。（DP3）

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	乳児保育の意義と目的 （乳児保育の全体像を把握し、乳児保育の役割や機能を理解する）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
2	乳児の発達と保育 （0.1.2 歳児の発達の特徴を理解し、担当保育者としての役割や援助を学ぶ。養護と教育の一体化について理解する）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
3	乳児保育の内容と方法(1)基本的生活を中心に （乳児保育の 1 日を知り、0.1.2 歳児の基本的な生活と環境について理解する。）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
4	乳児保育の内容と方法(2)基本的生活を中心に （0.1.2 満児の基本的生活の具体的な内容とその援助について実践的に学ぶ-授乳・食事-）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
5	乳児保育の内容と方法(3)基本的生活を中心に （0.1.2 歳児の基本的生活の具体的な内容とその援助について実践的に学ぶ-排泄・睡眠-）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
6	乳児保育の内容と方法(4)あそびを中心に （0.1.2 歳児の遊びのあり方と保育実践について理解する）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
7	乳児保育の内容と方法(5)あそびにおける保育士の役割 （0.1.2 歳児の遊び環境や保育士の役割について理解する）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。
8	乳児保育の内容と方法(6)あそび文化 （0.1.2 歳児の絵本や触れ合い遊びを調べ、実践を通してその重要性を理解する）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
9	3 歳以上児の保育に移行する時期の保育 （子どもの発達の連続性について学び、3 歳以上児の保育につながる移行までの保育を学ぶ）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
10	乳児保育の計画・記録・評価とその意義 （乳児保育の保育計画の概要を理解し、指導計画から実践記録、評価までの流れを理解する。）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）
11	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 （乳児院を中心に、保育所以外の乳児保育について理解を深める。）	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。（2 時間）

12	乳児保育のあゆみ・現状と課題 (乳児保育の歴史的発展を振り返りながら、乳児保育の現状と課題を学ぶ)	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
13	職員間の連携・協働 (子どもや保護者にとって保育者はどのような存在なのかを考えながら、求められる専門性や人間性について理解する。保育現場での保育者同士のチームワークの実際を学ぶ。)	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
14	保護者との連携・協働 (保護者と共により良い子どもの育ちを実現するために、保護者と保育者はどのように連携すればよいのかを学ぶ。)	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる。(2 時間)
15	自治体や地域の関係機関等との連携・協働 (子どもの健康と安全を守るために、どのような専門機関との連携が必要なのかについて学ぶ。)	事前	テキストを熟読し、内容を把握する（2 時間）
		事後	学んだことをノートにまとめ、定期試験の準備をする。新しい知識や課題を整理し、今後の保育実習に備える。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション

成績評価の方法・基準（%表記）
・授業課題・意欲：30%　授業に積極的に参加し、課題に関する理解と、自身の学び・気づきが述べられていること
・試験　　：70%　授業内容を理解し、適切な用語で記述されていること
・成績評価の基準

観点	S	A	B	C
乳児保育の現代的な意義・目的・役割について理解し説明することができる（DP3)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
3 歳未満児の発達の特徴を学び、生活、遊び等への援助や関わりについて理解し、実践に備えることができる（DP3)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育所、乳児院、子育て支援等多様な場での乳児保育について理解し、社会課題と関連付けて考えることができる（DP3)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について、説明することができる。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

フィードバック
試験のフィードバックとして、講評・解説の時間を設ける。授業課題は、コメントをつけて返却する。
教科書
・乳児保育研究会、『資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房、2018 年
・厚生労働省編、『保育所保育指針解説書』、フレーベル館、2018 年
参考書等
・佐々木正美、『子どもの心はどう育つのか』、ポプラ社、2019 年
・遠藤利彦、『赤ちゃんの発達とアタッチメント　乳児保育で大切にしたいこと』、ひとなる書房、2017 年
・遠藤利彦、『心の力を育み　発達を支える　保育におけるアタッチメント』、チャイルド本社、2025 年

履修上の注意・学習支援
・次年度の「乳児保育Ⅱ」を履修するためには、「乳児保育Ⅰ」の単位修得が必須である。 ・「保育実習Ⅱ」に参加するためには、「乳児保育Ⅰ」の単位修得が必須である。 ・講義で指摘する重要な事項を聞き逃さないように集中力を保ち、講義内容のポイントはノートに書き取ること。 ・課題は指定された期日までに必ず提出すること。

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］・保育士として、公立保育園等での乳児保育の実践、子育て支援に携わってきた。 ［実務経験と授業科目との関連性］ ・保育士としての実務経験を生かし、具体的な「子ども」の姿や実際の「保育」場面のイメージが持てるように現場のエピソードや 経験談を紹介しながら授業を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H3216	乳児保育Ⅱ	３年	春	演習	1	星 順子

授業概要
「乳児保育Ⅰ」での学びを基に、0・1・2 歳児の発達や姿を踏まえた保育内容や養護を基盤とした保育士の援助や関わり方を具体的な事例を基に検討し、乳児保育の基本的な考え方と実践のあり方の理解を深めていく。子ども理解を深め、子どもの姿を基にした環境構成の方法や養護と教育の一体的な実践を検討しながら、具体的な保育内容や指導計画が考えられるようになることを目指す。

到達目標（学習の成果）
・0・1・2 歳児の発育・発達の過程や姿を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる(DP3)。
・養護及び教育の一体性を踏まえた乳児の保育内容や方法について具体的に提案できる(DP3.4)。
・乳児保育における配慮の実際について具体的に説明することができる (DP3.4)。
・上記を踏まえ、乳児保育における指導計画の作成について具体的に考察することができる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	乳児保育の基本 （子どもと保育者等との関係の重要性、保育者の役割について再確認する）	事前	実習等での経験を振り返り、エピソードを整理しておく。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、自分の発見や気づき、また疑問を記録する。(0.5 時間)
2	0 歳児クラスの生活の実際　-さらしおんぶ体験- （0 歳児クラスのデイリープログラムの特徴と一人一人に応じた援助を行うための実践について学ぶ）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、演習での学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
3	0 歳児クラスの保育環境　-手作りおもちゃと遊び- （0 歳児が落ち着いて過ごせる室内環境や玩具について検討する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
4	0 歳児クラスの援助の実際　-沐浴体験- （沐浴における養護と教育の一体的な展開、乳児の主体性について実践を通して検討する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、沐浴体験での学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
5	1 歳児クラスの生活の流れ　-担当制を考える- （1 歳児クラスのデイリープログラムを確認し、生活における保育者の配慮や家庭との連携について検討する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
6	1 歳児クラスの保育環境　-保育室の環境構成- （1 歳児の発達をふまえた保育室の環境や玩具について理解する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
7	1 歳児クラスの援助の実際　-おむつはずれ：排泄- （1 歳児の発達を確認し、生活面と遊び面の保育者の援助を考える）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
8	2 歳児クラスの生活の流れ　-家庭との連携- （2 歳児クラスのデイリープログラムを確認し、生活における保育者の配慮や家庭との連携について学ぶ）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
9	2 歳児クラスの保育環境　-発達と保育環境- （2 歳児の発達をふまえた保育室のあそび環境と玩具について理解する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
10	2 歳児クラスの援助の実際　-自我の発達と援助- （2 歳児の発達を確認し、生活面と遊び面の保育者の援助を考える）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定 -安全に！子どものやりたい！を支える保育- （子どもの健康と安全を守りながら、育ちを支える保育について考える）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、演習での学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
12	集団での生活における配慮　-ロールプレイ- （他職種、保育者間、保護者との連携事例の検討 集団での育ちを保障しながら、個々に合わせた関わりを行うために必要な保育者の配慮について学ぶ）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)

13	環境の変化や移行に対する配慮　-移行期の保育- （環境の変化や移行の際の保育者の配慮について検討する）	事前	教科書を熟読し、内容を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、グループワークでの学びや気づきをノートまとめる。(0.5 時間)
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画 -乳児クラスの指導案作成- （全体的な計画に基づいた指導計画について学び、その必要性について考え、実際に作成する）	事前	教科書、配布資料を熟読し、計画作成の準備をする。(1.0 時間)
		事後	授業を振り返り、授業で指示された課題に取り組む。(1.0 時間)
15	個別的な指導計画と集団の指導計画 -乳児の個別の指導計画作成- （個別計画の意味を理解し、その必要性を学び作成する）	事前	教科書、配布資料を熟読し、計画作成の準備をする。(1.0 時間)
		事後	授業を振り返り、授業で指示された課題に取り組む。(1.0 時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、実習

成績評価の方法・基準（%表記）
・授業への取り組み・グループワークへの参加意欲（40%）
・授業内演習課題（小テスト、小レポート、実践課題、提出課題）（60%）
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
乳児の発育・発達、姿を踏まえた援助や考え方を説明できる（DP3 ）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力が必要である
養護と教育の一体性を踏まえた保育内容と子ども理解を基にした環境構成の提案ができる(DP3.4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力が必要である
乳児保育における指導計画(個別・短期・長期)が作成できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力が必要である

フィードバック
授業内の演習課題については、授業内で直接フィードバックを行う
教科書
・児童育成協会監修、寺田清美・大方美香・塩谷香編集、『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』、中央法規、2019 年
・厚生労働省編、『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年
参考書
・遠藤利彦、『赤ちゃんの発達とアタッチメント　乳児保育で大切にしたいこと』、ひとなる書房、2017 年
・遠藤利彦、『心の力を育み　発達を支える　保育におけるアタッチメント』、チャイルド本社、2025 年

履修上の注意・学習支援　　・保育士資格取得希望者は必ず履修すること。
・演習科目のため、グループワークや実践を中心とする。積極的に参加すること。
・毎回テキストとファイルを持参すること。
・日頃から、乳児と関わる機会を積極的に作り、乳児の特性や発達に関心を持つことを期待する。

※以下は該当者のみ記載してください。

務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
・保育士として、公立保育園等での乳児保育の実践、子育て支援に携わってきた。

［実務経験と授業科目との関連性］
・保育士としての実務経験を生かし、具体的な「子ども」の姿や実際の「保育」場面のイメージが持てるように現場のエピソードや経験談を紹介しながら授業を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H3217	子どもの健康と安全	３年	秋	演習	1	鈴木繭子

授業概要
実技・講義を主体として子どもの健康な発育・発達を目指した、安全な保育を実践するために必要な援助技術を学ぶ。２年次の「子どもの保健」で学んだ理論を踏まえ、実践できる応用能力と技術を習得する。

到達目標(学習の成果)
・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、実践できる（DP3）。
・保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策について具体的に理解し、実践できる（DP3）。
・子どもの体調不良等に対する適切な対応ができるようになる（DP3）。
・保育における感染症対策について理解する（DP3）。
・保健的観点を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解し、実践できる（DP3）。
・子どもの健康や安全の管理に関する実施体制や保健活動の計画・評価の方法を修得する（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助① 保育における保健的対応の基本的な考え方について学ぶ	事前	子どもの健康と保育環境について情報を集める。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
2	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助② 子どもの保健にかかわる個別対応と集団全体の健康安全管理について学ぶ	事前	保育環境で起こりやすい怪我や症状について調べる。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
3	保育における健康安全管理の実際① 保育における健康安全管理の実際として、衛生管理の方法を学ぶ	事前	保育環境を清潔に保つための方法について、調べる。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
4	保育における健康安全管理の実際② 事故防止及び安全対策理,　危機管理の実際を学ぶ	事前	安全管理、危機管理について教科書から把握して授業に臨む。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
5	保育における健康安全管理の実際③ 災害への準備の実際を学ぶ	事前	災害対策について教科書から把握して授業に臨む。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応① 体調不良や傷害が発生した場合の対応、応急処置, 救急処置及び救急蘇生法を学ぶ	事前	体調不良等の対応について教科書から把握しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
7	子どもの体調不良等に対する適切な対応② 【演習】心肺蘇生法、気道内異物除去、三角巾法	事前	心肺蘇生法、気道内異物除去、三角巾法の動画を視聴しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づき、演習の振り返りや課題をまとめておく。(0.5 時間)
8	感染症対策① 感染症の集団発生の予防方法を身に着ける 感染症発生時の投薬について	事前	感染症の予防方法について教科書から把握しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
9	感染症対策② 【演習】嘔吐物処理方法、衛生学的手洗い	事前	嘔吐物の処理の動画を視聴しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づき、演習の振り返りや課題をまとめておく。(0.5 時間)
10	保育における保健的対応① 3 歳未満児への対応について 個別な配慮を必要とする子どもへの対応　子どもの心の健康とその課題　（慢性疾患、アレルギー性疾患等）	事前	3歳未満児、個別な配慮を必要とする子どもへの対応について教科書から把握しておく。(0.5 時間)
		事後	講義内容を教科書から把握しておく。(0.5 時間)
11	保育における保健的対応② 障害のある子どもへの対応方法を学ぶ	事前	障害のある子どもへの対応について教科書から把握しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
12	保育における保健的対応③ 【演習】気道内異物除去、エピペン使用方法	事前	気道内異物除去、エピペン 使用方法の動画を視聴しておく。(0.5 時間)

		事前	講義で得た気づき、演習の振り返りや課題をまとめておく。(0.5 時間)
13	健康安全管理の実施体制① 職員間の連携と組織的取組について理解する	事前	健康安全管理について教科書から把握して授業に臨む。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
14	健康安全管理の実施体制② 保育における保健活動の計画及び評価の方法を修得する	事前	健康安全管理について教科書から把握して授業に臨む。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)
15	健康安全管理の実施体制③ 母子保健・地域保健と保育, 家庭・専門機関・地域との連携の実際を学ぶ	事前	健康安全管理について教科書から把握しておく。(0.5 時間)
		事後	講義で得た気づきをまとめておく。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、演習

成績評価の方法・基準(%表記)
小テスト 40%（授業の内容を理解しているか、適切な用語を用いての記述ができているか）
演習課題 40%（演習の参加度、予習や振り返りができているか）
レポート課題 20%（授業での学びを活用して、自分の考えを理論的に展開しているか）で評価する。
※レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、実践できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育における衛生管理、事故防止、危機管理、災害対策について具体的に理解し、実践できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの体調不良等に対する適切な対応ができるようになる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育における感染症対策について理解する。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保健的観点を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解し、実践できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの健康や安全の管理に関する実施体制や保健活動の計画・評価の方法を修得する。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
小テストは採点後に返却する

教科書
大澤眞木子・小國美也子編著、「子どもの保健～健康と安全～」、日本小児医事出版社、2023.

参考書等
特になし。必要に応じて当日参考資料を配布する。

履修上の注意・学習支援
演習に適した服装、エプロン着用でのぞむ。記録・レポートは提出期限を厳守する。
出席と積極的な演習参加スキルの習得を重要視する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
看護師として病院で勤務後、学校の養護教諭（小中学校、特別支援学校）を経験。その後、認定こども園の看護師として勤務していた。

［実務経験と授業科目との関連性］
学校の養護教諭や認定こども園の看護師として保健計画や安全計画等の作成、児童生徒・乳幼児の健康管理等に従事していた。現場での実務経験を活かした講義を行っていく。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H1218	フィールドワーク　Ⅰ	１年	集中	演習	1	桂木　奈巳・ 月橋　春美

授業概要

自然体験、整備体験、子どもの遊び等の多様な体験を通して、学生自身の体験の深化をはかり、保育者としての資質向上をめざす。さらに実際に子どもとの交流を通して、子どもの実際の姿を知ることをねらいとする。子どもの様子を観察したり記録したり、持ち寄った記録を集めてまとめたりすることにより、子どもの発達を促す働きかけや阻害する問題点を考察する。

到達目標(学習の成果)

- 子どもの様々な行動を、子どもの周りの人間関係や子どもの表現、言葉、環境と結び付けて理解する（DP1)。
- 観察の視点を養い、子どもへの関心を高める（DP1)。
- 多様な体験から、保育者として自らに必要な事柄に気づき、実行に移せるようになる（DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	フィールドワークとは 「フールドワーク」とは何か、その意味と目的について理解する。この講義は集中講義であるため、授業全体のスケジュールについても把握する。(桂木)	事前 事後	授業内で配布した課題に取り組む。（１時間）
2	春の「子どもの森」における体験活動① 春の自然にふれる。五感を使って自然を体験し、自らの感覚を豊かにする（桂木・月橋）	事前	野外における活動に適する服装の準備をする。（0.5 時間）
3	春の「子どもの森」における体験活動② 森の整備活動を通して、子どもの興味関心を探る（桂木・月橋）	事後	体験のまとめを行い、シートに記入する。(0.5 時間)
4	春の「子どもの森」における体験活動③ 「子どもの森」における活動を振り返る。自然の中における気づきや自然とのふれあいに必要な視点を考える。（桂木・月橋）	事前 事後	体験のまとめを完成させる。（0.5 時間） 授業内で共有した体験をふりかえり、自然の中での活動の意義をまとめる。（0.5 時間）
5	秋の「子どもの森」における体験活動① 秋の自然にふれる。動植物・自然現象に目を向け、「感性を豊かにする」具体的方法を考える（桂木・月橋）	事前	野外における活動に適する服装の準備をする。（0.5 時間）
6	秋の「子どもの森」における体験活動② 秋の自然にふれる。子どもとの交流保育を前提に、子どもが自然に触れる手助けとなるような環境づくりを行う(桂木・月橋)	事後	体験のまとめを行い、シートに記入する。(0.5 時間)
7	秋の「子どもの森」における体験活動③ 「子どもの森」における活動を振り返る。自然の中の営みに気づき、なぜ子どもに自然体験が必要なのかを考える（桂木・月橋）	事前 事後	体験のまとめを完成させる。（0.5 時間） 授業内で共有した体験をふりかえり、子どもにとっての自然の意義をまとめる。（0.5 時間）
8	自然物で遊ぶ① 身近な「自然物」でおもちゃをつくる（桂木・月橋）	事前 事後	指定された材料を集める。（0.5 時間） 作品の写真を撮り、シートを完成させる。(0.5 時間)
9	自然物で遊ぶ② 作成した「おもちゃ」で遊ぶ。他者の作品にふれ、発想を広げ、自分の作品の改良等を行う（桂木・月橋）	事前 事後	工作等に自然物を使う意義を考え、レポートに一まとめる。（1 時間）
10	正月遊び① 子どもが作って遊べる「コマ」を作って遊ぶ。楽しく遊べる改良を行う（桂木・月橋）	事前 事後	材料を準備し、持参する。（0.5 時間） コマを完成させる。（0.5 時間）
11	正月遊び② 子どもが作って遊べる「タコ」を作る。楽しく遊べる改良を行う（桂木・月橋）	事前 事後	材料を準備する。（0.5 時間） タコを完成させる。（0.5 時間）
12	正月遊び③	事前	材料を準備する。（0.5 時間）

	大人用の「タコ」を作って遊ぶ。子ども用のタコとの比較を行う（桂木・月橋）	事後	タコを完成させる。（0.5 時間）
13	正月遊び④ 保育現場での「コマ」「タコ」作りの実際を学ぶ。正月遊びの意義と保育との関連を考える（桂木・月橋）	事前	他者の作品を鑑賞する。（0.5 時間）
		事後	まとめシートを完成させる。（0.5 時間）
14	冬の森で遊ぶ① 冬の「子どもの森」で、冬ならではの季節を活かした遊びを体験する（桂木・月橋）	事前	季節に応じた活動をスムーズに行える身支度を整える。（0.5 時間）。（0.5 時間）
		事後	体験のまとめシートを完成させる。（0.5 時間）
15	冬の森で遊ぶ② 体験した内容をスライドにまとめ、発表をする（桂木・月橋）	事前	スライドを完成させる。（0.5 時間）
		事後	この授業を通して得た事柄をレポートにまとめる。（0.5 時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、実習、プレゼンテーションなど

成績評価の方法・基準(%表記)
　コメントシート、レポート（70%）　授業への参加態度（30%）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの様々な行動を、子どもの周りの人間関係や子どもの表現、言葉、環境と結び付けて理解する(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
観察の視点を養い、子どもへの関心を高める（DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育者として自らに必要な事柄に気づき、実行に移せる(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
　なし

参考書等
・佐藤郁哉『フィールドワークー書を持って街に出ようー』　新曜社　1992
・柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門ー技法の基礎から活用までー』　新曜社　2006

履修上の注意・学習支援
・五感を働かせて、実際の子どもの姿をしっかりと観察する。
・研究倫理を守り、相手に迷惑にならないように注意する。
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する。
・担当教員のオフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第 1 回授業で連絡する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H2219	フィールドワーク　Ⅱ	２年	集中	演習	1	蟹江教子・石本真紀

授業概要

フィールドワークⅠで学んだことを踏まえて、子どもの実際の生活の姿を観察する。さらに、子どものみならず、共にいる大人のあり方にも着目し、子どもの生活を支える大人の役割について考える。「みる」「記録する」「考える」ことを通して、子どもの生活に内在する様々な課題に気づき、問題意識を深めていく。フィールドは、保育所、幼稚園、子育て支援センター等、子ども関連の施設や児童公園、図書館、デパート等、子ども・子育て家族が利用する場とする。

到達目標(学習の成果)

・子どもの生活の実態を認識し、子どもの生活の場・保育現場に内在する課題に目を向ける。それを自分の研究課題とし、問題意識を明確にする（ＤＰ3・4)。

・これらを通して、各科目を学ぶ動機づけとし、学んだ知識を応用する能力を養う（ＤＰ4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	フィールドワークとは？: フィールドワークとは何か、本授業のスケジュールを理解する。	事前 事後	シラバスを読み、授業の進み方のイメージをもつ(1 時間)。
2	フィールドワークにあたって 1 ： 子どもの生活の場について、自ら調べる作業をとおして理解を深める。	事前 事後	配布したプリントを基に、授業内容を復習、確認する(1 時間)。
3	フィールドワークにあたって 2 ： フィールドに出るにあたっての注意すべき点、観察・参加方法を理解する。	事前 事後	配布したプリントを基に、授業内容を復習、確認する(1 時間)。
4	フィールドワークにあたって３ ：フィールドでの記録はどのように取ったらよいか、上手な記録方法について学ぶ。	事前 事後	配布したプリントを基に、授業内容を復習、確認する(1 時間)
5	フィールドに行こう！	事前 事後	フィールドについての資料を収集し、整理する(1 時間) フィールドで観察を行う(1 時間)
6		事前 事後	
7	フィールドワークのふりかえり①:フィールドでの観察記録をもとに、結果をレポートの形でまとめる。	事前 事後	観察レポートを作成する(1 時間)
8	フィールドワークのふりかえり②:観察結果を持ちより、グループで検討して次回につなげる。	事前 事後	観察レポートの発表準備をする(1 時間)
9	フィールドワーク 2－①：課題をもって、再度、フィールドに出かけ活動に参加あるいは観察を行う。	事前 事後	フィールドについての資料を収集し、整理する(1 時間) フィールドで観察を行う(2 時間)。
10	フィールドワーク 2－②	事前 事後	
11	フィールドワークのふりかえり③:フィールドワークの結果のまとめ方について学び、報告レポートを作成する。	事前 事後	参与観察の報告をまとめる(2 時間)
12	フィールドワークのふりかえり④:報告会用の資料の作り方、報告の仕方について学び、報告会にむけて準備を行う。	事前 事後	
13	結果報告会:フィールドワークの結果についてスライド等を用いて報告する。	事前 事後	報告会用資料を作成する(2 時間)。 報告の振り返りをする(1 時間)。
14		事前 事後	
15		事前 事後	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
フィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

・ 観察記録・レポート　70%
　課題を持ってフィールドに出て、子どもの姿や共にいる大人のあり方を観察してまとめ、レポートとして提出する。
・ 報告会での報告　30%
　レポートの内容を整理し、指定の時間内で報告する。

　レポート、プレゼンテーションの評価はコモンルーブリック基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの生活の実態を認識し、子どもの生活の場・保育現場に内在する課題について理解する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもが抱える問題を自分の研究課題とし、問題意識を明確にする。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
これらを通して各科目を学ぶ動機づけとし、学んだ知識を応用する能力を養う。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　課題に対しては、報告会でフィードバックを行う。

教科書
　教員作成の資料を配布する。

参考書等
・谷富夫・芦田徹郎編、『よくわかる質的社会調査 技法編』、ミネルヴァ書房、2009

履修上の注意・学習支援
・五感を働かせて、実際の子どもの姿をしっかりと観察する。
・研究倫理を守り、相手に迷惑にならないように注意する。

・疑問やわからないこと生じた場合は、授業担当に質問・相談する
・担当教員のオフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19H3220	教育福祉ボランティア	4 年	春	演習	1	杉本太平

授業概要

本講義では、4 年間の本学における「保育」・「子育て支援」・「障がい児支援」などの教育福祉ボランティアの経験から、体験的に得られた認識を理論的に深めつつ、保育者としての自身の成長のプロセスを捉えなおし、自己課題を適切に捉え、省察力を向上させることをねらいとする。また、新たな自己課題を成立させ、新たなボランティア実践を主体的に計画・実行し、それを本学での学習成果と照らして理論的に捉えつつ、省察する。

到達目標(学習の成果)

・ボランティア活動に取り組み他者と連携・協働して実践力を向上させる (DP2)。
・ボランティア体験を認識的に整理し、学びを振り返る (DP4)。
・実践から新たな自己課題を明らかにに、言語化することができる (DP4)。
・実践の成果を明らかにすることができる (DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	本授業のねらいと意義を理解する。実践を認識的に深め省察する力の重要性を学ぶ。	事前	過去のボランティア実践を振り返り、その意義や学びを整理する。実践シートを作成して提出する。(2 時間)
		事後	
2	本学におけるボランティア実践を振り返り、個々にその体験を通してどのような育ちが得られたかを考える。	事前	実践シートを用いたグループワークで得られた、育ちについて気付きを省察する。(2 時間)
		事後	
3	本学におけるボランティア実践から得られた育ちを全体で共有し、認識的に深める。	事前	実践シートを用いたグループワークで、得られた保育者としての自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
4	本学におけるボランティア実践の振り返りを通して、保育者としての自己課題を検討する。	事前	実践シートを用いたグループワークのまとめとしてレポートを作成する。(2 時間)
		事後	
5	新たなボランティア実践に向けて、自己課題に照らした活動目標を検討する。	事前	新たなボランティア実践を検討する。(1 時間)
		事後	新たなボランティア実践計画を作成する。(1 時間)
6	新たなボランティア実践に向けて、自己課題に照らした活動計画を検討する。	事前	ボランティア実践の活動計画を検討する。(1 時間)
		事後	ボランティア活動計画をまとめる。(1 時間)
7	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践① (全員)	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
8	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践②	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
9	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践③	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
10	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践④	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
11	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践⑤	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
12	自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行う。ボランティア実践⑥	事前	実践シートを用いてボランティア実践成果報告書を作成し、自己課題を省察する。(2 時間)
		事後	
13	新たなボランティア実践を振り返り、自己課題に照らして具体的に達成できたことを明らかにする。	事前	実践シートを用いたグループワークで得られた、気付きを省察する。(2 時間)
		事後	
14	新たなボランティア実践を振り返り、4 年間の学び (理論) に照らしてその成果と課題を省察する。	事前	実践シートを用いたグループワークで得られた、気付きから今後の自己課題を考える。(2 時間)
		事後	
15	本授業を通しての学びの成果をまとめ発表する。	事前	発表レジュメを作成する(3 時間)
		事後	グループワークの振り返りと今後の課題を整理する。(1 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

実際のボランティア活動実践とグループディスカッションによる活動の検討と振り返りを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業課題：50%

振り返り学習：課題に関する理解と、自身の学びが適切に省察できている。

計画・立案：ボランティア実践に向けての活動目標や計画が適切に立てられている。

・活動実践：50%

自身の立てた活動計画をもとにボランティア実践を行い、その結果を適切に省察できている。

ボランティアの実践は2日間（準備の時間を含め6コマ分相当）とする。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ボランティア体験を認識的に整理し、学びを整理するができる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実践から新たな自己課題を明らかにし、言語化することができる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実践の成果をまとめその成果を明らかにすることができる（DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。

・第1回目に教員作成資料（活動計画・振り返りレポート作成のための解説）を配布する。

参考書等

・各授業のテキストおよび関連資料

・春原由紀編著・杉本太平共著　『精神保健』　樹村房　2005年

履修上の注意・学習支援

・グループワークやボランティア実践では積極的に活動すること。

・課題は指定された期日までに必ず提出すること。

・欠席した場合は、課題・資料を次回の授業までに取りに来ること。

・授業で解決できなかった疑問点・質問があるときは積極的にオフィスアワーを活用すること。

・メールアドレス　(sugimoto@kyowa-u.ac.jp)　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991年4月～19998年9月）として心理職の実務

2．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997年4月～2020年3月）として心理職の実務

3．文教大学心理劇研究会主宰（1990年4月～2012年3月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010年4月～2019年12月)、人間関係・HRST研究会主宰（2020年1月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健ー子どもと家族の援助のためにー」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I1101	社会福祉	１年	春	講義	2	蟹江　教子

授業概要

人間の尊厳と自立を尊重し、これを支援する社会福祉についての、概念や理念、歴史、法律、制度、サービスなどについて学ぶ。社会福祉は，経済社会や家族構造の変遷とともに変化、発展してきた。そのような歴史的経緯を踏まえて、今日の社会福祉の状況について把握するとともに、自立した生活を営むために必要な情報や制度のしくみ、役割についての造詣を深める。

到達目標(学習の成果)

・ひとりの生活者という視点から社会福祉に関する基礎的知識を学び、重要性を理解する（DP1)。
・福祉職である保育士の立場から社会福祉に関する専門的知識、援助技術等を理解・習得する（DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	社会福祉の理念と歴史的変遷：社会福祉の概念、歴史的変遷、現代的課題	事前	第１章の内容を復習し、キーワードを整理する(4 時間)。
		事後	
2	子ども家庭支援と社会福祉:社会福祉の専門職としての保育士、子ども家庭支援、地域の子育て家庭への支援活動	事前	第２章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
3	社会福祉の制度と法体系：社会福祉における法律と制度、社会福祉の法制度の種類と具体的内容など	事前	第３章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等：社会福祉行政の体制、福祉の財政、社会福祉施設	事前	第４章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
5	社会福祉の専門職：専門職の条件と専門性の構造、児童福祉施設に配置される専門職など	事前	第５章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
6	社会保障および関連制度の概要：社会保障制度、子育て世帯の現状、脱工業化の進展（小テスト）	事前	第６章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
7	相談援助の理論：相談援助理論の体系化、保育所・児童福祉施設における相談など	事前	第７章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
8	相談援助の意義と機能:相談援助の特徴、相談援助の原則、相談援助の意義と機能	事前	第８章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
9	相談援助の対象と過程：保育における相談援助、相談援助の過程、受容的に話を聞く態度	事前	第９章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
10	相談援助の方法と技術、保育現場における相談援助の方法・技術への理解の必要性（小テスト）	事前	第 10 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ:利用者の権利擁護と苦情解決	事前	第 11 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
12	少子高齢化社会における子育て支援:人口動態と少子化の現状、少子化対策の展開、課題と保育	事前	第 12 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
13	共生社会の実現と障害者施策：障害のとらえ方、障害者福祉の展開、インクルージョンの理念	事前	第 13 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
14	在宅福祉・地域福祉の推進：地域福祉の概念、保育所における子育て支援の機能と特性（小テスト）	事前	第 14 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。
15	諸外国の社会福祉の動向：社会福祉と福祉国家、イギリスの社会福祉の歴史と動向など	事前	第 15 章の内容を確認する(2 時間)。
		事後	授業内容を復習する(2 時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
記載なし

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業時の小テストやコメントシート30%
・学期末試験（授業内容の理解）70%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ひとりの生活者という視点から社会福祉に関する基礎的知識を学び、重要性を理解する（DP1)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
福祉職である保育士の立場から社会福祉に関する専門的知識、援助技術等を理解・習得する（DP2)。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　学期末テストはクラスルーム等でフィードバックする。

教科書
松原康雄他、『社会福祉(新・基本保育シリーズ4)』、中央法規、2019、￥2,200

参考書等
柏木ハルコ、『健康で文化的な最低限度の生活　1～12』、小学館、2014～2023

履修上の注意・学習支援
・前回の授業範囲を復習し、専門用語の意味などについて説明できるようにする。
・小テストで6割の正解に達しなかった学生については再テストを行うこともある。
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する
・オフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第1回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I2102	子ども家庭福祉	2 年	春	講義	2	石本　真紀

授業概要
子どもを取り巻く環境は、社会や家族形態の変化によって、多様化している。子ども家庭福祉では、原理、理念、子どもの権利保障、子ども家庭福祉に関わる法制度、福祉や保健施策、子どもと家庭への支援など、基本的な内容について学習する。

到達目標(学習の成果)
・子どもを取り巻く生活問題に関心を持つことができる（DP3）。
・現代社会における子ども家庭福祉の意義、理念、歴史的変遷について説明できる（DP3）。
・子ども家庭福祉の制度・活動の意義と今後の課題について自分の言葉で表現できる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義 子ども家庭福祉の理念と概念	事前	新聞やニュースをもとに現代における子どもに関する問題について調べる(2 時間)
		事後	子ども家庭福祉の理念と概念についてテキストや配布プリントで復習する(2 時間)
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷 戦前、戦後の子どもと家庭の姿から	事前	日本において子ども家庭福祉がどのように発展してきたのかについて調べる(2 時間)
		事後	ヤングケアラーの現状や若者支援の内容について調べる(2 時間)
3	子どもの人権擁護 子どもの人権擁護の歴史的変遷	事前	子ども観の変遷についてテキストを読み、子どもの最善の利益について調べる(2 時間)
		事後	子どもの権利の内容について復習する(2 時間)
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系（1） 子ども家庭福祉の制度と法体系、今日の保育制度	事前	子ども家庭福祉に関連する法律の目的と内容、について確認する(2 時間)
		事後	教育・保育施設を利用する際のしくみについて復習する(2 時間)
5	子ども家庭福祉の制度と実施体系（2） 実施体系、児童福祉施設	事前	児童福祉施設の目的と施設を利用する子どもの状況について調べ、まとめておく(2 時間)
		事後	自分の住む市町の児童福祉施設を調べる(2 時間)
6	子ども家庭福祉の制度と実施体系（3） 社会的養護と子ども家庭福祉の専門職	事前	児童福祉施設で働く専門職の職務内容について調べる(2 時間)
		事後	行政機関で働く専門職の職務内容を調べる(2 時間)
7	少子化と地域子育て支援 次世代育成支援と地域との連携・協働	事前	自分の住む市町の子育て支援サービスについて確認する(2 時間)
		事後	教育・保育の場の現状と課題について復習する(2 時間)
8	母子保健と子どもの健全育成	事前	子ども家庭福祉と母子保健制度の関連について予習をする(2 時間)
		事後	母子保健施策の内容について復習する(2 時間)
9	ひとり親家庭への対応	事前	ひとり親家庭の現状について資料をもとに確認しておく(2 時間)
		事後	ひとり親家庭への支援の課題についてまとめる(2 時間)
10	子ども虐待の早期発見と予防 ドメスティック・バイオレンスの防止	事前	子ども虐待やDVの現状について資料をもとに確認する(2 時間)
		事後	子ども虐待・DV 問題対策について復習する(2 時間)
11	社会的養護を必要とする子どもへの対応	事前	社会的養護の現状について資料をもとに確認する(2 時間)
		事後	社会的養護の課題について復習する(2 時間)

12	少年非行等への対応	事前	非行とはどのような行為を指すのかを調べ、非行が子どもの将来にどのような影響を及ぼすのかについて自分の考えをまとめる(2.5 時間)
		事後	事例を読み、非行少年への支援の実際について学ぶ(1.5 時間)
13	障害のある子どもへの対応	事前	児童福祉法における障害児の定義を確認し、関連する法律について調べておく(1.5 時間)
		事後	障害のある子どもの支援として地域にはどのようなものがあるのかを調べる。(2.5 時間)
14	多様な保育ニーズへの対応 外国にルーツのある子どもと保護者への支援 子どもの貧困対策	事前	外国籍・外国にルーツのある子どもや貧困家庭で育つ子どもの生活のしづらさの要因について資料を読む(1.5 時間)
		事後	子育て家庭が求める教育・保育施設の役割について自分の意見をまとめる(2. 5 時間)
15	子ども家庭福祉の動向と展望 諸外国の動向	事前	子ども家庭福祉の新たな動向について調べる(1.5 時間)
		事後	子ども家庭福祉の今後の課題について自分の意見をまとめる(2.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業中に記載するコメントシート（学習内容を理解し、自分の意見を述べているか）　20%
・レポート（テーマに沿って自分の考えが論理的に述べられているか）　30%
　コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。
・定期試験（子ども家庭福祉の基本的な考え方や専門用語の理解が出来ていること。子ども家庭福祉の現状と課題について根拠を示して自らの言葉で表現できること）　50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境についての理解	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもや家庭に対する法制度と支援の仕組みについての理解	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育士の支援の在り方について自分の言葉で表現できる	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

学生へのフィードバックについて
・授業中のコメントシート等は次回返却する
・定期試験結果の全体的な傾向はクラスルームで提示する

教科書
新沼英明編著「こどもまんなか福祉論」中央法規　2024 年　2,200 円（税別）
参考書等
一般社団法人全国保育士養成協議会「ひと目でわかる　保育者とソーシャルワーカーのための児童家庭福祉データブック　2025」中央法規　2024 年
幸重忠孝「まちの子どもソーシャルワーク」かもがわ出版　2018 年
鈴ノ木ユウ「コウノドリ」（1）～（32）講談社

履修上の注意・学習支援
・「社会福祉」での学習内容と関連するため、理解を深めておくこと。
・受講するにあたって配慮する点があれば、事前に相談すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
　児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、子どもの日常生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。現在は、地域にあるもう一つの家「子どもの居場所」にて子どもの育ちを支える活動に携わっている。

［実務経験と授業科目との関連性］
　本科目では、子どもや保護者が抱える生活上の課題を把握し、子ども家庭福祉に関する制度や施策、支援活動の実際など、子ども家庭福祉に関する体系的な学習を行う。児童福祉施設（入所型施設）における日常生活支援や家庭支援の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が高く、現場での実務経験を生かした講義が実施できる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I2203	社会的養護Ⅰ	2年	秋	講義	2	石本　真紀

授業概要
社会的養護が必要となる社会的状況を理解し、社会的養護の体系、基本的な考え方について学ぶ。
子どもの権利保障に視点を置いた実践から、社会的養護の基本となる子ども観を養い、社会的養護に携わる者としての基礎的知識を身につける。

到達目標(学習の成果)
1．社会的養護の対象や形態、制度や実施体系など子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本を理解し、その内容について説明できる（DP3）。
2．社会的養護における日常生活支援や自立支援の必要性について説明できる（DP3）。
3．社会的養護の現状と課題を理解し、子どもの権利を守る専門職としての力を養う（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	現代社会における社会的養護の意義 社会的養護の基本理念と概念	事前	テキストを読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	授業内容を振り返り、社会的養護の理念と概念について自分の考えをまとめる(2 時間)
2	社会的養護の歴史的変遷	事前	テキストを読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	戦後の児童養護論の展開についてまとめる(2 時間)
3	社会的養護の基本（1） 子どもの人権擁護と社会的養護	事前	テキストを読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	人権擁護について自分の考えをまとめる(2 時間)
4	社会的養護の基本（2） 保育士等の倫理と責務	事前	子どもの権利を守る取り組みについて調べる(2 時間)
		事後	子どもが求める職員像について自分の意見をまとめる(2 時間)
5	社会的養護の制度と実施体系（1） 社会的養護に関連する制度と法体系	事前	テキストを読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	テキストを読み、養護系施設の目的と概要についてまとめる(2 時間)
6	社会的養護の制度と実施体系（2） 社会的養護の仕組み,児童相談所と児童福祉施設	事前	国・県・市町村の役割をテキストで確認する(2 時間)
		事後	児童相談所の目的や業務内容を調べる(2 時間)
7	社会的養護に携わる専門職	事前	テキストを読み、ワークシートに記入する(2 時間)
		事後	専門職の役割について自分の考えをまとめる(2 時間)
8	家庭養護の対象・形態・特徴 －里親とファミリーホーム－	事前	テキストを読み、家庭養護の現状をまとめる(2 時間)
		事後	家庭養護の課題について自分の意見をまとめる(2 時間)
9	施設養護の対象・形態・専門職（1） 日常の生活支援、治療的支援	事前	生活支援の具体的内容についてワークシートに記入する(2 時間)
		事後	乳児院等の運営指針を読み、その内容をまとめる(2 時間)
10	施設養護の対象・形態・専門職（2） 社会的養護における自立支援	事前	テキストを読み、自立支援の考え方を確認する(2 時間)
		事後	自立支援の取り組みについて調べる(2 時間)
11	施設養護の対象・形態・専門職（3） 障害児入所施設等での子どもの暮らし	事前	テキストを読み、障害系施設の目的と概要についてまとめる(2 時間)
		事後	HP を参考に障害児入所施設の支援内容をまとめる(2 時間)
12	社会的養護の現状と課題（1） 児童福祉施設の運営管理	事前	テキストを読み、施設の組織や運営の仕組みについてワークシートに記入する(2 時間)
		事後	施設のHPをもとに施設の組織について確認する
13	社会的養護の現状と課題（2） 倫理綱領、被措置児童等虐待の防止	事前	テキストを読み、虐待が起こる理由について自分の考えをまとめる(2 時間)
		事後	被措置児童虐待防止について自分の考えをまとめる(2 時間)
14	社会的養護の現状と課題（3） 社会的養護の社会的状況、社会的養育ビジョン	事前	新たな社会的養育ビジョンの内容についてまとめる(2 時間)
		事後	授業内容を振り返り、自分の意見をまとめる(2 時間)
15	社会的養護と地域福祉 市町村の子育て支援との連携	事前	テキストを読み、市町村の子育て支援との連携についてワークシートに記入する(2 時間)
		事後	提示されたレポート課題に取り組む(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業中に記載するコメントシート（各回の学習内容を理解していること）　30%
・レポート（社会的養護の現状と課題について根拠を示して自らの言葉で表現できること）　20%
　コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。
・定期試験（社会的養護の基本的な考え方や専門用語の理解が出来ていること）　50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本を理解しその内容を説明できる	十分 できている	ほぼ十分 できている	一定程度 できている	努力している
社会的養護における日常生活支援や自立支援の必要性について説明できる	十分 できている	ほぼ十分 できている	一定程度 できている	努力している
子どもの権利を守る専門職としての職務内容を説明できる	十分 できている	ほぼ十分 できている	一定程度 できている	努力している

・コメントシートの内容をもとに次回の授業で補足説明を行う
・定期試験終了後、結果の全体的な傾向はクラスルームで提示する

教科書
堀場純矢「社会的養護Ⅰ第２版（みらい×子どもの福祉ブックス」みらい　2024　2,640 円

参考書等
一般社団法人全国保育士養成協議会「ひと目でわかる　保育者・ソーシャルワーカーのための児童家庭福祉データブック　2025」中央法規　2024 年
楢原真也「児童養護施設で暮らすということ　子どもたちと紡ぐ物語」日本評論社　2021

履修上の注意・学習支援
・受講者の主体的参加を重視します。次回の授業範囲を予習して授業に臨んで下さい。
・特に３年次の春学期に開講される「社会的養護Ⅱ」と関連づけながら授業をおこないますので、社会的養護の基本的な考え方や施設保育士の役割などについて理解を深めていきましょう。
・授業内の質問はいつでも受け付けます。積極的に質問をして下さい。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、施設で生活する子どもの日常生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。現在は、主に要支援家庭で育つ子どもの居場所で活動をおこなっている。

[実務経験と授業科目との関連性]
本科目では、子どもや保護者が抱える生活上の課題を把握し、社会的養護の仕組みや実施体系、社会的養護の理念・基本原理をふまえた支援の実際について体系的な学習を行う。児童福祉施設（入所型施設）における日常生活支援や家庭支援の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が高く、現場での実務経験を生かした講義が可能である。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19I4204	子ども家庭支援論	４年	秋	講義	２	杉本　太平

授業概要

本講義は、保育者の行う保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を学ぶ。現代社会の家庭や子育て・子育ちをめぐる様々な変化や背景を理解し、多様な支援ニーズに対応できるように、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援についてその特性と展開を具体的に学ぶ。また、保育者の行う子育て支援について、地域の支援の体制や社会資源を知り、様々な場や支援対象者に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に検討する。

到達目標(学習の成果)

・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し説明することができる(DP1.3)。
・保育の専門性を活かした子ども家庭支援について理解し、行為法や事例研究を通して実践力を養う(DP2.3.4)。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の方法を理解し、子ども家庭支援の現状と課題を説明することができる(DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	現代社会の家庭の変化や背景を学び、保育者が行う子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。	事前	関連科目の学びを復習する。(3 時間)
		事後	学習した社会的背景と課題を復習する。(1 時間)
2	現代社会の育児不安や困難感について学び、子ども家庭支援の目的と機能を理解する。　事例研究①	事前	関連科目の学び（育児不安・困難感）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本について学び、保護者との相互理解と信頼関係の形成、支援方法について、事例を通して考える。　事例研究②	事前	関連科目の学び（カウンセリング・援助理論）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
4	保育の専門性を活かした多面的な理解とアセスメント、具体的な支援方法について、子ども家庭支援の事例から学ぶ。事例研究③	事前	関連科目の学び（アセスメント）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
5	子どもの育ちの喜びを共有する基本技術、傾聴・共感的理解について体験し、身につける。HRST 実践演習①	事前	関連科目の学び（授業課題）を復習する。(3 時間)
		事後	実践演習の学びをまとめる。(1 時間)
6	保育者に求められる基本的態度、受容・自己決定の尊重・秘密保持について体験し、身につける。HRST 実践演習②	事前	関連科目の学び（授業課題）を復習する。(3 時間)
		事後	実践演習の学びをまとめる。(1 時間)
7	地域の子育て支援の資源を調べ、関係諸機関との連携・協力、職員間の連携・協働の意義について理解する。	事前	レポート課題①に取り組む。(3 時間)
		事後	授業課題に取り組み、学びを復習する。(1 時間)
8	保育所等における子どもの家庭への支援について事例を通して学ぶ。事例研究④	事前	実習の振り返り、保育者の子育て支援を考える。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
9	ひとり親家庭など家庭の状況に応じた支援について事例を通して学ぶ。事例研究⑤	事前	ひとり親家庭の問題を調べる。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
10	障がいを持つ子どもと家庭への支援について事例を通して学ぶ。事例研究⑥	事前	関連科目の学び（障がいと障がい支援関連）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
11	特別なケアを必要とする子どもと家庭への支援について事例を通して学ぶ。事例研究⑦	事前	関連科目の学び（特別なケアを必要とする子ども関連）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
12	要保護児童等の家庭への支援について事例を通して学ぶ。事例研究⑧	事前	関連科目の学び（要保護児童関連）を復習する。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
13	子育て支援施策や次世代育成支援施策について調べ、その意義について理解する。	事前	レポート課題②に取り組む。(3 時間)
		事後	授業課題に取り組み、学びを復習する。(1 時間)
14	多様な支援ニーズを抱える家庭への支援について事例通して学ぶ。事例研究⑨	事前	レポート課題③に取り組む。(3 時間)
		事後	事例研究の学びをまとめる。(1 時間)
15	学んだことを振り返り、レポート課題を通して保育者が行う子ども家庭支援について、配慮・重視すべき点について検討する。	事前	レポート課題③を完成させる。(3 時間)
		事後	授業の振り返りと今後の自己課題を考察する。(1 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

「ヒューマンリレーション・スキルトレーニング(Human Relation Skills Training)＝HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)、保育・教育相談・子育て支援事例を通した事例研究、調べ学習(レポート)のプレゼンテーション・グループディスカッションを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・事例研究およびHRST 実践演習の課題提出（30%：事例研究やHRST 実践演習についての考察内容を評価する）
・レポート３課題（50%：レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。授業課題に関する文献研究・調査を行い、保育者としての子どもと家庭への支援をする上で配慮・重視すべき点について論述する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育者としての子ども家庭支援の特性や意義を論述できる（DP1.3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子ども家庭支援の学習内容を実践に関連付けることができる（DP2.3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子ども家庭支援の方法や子ども家庭支援の現状と課題を論述できる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料（子育て支援事例・参考資料）を配布する。

参考書等

・汐見稔幸監修『子育て支援シリーズ１－子育て支援の潮流と課題－』　ぎょうせい　2008 年
・長島和代・石丸るみ・前原寛・鈴木彬子・山内陽子著　『日常の保育を基盤とした子育て支援－子どもの最善の利益を守るために－』　(株)萌文書林　2018 年
・園川緑・中嶋洋編著　『保育者のための子育て支援入門－ソーシャルワークの視点からやさしく学ぶ－』　(株)萌文書林　2021 年
・春原由紀編・杉本太平他著　『精神保健』　樹村房　2005 年
・阿部優美・杉本太平他監修・伊藤智絵・井上誠也他著『子育てアドバイザー検定』　NPO 法人子育アドバイザー協会　ファストブック　2022 年

履修上の注意・学習支援

・授業内容を理解するために、関連科目の学習内容や参考書等での予習を必要とする（毎回の講義で範囲を指定）。
・事例研究課題やHRST 実践演習の学びをまとめ提出する（授業欠席した場合も必ず課題に取り組み提出すること）。
・子育て支援に関連する他科目の学習内容や実習体験を、事例研究の学びと関連させて統合的に理解できるようにする。
・事例研究課題やHRST 実践演習グループワークでは自分の意見を積極的に発言し、課題に取り組むこと。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・授業を欠席した場合は必ず個人的に担当教員まで配布資料を取りに来て、自己学習を行うこと。
・授業で解決できなかった疑問点・質問があるときは積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp）　研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

１．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
２．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）として心理職の実務
３．文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

著書として「精神保健－子どもと家族の援助のために－」（共著）、「子育てアドバイザー検定」（監修・共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健や子育て支援に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3205	障害児保育	3 年	春	演習	2	松岡　展世

授業概要

障害児保育の理念や概要、障害児への個別援助およびインクルーシブ保育に関して学ぶ。障害児の保育について基礎知識、徳性に応じた援助のポイントを学ぶ。さまざまな障害のある子どもたちの生活上の困難さや困り感に気づき、援助のポイント、発達を促す環境等について、グループ発表や模擬体験を行うことでより実践的な支援技術を深める。

到達目標(学習の成果)

①障害児に関する考え方や制度、様々な障害特性について説明できる(DP3)。
②障害のある子どもへの個別の援助や集団における援助の方法を考え、判断し、伝えることできる(DP3)。
③インクルーシブ保育の視点をもち、集団生活における配慮や援助に生かすことができる(DP4)。
④「障害」に対する受け止め方を自覚し、演習授業を通してその変化を示し、実践に生かすことができる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	自身の「障害児イメージ」を再確認し、障害観の変遷と障害児保育の歴史について学ぶ。	事前	ドラマや小説、実体験で見聞きした障害児に関する印象的な場面やイメージを書きだす(0.5 時間)。
		事後	障害の社会モデルについてまとめる(1 時間)。
2	地域のインクルーシブ保育の基本となる合理的配慮の視点を学ぶ。	事前	身の回りの社会的障壁を書きだす(0.5 時間)。
		事後	合理的配慮について整理する(1 時間)。
3	肢体不自由児の保育に必要な基礎知識を学び、かかわりの視点について理解を深める。	事前	体が不自由であることで生活、対人面、心理面にとのような影響があるか考え、書きだす(0.5 時間)。
		事後	肢体不自由児の特徴と援助について整理する(1 時間)。
4	知的障害の基礎知識について概説し、知的障害を持つ子どもへのかかわりの視点について理解を深める。	事前	知的障害という言葉から連想する語を 10 個書き出し、疑問に思うことを書きだす(0.5 時間)。
		事後	知的障害児の保育について整理する(1 時間)。
5	視覚障害の基礎知識について概説し、視覚障害を持つ子どもへのかかわりの視点について理解を深める。	事前	視覚障害について知っていることと疑問に思うことを書きだす(0.5 時間)。
		事後	視覚障害児の保育について整理する(1 時間)。
6	聴覚障害と言語障害の基礎知識について概説し、聴覚障害児や言語障害を持つ子どもへのかかわりの視点について理解を深める。	事前	聴覚障害について知っていることと疑問に思うことを書きだす(0.5 時間)。
		事後	聴覚障害児の理解と対応についてまとめる(1 時間)。
7	発達障害の基礎知識について概説し、発達障害を持つ子どもへのかかわりの視点について理解を深める。	事前	発達障害について知っていることと疑問に思うことを書きだす(0.5 時間)。
		事後	発達障害の特性と対応について整理する(1時間)。
8	重症心身障害児、医療的ケア児の子どもの理解と援助について概説し、具体的な支援について考える。	事前	医療的ケア児について調べ、疑問点を書き出す(0.5 時間)。
		事後	重症心身障害児と医療ケア児の理解と援助についてまとめる(1時間)。
9	障害のある子どもの個別の指導計画および支援計画の意義や内容、作成のポイントについて具体例をもとに学ぶ。	事前	個別の指導計画をネットで検索し、具体例を2つ以上みてくる(0.5 時間)。
		事後	個別の指導計画や支援計画のポイントについてまとめる(1 時間)。
10	障害のある子ども一人一人の発達を促す生活や遊びの環境について学び、保育者の役割について考える。	事前	任意の障害を想定して理想の保育環境をイラストにしてみる(0.5 時間)。
		事後	障害のある子どもに対する環境構成の工夫についてまとめる(1 時間)。
11	職員間の連携・協働について、保育者同士，関係機関との連携協働の必要性について理解する。	事前	職員間の連携ときいて思い浮かぶことを 5 つ以上書き出す(0.5 時間)。

		事後	保育者同士，関係機関との連携協働についてまとめる(1 時間)。
12	障害のある子どもの保護者やきょうだいの支援の必要性および支援の基本姿勢を学ぶ。	事前	きょうだい児について調べ、概要をまとめてくる(0.5 時間)。
		事後	保護者・きょうだい支援についてまとめる(1 時間)。
13	子どもを支える専門職について学び、関係機関との連携協働の必要性を学び、どのように連携をしていくとよいのかを考える。	事前	子どもを支える専門職を思いつくだけ書き出してみる(0.5 時間)。
		事後	関係機関との連携についてまとめる(1 時間)。
14	小学校等との連携について、就学前の準備や就学当たる移行支援の概要を学び、切れ目のない支援を考える。	事前	年長クラスの担任になったらどんなことに気をつけて保育を行いたいか書き出してみる(0.5 時間)。
		事後	就学移行支援について整理する(1 時間)。
15	自身の学びを振り返り、すべての子どもが必要な支援を受けながら共に育ち合う保育・教育を考える。	事前	1 から 14 回の学びを振り返り、質問を書き出す(0.5 時間)。
		事後	障害を持つ子どもの保育の質を高めるポイントを振り返り、まとめる(1 時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、ロールプレイ、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
① 授業内課題：授業内容を理解し、気づきや考察をわかりやすく表現する（30 %）
② 授業への取り組み：主体的に活動に参加し、各障害に伴う困難や様々な要因を理解し、対応について考えられる。実践からの学びや今後の課題を自らの言葉で表現できる（20%）
③ 最終レポート：障害児保育に関する考察レポートをまとめる。授業で学んだことを生かし、自らの体験を踏まえて考察を深め、的確に表現できる（50%） レポート評価には、コモンルーブリック・レポート基準を用いる
＊課題については、次回の授業の中でフィードバックを行う。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
障害児に関する考え方や制度、様々な障害特性について説明できる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
障害のある子どもの個別援助や集団援助の方法を考え、判断し、伝えることできる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
インクルーシブ保育の視点をもち、集団生活における配慮や援助に生かすことができる（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
「障害」に対する受け止め方を自覚し、演習授業を通してその変化を示し実践に生かすことができる（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
使用しない
毎回、内容に合わせて理解を深めるため教員が作成した資料を配布する。その他、映像資料・スライド資料を視聴する。

参考書等
文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉（平成29年告示）チャイルド本社 2017年
上野一彦監修「発達障害のある子へのサポート実例集 幼稚園・保育園編」ナツメ社 2010年
森田安徳編著「発達障がいの子どものための楽しい感覚・運動あそび」明治図書 2009年
小林徹、栗山宣夫編集 「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」(株)みらい 2020年

履修上の注意・学習支援
履修にあたって個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。
授業内には、質問を随時受け付けます。積極的に質問し、できる限りその場で解決すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・東京都世田谷区教育委員会の教育相談室（10年）及び栃木県の大学院附属臨床センター（10年）にて心理相談員
幼児期から中学生までの子どもの発達援助、発達検査、保護者や成人の心理相談、園の巡回相談など
・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14年）
1歳6か月健診、3歳児健診、5歳児健診および子育て教室（心理相談）、保健師・保育士へのコンサルテーション等
・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5年）
児童生徒および保護者の相談、教員コンサルテーション、心理アセスメント等

[実務経験と授業科目との関連性]
・臨床心理士として、乳児期から中学生まで、発達障害や知的障害、学習障害等を持つ子どもや被虐待等の背景を持つ子ども、支援の必要な子どもに対しての発達・心理アセスメントと援助に関わり、保護者への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。これらの経験を踏まえ、特別な支援が必要な乳幼児の理解とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3206	特別の支援が必要な子どもの保育	3年	秋	講義	2	松岡　展世

授業概要

通常のクラスにもいる発達障害をはじめとする様々な障害や特別な教育的ニーズのある子どもたちについて把握し、子どもの困り感を理解し、個別の教育的ニーズと適切な援助について考える力が養われるようにする。講義だけでなく、演習を通じて、特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達過程を理解し、支援方法について学ぶ。乳幼児が必要な支援を受けながら、共に生活に参加する実感や達成感をもち生きる力を身につけていける援助の方法を理解していく。更に、保育者間の連携やチーム援助、保護者への支援や家庭との連携、他機関との連携の大切さについて理解する。

到達目標(学習の成果)

・特別の支援を必要とする乳幼児期の障害の特性及び心身の発達について理解する（DP3)。
・特別の支援を必要とする乳幼児に対する養護や教育課程、必要な支援・援助の方法を理解する（DP3)。
・障害の有無にかかわらず特別の教育的ニーズのある乳幼児に関心を持って積極的に参加し、支援の必要性やその内容について理解し、口頭や文章で説明できる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	自身の障害観を再確認し、さまざまな状況にある子どもたちの特別なニーズについて概観を学ぶ。	事前	特別な支援と聞いて思い浮かぶ場面を書きだす(1 時間)。
		事後	様々な教育的ニーズについて概要をまとめる（3 時間))。
2	保育の現場における、集団の中での発達に凸凹のある子どもの特徴と行動特性を知る。	事前	実習でちょっと気になった子について書き出す(1 時間)。
		事後	集団保育における不適応についてまとめる（3 時間))。
3	特別の支援を必要とする子供への環境調整による支援について学び、具体的なワークを通して保育実践での活用を考える。	事前	実習で経験した気になる子どもを思い浮かべ、必要な環境調整について書き出す(1 時間)。
		事後	環境調整についての学びをまとめる（3 時間)。
4	落ち着きのない子どもがいる集団での保育実践と環境構成について考える。	事前	じっとするのが苦手な子どもの特徴を書き出す(1 時間)。
		事後	多動傾向の子どもの保育と環境構成をまとめる（3 時間))。
5	学び方に凸凹のある子どもなど学習に苦戦しがちな子どもがいる集団での保育実践と環境構成について考える。	事前	自分の得意な学習スタイルを考え、まとめておく(1 時間)。
		事後	LD 傾向の子ども保育と環境についてまとめる（3 時間)）。
6	知的な遅れはなく発達に偏りがある子どもの保育と環境構成について学ぶ。	事前	発達障害について復習しておく(1 時間)。
		事後	特別の教育的ニーズに対する支援をまとめる。
7	言葉での意思表示やコミュニケーションが難しい子どもへの対応と、環境構成による援助について理解する。	事前	コミュニケーションが難しい子の特徴を考えおく(1 時間)。
		事後	自閉スペクトラム症の保育と環境をまとめる（3 時間)。
8	0 歳児の運動発達、人への関心、情緒的安定を図る、1 歳児の言葉、他児との関係への援助について学ぶ。	事前	0,1 歳の保育での気になることを書き出してみる(1 時間)。
		事後	子どもの課題の表れ方と対応をまとめる（3 時間)。
9	2 歳児、3 歳児におけることばのやり取り、他児との関係を育てるための関わりについて学ぶ。	事前	2. 3 歳の保育での気になることを書き出してみる(1 時間)。
		事後	子どもの課題の現れ方と対応をまとめる（3 時間)。
10	4 歳児のことばのやり取り、ルール、他児巻き込み等への対応、5 歳児のルールを守れないことへの対応を学ぶ。	事前	4.5 歳の保育での気になることを書き出してみる(1 時間)。
		事後	子どもの課題の表れ方と対応をまとめる（3 時間)。
11	子ども同士のかかわりと育ち合いに焦点をあて、集団の中だからこそ可能になることと課題、関わり合いや育ちを支える視点を学ぶ。	事前	自身が経験した子ども同士のトラブル場面や育ち合いの場面を思い出し、書き出す(1 時間)。
		事後	子ども同士のかかわりのなかでの学びとその支援について整理する(3 時間)。
12	特別の支援を必要とする子どもを含む集団の保育計画と個別の指導計画について学ぶ。	事前	実習で経験した気になる子どもを思い浮かべ、必要な環境調整について書き出す(1 時間)。
		事後	障害のある子どもの保育計画を作成する（3 時間)。
13	指導案を作成した事例に基づいてグループでロールプレイを行い、発表することを通して、支援の実際を疑似体験し、	事前	ロールプレイの事例の背景理解を考えてくる(1 時間)。
		事後	ロールプレイの振り返り、自信の気づきや発見を

	子どもの立場の視点と保育の実際について理解を深める。		言語化してまとめる（3 時間）。
14	インクルーシブ保育における流動的な生活の中での職員間の協力関係と連携、その方法について学ぶ。	事前	インクルーシブ保育について調べておく（1 時間）。
		事後	職員間の連携についての学びを整理する（3 時間）。
15	保護者への支援と連携について、具体例をもとに必要な視点を学び、かかわり方を考える。	事前	保護者支援について気になることを書き出す（1 時間）。
		事後	保育の質を高めるポイントを振り返り、まとめる（3 時間）。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業後レポート 30%(授業毎に、授業での学びについて振り返り、自分の言葉で整理できているか)
・授業への取組み 20%(グループワーク等に積極的に取り組み、発表時には意見を分かりやすく述べることができているか)
・レポート 50%(設定したテーマに関し、実践活動等の体験を踏まえ、授業での学びを生かした考察を要点を押さえてまとめられているか)
レポート評価には、コモンルーブリック・レポート基準を用いる

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達について述べることができる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
特別の支援を必要とする乳幼児に対する養護や教育課程、必要な支援・援助の方法を記述できる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
特別の教育的ニーズのある乳幼児に関心を持って積極的に参加し、支援の必要性やその内容について口頭や文章で表現できる(DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

＊課題に関しては、次回の授業の中でフィードバックを行う。

教科書
特になし
毎回、内容に合わせて理解を深めるための資料を配布する。その他、映像資料・スライド資料を視聴する。

参考書等
文部科学省・厚生労働省・内閣府、「幼稚園教育要領 / 保育所保育指針 / 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉(平成29年告示)、チャイルド本社、2017年
星山麻木編著、「障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして」、萌文書林、2023年
小竹利夫・芳野正昭、矢野洋子、猪野善弘編著、「障害のある子どもの保育・教育―心に寄り添う援助をめざして―」、建帛社、2023年
前田泰弘編著、「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」、萌文書林、2024年
野内友規・綿引清勝編著、「気になる子のインクルーシブ教育・保育」、中央法規、2022年
小林徹 他編著、「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」、みらい、2021年

履修上の注意・学習支援
履修にあたって個別に配慮が必要な場合には、事前に相談すること。
授業内には、質問を随時受け付ける。積極的に質問し、できる限りその場で解決すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・東京都世田谷区教育委員会の教育相談室(10年)及び栃木県の大学院附属臨床センター(10年)にて 心理相談員
幼児期から中学生までの子どもの発達援助、発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談
・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談(14年)
1歳6か月健診、3歳児健診、5歳児健診および子育て教室(心理相談)、保健師・保育士へのコンサルテーション等
・東京都公立中学校スクールカウンセラー(5年)
児童生徒および保護者の相談、教員コンサルテーション、心理アセスメント等

[実務経験と授業科目との関連性]
・臨床心理士として、乳児期から中学生まで、発達障害や知的障害、学習障害等を持つ子どもや被虐待等の背景を持つ子ども、支援の必要な子どもに対しての発達・心理アセスメントと援助に関わり、親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。これらの経験を踏まえ、特別な支援が必要な乳幼児の理解とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3207	社会的養護Ⅱ	3 年	春	演習	1	石本　真紀

授業概要

１．社会的養護の実際から、社会的養護にかかわる専門職の職務内容について学ぶ。
２．社会的養護における子どもの権利擁護や保育士の職業倫理について学ぶ。
３．子どもが育つプロセスを理解し、支援計画の作成や記録、自己評価の視点を理解する。
４．社会的養護にかかわる専門職に必要となる相談援助の方法・技術を身につける。

到達目標(学習の成果)

・社会的養護を必要としている子どもへの支援方法を学び、今後の課題について説明できる（DP3）。
・社会的養護Ⅰで学んだ理論を応用し、ロールプレイや支援計画の立案を行う機会を通して、学生自ら考える力を養う（DP3）。
・事例を通して日常生活支援や自立支援等の具体的内容について学び、さまざまな生活の場で子どもを豊かに育てる実践力を養う（DP4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	社会的養護の内容(1) 社会的養護における子どもの理解	事前	社会的養護の理念や体系について復習しておく（0.5 時間）
		事後	児童養護施設等入所児童等調査を確認する(0.5 時間)
2	社会的養護の内容(2)インケア 日常生活支援	事前	提示された事例を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	日常生活支援の内容を復習する(0.5 時間)
3	社会的養護の内容(3)インケア 治療的支援	事前	提示された事例を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	治療的支援の内容を復習する(0.5 時間)
4	社会的養護の内容(4)インケア 自立支援	事前	自立支援に関する事例を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	社会的養護におけるﾘｰﾋﾞﾝｸﾞｹｱとｱﾌﾀｰｹｱについて復習する(0.5 時間)
5	社会的養護の実際(1) 家庭養護の生活特性及び実際	事前	家庭養護に関する事例を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	資料を読み、授業内容を復習する(0.5 時間)
6	社会的養護の実際(2) 養護系施設の生活特性及び実際	事前	養護系施設の目的等について確認する(0.5 時間)
		事後	資料を読み、授業内容を復習する(0.5 時間)
7	社会的養護の実際(3) 障害系施設の生活特性及び実際	事前	障害系施設の目的等について確認する(0.5 時間)
		事後	資料を読み、授業内容を復習する(0.5 時間)
8	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 (1) アセスメントと個別支援計画の作成	事前	自立支援計画の内容について確認する(1 時間)
		事後	
9	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 (2) 支援内容の記録	事前	自立支援計画作成の意義について自分の考えをまとめる(0.5 時間)
		事後	自立支援計画の目標や支援計画を考える(1 時間)
10	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価 (3) 自己評価	事前	
		事後	8～10 回の授業内容をまとめる(0.5 時間)
11	社会的養護における保育士の倫理及び責務	事前	各施設の倫理綱領を確認する(0.5 時間)
		事後	各施設の倫理綱領の相違点についてまとめる(0.5 時間)
12	社会的養護にかかわる専門的技術(1) 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	事前	提示された事例に取り組む(0.5 時間)
		事後	施設保育士の専門性について自分の考えをまとめる(0.5 時間)
13	社会的養護に関わる専門的技術(2)	事前	資料を読み、ワークシートに記入する(0.5 時間)

	ソーシャルワークに関わる知識・技術とその実践	事後	ソーシャルワークの展開過程について復習する（0.5 時間）
14	社会的養護における家庭支援	事前	提示された事例に取り組む（0.5 時間）
		事後	家庭支援の具体的内容についてまとめる（0.5 時間）
15	社会的養護の課題と展望	事前	社会的養護の課題について自己の意見を整理し、課題レポートを作成する（1 時間）
		事後	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解（授業での学びや気づきを自分の言葉で述べることができる）30%
① 課題の提出（個人やグループで支援計画を立案し、アセスメントや支援目標について評価する）20%
③ レポートの提出（社会的養護の現状と課題から、根拠を示して自らの意見を表明できる）50%
コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
①社会的養護を必要としている子どもへの支援方法を学び、今後の課題について説明できる（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
②社会的養護Ⅰで学んだ理論を応用し、ロールプレイや支援計画の立案を行う機会を通して、学生自ら考える力を養う（DP3）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
③日常生活支援や自立支援等の具体的内容について学び、さまざまな生活の場で子どもを豊かに育てる実践力を養う（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

・コメントシートの内容をもとに次回の授業で補足説明を行う
・レポート課題については、クラスルームにて個別にフィードバックする

教科書
下尾直子・雨宮由紀枝著「実習生の日誌から考察する社会的養護Ⅰ・Ⅱ」大学図書出版、2024 年
参考書等
楢原真也「児童養護施設で暮らすということ　子どもたちと紡ぐ物語」、日本評論社、2021 年
相澤仁・奥山真紀子、「生活の中の養育・支援の実際（やさしくわかる社会的養護シリーズ 4)」、明石書店、2013 年
青山さくら・川松亮「ジソウのお仕事」、フェミックス、2019 年

履修上の注意・学習支援
・特に 2 年次秋学期に開講される「社会的養護Ⅰ」と関連づけながら授業を行う。社会的養護の基本的な考え方や施設保育士の役割などについて理解を深め、事例を検討する。
・授業で配慮することがあれば、事前に申し出ること。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、施設で生活する子どもの日常生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。現在は子どもの居場所(要支援家庭放課後応援事業)で活動をおこなっている。

[実務経験と授業科目との関連性]
本科目では、社会的養護Ⅰでの学びをもとに社会的養護を必要とする子どもたちに対する支援の実際について学ぶ。
児童福祉施設（入所型施設）における日常生活支援や家庭支援の実務経験は、本科目の授業内容との関連性が高く、現場での実務経験を生かした演習が可能である。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19I4208	子育て支援	３年	秋	演習	1	星　順子

授業概要

本講義は、保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援についてその特性と展開を具体的に学ぶ。また、保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に検討しながら理解を深めていく。

到達目標(学習の成果)

・子どもの育ちにつながる子育て支援のあり方とその意義、保育者の役割を説明できる（DP3.4)。
・保育者の行う保育の専門性を背景とした子育て支援の具体的な意味や役割を説明できる（DP3.4)。
・さまざまな人々と連携した子育支援の方法について、場や対象に即した内容を提示できる（DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子育て支援とは 授業の進め方を知り、子育て支援の制度的基盤について理解する	事前	教科書第1章を熟読し、授業に臨む(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
2	子どもの最善の利益と福祉の重視 子どもの育ちを原点に置いた子育て支援について、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等から検討する	事前	教科書第 2 章を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
3	子育て支援の意義と保育者の専門性 子育て支援が求められる社会的背景と保育所・こども園が果たす役割について学ぶ。子育て支援に必要な専門性を検討する	事前	教科書第 3 章 1.2 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
4	保育者の行う子育て支援の特性 日常保育における保育者が行う子育て支援の特性や役割について、事例検討を通して明確にする	事前	教科書第 3 章 3.4 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
5	保育者の行う子育て支援の展開 子ども及び保護者の状況･状態の把握や支援計画、環境の構成について理解する	事前	教科書第 4 章 1.2 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス 記録作成の意味を理解し、その書き方や使い分けについて演習を通して学ぶ	事前	教科書第 4 章 3 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
7	園内･園外との連携･協働と社会資源　※ゲスト講師 園内での連携や他職種、地域の人々との連携について実践者の取組みから理解する。	事前	教科書第 4 章 4.5.6 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
8	園における支援①季節に合わせた保育の組み立てや子育て支援の計画、環境等を学ぶ	事前	教科書第 5 章 1 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
9	園における支援②さまざまな文書があることを知り、保護者向けの文章の書き方の基本を習得する	事前	教科書第 5 章 1 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
10	地域の子育て家庭に対する支援 地域の子育て家庭に対する支援について、事例を通して検討する	事前	教科書第 5 章 2 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
11	障害のある子ども及びその家庭に対する支援 障害のある子どもや保護者に対する支援について、保育者として必要な支援について検討する	事前	教科書第 5 章 3 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
12	特別な配慮を要する子ども及びその家族に対する支援 アレルギーのある子どもや外国籍の子どもや保護者、介護や看護の必要な家族がいるケース等事例を通して検討する	事前	教科書第 5 章 4 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)

13	子ども虐待の予防と対応 保育者の専門性と子どもの虐待の予防、早期発見、早期対応について学ぶ	事前	教科書第 5 章 5 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
14	多様なニーズを抱える子育て家庭の理解 生活上の困難がある保護者に対する保育者の支援について、事例を通して検討する	事前	教科書第 5 章 6 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)
15	要保護児童等の家庭に対する支援 社会的養護のもとに生活をする子どもの家庭を対象にした保護者への子育て支援について理解する	事前	教科書第 5 章 7 を熟読し、授業に臨む（0.5 時間）
		事後	授業内容を振り返り、学びや気づきをノートにまとめる。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ディスカッション、グループワークを行う

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解（50%：授業で提出する課題やワークシートの内容から理解度を評価する）
・課題の提出（50%：レポート課題の考察内容を以下の基準から評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもの育ちにつながる子育て支援のあり方とその意義、保育者の役割を説明できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育者の行う保育の専門性を背景とした子育て支援の具体的な意味や役割を説明できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
さまざまな人々と連携した子育支援の方法について、場や対象に即した内容を提示できる（DP3.4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバック
提出課題はコメントをつけて返却する

教科書
・長島和代・他『日常の保育を基盤とした子育て支援　―子どもの最善の利益を護るために』萌文書林、2018 年
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 年
・内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 年

参考書等
・『保育園と家庭をつなぐ How to コミュニケーション』全国社会福祉協議会
・『気づく　かかわる　つなげる：保育者のための子どもと保護者の育ちを支えるガイドブック』全国社会福祉協議会

履修上の注意・学習支援
・指定された課題は期限内に必ず提出してください。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問してください。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
保育所保育士、子育て支援センター保育士として、子どもの保育と子育て支援に従事してきた。

[実務経験と授業科目との関連性]
保育士としての実務経験を生かし、具体的な「子ども」や「保護者」の姿や実際の「子育て支援」場面のイメージが持てるように現場のエピソードや経験談を紹介しながら授業を展開する。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19I3209	保育相談	３年	春	講義	２	杉本　太平

授業概要

本講義は、保育者として幼児が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援することができるための理論・技術を学ぶ。幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（保育カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることをねらいにする。対象となる子どもや家族の支援課題を、内（夫婦、親子関係）と外（教育、社会）との関係から捉えつつ、多面的・多層的に理解し、支援・援助の見通しを立てる力を育む。保育相談の実践者としての訓練・養成を目的に、事例研究を取り入れながら実践的かつ実証的に学んでいく。

到達目標(学習の成果)

・保育・幼児教育における保育・教育相談の意義と心理学の基礎的な理論・概念をまとめられる（DP3)。
・幼児の不適応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を記述できる（DP3.4)。
・保育・幼児教育におけるカウンセリングマインドの必要性を具体的に論じることができる（DP3.4)。
・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を体験する（DP3.4)。
・子どもや保護者に対する保育・教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる（DP3.4)。
・子どもの諸問題に対する、子どもの発達段階や発達課題に応じた保育・教育相談の進め方をまとめられる（DP3.4)。
・保育・教育相談の計画の作成や必要な組織体制の整備など、組織的な取組みの必要性を論じることができる（DP3.4)。
・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を論じることができる（DP1.3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	現代社会が抱える問題と子どもへの影響や、保育における課題について考える。	事前	子ども家庭支援の心理学を復習する。(2 時間)
		事後	現在社会の課題について復習する。(2 時間)
2	現代社会の家族問題について事例を通して学び、子どもや家族の問題を多面的・多層的に捉える。事例研究課題①	事前	現代社会の家族問題の事例を調べる。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
3	カウンセリングの基本理論について学び、それを子どもや保護者との関係の形成に活かすことができる。	事前	カウンセリングに関する学びを整理する。(2 時間)
		事後	バイスティックの７原則を復習する。(2 時間)
4	幼児へのプレイセラピーの基本や教育相談への対応、幼児観察法を中心とした幼児理解を深める。事例研究課題②	事前	遊びの意義に関する学びを復習する。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
5	乳幼児健診などの心理相談事例や保育現場の保育相談事例を通して、保育相談初期の関係形成の留意点を学ぶ。	事前	アクスラインの８原則についてまとめる。(2 時間)
		事後	育児不安への支援の基本をまとめる。(2 時間)
6	虐待の問題や愛着障害、ＤＶなどについて学び、家族の機能不全の問題と心理臨床的な課題について理解する。	事前	愛着障害について予習する。(2 時間)
		事後	授業で学んだアセスメント法を復習する。(2 時間)
7	家族問題への保育相談の事例を通して、保育者としての家族援助を学ぶ。事例研究課題③	事前	ソーシャルサポートについてまとめる。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
8	発達援助事例や家族への相談事例を通して、保育者としての発達援助の進め方を学ぶ。事例研究課題④	事前	発達障がいについての学びを復習する。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
9	登園拒否の相談事例を通して、保育者としての援助課題の見立て方や保育相談の進め方を学ぶ。事例研究課題⑤	事前	授業テーマに関する実習体験を振り返る。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
10	集団から孤立しがちな子の相談事例を通して、援助課題の見立て方や保育相談の進め方を学ぶ。事例研究課題⑥	事前	授業テーマに関する実習体験を振り返る。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
11	特別なケアを必要とする子の相談事例を通して、援助課題の見立て方や保育相談の進め方を学ぶ。事例研究課題⑦	事前	授業テーマに関する実習体験を振り返る。(2 時間)
		事後	事例研究課題の学びをまとめる。(2 時間)
12	地域に根付いた乳幼児の健全育成システムの一翼を担う者として、幼・保・小連携や地域連携の重要性を理解する。	事前	授業テーマに関する実習体験を振り返る。(2 時間)
		事後	授業資料を読み込み、重要事項を整理する
13	グループ・セラピーの視点から、保護者同士の関係を豊かにするクラス運営の方法を学ぶ。	事前	授業テーマに関する実習体験を振り返る。(2 時間)
		事後	グループ・セラピーについてまとめる。(2 時間)
14	よりよい保育を行うために欠かせない保育者自身のメンタルヘルスやセルフケアについて学ぶ。	事前	自身のストレスについての体験を振り返る。(2 時間)
		事後	コーピング理論について復習する。(2 時間)
15	保育相談で留意すべき事項と倫理や制限を理解する。 授業の振り返りとまとめ	事前	授業での学びを整理する。(2 時間)
		事後	授業の振り返りと今後の課題を整理する。(2 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

講義及び「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(Human Relation Skills Training)=HRST」としての行為法(心理劇・ロールプレイ)の事例研究(ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ)、保育・教育相談事例を通してグループワークでの事例研究を行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業内容の理解（20%：毎回の授業で提出する課題やコメントシートの内容から理解度を評価する）
・事例研究・課題の提出（50%：事例のアセスメントや支援目標についての考察内容を評価する）
・期末テスト（30%：授業内容の理解度を評価するための論述形式のテストを行う）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育・教育相談に関する基礎的な知識を習得し、まとめることができる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの精神保健とその課題について理解し、具体的な支援を検討できる（DP3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
家族を包括的に捉えアセスメントし、保護者への支援方法を検討できる（DP1.3.4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等のフィードバックは授業時もしくはクラスルームで行う。

教科書

・特に定めない。毎回の本授業用に作成した資料（教員作成資料、保育・教育相談事例）を配布する。

参考書等

・小原敏郎・橋本好市・三浦主博編著 「演習・保育と保護者への支援ー保育相談支援ー」株式会社みらい 2016 年 2,200 円
・小田豊・菅野信夫・中橋美穂 編著 『保育臨床相談』 北大路書房 2009 年 1,700 円
・吉田圭吾 著『教師のための教育相談の技術』 金子書房 2007 年 2,700 円
・氏原寛・東山紘久編著『幼児保育とカウンセリングマインド』ミネルヴァ書房 2000 年 2,600 円
・春原由紀編・杉本太平他著 『精神保健』 樹村房 2005 年 1,900 円

履修上の注意・学習支援

・授業内容を理解するために、参考書等での予習を必要とする（毎回の講義で範囲を指定）。
・事例研究課題を授業内で完成・提出するために、事例を熟読する（毎回の講義で範囲を指定）。
・保育相談に関連する他科目の学習内容や実習体験を、事例研究の学びと関連させて統合的に理解できるようにする。
・事例研究のグループワークでは自分の意見を積極的に発言し、課題は期限内に提出すること。
・疑問があれば授業内で解決できるように積極的に質問すること。
・授業を欠席した場合は必ず個人的に担当教員まで配布資料を取りに来て、自己学習を行うこと。
・授業で解決できなかった疑問点・質問があるときは積極的にオフィスアワーを活用すること。
・メールアドレス（sugimoto@kyowa-u.ac.jp） 研究室（5－302）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

1．文京区教育センター教育相談室 東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
2．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～2020 年 3 月）として心理職の実務
3．文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・公認心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]

心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ・ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（Human Relation Skills Training）=HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健ー子どもと家族の援助のためにー」（共著）を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3210	異文化理解と子育て	３～４年	秋	講義	２	星　順子

授業概要
多様化が進む保育現場の現状と課題を把握し、保育者として多文化共生を実現するために必要な異文化理解の基礎や複言語環境で育つ子どもの育ちと保育、子育て支援の実際等を学ぶ。また他学部の留学生と交流し、異文化に触れる経験を踏まえて、多様な背景を持つ子どもの保育実践と子育て支援について検討する。

到達目標（学習の成果）
・多様化が進む保育現場の現状と課題を理解し、保育者の役割と専門性を説明できる(DP4)。
・異文化理解の基礎知識を得て、子どもや保護者とのコミュニケーションに活用できる(DP2)。
・多文化共生保育の実現に向けて、多様性に応じた保育実践を具体的に提案できる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	国際化・多様化の現状：日本や栃木の国際化・多様化の現状を学び、異文化理解の意義を理解する	事前	栃木県の国際化の状況を調査する(2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
2	「異文化理解」とは何か：異文化理解の概念を理解し、文化の特徴や保育や子育てにおける「あたりまえ」を考える	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
3	子どもの多様性：子どもの多様性について考え、一人一人の子どもの力を引き出す保育実践を実現するための考え方を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
4	保護者の多様性：※ゲスト講師 外国人保護者の声から、子育てに関する多様な視点や方法を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
5	保育と多様性：外国人集住地域の保育施設における実践から具体的な援助について学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
6	やさしいにほんご　※ゲスト講師 外国人の子どもや保護者とコミュニケーションを図るための方法を学ぶ	事前	配布資料を熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
7	留学生との交流①「やさしいにほんご」を使って留学生と交流し、留学生の出身国の生活習慣や文化について学ぶ	事前	前回の授業を振り返り、交流会の準備を行う（2 時間）
		事後	交流会での学びや気づきをまとめる(2 時間)
8	留学生との交流②「やさしいにほんご」を使って留学生と交流し、留学生の出身国の保育・教育事情について学ぶ	事前	前回の授業を振り返り、交流会の準備を行う（2 時間）
		事後	交流会での学びや気づきをまとめる(2 時間)
9	中間のまとめ：これまでの学びを整理し、日本の保育施設の現状と課題をまとめ、解決策について検討する	事前	これまでの学びを振り返り、整理する
		事後	学びを振り返り、さらにインターネット等で理解を深める(2 時間)
10	「多文化共生保育」とは：3 要領・指針を確認し、多文化共生保育について検討する	事前	3 要領・指針、テキストを熟読し、該当内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる(2 時間)
11	外国人の子どもの保育①受け入れから卒園まで、保育施設における配慮について検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2 時間)
12	外国人の子どもの保育②複言語環境の子どもの言葉の育ちについて学び、保育者の援助について考察する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2 時間)
13	外国人の子どもの保育③多様性を尊重する保育環境や教材の工夫について検討し、実際に作成する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2 時間)
14	外国人の子どもの保育④外国人保護者への子育て支援について、日々の保育における工夫を検討する	事前	テキストを熟読し、内容を把握する (2 時間)
		事後	授業での学びや気づきをまとめる。(2 時間)
15	多文化共生保育の実現に向けて：「課題の解決に向けて」：これまでの学びを踏まえて自身の意見を発表する	事前	これまでの学びを振り返り、発表の準備をする。(2 時間)
		事後	これまでの学びを整理し、自身や他者の発表から得た学びをまとめる。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解(50%:授業内で提出する課題やワークシートの内容から理解度を以下の基準から評価する)
・試験(50%)により総合的に評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・多様化が進む保育現場の現状と課題を理解し、保育者の役割と専門性を説明できる(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・異文化理解の基礎知識を得て、子どもや保護者とのコミュニケーションに活用できる(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・多文化共生保育の実現に向けて、多様性に応じた保育実践を具体的に提案できる(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバック
授業内発表、グループ発表時に、直接フィードバックを行う

教科書
『外国につながる子どもの保育とクラスづくり　心と言葉を育む多文化保育』内田千春、中央法規、2024 年
参考書等
『保育者のための外国人保護者支援の本』咲間まり子、かもがわ出版、2020 年
その他、授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・学習支援
この授業はグループでの意見交換やワークを重視しているため、積極的な参加を期待する。
わからないことや疑問に思ったことは、教員に直接質問すること。配慮が必要な場合は事前に相談すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
・保育所保育士として、乳児・幼児クラス担任、外国籍の子どもの保育、インクルーシブ保育、保護者支援、実習生指導、災害支援等の実務に携わってきた。
・国際協力として海外の幼児教育現場に携わり、現地保育関係者と共に質向上プロジェクトに取り組んできた。

[実務経験と授業科目との関連性]
・国内外の保育経験を生かし、「異文化」「多文化」に関する具体的な現場のエピソードや経験談を基に授業を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I5211	海外保育研修Ⅰ	１～４年	集中	演習	1	星順子・杉本太平 阿部巧・工藤敬子

授業概要

グローバル化する時代に対応し、保育・教育の領域においても国際感覚を身につけた保育者の養成が求められている。オーストラリアは多民族国家で、国際共通語として英語を修得し、異文化理解力を磨くには絶好の環境にある。本研修はオーストラリアの保育施設において、子どもと実際にかかわりながら、子どもの自主性を尊重する保育の在り方を体験的に学習する。また、簡単な英会話の基本を現地の専門学校で学び、幼児とのコミュニケーション能力を身につけるとともに、海外の日常生活や文化についても研鑽を深める。

到達目標(学習の成果)

・オーストラリアの文化や風土、保育施設の現状を調べ、その概要を説明できる（DP1)。
・研修の概要を理解し、研修参加に向けた自己課題を明らかにできる（DP1)。
・英語でのコミュニケーション・スキルを高め、自分なりに表現ができる（DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	国際感覚を身につけた保育者とは、実際の海外において生活や保育体験をすることの研修目的を明確にする(星)	事前	海外保育研修に向けての目標や自己課題を検討する。(2 時間)
		事後	
2	オーストラリアの歴史、文化、地理的特徴、気候、教育等について学習し理解を深める(グループ学習①)（阿部)	事前	オーストラリアの文化や生活について文献・インターネット調査を行う。(2 時間)
		事後	
3	オーストラリアの歴史、文化、地理的特徴、気候、教育等について学習し理解を深める（グループ学習②）（阿部)	事前	オーストラリアの文化や生活について文献・インターネット調査を行う。(2 時間)
		事後	
4	オーストラリアの歴史、文化、地理的特徴、気候、教育等について学習し理解を深める（全体発表）（星)	事前	オーストラリアの文化や生活について文献・インターネット調査とグループワークのまとめをする。(2 時間)
		事後	
5	オーストラリアの保育の特徴について学習し理解を深める（グループ学習①：文献・インターネット調査）（星)	事前	オーストラリアの保育について文献・インターネット調査を行う。(2 時間)
		事後	
6	オーストラリアの保育の特徴について学習し理解を深める（グループ学習②：文献・インターネット調査）（星)	事前	オーストラリアの保育について文献・インターネット調査を行う。(2 時間)
		事後	
7	オーストラリアの保育の特徴について学習し理解を深める（全体発表）（星)	事前	オーストラリアの保育について文献・インターネット調査とグループワークのまとめをする。(2 時間)
		事後	
8	簡単な日常英会話のトレーニングを行い、コミュニケーションの力をつける（挨拶・トラベル・日常会話）（阿部)	事前	英語日常会話の練習課題に取り組む。(1 時間)
		事後	授業の内容を復習する。(1 時間)
9	簡単な日常英会話のトレーニングを行い、コミュニケーションの力をつける（幼児との会話）（阿部)	事前	英語日常会話の練習課題に取り組む。(1 時間)
		事後	授業の内容を復習する。(1 時間)
10	簡単な日常英会話のトレーニングを行い、コミュニケーションの力をつける（買い物・生活場面での会話）（阿部)	事前	英語日常会話の練習課題に取り組む。(1 時間)
		事後	授業の内容を復習する。(1 時間)
11	デンマークの保育・教育を学ぶ （子どもの権利・ウェルビーイング・デモクラシー）（工藤)	事前	デンマークの国について調べる(1 時間)
		事後	デンマークの特徴的な教育について調べてみる(1 時間)
12	ペダゴーの役割について学ぶ(工藤)	事前	ペダゴーについて調べる(1 時間)
		事後	日本の保育士とペダゴーの違いを考え、まとめる(1 時間)
13	現地研修所の、保育参加の写真やビデオ記録を見て、現地での保育計画を検討する（杉本)	事前	現地での保育活動目標を検討する。(1 時間)
		事後	現地での保育計画を検討する。(1 時間)
14	現地研修所の、保育参加の写真やビデオ記録を見て、現地での保育計画をまとめる（杉本)	事前	現地での保育計画を検討する。(1 時間)
		事後	現地での保育計画をまとめる。(1 時間)
15	事前準備でまとめた内容の全体発表　（杉本・星・阿部)	事前	発表レジュメを作成する。(1 時間)
		事後	グループワークの振り返りと今後の課題を整理する。(1 時間)

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)

グループディスカッション(現地計画)、プレゼンテーション(事前準備報告会)などのアクティブ・ラーニングによる活動の検討と振り返りを行う。

成績評価の方法・基準(%表記)

・事前の自己学習の準備と課題の評価　40%
・授業内での学習の成果や調査結果の発表　40%
・協同学習の姿勢や態度および達成度　20%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
オーストラリアの文化や風土、保育施設の現状を理解するために必要な情報を集め、的確にまとめ、説明することができる（DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
研修の概要を理解し、研修参加に向けた自己課題を明らかにできる（DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
英語のコミュニケーション・スキルが向上する（DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

発表実施時に直接フィードバックを行う

教科書

・特に定めない。
・各回授業開始時に本授業用に作成した資料を配布する。

参考書等

履修上の注意・学習支援

・海外保育研修費用　約50万円程度(航空運賃、コンドミニアム滞在費、実習費等、参加者の人数により変更有り)
・英語力は問わない。心身共に健康で、学習意欲のある者を求める。
・授業で解決できなかった疑問点・質問があるときは積極的にオフィスアワーを活用すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

・海外の幼児教育現場に携わり、現地保育関係者と共に質向上プロジェクトに取り組んできた。(星)
・ケンブリッジ大学英語検定機構が認定するレクシス語学学院にて、小学校英語指導者向け国際英語教授資格（CELT-P）を取得し、Cebu Winning English Academy にて所定の語学研修を修了した。(阿部)

[実務経験と授業科目との関連性]

・海外長期滞在経験、保育分野の国際協力活動経験を生かし、異文化を理解することの意義や難しさと面白さ、多様な保育形態の理解、海外生活の留意点等について実体験を基にした授業を展開する。(星)

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I5212	海外保育研修Ⅱ	１～４年	集中	演習	２	星順子・市川舞・石本真紀・阿部巧

授業概要
オーストラリアのゴールドコーストの語学研修施設において、生活や保育に必要な英会話の授業を受けた後に、現地の保育施設において子どもたちと触れ合いながらオーストラリアの保育の実際について学ぶ。多様性を尊重した保育実践や環境構成の工夫を具体的に学ぶとともに、オーストラリアの歴史や文化、先住民、日常生活についても研鑽を深める。事後は報告会を開催し、研修を振り返りながらプレゼンテーション、報告書を作成、発表する。

到達目標（学習の成果）
・多民族国家であるオーストラリアの歴史や文化を理解し、保育の特徴や多様性への配慮を説明できる(DP1.4)。
・言語(英語)・非言語によるコミュニケーション能力を高め、現地の子どもや保育者とコミュニケーションを図ることができる(DP2)。
・異文化体験を通して、自文化と他文化の相違点や共通点を認識し、国際的な感覚と視野を持つことができる(DP4)。
・現場での保育実践や事後のアウトプットを通して、プレゼンテーション能力が身につく(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	事前オリエンテーション：海外保育研修の目的を確認するとともに、危機管理への意識を高める。(星・阿部)	事前	海外保育研修の目的を振り返り、自己の目標を整理する。危機管理の資料を確認する。（2 時間）
		事後	資料をよく読み、目的の再確認と自己の安全対策を考える。（2 時間）
2	事前学習の振り返り：海外保育研修Ⅰでの学びを振り返り、現地での生活と保育研修の計画を再考する。(星・阿部)	事前	海外保育研修Ⅰの資料を確認しながら、研修期間の計画を振り返る。（2 時間）
		事後	メンバー全体で計画を再確認し、研修内容や連絡方法等の再確認を行う。（2 時間）
3	保育研修の準備①：現地での保育研修の計画と準備を行う。（教材準備）（市川・石本）	事前	計画に沿って必要な教材を購入し、保育実践の教材を準備する。（4 時間）
		事後	
4	保育研修の準備②：現地での保育研修の計画と準備を行う。（教材作成）（市川・石本）	事前	計画に沿って、保育実践のための教材作成と練習を行う。（4 時間）
		事後	
5	オーストラリアの生活・風土の体験：サーファーズパラダイスの散策やカランビン動物園への訪問等を通してオーストラリアの風土を理解する。（引率担当教員）	事前	生活エリアの周辺状況や訪問先への行き方を調べる。（2 時間）
		事後	気づいたことや発見を整理する。（2 時間）
6	オーストラリアの生活の理解と研修：コンドミニアム共同生活の準備をする。周辺での生活必需品の買い物を通して現地でのコミュニケーションに慣れる。（引率担当教員）	事前	共同生活のルールを決め、生活の準備を協力して行う。生活で必要な英会話を確認する。（4 時間）
		事後	
7	現地語学学習：現地研修所にて、生活や保育に必要な英語を学習する。（引率担当教員）	事前	予習・復習を行い生活や保育に必要なキーワードを整理しておく。（4 時間）
		事後	
8	保育研修①：保育施設長のガイダンス後に保育参加。英語での自己紹介を行う。モーニングブレイク・ランチ体験、終了後は反省会を実施する。（引率担当教員）	事前	訪問先の情報をインターネットで調べておく。英語で自己紹介ができるように準備する。（2 時間）
		事後	ガイダンス内容を整理し、保育方針やカリキュラム、留意事項を理解する。（2 時間）
9	保育研修②：配属クラスへの保育参加。子どもや保育者との関わりを通して現地の保育方法を学ぶ。モーニングブレイク・ランチ体験、終了後は反省会を実施する。（引率担当教員）	事前	保育の英会話を振り返り、子どもや保育者と簡単な会話ができるように準備する。（2 時間）
		事後	保育実践や反省会のなかで気づいた学びを整理する。（2 時間）
10	保育研修③配属クラスへの保育参加。子どもや保育者との関わりを通して現地の保育方法を学ぶ。モーニングブレイク・ランチ体験、終了後は反省会を実施する。（引率担当教員）	事前	保育の英会話を振り返り、子どもや保育者と簡単な会話ができるように準備する。（2 時間）
		事後	保育実践や反省会のなかで気づいた学びを整理する。（2 時間）
11	保育研修④現地の保育方針、カリキュラムに従って、簡単な英語で保育実践を行う。モーニングブレイク・ランチ体験、終了後は反省会を実施する。（引率担当教員）	事前	保育の英会話を振り返り、子どもや保育者と簡単な会話ができるように準備する。（2 時間）
		事後	保育実践や反省会のなかで気づいた学びを整理する。（2 時間）
12	保育研修の振り返り⑤現地研修所にて、今回の研修を振り返り、オーストラリアの保育の特徴や学びの内容を整	事前	保育の英会話を振り返り、子どもや保育者と簡単な会話ができるように準備する。（2 時間）

	理し、発表する。（引率担当教員）	事後	保育実践や反省会のなかで気づいた学びを整理する。（2 時間）
13	オーストラリアの生活体験：サーファーズパラダイスにてグループ散策、買い物、外食を体験する。 （引率担当教員）	事前	グループ散策時の留意事項と安全対策を確認しておく。（2 時間）
		事後	オーストラリアの生活体験で気づいたことや発見したことを整理する。（2 時間）
14	海外保育研修の振り返り：帰国後、大学にて海外保育研修全日程の振り返りを行う。研修報告書作成する。 （星・阿部）	事前	振り返りに必要な資料や写真等を準備する。（2 時間）
		事後	研修での学びを振り返りながら研修報告書を作成する。（2 時間）
15	海外保育研修の報告会の開催：報告会を企画し、今回の研修の学びに関するプレゼンテーション行う。 （市川・石本）	事前	報告会を企画し、各自プレゼン資料を準備する。（2 時間）
		事後	研修や報告会での学びを整理し、最終報告書を提出する。（2 時間）

授業形式（アクティブ・ラーニングの内容）

グループディスカッション（保育計画・振り返り）、プレゼンテーション（体験報告会）及び保育研修、現地生活体験を行う。

成績評価の方法・基準（%表記）

・事前の自己学習の成果と保育計画・実践の準備の評価　20%
・保育施設での研修に対する取り組みや研修成果の評価　60%
・現地での協同生活の実践（生活管理や姿勢・態度）の評価　20%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
オーストラリアの歴史、文化を理解し、保育の特徴や多様性への配慮を説明できる(DP1.4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
言語(英語)・非言語によるコミュニケーション能力を高め、異なる背景を持つ他者とコミュニケーションを図ることができる(DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
異文化体験を通して、自文化と他文化を認識し、国際的な感覚と視野を身につける(DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
目的に沿ったプレゼンテーション能力が身につく(DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバック

課題はコメントをつけて返却する

教科書・参考書等

・特に定めない。適宜、本授業用に作成した資料を配布する。

履修上の注意・学習支援

・海外保育研修費用　約 50 万円程度(航空運賃、コンドミニアム滞在費、実習費等、参加者の人数により変更有り)
・英語力は問わない。心身共に健康で、学習意欲のある者を求める。
・海外研修等の準備のためのオリエンテーションを行う(研修予定８月)。
・引率担当教員は参加者数などにより決定する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

・海外の幼児教育施設における国際協力活動（現地保育者との協働による「遊びを通した学び」プロジェクトの実施、国内外研修会企画運営等）に携わってきた。(星)
・ケンブリッジ大学英語検定機構が認定するレクシス語学学院にて、小学校英語指導者向け国際英語教授資格（CELT-P）を取得し、Cebu Winning English Academy にて所定の語学研修を修了した。（阿部）

［実務経験と授業科目との関連性］

・海外長期滞在経験、保育分野の国際協力活動経験を生かし、異文化を理解することの意義や難しさと面白さ、多様な保育形態の理解、海外生活の留意点等について実体験を基にした授業を展開する。(星)

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I5213	グローバルコミュニケーション	１～４年	集中	演習	1	星順子　阿部巧

授業概要
グローバルな場面で求められるコミュニケーション力とは、単なる語学力だけではない。文化的、社会的に異なる背景を持つ他者と、自他の「ちがい」を認め合い、調整しあいながら、新たな関係を構築していく等の能力が求められる。本講義では、保育者として必要な異文化間の調整能力と多文化共生の実現に貢献する知識、スキルや態度の習得を目指す。

到達目標（学習の成果）
・異文化コミュニケーションの基礎的な知識を習得し、異なる他者とのコミュニケーション能力を身につける（DP2）。
・世界の現状と課題を学び、他者と協働しながらその原因や解決策について検討し、新たなアイデアを提案することができる(DP2)。
・物事を柔軟にとらえ、寛容な態度で他者と協働する力を身につける(DP2.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション：グローバルビンゴ 授業の進め方を理解する。グローバルコミュニケーションとは何かについて理解する。保育者として他者理解の必要性を考える。（星）	事前	シラバスを読み、授業内容を理解しておくこと。(0.5 時間)
		事後	授業での発見や気づきを整理し、ノートにまとめる。(0.5 時間)
2	グローバリゼーション：見つけよう！外国から来たもの！ 身近なものとの関係からグローバル化を考える。（星）	事前	事前の配布資料を読み、グローバル化について調べる。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、世界とのつながりと相互依存について考える。(0.5 時間)
3	文化の多様性：地球の食卓 異なる文化の人々の暮らしに触れ、保育者としての「あたりまえ」を問い直す。（星）	事前	異なる食文化についてインターネット等で調べる。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、保育者としての課題を考える。(0.5 時間)
4	国際協力とグローバルマインド：　※ゲスト講師 国際協力とは何かを理解し、異なる背景を持つ人々との協働の意義を実践者の話から学ぶ。（星）	事前	事前の配布資料を読み、JICA の概要を把握する。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、レポートにまとめる。※提出(0.5 時間)
5	「普通」について再考：文化の違いがもたらす様々な困難について知る。（阿部）	事前	日本では「普通」と考えられるが、外国では「普通」と考えられないと思うことを10個考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、「普通」に潜む問題点について 400 字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
6	よいコミュニケーションとは何か：ハイコンテクストとローコンテクストについて理解し、コミュニケーションについて考える。（阿部）	事前	事前課題（事例）を読み、日本はハイコンテクストか、ローコンテクストか考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、よいコミュニケーションについて 400 字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
7	国によって異なる評価：フィードバックと受けとめ方の違いについて考える。（阿部）	事前	事前課題（事例）を読み、話し手の意図を考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、子どもにフィードバックを与える際に気を付けたいことについて 400 字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
8	多文化世界における説得：思考の違いを理解し、相手にわかりやすく説明をすることの大切さを知る。（阿部）	事前	事前課題（事例）を読み、説得力のある事例を選び、その理由を考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、相手にわかりやすく説明するための工夫について400字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
9	信頼関係の築き方の違い：タスクベースと関係ベースについて考える。（阿部）	事前	事前課題（事例）を読み、どちらの事例に好感をもてるか考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、信頼関係を築く工夫について 400 字程度で考えを述べる。※提出

			(0.5 時間)
10	議論の進め方の違い：各国における異なる意見を伝えるときの違いについて知り、今後の生活への活用を考える。(阿部)	事前	事前課題(事例)を読み、どちらの事例に好感をもてるか考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、異なる意見を伝える際のポイントについて 400 字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
11	時間の認識の違い：スケジュールと文化の関係について考える。(阿部)	事前	事前課題(事例)を読み、どのような文化的な背景があるか考える。(0.5 時間)
		事後	授業での学びを振り返り、文化の違いを考慮してスケジュールを調整するについて 400 字程度で考えを述べる。※提出(0.5 時間)
12	異文化コミュニケーション：やさしい日本語　※ゲスト やさしい日本語を学習し、外国人とのコミュニケーション方法を知る。保育における活用を考える。(阿部)	事前	やさしい日本語について調べ、知識を整理する。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、保育における活用方法をまとめる。(0.5 時間)
13	多様な価値観①外国人保護者(ムスリム)とオンライン上で交流し、多様な価値観を理解する。(星)	事前	イスラムについて調べ、知識を整理する。(0.5 時間) (0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、新たに得た知識や考え方をまとめる。(0.5 時間)
14	多様な価値観②外国人留学生との交流を通して、保育者として必要な異文化の知識を得る。(星)	事前	保育者として必要な知識を得るための質問内容を考え、交流の準備をする。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、気づいたことをレポートにまとめる。(0.5 時間)　※提出
15	多文化共生社会の実現に向けて：多文化共生とは何かを理解し、保育者としてその実現に向けた取り組みを考える。(星)	事前	事前資料を読み、多文化共生についての知識を整理する。(0.5 時間)
		事後	授業の学びを振り返り、保育者としてどのようにこの学びを活かしていくかをまとめる。※提出(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型学習

成績評価の方法・基準(%表記)
・AL への参加度(50%)
・授業内課題(50%)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
異文化コミュニケーションの基礎知識を習得し日常生活で応用ができる(DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
世界の現状と課題に関心を持ち、他者と共に解決に向けた新たな提案ができる(DP2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
物事を柔軟にとらえ、寛容な態度で他者と協働することができる(DP2.4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバック
授業内課題はコメントをつけて返却する
教科書
特になし
参考書等
・田中治彦『国際協力と開発教育 「援助」の近未来を探る』赤石書店 2008 年
・八島智子,久保田眞弓『異文化コミュニケーション論』松柏社 2012 年
・中西のりこ,仁科恭徳『グローバルコミュニケーション学入門』三省堂 2018 年
・エリン・メイヤー『異文化理解力』英治出版 2015 年

履修上の注意・学習支援
本授業は、ワークショップ形式で行うため積極的な参加を期待したい。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

星 順子
[実務経験の概要]
・保育士・幼稚園教諭として、中東数か国の保育施設における国際協力活動に携わってきた。
・国際協力分野の幼児教育調整員(海外事務所配属)として、現地配属先との協働による幼児教育の質向上プロジェクトのマネージメント全般を担当した。

[実務経験と授業科目との関連性]
・中東の幼児教育に関わる現場で、多様な背景を持つ他者と共に協働してきた。異文化コミュニケーションにおける心構えや留意点等、具体的なエピソードや経験談を基に授業を展開する。

阿部巧
[実務経験の概要]
・小学校外国語専科教諭として、外国の小学校との交流を進めた。
・英語教育推進コーディネーターとして、ALT と学校職員、教育委員会との連絡調整を担当した。

[実務経験と授業科目との関連性]
・欧米出身の ALT と協働した経験や海外の学校との連絡調整等の経験から、文化の違いによるコミュニケーションに難しさや楽しさなどを、具体的なエピソードを基に伝えていく。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3214	子どもと地域福祉Ⅰ	２～４年	秋	講義	2	蟹江　教子

授業概要

少子化が進む中で、子どもたちの健やかな成長を図るためには、子育て家庭や福祉施設だけではなく、地域住民の子育て支援活動への参加や、行政との連携が不可欠である。子どもや子育てに関する社会的支援は、教育、保健医療、福祉など様々な分野で行われているが、地域によりニーズも異なる。地域における子どもや子育て中の家族のニーズを把握するとともに、各地域社会にはどのようなサポート資源が存在するのか、今後はどのような役割が期待されているのか、これらの点について学ぶ。

到達目標(学習の成果)

・子どもに関連する地域福祉の基礎的な知識を習得し、身近にある子どもや子育てをサポートする様々な資源について事例をとおして理解する(DP2)。

・地域が抱える問題について理解を深めるとともに、解決策についても検討する(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子育て支援と地域福祉 ： 地域社会の持つ福祉機能の特徴について学ぶ。	事前	地域と自分とのつながりを整理する (2 時間)。
		事後	地域の公的な福祉機能をまとめる(2 時間)。
2	地域福祉の範囲と構成 ：「地域」の定義とその役割や機能について学び、地域福祉の必要性について学ぶ。	事前	自分が想定する地域の定義をまとめる (2 時間)。
		事後	地域の非公的な福祉機能をまとめる(2 時間)
3	地域福祉の法的裏付け ： 地域福祉を支える法体系の理念や目的、具体的な諸制度について学ぶ。	事前	地域福祉に関連する法律を調べる(2 時間)
		事後	地域福祉に関連する法律をまとめる(2 時間)
4	地域福祉の歴史 ： 地域福祉はどのような変遷をたどって現在に至るのか、その起源と歴史について学ぶ。	事前	配布資料をもとに授業内容を予習する (1 時間)。
		事後	身近な施設を例にその歴史を整理する(3 時間)。
5	地域福祉計画 ： 地域(市町村)が持つ地域福祉計画について、自分の住む地域の事例を参考に学ぶ。	事前	身近の具体的な子育て支援例を調べる (2 時間)。
		事後	他の事例を整理する(2 時間)。
6	地域が抱える問題 ： 自分の住む地域に生じている問題について理解し、解決の可能性や方向について学ぶ。	事前	『貧困の中の子ども』1 章を整理する(2 時間)。
		事後	1 章のレジュメを作成する(2 時間)。
7	地域福祉を担う組織 ： 地域福祉を支える組織にはどのようなものがあるか、身近な地域の事例をとおして学ぶ。	事前	『貧困の中の子ども』2 章を整理する(2 時間)。
		事後	2 章のレジュメを作成する(2 時間)。
8	地域福祉で働く人々 ： 地域福祉を支える人材について、身近な地域の事例をとおして学ぶ。	事前	『貧困の中の子ども』3 章を整理する(2 時間)。
		事後	3 章のレジュメを作成する(2 時間)。
9	地域福祉と専門技術 ： 地域福祉が必要とする専門技術について、身近な地域の事例をとおして学ぶ。	事前	『貧困の中の子ども』4 章を整理する(2 時間)。
		事後	4 章のレジュメを作成する(2 時間)。
10	ボランティア活動 ： 地域のボランティア活動を支える条件と環境、さらには工夫などについて学ぶ。	事前	『貧困の中の子ども』5 章を整理する(2 時間)。
		事後	5 章のレジュメを作成する(2 時間)。
11	海外の状況 ： 海外で行われている子ども支援、子育て支援の現状について学ぶ。	事前	海外の子育て支援の事例を調べる(2 時間)。
		事後	授業で扱った事例を整理する(2 時間)。
12	個別課題への対応(1) ： ひとり親世帯の子どもと親の抱える困難について理解し、地域でできる支援について学ぶ。	事前	ひとり親家庭の困難について調べる(2 時間)。
		事後	ひとり親家庭支援の課題を整理する(2 時間)。
13	個別課題への対応(2) ： 障害を持つ子どもとその家族の困難について理解し、地域でできる支援について学ぶ。	事前	レスパイトケアについて調べる(2 時間)。
		事後	地域における課題について整理する(2 時間)。
14	個別課題への対応(3) ： 児童虐待あるいは児童虐待が疑われる子どもや家族への支援について学ぶ。	事前	子どもの居場所について調べる(2 時間)。
		事後	子どもの居場所に関する課題を整理する(2 時間)。
15	まとめ ： 地域における子ども支援、子育て支援の望ましい方向や将来展望について学ぶ。	事前	地域の子ども/家庭支援施設について詳細に調べ、課題を整理する(4 時間)。
		事後	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
フィールドワーク、グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加（授業中の発言、コメントシートへの記述など）60%
・レポート（専門用語を用いた論述であること、根拠を示して自分の意見を展開できているかどうかを重視する）40%
　レポートの評価にはコモンルーブリック基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもに関連する地域福祉の基礎的な知識を習得する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
身近にある子どもや子育てをサポートする様々な資源について事例をとおして理解する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
地域が抱える問題について理解を深めるとともに、解決策についても検討する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　レポート等は授業でフィードバックする。

教科書
特になし

参考書等
下野新聞社、『貧困の中の子ども　希望って何ですか』、ポプラ社、2015
川孝順著・編集・田澤あけみ編集、『現代の児童福祉』、有斐閣、2008
住田正樹編集、『子どもと地域社会』、学文社書、2010

履修上の注意・学習支援
・授業における課題は、各授業終了後に提出する 。
・レポートは課題名・番号・氏名を書いた表紙をつけて作成し、必ず期限内に提出する。
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する。
・担当教員のオフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3215	子どもと地域福祉Ⅱ	2～4 年	秋	講義	2	田所 順子

授業概要
児童館・放課後児童クラブの必要性や社会的機能と健全育成の具体的内容について学ぶ。児童館・放課後児童クラブの運営の実際や役割などに関する理解を深めながら、児童館・放課後児童クラブで実施するプログラムの企画・立案から準備・運営に関する実践力を身につけるための基礎を学ぶ。

到達目標(学習の成果)
・児童館・放課後児童クラブが子どもたちを健全育成に導くうえで果たす機能について説明することができる。(DP3)
・児童館・放課後児童クラブでのプログラムの企画・立案・実践を含めた運営について身につける。(DP2、DP3)
・専門職者としての実践力や省察する力を総合的に活用し、新たな課題を解決する能力を身につける(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	児童館・放課後児童クラブの必要性 児童館や放課後児童クラブの必要性や役割について理解し、授業内容についての見通しを持つ。	事前	シラバスを読んで学習の見通しを持つ。(2 時間)
		事後	児童館・放課後児童クラブについて調べ必要性について考える。(2 時間)
2	児童館の概要 遊びを通して地域社会の子どもたちを育成している児童館の目的や機能、制度内容について理解する。 活動例（製作）の実践を通して考察する。	事前	児童館について関心を持ち調べる。(2 時間)
		事後	『児童館ガイドライン』について調べ児童館の概要の理解を深める。(2 時間)
3	児童館の活動内容 『児童館ガイドライン』をもとに子どもの健全育成や子育て支援、相談援助等について理解する。 活動例（製作）の実践を通して考察する。	事前	児童館の活動について調べる。(2 時間)
		事後	『児童館ガイドライン』を読み、健全育成や子育て支援について理解を深める。(2 時間)
4	児童館の職員 『児童館ガイドライン』をもとに児童厚生員の職務や職場倫理等について理解する。 活動例（伝承遊び）の実践を通して考察する。	事前	児童館・放課後児童クラブの職員の職務について調べる。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、児童厚生員の職務や職場倫理について理解を深める。(2 時間)
5	児童館の運営 児童館活動事業計画の立案や作成方法について具体例をもとに学び、実際に年間計画や企画案を考察する。 施設見学について計画を話し合う。	事前	児童館の活動について調べる。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、年間計画や遊びの企画案をワークシートにまとめていく。(2 時間)
6	放課後児童クラブの概要 放課後児童健全育成事業の目的や機能、制度内容について実践例をもとに理解する。 放課後児童クラブ活動例の実践を通して考察する。	事前	放課後児童クラブについて関心を持ち調べる。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、放課後児童クラブに通う子どもたちの理解を深める。(2 時間)
7	放課後児童クラブの職員 『放課後児童クラブ運営指針』をもとに職員としての職務や職場倫理等について理解する。 放課後児童クラブ活動例の実践を通して考察する。	事前	放課後児童クラブの職員の職務について調べる。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、放課後児童支援員の職務や職場倫理について理解を深める。(2 時間)
8	遊びのプログラムの考案 児童館におけるプログラムの立案・計画の方法について理解し、実際に企画案を作成する。 施設見学の目的や内容について確認する。	事前	児童館の遊びの活動について調べる。(2 時間)
		事後	授業を振り返り、遊びのプログラムを考察し活動の準備をする。(2 時間)
9 10	児童館・放課後児童クラブ見学 児童館・放課後児童クラブを視察し、現場の職員との懇談や子どもの遊ぶ様子の見学を通して現状について理解する。 見学後、感想や疑問点をまとめ発表する。	事前	施設見学の目的や内容について確認し準備をする。(2 時間)
		事後	施設見学を振り返り、感想や意見等をまとめる。(2 時間)

11	遊びのプログラムの実践① グループごとに計画に沿って準備し企画案を実践する。子どもの遊びの支援について評価・改善点を考察する。	事前	遊びのプログラムを計画し必要なものを準備する。(2時間)
		事後	遊びのプログラムの実践について評価・改善点をワークシートにまとめる。(2時間)
12	遊びのプログラムの実践② グループごとに計画に沿って準備し企画案を実践する。遊びの中で子どもに柔軟な対応をしていく大切さを学ぶ。	事前	遊びのプログラムを計画し、必要なものを準備する。(2時間)
		事後	遊びのプログラムの実践について評価・改善点をワークシートにまとめる。(2時間)
13	遊びのプロフラムの実践③ グループごとに計画に沿って準備し企画案を実践する。活動を振り返り遊びの重要な役割について考察する。	事前	遊びのプログラムを計画し、必要なものを準備する。(2時間)
		事後	課題のワークシートを整理しまとめる。他者の実践に対してコメントシートに記入する。(2時間)
14	児童館・放課後児童クラブの安全・安心への対応 子どもの健康管理や保護者との連絡、安全対策について対応の必要性を理解する。	事前	児童館・放課後児童クラブの育成支援について復習しておく。(2時間)
		事後	子どもの安全と安全対策についてまとめる。(2時間)
15	全体の振り返り 課題レポートの発表を通して、児童館・放課後児童クラブの実態や課題について学び、新たな解決や今後の展望に向けて理解を深める。	事前	これまでの授業を振り返り、健全育成についてまとめる。(2時間)
		事後	振り返りを通して、これからの課題や展望をまとめる。(2時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク　プレゼンテーションなど

成績評価の方法・基準(%表記)
課題・レポート 50%(学習内容を要約し　自らの考えを表明できる)
授業への取り組み・発表内容・指導計画実践力 50%(指導方法を身につける)で評価する

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
児童館・放課後児童クラブの機能や役割について説明することができる（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
児童館でのプログラムの企画・立案・実践力を身につける（DP2.3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
専門職者としての実践力や省察する力を総合的に活用し、新たな課題を解決する能力を身につける（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
　使用しない
　学習内容を示した資料を配布する

参考書等
　児童健全育成推進財団『児童館論』、2015
　児童健全育成推進財団『児童館の機能と運営』(児童館テキストシリーズ 1)、2011
　児童館ガイドライン　https://www.mhlw.go.jp/content/11906000/000361016.pdf　厚生労働省 HP
　放課後児童クラブ運営指針
　　https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11906000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Ikuseikankyouka/0000080763.pdf
　　厚生労働省 HP

履修上の注意・学習支援
※ 課題が提示されたときは、事前に準備をし、自分の考えを説明・発表できるようにすること
※ 課題レポートは期限内に提出すること
疑問点・質問があるときは、科目担当者に相談すること

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ 児童館児童厚生員として6年間勤務し、児童の遊びの指導・実務に携わってきた。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 児童館での実務経験を活かし健全育成にかかわる指導について伝えることができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3216	施設経営論	3～4年	春	講義	2	岩本　眞砂枝

授業概要

　急激な社会変容により少子高齢化時代を迎える中で、子どもの未来を予測し、持続可能で質の高い保育教育を提供するための保育施設の運営について学ぶ。

到達目標（学習の成果）

・広く客観的な視野で情報を収集して社会の現状を理解する（DP4）。
・子どもをとりまく環境を理解して、各自の個性を磨きつつ保育者として社会を担う責務を見出す（DP3）。
・保育施設の管理運営についての理解を深める（DP3・4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	ガイダンス 保育施設の経営形態や施設が抱える課題について概観する。	事前	どの様な経営形態があるか情報を収集する。(2時間)
		事後	施設の抱える課題を整理して保育を考える。(2時間)
2	教育と経済 教育と経済の関連、相互作用について学ぶ。	事前	経済が教育に与える影響について考えを整理する。(2時間)
		事後	日常から保育者としての経済感覚を身につける。(2時間)
3	文化変容（パラダイムシフト） 保育をとりまく社会的環境の変容について学ぶ。	事前	何故変化ではなく変容なのかを資料から読み取る(2時間)
		事後	今までとこれからの変容を比較し、整理する。(2時間)
4	見える環境と見えない環境 保育現場における環境についてこれまでの経験を踏まえて学ぶ。	事前	保育現場の環境を振り返る。(2時間)
		事後	見えない環境として人間の感覚を見直す。(2時間)
5	家庭と保育活動 保育における家庭や社会の役割、施設での保育活動との違いについて学ぶ。	事前	実習で観察した保育活動をふり返る。(2時間)
		事後	子供の背後にある家族、社会状況を理解する(2時間)
6	危機管理 今日の社会に潜む様々な危機とその対応について学ぶ。	事前	世界の中の日本に生きるために何が必要か？(2時間)
		事後	安全安心をどの様に獲得するか？(2時間)
7	Risk　hedge と Risk　take 保育者あるいは施設の責任とリスクへの向き合い方について学ぶ。	事前	職業人の責任とは？保育のリスクとは？(2時間)
		事後	自己管理意識を育てるために心がけること。(2時間)
8	幼児教育の多様性 保育の多様性とそれを支える保育者の資質や役割について学ぶ。	事前	保育の多様性をどこまで知っているか？(2時間)
		事後	これからの保育現場で新たに心がける事とは？(2時間)
9	持続可能な社会（SDGs） SDGsについて理解し、持続可能な社会における保育について学ぶ。	事前	何をどの様に持続可能にするのか？(2時間)
		事後	未来へのビジョンを具体化する(2時間)
10	未来を創造する これからの社会を予測し、保育者や保育施設に期待されている保育について理解する。	事前	2040年の子どもたちの社会はどうなる？(2時間)
		事後	未来を創造する子どもたちの力を育む(2時間)

11	教育の国際化 国際化の現状と未来、課題について学ぶ。	事前	語学教育とは異なる視点で国際化を捉える(2時間)
		事後	グローバリゼーションと保育の未来を考える(2時間)
12	保育者の役割 これからの保育を担う保育者と保育施設の在り方について確認する。	事前	学んだことを整理して図に描いてみよう(3時間)
		事後	これからの保育に必要な哲学(1時間)
13	バズセッション これからの保育について各自意見を出し合う。	事前	取り上げたいテーマを考える(2時間)
		事後	話し合いでの多様な意見を整理する(2時間)
14	総括 これまでの学びを振り返り、保育の存在意義を確認し、課題を明らかにする。	事前	学びをふり返る(2時間)
		事後	保育の存在意義を知る(2時間)
15	発表 これからの保育について各自の保育哲学を踏まえて報告する。	事前	自らプレゼンテーションの内容を考える(3時間)
		事後	自らの表現を見直す(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
ディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・レポート(60%) 学習成果について2,000字程度にまとめること
・授業への取り組み(40%)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
情報を把握出来ているか (DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している
子どもをとりまく環境を理解したか (DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している
保育について施設の運営管理も含めて将来展望を考え整理できているか (DP3・4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力している

教科書
各テーマに沿って、プリント資料配布

参考書等
高橋勝、『子どもが生きられる空間　生・経験・意味生成』、2014、東信堂

履修上の注意・学習支援
質問は授業内にて対応する。
社会人としてこれからの社会を見極め、求められる考えを言語化しながら共に探求し続ける姿勢を持つこと

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
学校法人　岩本学園 認定みどりこども園 理事長　園長

[実務経験と授業科目との関連性]
現職の運営経験と情報網から施設経営の哲学について、知識として学生に伝える事ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I1217	シティライフ学入門	1年	春	講義	2	陣内 雄次

授業概要

本講義は、「シティライフとは何か」について各自で検討することで、各自のシティライフやシティライフ学に関する思考の基礎を形作ることを目的とするとともに、都市環境との関係に関する基礎的知見を得ることを目指す。そのため、都市と都市生活ならびに都市生活者などに関して多面的に学ぶ。例えば、都市や都市生活とは何なのか、都市の形態や仕組み、都市経済とは、都市に関する法律や制度、今日的課題である都市の持続可能性などについて、学び考える。ワークと発表の機会を多く設け、受講生が能動的に授業に参画できるようにする。

到達目標(学習の成果)

都市市民として生活していくうえで最低限身に着けておくべき知識や認識を習得する。また、大学において4年間学ぶための基礎的素養を身に着ける（DP1)。さまざまな資料を使い、ある都市的事象が複数の要因によって成り立っていることを考察する力、すなわち複眼的思考能力を身につけ、課題の本質やその解決方法を見出せる力を養う（DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	【シティライフとは何か】「シティライフ」とは何か、シティライフの前提である「都市」の特徴は何かを学ぶ。	事前	シティライフについて考える。(2時間)
		事後	シティライフに関連する文献を読む。(2時間)
2	【Ｆｕｔｕｒｅ　Ｄｅｓｉｇｎ①】「どのような都市・都市生活を私達はデザインしたいのか、そしてどのようにすれば実現できるのか」をグループで検討するＦｕｔｕｒｅ Ｄｅｓｉｇｎ（ＦＤ）のガイダンスである。グループ分けなどを行う。	事前	住みたい都市について考える。(2時間)
		事後	グループメンバーと意見交換する。(2時間)
3	【シティライフの構成要素】シティライフの構成要素とその主体者について考える。	事前	シティライフにとって何が重要かを考える。(2時間)
		事後	よりよいシティライフにしていくことについて考える。(2時間)
4	【シティライフの生成と形態 (1)】世界の都市の生成過程と形態について学ぶ。	事前	世界の都市の歴史に関して情報を集める。(2時間)
		事後	現在の世界の都市について考える。(2時間)
5	【シティライフの生成と形態(2)】日本の都市の生成過程と形態について学ぶ。	事前	日本の都市の歴史に関して情報を集める。(2時間)
		事後	現在の日本の都市について考える。(2時間)
6	【シティライフと経済】都市及び都市生活の経済に関して学ぶ。	事前	都市における経済活動について情報を集める。(2時間)
		事後	よりよい都市経済活動について考える。(2時間)
7	【シティライフと法律】都市に関連した法律と仕組み、役割について学ぶ。	事前	都市に関連する法律について情報を集める。(2時間)
		事後	都市に関連する法律の役割について振り返る。(2時間)
8	【Ｆｕｔｕｒｅ　Design②　中間報告】Ｆｕｔｕｒｅ Designの中間報告を行い、途中経過を確認する。	事前	中間報告の準備をする。(2時間)
		事後	指摘事項についてグループメンバーと検討する。(2時間)
9	【都市と環境（1)】都市と、身近な生活環境（ローカル）と地球環境（グローバル）との関係について学ぶ。	事前	都市と環境について情報を集める。(2時間)
		事後	身近な生活環境について振り返る。(2時間)
10	【都市と環境（2)】都市の持続可能性について、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）も含めて検討する。	事前	都市の持続可能性について考える。(2時間)
		事後	SDGsと自らの関わりについて考える。(2時間)
11	【都市と住宅】都市における住まい、住まい方について検証する。	事前	理想とする住まいについて考える。(2時間)
		事後	宇都宮中心街の住宅について考える。(2時間)
12	【都市と自治】都市の自治について、コミュニティという観点から学ぶ。	事前	都市の自治について情報を集める。(2時間)
		事後	自治会、NPOの役割について考える。(2時間)
13	【Ｆｕｔｕｒｅ　Design③　プレゼンテーションの準	事前	プレゼンテーションの準備をする。(2時間)

	備】Ｆｕｔｕｒｅ Design のプレゼンテーションの準備を行う。	事後	グループメンバーと意見交換しながら、プレゼンテーションの準備を進める。(2時間)
14	【Ｆｕｔｕｒｅ　Design④プレゼンテーション】Ｆｕｔｕｒｅ　Design のプレゼンテーションを行い、より良いシティライフに関する知見や考えを共有する。	事前	プレゼンテーションの準備を完了する。(2時間)
		事後	プレゼンテーションでの指摘事項などを振り返る。(2時間)
15	【より良い都市に向けて】より住みやすい都市とはどのようなものか、都市を発展させるためにはどうしたらよいのか考える.	事前	住みやすい都市とは何かを考える。(2時間)
		事後	よりよい都市、よりよい都市生活のために自らができることを考える。(2時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容）
グループワーク、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準（%表記）
毎回のミニテスト（30%）、Ｆｕｔｕｒｅ　Ｄｅｓｉｇｎ（グループワーク）の取り組み（30%）、期末試験の成績（40%）

観点	S	A	B	C
シティライフについての基礎的事項に関する理解（DP1）	完全に理解している	十分に理解している	理解している	ある程度理解している
シティライフの現状や課題についての複眼的考察（DP1）	完全に考察できている	十分に考察できている	考察できている	ある程度考察できている
好ましいシティライフについて自分なりの考察や意見を持つ（DP1）	斬新なアイディアを持っている	独自性のあるアイディアを持っている	自分なりのアイディアを持っている	一般的なアイディアを持っている

教科書
特になし。講義の際にプリントを配布するか、データで提供する。

参考書等
川上光彦『都市計画　第4版』(森北出版、2021 年 11 月)
田中治彦・枝廣淳子・久保田崇『SDGsとまちづくり　持続可能な地域と学びづくり』（学文社、2019 年3月）

履修上の注意・学習支援
1. 本授業では教員と受講生、受講生と受講生の双方向のコミュニケーションにより、一人ひとりが「能動的に考える」ことを重視する。このため、グループワークに積極的に参画し、一人ひとりが思考を深めることを期待する。
2. 授業中の、スマホなどの使用は厳禁とする。使用が発覚した場合は、欠席扱いとする。授業で使用する際は、教員が指示する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3218	NPO コミュニティビジネス論	1～4年	春	講義	2	和田　佐英子

授業概要

本講義では、各種NPO団体や社会福祉法人等の非営利組織に着目し、日本社会におけるそれらの存在意義、そこに内在する課題、今後の展望などについて勉強する。また、地域社会の課題解決の手段の一つとして期待されているコミュニティビジネスについても理解を深める。特に、ここでは、NPO 等非営利組織が持つミッションと社会的課題の解決の方策を模索すると同時に、その組織としての持続性の維持とそこで働く人達の抱える問題についても考える。この講義を受講することによって、受講者の多くが就職先として選択するのであろうNPO 等の非営利組織の組織構造を理解することができるようになることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

非営利組織の現状、可能性と課題について理解している(DP3)。また、福祉や子育て環境の充実におけるコミュニティビジネスの可能性について理解を持つとともに、自らの参加の可能性について考えることができる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「NPOとは何か」　NPOとは何か、NPOの機能とは何かなど、非営利組織の基礎について考える。	事前	保育園や介護事業所のホームページを見てみよう。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
2	「非営利組織の諸相」 特定非営利活動法人、公益法人など非営利組織の諸相について学ぶ。また、ボランティア、ボランティアグループとの違いについても紹介する。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
3	「非営利組織の歴史的背景」 非営利組織がどのような背景のなかで誕生し、機能を発揮するようになってきたのか、歴史的観点から概括する。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
4	「非営利組織のマネジメント」　非営利組織が十分な成果を得るために、どのようなマネジメントが必要なのかを考える。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
5	「コミュニティビジネスとは何か」 コミュニティビジネスの基本について学ぶとともに、非営利組織との関係性について理解を深める。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
6	「非営利組織、コミュニティビジネス事例 (1) 保育」 非営利組織、コミュニティビジネスにおける保育の取組について学ぶ。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
7	「非営利組織、コミュニティビジネス事例 (2)まちづくり」 非営利組織、コミュニティビジネスにおけるまちづくりの取組について学ぶ。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
8	「非営利組織、コミュニティビジネス事例 (3) 環境問題」 非営利組織、コミュニティビジネスにおける環境問題の取組について学ぶ。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
9	「非営利組織、コミュニティビジネス事例 (4)まちづくり」 非営利組織、コミュニティビジネスにおけるまちづくりの取組について学ぶ。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想を

			まとめておく。(2 時間)
10	「非営利組織、コミュニティビジネス(事例)(5)」 国際理解・国際協力非営利組織、コミュニティビジネスにおける国際理解・国際協力の取組について学ぶ。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
11	「非営利組織と地域社会について」 地域社会における NPO 等非営利組織の活躍について考える。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
12	「地域社会における地域集団とNPO について」地域における地域集団の構造と人々の参加と協働について考える。	事前	事前に指示のあった資料や参考文献を読んでおく。(2 時間)
		事後	本日、勉強した内容を整理し、自分の意見や感想をまとめておく。(2 時間)
13	「自分で、非営利組織、コミュニティビジネスを立ち上げる(1)構想」 各自、自分のアイディアをまとめる。	事前	自分でコミュニティビジネスを立ち上げるとしたら、どのようなテーマのビジネスを立ち上げるか、各自自分の意見をまとめておく。(2 時間)
		事後	本日の授業をもとに、自分のアイディアを修正する(2 時間)
14	「非営利組織、コミュニティビジネスを立ち上げる(2)計画」各自、実際に立ち上げる場合の計画案を作る	事前	自分のアイディアを計画に落とし込む。(2 時間)
		事後	本日の授業をもとに、自分のアイディアを修正する(2 時間)
15	「自分の構想を発表する」自分が作りたい NPO の構想を発表する。	事前	自分の構想の発表準備をする。(2 時間)
		事後	本日の発表を振り返る(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
当初は、座学を行い、最終的には、グループディスカッションやプレゼンテーション等を実施し、各自その内容をレポートにまとめる。

成績評価の方法・基準(%表記)
期末試験を実施　90%　(レポートなどで実施予定)
授業への取り組み　10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
NPO や社会福祉法人等非営利組織の現状を知り、課題を考察できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
NPO やコミュニティビジネスについてよく理解し、どのような組織が望ましいか提案できる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
毎回レジメを配布し、それをもとに、講義を進めていくので、特定の教科書は指定しない。
しかし、講義時間中に、参考文献等を随時指示することがある。

参考書等
雨森 孝悦　(著)
『テキストブック NPO(第 3 版): 非営利組織の制度・活動・マネジメント』有斐閣　2020

履修上の注意・学習支援
・毎回、講義された内容について、自分なりに整理して復習し、自分なりの意見を持てるよう整理しておくこと。
・第1回の講義の時に、メールアドレス等の連絡先を教えるので、質問等がある人は事前にメールで予約をとってほしい。
(通常の場合は、講義終了時に、質問等に来てくれるのが望ましい。)

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19I3219	子どもマーケティング論	2-3 年次	秋学期	講義	2	内藤 英二

授業概要

商品やサービスを生産地から消費地まで届けるための様々な活動であるマーケティングは、経営学の中では、機能分野別戦略の一つに位置づけられているが、その目的、主体(担い手)、対象となる分野は企業の枠を超えて、多様化する傾向にある。私たちの身の回りにある商品やサービスの全てがマーケティングの何らかの活動を経てもたらされたものであるといえるのであって、マーケティングの発想と手法を活用すれば、私たちは年齢や性別、学歴、居住地などの違いに関係なく、自らのアイデアを具体化し、私たちを取り巻く環境に働きかけ、諸々の問題を解決するための方法を導き出すことが可能になる。

到達目標(学習の成果)

実践力等を総合的に活用し、授業を通じて得られた知識をもとに、「子どもの安全性を確保することのできる商品・サービスを開発する」という課題を企画書という形で具体化する能力を身につけることを目指する。 (DP４)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	マーケティング発達の歴史:マーケティングとは何をすることか＝マーケティングの定義の変遷	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	マーケティングの定義が変化してきた理由について(2 時間)
2	マーケティング戦略:マーケティング戦略展開プロセス、マーケティング目標・市場標的・マーケティングミックス	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	マーケティング目標と市場標的について(2 時間)
3	製品計画①:プロダクト・ライフサイクル、2 つの新製品開発と既存製品の改良・新用途開発・廃棄	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	プロダクトライフサイクルの役割について(2 時間)
4	製品計画②:製品の多角化と多様化、商標(ブランド)と包装(パッケージ)	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	製品多角化と多様化について(2 時間)
5	価格政策:価格設定と価格管理、価格設定の方法(コストプラス法、マークアップ法、損益分岐点分析)	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	今までに体験したこのとある価格設定方法について(2 時間)
6	販売促進①:人的販売・広告・パブリシティ・セールスプロモーション・口コミ、効果的な販売促進策＝AIDMA の法則、広告計画	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	販売促進の二つの意味について(2 時間)
7	販売促進②:広告計画＝情報の収集分析・基本計画・媒体戦略・表現戦略・出稿・効果測定、販売管理とセールスプロモーション	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	その他のセールスプロモーションの事例について(2 時間)
8	流通政策:流通経路(チャネル)・流通管理、小売業経営と物的流通システム、「流通経路の形成」と「取引極小化の原理」	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	物流と商流について(2 時間)
9	消費者保護政策:北欧で生まれたオンブズマン・システムを活用した消費者保護政策と我が国の消費者保護政策の比較検討	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	オンブズマンシステムの特色について(2 時間)
10	マーケティングの新潮流①:マーケティングの社会化、企業による社会志向のマーケティング、社会責任と社会貢献	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	マーケティングの社会化の実例について(2 時間)
11	マーケティングの新潮流②:公共・非営利組織のマーケティング、グリーンマーケティング、SDG s とマーケティング活動	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	宇都宮市で実践されている SDGs活動について(2 時間)
12	マーケティングの新潮流③:サービス・マーケティング、真実の瞬間、関係性のマーケティング	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	サービスの特性について(2 時間)
13	マーケティングの新潮流④:協同組合主義とディ・マーケティング、情報技術革新とマーケティング	事前	ワークシートをプリントアウトし精読(2 時間)
		事後	協同組合原則について(2 時間)
14	新商品開発①:子どもの安全性の確保を目的とする新商品開発企画書の作成((素案の発表とディスカッション)	事前	素案の作成(2 時間)
		事後	ディスカッションを活かした素案の修正(2 時間)
15	新商品開発②:最終案のプレゼンテーション	事前	最終案の作成(2 時間)
		事後	最終案の修正と提出(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

ロールプレイング、ディスカッション、プレゼンテーション

第2回「マーケティング戦略」の授業では、競争戦略をテーマとして、宇都宮共和大学の存在を広く社会にアピールするための「共和大パロディロゴ」を制作する。第8回「流通政策」では、「流通経路の形成」と「取引極小化の原理」を理解するためのロールプレイングゲームに参加してもらう。第14回、15回「新製品化発①、②」では、レポート「子どもの安全性の確保を目的とする新商品開発のための企画書」を作成する。第14回は素案、第15回は最終案の発表（プレゼンテーション）と他の履修生とのディスカッションを行う。

成績評価の方法・基準（%表記）

① 振返りシート：毎回の受領終了時に振り返りシートのテーマを発表します。字数は800字程度（600字～1000字）。
グーグルクラスルームに課題として提出すること。期限は次回授業の前日までとする。

② 2種類の課題（ワークアウト）：「共和大パロディロゴ」、「取引極小化原理ロールプレイングゲーム」への取り組み

③ 最終レポート：「子どもの安全性の確保を目的とする新商品開発のための企画書」

以上3点をもとに成績評価を行う。基準は①45%、②20%、③35%を目安とする。

観点	S	A	B	C
経営者の視点に立つ従来のマーケティングに関する基礎的知識の理解	身近な実例を挙げて説明することが出来る。	十分な理解が出来ている。	ある程度の理解ができている。	部分的に理解が不十分な点がある。
共和大パロディロゴ	訴求ポイントが明確で独創性がある。	自分以外の受講生の作品についても、多くの意見を出せる。	実現可能性についての検証が十分なされていない。	独創性に欠けている
子どもの安全性の確保を目的とする新商品開発のための企画書」の作成(DP4)	実現可能性の高い、独創性の高い製品を考えている。	自分以外の受講生の作品についても、多くの意見を出せる。	実現可能性についての検証が十分なされていない。	独創性に欠けている

最終レポートでは、子どもの安全性の確保を目的とする新商品開発のための企画書」を作成する。このレポートを通じて、子どもを取り巻く生活・社会環境、特に安全性への関心、関連する知識や技能を身につけるための意欲の有無を判断する。

教科書：特になし

グーグルクラスルームに毎回のワークシートを掲載する。授業の前にワークシートをダウンロードして印刷し、精読しておくこと。

参考書等

武井　寿他, 2018,『現代マーケティング論』, 実教出版

履修上の注意・学習支援

質問や連絡がある場合は、宇都宮シティキャンパス教育厚生棟７階の研究室まで、メールの場合は、naito@kyowa-u.ac.jp まで。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

全国農業協同組合連合会のシンクタンクである社団法人農協流通研究所調査研究部研究員として7年間勤務し、農林畜産水産物の流通、マーケティング関連の調査、商品企画等に従事。神奈川県卸売市場審議会委員等も務めた。

［実務経験と授業科目との関連性］

食品を中心とした幅広い産品の流通構造を実際に実証分析した経験から、より具体的な流通の実態を解説可能。農産品を原料とする各種加工食品の新製品開発に参画した経験を持っている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1201	レクリエーション概論	1 年	春	講義	1	河田隆・霜触智紀

授業概要

レクリエーション概論として、「レクリエーションとは」、「レクリエーション支援とは」、「レクリエーション・インストラクターの役割」、楽しさと心の元気づくりの理論として、「楽しさをとおした元気づくりと対象者の心の元気」、「心の元気と地域のきずな」、レクリエーション支援の理論として、「コミュニケーションと信頼関係づくりの理解」、「良好な集団づくりの理論」、「自主的、主体的に楽しむ力を育む理論」を学習する。また、幼児教育や福祉領域において遊びやレクリエーション活動がいかに重要であるか深く理解し、個人・集団を対象にしたレクリエーション事業のプログラムの組み立て方や運営方法を学習する。

到達目標(学習の成果)

- レクリエーション支援の理論について深く理解する(DP1)。
- レクリエーションおよびレクリエーション活動について説明できる(DP1)。
- 幼児教育における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解する(DP2)。
- 対象者また目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる(DP2)。
- 子どもに関連する得意な分野の専門性を深める(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「レクリエーション概論」 レクリエーションとは、について学ぶ。レクリエーション支援とは、について学ぶ。レクリエーション・インストラクターの 2 つの役割について学ぶ。	事前	レクリエーション支援、レクリエーション・インストラクターに関して調べておく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーションがもたらす恩恵について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
2	「楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気」 楽しさをとおした心の元気づくりを理解する。ライフステージと心の元気づくりについて学ぶ。子どもや高齢者の心の元気づくり、障がいのある人の心の元気づくりの課題について学ぶ。	事前	心の元気づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	心の元気づくりに関して、子ども、高齢者、障がいのある人等に対する支援について具体案を考えるとともに学習内容を振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
3	「心の元気と地域のきずな」 地域のきずなづくり、子どもを育む地域のきずなについて学ぶ。高齢者を支える地域のきずな、きずなづくりとレクリエーションについて学ぶ。	事前	心の元気と地域のきずなに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	地域のきずなとレクリエーションとの関連について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
4	「コミュニケーションと信頼関係づくりの理論」 レクリエーション支援におけるコミュニケーションを学ぶ。対象者と支援者の信頼関係、および信頼関係づくりの方法を学ぶ。	事前	コミュニケーションと信頼関係づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーション支援におけるコミュニケーションの重要性、具体的な方法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
5	「良好な集団づくりの理論」 レクリエーション活動をとおした良好な集団づくり、集団内のコミュニケーションの促進について学ぶ。	事前	集団づくりに関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	集団づくりにおけるレクリエーション活動の効果について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
6	「自主的・主体的に楽しむ力を育む理論」 自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力について学ぶ。やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み、成功体験を支え合う対象者のかかわりについて学ぶ。	事前	自主的・主体的に楽しむ力に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	対象者のレクリエーション活動と自主性、やる気、成功体験との関連について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
7	「レク活動の安全管理」 安全管理の考え方(事故・事件への対応)や、救急法の基礎知識について学ぶ。	事前	安全管理に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーション活動を安全に実施するため、気をつけるべき点について振り返り、理解を深める。(0.5

			時間)
8	「レクリエーション事業」 レクリエーション事業の現状を理解し、レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の課題等を発見し改善の方法を学ぶ。	事前	レクリエーション事業に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーションプログラムがより良いものになるため現状の課題を踏まえ、解決策を考える。(0.5 時間)
9	「レクリエーションプログラムの立案1」 個人、集団に対するレクリエーションプログラムや市民サービス型レクリエーション事業の組立て方や運営方法について学ぶ。	事前	レクリエーションプログラムの立案に関して、授業内容の理解を深めるため教科書の該当ページを読んでおく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーションプログラムの組立て方や運営方法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
10	「レクリエーションプログラムの立案2」 レクリエーションプログラム創作方法を学ぶ。	事前	前時の内容を復習し、レクリエーションプログラムの立案に関して、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	レクリエーションプログラム創作方法について、実践をイメージしながら具体的に振り返り、理解を深める。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
定期試験(60%)
・レクリエーション概論・楽しさと心の元気づくりの理論・レクリエーション支援の支援について深く理解している。
・幼児教育や福祉領域における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を深く理解している。
・対象に合わせた、また目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる。
授業への取り組み(40%)
・レクリエーション概論の理解を深めようと努めている。
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
レクリエーション支援の理論について深く理解し、レクリエーションおよびレクリエーション活動について説明できる(DP1)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
幼児教育における個人・集団に対するレクリエーション活動の果たす効果を説明できる(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
対象者また目的に合わせたレクリエーションプログラムを計画することができる(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
　授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書
公益財団法人日本レクリエーション協会編「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人日本レクリエーション協会, 2019 年
参考書等
なし

履修上の注意・学習支援
授業における課題の提出期限は厳守する
他者の迷惑になる授業態度は一切しないこと
疑問があれば、授業担当まで相談すること

メールアドレス:shimofure@kyowa-u.ac.jp 本授業はいずれの回も担当教員２名にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1202	レクリエーション演習Ⅰ	1年	春	演習	1	月橋　春美

授業概要
レクリエーション活動およびレクリエーション支援について基本的な概念を理解し、レクリエーション支援者としての役割について説明できるようになることを目的とする。また、レクリエーション活動の体験を通して、レクリエーション活動の種類や対象者（乳幼児や親子など）に効果的なレクリエーション活動を実施できるよう援助方法について学ぶ。

到達目標（学習の成果）
・目的や対象者に合わせたレクリエーション活動の選択・支援方法・アレンジ法を身につける（DP4）。
・乳幼児の遊びを体験することにより、各々の遊びの特徴を理解する（DP4）。
・子どもに関連する得意な分野の専門性を深める（DP4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ① あたたかくもてなす意識と配慮について学ぶ。	事前	信頼関係づくりについてテキストを読む（0.5時間）
		事後	ホスピタリティについてまとめる（0.5時間）
2	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ② 気持ちをひとつにするコミュニケーション技術について学ぶ。	事前	コミュニケーション技術についてテキストを読む（0.5時間）
		事後	コミュニケーション技術についてまとめる（0.5時間）
3	良好な集団づくりの方法・アイスブレ―キング① アイスブレーキングについて学ぶ。	事前	アイスブレーキングについてテキストを読む（0.5時間）
		事後	アイスブレーキングとしてのゲームについて調べる（0.5時間）
4	良好な集団づくりの方法・アイスブレ―キング② 集団支援におけるアイスブレーキングのプログラムについて学ぶ。	事前	アイスブレーキングプログラムについてテキストを読む（0.5時間）
		事後	アイスブレーキングプログラムを考える（0.5時間）
5	良好な集団づくりの方法・アイスブレ―キング③ アイスブレーキングの効果を高める支援技術について学ぶ。	事前	アイスブレーキングの効果についてテキストを読む（0.5時間）
		事後	アイスブレーキングの効果についてまとめる（0.5時間）
6	レクリエーション活動の実際① 健常者を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ。	事前	今までやったことのあるゲームについて書く（0.5時間）
		事後	授業で体験したゲームの進め方をまとめる（0.5時間）
7	レクリエーション活動の実際② 乳児を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ。	事前	好きな歌を一曲選び、歌詞を書く（0.5時間）
		事後	授業で紹介された歌の感想を書く（0.5時間）
8	レクリエーション活動の実際③ 幼児を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ。	事前	最近の幼児の体操を調べる（0.5時間）
		事後	授業で体験した体操（ダンス）の動きをまとめる（0.5時間）
9	レクリエーション活動の実際④ 障がい児を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ。	事前	障がい者を対象にしたゲームを調べる（0.5時間）
		事後	授業で体験したゲームの進め方をまとめる（0.5時間）
10	レクリエーション活動の実際⑤ 親子を対象としたゲーム、歌、体操やダンスなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法を学ぶ。	事前	親子で楽しめるレクリエーション活動を調べる（0.5時間）
		事後	授業で紹介された親子でのレクリエーション活動をまとめる（0.5時間）
11	レクリエーション活動の実際⑥	事前	幼児を対象としたクラフト活動を調べる（0.5時

	幼児を対象としたクラフトなどのレクリエーション活動を体験し、その援助方法について学ぶ。		間）
		事後	幼児とクラフトを行う際の援助方法のポイントをまとめる（0.5時間）
12	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法① 楽しむ力を高める目標設定の方法について学ぶ。	事前	楽しむ力を高める目標設定について、テキストを読む（0.5時間）
		事後	レクリエーション活動での目標設定の方法についてまとめる（0.5時間）
13	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法② レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジについて学ぶ。	事前	対象者に合わせたアレンジ方法について、テキストを読む（0.5時間）
		事後	対象者に合わせたレクリエーション活動のアレンジのポイントについてまとめる（0.5時間）
14	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法③ 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について学ぶ。	事前	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法について、テキストを読む（0.5時間）
		事後	相互作用を促進するコミュニケーション技術についてまとめる（0.5時間）
15	レクリエーション活動における楽しさと支援方法 レクリエーション活動を楽しくするための支援方法について理解を深める。	事前	「楽しさとは」について考える（0.5時間）
		事後	レクリエーション活動に楽しく参加してもらうための支援のポイントについてまとめる（0.5時間）

授業形式（アクティブラーニングの内容）
　グループワーク、グループディスカッション、課題解決型学習

成績評価の方法・基準（%表記）
・レポート　60%（目的や対象者に合わせたレクリエーション活動の選択や提供、およびアレンジ方法などについて具体的に述べているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる）
・授業への取り組み　40%　（授業時の積極的な取り組みを評価する。グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
目的や対象者に合わせたレクリエーション活動の選択・支援方法・アレンジ法を身につけている（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児の遊びを体験することにより、各々の遊びの特徴を理解している（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもに関連する得意な分野の専門性を深めている（DP4）。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
「楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法」公益財団法人日本レクリエーション協会編
公益財団法人日本レクリエーション協会，2024 年
参考書等
「レリエーション・ワーク」廣池利邦他著　同文書院　1998 年
「リーダーのゲーム指導法」宇田川光雄著　遊戯社　1994 年

履修上の注意・学習支援
演習の際には、指定された服装（シューズも含む）を着用すること
疑問があれば、担当教員に質問すること

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1203	レクリエーション演習Ⅱ	1年	秋	演習	1	月橋　春美

授業概要

学生がグループでの乳幼児を対象としたレクリエーション支援を体験することにより、レクリエーション支援者として役割や援助方法について学習する。また、その際、現場において目的に合わせた効果的なレクリエーション支援ができるよう、支援方法についても学ぶ。

到達目標(学習の成果)

・レクリエーション支援の体験を通して、乳幼児に合わせた支援方法を理解する（DP3)。
・乳幼児を対象としたレクリエーション活動の展開方法やアレンジ法が考察できる（DP3)。
・レクリエーション支援者としての基本的考え方や姿勢、実践したことを省察する力を習得する（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	活動領域に合わせたレクリエーション活動① 保育の現場では、乳児を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ。	事前	乳児を対象としたレクリエーション活動について考える(0.5 時間)
		事後	乳児を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる(0.5 時間)
2	活動領域に合わせたレクリエーション活動② 保育の現場では、幼児を対象とした際、どのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ。	事前	幼児を対象としたレクリエーション活動について考える(0.5 時間)
		事後	幼児を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる(0.5 時間)
3	活動領域に合わせたレクリエーション活動③ 子育て支援を目的とした現場では、実際にどのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ。	事前	親子を対象としたレクリエーション活動について考える(0.5 時間)
		事後	子育て支援の現場で行われているレクリエーション活動の支援方法をまとめる(0.5 時間)
4	活動領域に合わせたレクリエーション活動④ 子ども会活動で、児童を対象とした現場では、実際にどのようなレクリエーション活動を取り入れているのか。また、そのレクリエーション活動をどのように行っているのかについて学ぶ。	事前	児童を対象としたレクリエーション活動について考える(0.5 時間)
		事後	児童を対象としたレクリエーション活動の支援方法をまとめる(0.5 時間)
5	活動領域に合わせたレクリエーション活動⑤ その他として、レクリエーション活動が取り入れられているさまざまな現場と対象者およびその内容について知る。	事前	レクリエーション活動が取り入れられている現場について調べる(0.5 時間)
		事後	レクリエーション活動が行われている現場と対象者についてまとめる(0.5 時間)
6	演習形式での支援体験① 全体で行うゲームや2～3人組で行うゲームを体験し、それぞれのゲームの楽しさや流れ、進め方について学ぶ。	事前	ゲームを支援する準備をする(0.5 時間)
		事後	ゲームの楽しさや流れ、進め方についてまとめる(0.5 時間)
7	演習形式での支援体験② 乳幼児を対象としたレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする(0.5 時間)
		事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
8	演習形式での支援体験③ 幼児を対象としたレクリエーション活動を体験し、その財の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする(0.5 時間)
		事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
9	演習形式での支援体験④ 保育の現場で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする(0.5 時間)
		事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
10	演習形式での支援体験⑤ 子育て支援の現場で行われているレクリエーション活動を体	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする(0.5 時間)

	験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
11	演習形式での支援体験⑥ 子ども会活動で行われているレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする (0.5 時間)
		事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
12	演習形式での支援体験⑦ 親子を対象とした教室などでのレクリエーション活動を体験し、その活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする (0.5 時間)
		事後	体験したレクリエーション活動の楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
13	演習形式での支援体験⑧ 乳幼児や親子を対象としたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする (0.5 時間)
		事後	体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
14	演習形式での支援体験⑨ 児童を対象としたクラフトを体験し、そのクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについて学ぶ。	事前	レクリエーション活動を体験する準備をする (0.5 時間)
		事後	体験したクラフトの楽しさや特徴、支援の方法やポイントについてまとめる(0.5 時間)
15	レクリエーション活動の効果 乳幼児におけるレクリエーション活動の効果について理解し、効果的なレクリエーション支援を行うための方法やポイントについて理解を深める。	事前	レクリエーション活動の効果について考える (0.5 時間)
		事後	乳幼児における、効果的なレクリエーション支援を行うための方法やポイントについてまとめる (0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
　グループワーク、グループディスカッション、創作活動・発表

成績評価の方法・基準(%表記)
・レクリエーション支援案　30%(指定されたフォーマットに沿って、具体的にまとめているかを評価する)
・レクリエーション支援　30%(グループで考案した支援内容を、メンバー全員で楽しくスムーズに支援できているかを評価する)
・授業への取り組み　40%　(授業時の積極的な取り組みを評価する。グループワークにおいては、コモンルーブリック評価基準を用いる)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
レクリエーション支援の体験を通して、乳幼児に合わせた支援方法を理解する　(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
乳幼児を対象としたレクリエーション活動の展開方法やアレンジ法が考察できる　(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
レクリエーション支援者としての基本的考え方や姿勢、実践したことを省察する力を習得する　(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
公益財団法人日本レクリエーション協会編集 「楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法」 公益財団法人日本レクリエーション協会、2024 年
参考書等
廣池利邦他 「レリエーション・ワーク」 同文書院、1998 年
宇田川光雄 「リーダーのゲーム指導法」 遊戯社、1994 年

履修上の注意・学習支援
実技を行う際は、指定された服装(シューズも含む)を着用すること
疑問点は授業担当に質問すること

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1204	野外活動Ⅰ	1年	春	演習	1	河田隆・月橋春美・霜触智紀

授業概要

野外活動は、高度な技術を要求されないプログラムに限り幼児から高齢者に至るまで、また障害を持った人達にとっても楽しむことのできる活動である。そこで、まずは、野外活動について学び、理解する。また、キャンプ活動における基礎知識と活動技術を演習形式で学び、保育、幼児教育現場に合わせたキャンププログラムの計画方法を知り、説明できるようになることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

・野外活動の意義について理解する (DP1)。
・キャンプ活動の基礎知識に関して説明でき、安全に行うための技術が身につく (DP1)。
・保育・幼児教育現場に合わせたキャンププログラムが計画・運営できるようになる (DP1)。
・他者理解を深め、相手とのコミュニケーション能力が身につく (DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「野外活動とは」 野外活動の概念や内容について学ぶ。	事前	野外活動の概念や内容について教科書をもとに予習し、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	事前学習と講義内容を振り返り、野外活動がもたらす効果について考える。(0.5 時間)
2	「野外活動の現状と課題、施設、関係法規」 野外活動における自然環境、安全対策、施設等に関する課題について学ぶ。	事前	野外活動の現状と課題、施設、関係法規について調べておく。(0.5 時間)
		事後	野外活動に関する自然環境、安全対策、施設、関係法規等に関する現状と課題について学んだことを振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
3	「野外活動の用具1(基本装備)」 主にキャンプ用具の基本装備について、実践的に学ぶ。	事前	野外活動用具(キャンプ用具、主に基本装備)について調べておく。(0.5 時間)
		事後	用具の使用方法等について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
4	「野外活動の用具2(ロープ)」 ロープワークについて、実践的に学ぶ。	事前	野外活動におけるロープの扱い方について調べておく。(0.5 時間)
		事後	ロープの扱いについて振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
5	「野外活動の用具3(ポール)」 ポールの扱い方について、実践的に学ぶ。	事前	野外活動におけるポールの扱い方について調べておく。(0.5 時間)
		事後	ポールの扱いについて振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
6	「野外活動の用具4(テント)」 テントの設営について、実践的に学ぶ。	事前	テントの設営方法について調べておく。(0.5 時間)
		事後	テントの設営方法等について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
7	「キャンプの特性、歴史」 キャンプ活動の意義や目的、内容について学ぶ。	事前	キャンプの特性(目的、意義、歴史等)について調べておく。組織キャンプについても調べておく。(0.5 時間)
		事後	事前学習と講義内容を振り返り、キャンプの意義とキャンプがもたらす効果について考える。(0.5 時間)
8	「キャンプの指導者と組織化」 キャンプ・インストラクターの資質と役割について学ぶ。 実習に向けて、実際に組織化を行う。	事前	キャンプの指導者の資質・役割と組織キャンプについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	キャンプを指導する上で求められる資質・役割について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
9	「キャンプの組織・マネジメント活動」 キャンプ実習の係を決めて、仕事内容を確認し、プログラムマネジメントを行う。	事前	組織キャンプの各役割について調べておく。(0.5 時間)
		事後	担当する係の役割について振り返り、理解を深め

			る。(0.5 時間)
10	「キャンプ及び野外活動のルールとマナー」 自然環境、音、色彩、明るさ、狩猟活動、排せつ等に関するルールマナーについて学ぶ。 野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について学ぶ。	事前	キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について調べておく。(0.5 時間)
		事後	キャンプ及び野外活動のルールとマナー、野外アクティビティ(キャンプファイヤー等)について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
11	「キャンプ及び野外活動での安全管理 1」 救急処置及び看護法(心肺蘇生法、運搬法等)について実践的に学ぶ。	事前	救急処置及び看護法について調べておく。(0.5 時間)
		事後	救急処置及び看護法について、学習したことを振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
12	「キャンプ及び野外活動での安全管理 2」 主に鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについて実践的に学ぶ。	事前	鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについて調べておく。(0.5 時間)
		事後	鉈(なた)の扱い、火の取り扱いについての実践を振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
13	「キャンプにおける指導内容・指導技術」 キャンプ活動の指導内容やコミュニケーション・スキル、点呼について、実践的に学ぶ。	事前	キャンプの指導内容、指導技術について調べておく。(0.5 時間)
		事後	キャンプの活動効果を高める指導内容やコミュニケーション・スキルについて振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
14	「キャンプにおけるクラフト活動」 自然のものを用いたクラフト活動について、実践的に学ぶ。	事前	キャンプにおけるクラフト活動について調べておく。(0.5 時間)
		事後	クラフト活動を振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
15	「野外活動の計画・運営・評価」 野外活動の計画、運営、評価の具体的な方法について実践的に学ぶ。	事前	野外活動の計画・運営・評価について調べておく。(0.5 時間)
		事後	野外活動を計画する、運営する、評価するための具体的な方法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
　グループワーク、グループディスカッション、課題解決型学習、フィールドワーク、実習

成績評価の方法・基準(%表記)
① レポート　60%（野外活動の意義やキャンプ活動の基礎知識を理解している、現場に合わせたキャンププログラムが計画・運営できるかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる）
② 課題克服度　40%（キャンプ活動を安全に行うための技術が身についているかを評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
野外活動およびキャンプ活動の基礎知識に関して説明できる（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育・幼児教育現場に合わせたキャンププログラムが計画・運営できる（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
他者とコミュニケーションがとれる（DP2）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
　授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書
日本キャンプ協会指導者養成委員会編「キャンプ指導者入門」(公社)日本キャンプ協会　2020 年
参考書等
なし

履修上の注意・学習支援
2 泊 3 日のキャンプ実習への参加を含む(キャンプ・インストラクター資格取得のため)
キャンプ実習費用 10,000 円(2 泊 3 日)を、実習前に徴収する
疑問があれば必ず授業担当(shimofure@kyowa-u.ac.jp)に相談すること
本授業はいずれの回も全担当教員にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1205	野外活動Ⅱ	1 年	集中	演習	1	月橋春美・霜触智紀

授業概要

実習前に冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学習する。2 泊 3 日の学外施設でのスキー実習では、現地インストラクターによるスキー・スノーボードのレベル別グループ技術指導を受け基礎技術を学習する。また、宿泊施設においてはスキー・スノーボードに関する講義を受け、基礎技術に関しての理論を深く理解する。実習後は自己評価レポートを提出することにより実習振り返りを行う。2 泊 3 日の集中宿泊実習で、技術理論を学習だけではなく、集団生活体験の中からコミュニケーションスキルや社会的規範を学習する。

到達目標(学習の成果)

・冬季の自然環境について理解する。(DP4)
・冬季野外活動に関する基礎理論を理解する。(DP1)
・基礎技術を身につけることにより、安全で楽しく冬季野外活動が実践できるようになる。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	事前学習① 冬季野外活動(スキー・スノーボード)について学ぶ	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、冬季野外活動意義の理解を深める。(0.5 時間)
2	事前学習② スキー・スノーボード実習の概要に関して学ぶ	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	事前学習で得た知識と本実習の関連について振り返り、実習意義の理解を深める。(0.5 時間)
3	講義(基礎技術の理論)① 車中にてスキー・スノーボードの基礎技術をビデオ学習	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	事前学習で得た知識について振り返り、基本用語の理解及び技術の理解を深める。(0.5 時間)
4	実技レッスン① 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
5	実技レッスン② 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
6	講義(基礎技術の理論)② 現地インストラクターによる基礎技術について学ぶ	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	前時までの学習で得た基礎技術について振り返り、基本用語の理解及び技術の理解を深める。(0.5 時間)
7	実技レッスン③ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
8	実技レッスン④ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
9	実技レッスン⑤ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボー	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。

	ド)	事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
10	実技レッスン⑥ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
11	講義③ 現地インストラクターによる実習成果についての評価を受ける	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、知識や技術について理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	評価を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について自身のスキルを把握するとともに課題を明確にしておく。(0.5 時間)
12	実技レッスン⑦ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
13	実技レッスン⑧ 現地インストラクターによる実技レッスン(スキー・スノーボード)	事前	スキー・スノーボードの本や映像から、特に技術について理解を深めておく。
		事後	実践を踏まえ、スキー・スノーボードの技術について振り返り、理解を深める。(1 時間)
14	講義④ 車中にて実習の記録ビデオの鑑賞を行い、自分の実習での技術向上の成果を振り返る	事前	実技レッスンを振り返り、成果及び課題を考えておく。(0.5 時間)
		事後	自分の技術を客観的に把握し、実習での技術向上の成果及び課題を明確にする。(0.5 時間)
15	事後学習 スキー・スノーボード実習の振り返りをし、実習に対する自己評価をまとめる	事前	実習の全行程を振り返り、成果及び課題を考えておく。(0.5 時間)
		事後	スキー・スノーボード実習の振り返りから、自己評価をまとめ、成果及び課題を明確にする。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
　グループワーク、課題解決型学習、実習

成績評価の方法・基準(%表記)
・レポート　60%（安全で楽しくスキー・スノーボードができるようになるための基本知識を理解しているかを評価する。レポート評価には、コモンルーブリック評価基準を用いる）
・課題克服度　40%（スキー・スノーボードに関する基礎理論を深く理解している、スキー・スノーボードの基礎技術を身につけているかを評価する）

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
冬季の自然環境について理解している（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
冬季野外活動に関する基礎理論を理解している（DP1）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
基礎技術を身につけることにより、安全で楽しく冬季野外活動に参加できている（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
　実習中の質疑について都度回答する。

教科書
第1回：事前学習、第6回：講義、第15回：事後学習にて、資料を配布する。
参考書等
渡辺一樹監修『DVD上達レッスン　スキー』成美堂出版、2010年
松沢聖佳『スキー初中級レッスン』株式会社実業之日本社、2011年
平敷慶彦監修『ゼロからはじめるスノーボード入門』コスミック出版、2014年

履修上の注意・学習支援
集中講義のため、2泊3日のスキー・スノーボード実習は全日参加すること
実習費として47,000円程度(44名参加、昨年度実績)を、徴収する。用具をレンタルする場合は、以下を追加で徴収する。
フルセット(スキー板 or スノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、ウェア、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 13,500円
ウェアなしセット(スキー板 or スノーボード、ブーツ、ストック(スキーのみ)、小物セット(グローブ・帽子・ゴーグル)) 10,500円
疑問があれば担当教員(shimofure@kyowa-u.ac.jp)に質問すること
本授業はいずれの回も担当教員2名にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1233	ジュニアスポーツ指導論	1～4 年	秋	講義	2	霜触 智紀

授業概要

スポーツとの出会いの時期となるジュニア期(幼児～青少年)は、生涯にわたり豊かなスポーツライフを形成するために特に大切な時期である。本授業では、このジュニア期の指導について学習する。具体的には、運動・スポーツの意義と価値、ジュニアコーチング、体力や動きの発達、心理、栄養、医学の基礎的知識について学び、指導法の理解を深める。

到達目標(学習の成果)

・ジュニア期の健康・体力づくりに対するスポーツの科学的知識を身につける(DP2)。
・ジュニアアスリート支援のための指導法を理解する(DP2)。
・ジュニア期のスポーツ指導プログラムを計画できる(DP2)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「ジュニアスポーツ指導とは」 子どもの体力・運動能力、スポーツ活動の現状と課題について学ぶ。	事前	子どもの体力・運動能力の現状と課題について調べる。(2 時間)
		事後	アクティブチャイルドプログラムについて理解を深める。(2 時間)
2	「ジュニアスポーツコーチング」 ジュニア期のコーチングに関して、指導者論や指導方法、留意点について学ぶ。	事前	コーチングの意味について調べる。(2 時間)
		事後	授業で学んだスポーツコーチングに加えて、ジュニア期のコーチングに特に求められるものについて考察する。(2 時間)
3	「子どもの体力」 発育発達に関する概要と体力テストについて学ぶ。	事前	体力テストの効果と意義について調べる。(2 時間)
		事後	自身の体力テストの体験を想起し、客観的に自身のジュニア期を考察する。(2 時間)
4	「子どもの動きの発達」 発育発達に応じた動きの評価と指導について学ぶ。	事前	幼児期、児童期、思春期以降の動きの違いについて調べる。(2 時間)
		事後	子どもの動きの評価について振り返り、指導の活かし方を考察する。(2 時間)
5	「子どものスポーツ心理学」 運動と心の発達との関係等について学ぶ。	事前	子どものスポーツ心理学について、概要を調べる。(2 時間)
		事後	運動と心の発達との関係について振り返り、理解を深める。(2 時間)
6	「子どものスポーツ栄養学」 成長期における食事やジュニアアスリートの食事について学ぶ。	事前	成長期における食事のあり方及びスポーツ食育について調べる。(2 時間)
		事後	ジュニア期に栄養不足にて起こりうる問題とその予防方法について振り返り。理解を深める。(2 時間)
7	「子どものスポーツ医学」 からだの構造と発育発達との関連やスポーツ障害について学ぶ。	事前	子どものスポーツ障害の現状と課題について調べる。(2 時間)
		事後	子どものスポーツ障害の予防について振り返り、理解を深める。(2 時間)
8	「女性とスポーツ」 女性の身体的・体力的特徴や女性アスリートのコンディショニングについて学ぶ。	事前	女性アスリートのスポーツへの向き合い方について調べる。(2 時間)
		事後	女性アスリートへの指導方法について理解を深める。(2 時間)
9	「発達段階に応じた運動遊びの展開例」 ジュニア期における運動遊びの価値や選択のポイントについて学ぶ。	事前	ジュニア期を中心とした運動遊びの展開方法について考える。(2 時間)
		事後	発達段階に応じた運動遊びの選択のポイントについて理解を深める。(2 時間)
10	「運動遊び・スポーツの指導とアイスブレイク」 運動遊び及びアイスブレイクの具体的な展開方法について学ぶ。	事前	アイスブレイクについて調べる。(2 時間)
		事後	運動遊びにおける効果的なアイスブレイクについて考える。(2 時間)

11	「運動遊びのアレンジと年齢、体力に応じた指導」 運動遊びをアレンジする必要性と、年齢及び発達段階に応じた具体的なアレンジ方法について学ぶ。	事前	運動遊びのアレンジについて調べる。(2 時間)
		事後	運動遊びのアレンジを行う上でのポイントを振り返り、理解を深める。(2 時間)
12	「指導プログラムの作成」 実際の指導プログラムを計画する上でのポイントを学び、作成する。	事前	子どものスポーツ指導の計画を立てる上でのセオリーについて調べる。(2 時間)
		事後	指導プログラムを作成する。(2 時間)
13	「指導プログラムの実践①」 作成したプログラムを実践し、振り返る。	事前	指導プログラムを確認する。(2 時間)
		事後	実践を振り返る。(2 時間)
14	「指導プログラムの実践②」 作成したプログラムを実践し、振り返る。	事前	指導プログラムを確認する。(2 時間)
		事後	実践を振り返る。(2 時間)
15	「指導プログラムの評価」 実践したプログラムについて評価を行い、以降の指導に活かす方法について学ぶ。	事前	自分が行った指導プログラムの評価を、授業内で示した観点に基づき行う。(2 時間)
		事後	自身の指導プログラムを評価する。(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、模擬授業

成績評価の方法・基準(%表記)
授業でのレポート提出(40%)
・授業内容について、自らの考えが表明できること。
・レポート評価にはコモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。
テスト(60%)
・ジュニアスポーツ指導において必要な知識・技術について理解できている。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ジュニア期の健康・体力づくりに対するスポーツの科学的知識について理解し、説明できる。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
ジュニアアスリート支援のための指導法を理解し、指導ができる。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
ジュニア期のスポーツ指導プログラムを計画できる。(DP2)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて
授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書
なし
参考書等
公益財団法人日本スポーツ協会、「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」、広研印刷株式会社、第6刷、2021 年

履修上の注意・学習支援
他の学生の学習を妨げるような行為は慎むこと。
何かわからないことがあったら、授業担当まで早めに相談すること。
質疑応答はオフィスアワーを利用すること。またはメールアドレスに連絡・相談すること。
メールアドレス shimofure@kyowa-u.ac.jp

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1206	音楽Ⅰ	1年	春	演習	1	新井祐子・加藤紗耶香 福田有理絵 大島美知恵

授業概要　授業概要

音楽Ⅰは、主に楽典・ピアノ・子どもの歌（歌唱）について学習する。子どもの音楽表現を支え、育むために必要な知識と演奏技術を身につけることを目的とする。

第1～5回　『ピアノ奏法・入門』のクラス授業(90分毎週)、

第6～15回　『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』(歌とピアノ2つの授業を45分ずつ毎週)

を行うことで構成される。

『ピアノ奏法・入門』のクラス授業で楽典の基礎知識を学び、『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』において個人的な指導を受ける。

到達目標（学習の成果）

『ピアノ奏法・入門』

楽典の基礎を学び、楽譜を正しく読めるようになる（DP3)。

『子どもの歌・歌唱』

子どもの歌を学び、歌唱できるようになる（DP3)。

『少人数グループピアノレッスン』

ピアノ演奏技術を習得するための初歩的な訓練を行い、子どもの歌の伴奏が弾けるようになる（DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 授業の形態および内容、到達目標を理解する ピアノ奏法・入門(1)大譜表の読み方、音名を学ぶ	事前	教科書に目を通しておく(0.5時間)
		事後	4～7月教材の中から選曲し、譜読みする(0.5時間)
2	ピアノ奏法・入門(2)音名唱法(固定ド)で楽譜を読み、歌う 拍・拍子の仕組みについて学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を譜読みする(0.5時間)
		事後	4～7月教材の中から選曲し、譜読みする(0.5時間)
3	ピアノ奏法・入門(3)音の長さ、音価について学ぶ リズムを読み、リズム打ちを実践する	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	リズム課題に取り組む(0.5時間)
4	ピアノ奏法・入門(4) 記号について 変化記号、反復記号、速度記号について学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	プリント課題に取り組む(0.5時間)
5	ピアノ奏法・入門(5) 標語について 様々な発想標語や奏法に関する記号について学ぶ これまでの復習小テストに取り組む	事前	これまでの学習内容を復習する(0.5時間)
		事後	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
6	子どもの歌(1)4月教材①自分の声を知る ピアノレッスン(1)ピアノを弾く姿勢について学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
7	子どもの歌(2)4月教材②自然な声の出し方を学ぶ ピアノレッスン(2)手や手首の位置について学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
8	子どもの歌(3)5月教材①フレーズについて学ぶ ピアノレッスン(3)5本の指を順番に使うことを学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
9	子どもの歌(4)5月教材②符点のリズムを学ぶ ピアノレッスン(4)指をくぐらせる奏法を学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
10	子どもの歌(5)6月教材①息の使い方を学ぶ ピアノレッスン(6)和音の基本形を学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
11	子どもの歌(6)6月教材②手遊びを伴う歌について学ぶ ピアノレッスン(6)和音の移動について学ぶ	事前	4～7月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)

12	子どもの歌(7) 7 月教材①アーティキュレーションに合わせた歌い方を学ぶ ピアノレッスン(7) 分散和音について学ぶ	事前	4～7 月教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
13	子どもの歌(8) 7 月教材②レガートの歌い方を学ぶ ピアノレッスン(8) スキップのリズムについて学ぶ	事前	4～7 月教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
14	子どもの歌(9) 課題曲を仕上げる ピアノレッスン(9) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	定期試験に向け課題曲を練習する(0.5 時間)
15	子どもの歌(10) 課題曲を仕上げる ピアノレッスン(10) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	これまでの振り返りを行い、夏休みの課題を準備する(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
小人数グループピアノレッスン・試演会

成績評価の方法・基準(%表記)

成績評価の方法・基準（%表記）

・定期試験 70%
・授業への取り組み 20%
・小テスト、レポート 10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ピアノ奏法の基礎的な技術を身に付けている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
楽典の基礎的な知識を理解できている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの歌を豊かな声で歌うことができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等は授業あるいはクラスルームからフィードバックを行う

教科書

1. ピアノ奏法入門（楽典）
   ・今川恭子　志村一成　木村充子　（他７名）著
   『おんがくのしくみ　歌って動いてつくってわかる音楽理論』　教育芸術社　2008 年
2. 子どもの歌 歌唱　及び　ピアノレッスン
   ・神原雅之　鈴木江津子　編著『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』
   教育芸術社　2018 年

参考書等

1. ピアノレッスン
   ・バイエル著『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社　1955 年
   ・ディアベルリ著『ピアノ連弾曲集１　旋律的小品 Op. 149』全音楽譜出版社　2013 年

履修上の注意・学習支援

本授業はいずれの回も担当教員４名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やしていくこと。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	担当教員
19J1207	音楽Ⅱ	1年	秋	演習	新井祐子・加藤紗耶香・ 福田有理絵・大島美知恵

授業概要

音楽Ⅱは、主に楽典・ピアノ・子どもの歌(歌唱・弾き歌い)について学習する。
子どもの音楽表現を支え、育むために必要な知識と演奏技術を身につけることを目的とする。
第1～5回『ピアノ奏法・基礎』のクラス授業(90分毎週)、
第6～15回『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』(歌とピアノ2つの授業を45分ずつ毎週)
を行うことで構成される。
『ピアノ奏法・基礎』のクラス授業で楽典の基礎知識を学び、『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』において個人的な指導を受ける。

到達目標(学習の成果)

『ピアノ奏法　基礎』
楽典の理解を深め、演奏に反映できるようになる (DP3)。
『子どもの歌 (歌唱)』
子どもの歌を学び、歌唱できるようになる (DP3)。
『少人数グループピアノレッスン』
ピアノ演奏技術を習得するための基礎的な訓練を行い、子どもの歌の伴奏が弾けるようになる。
連弾曲を通じてアンサンブルを実演できるようになる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 授業の形態および内容、到達目標を理解する 課題曲を学び、選曲する ピアノ奏法・基礎⑴ 音程の基礎について学ぶ	事前	夏休み中の課題を仕上げておく(0.5時間)
		事後	9～12月教材から選曲、譜読みをする(0.5時間)
2	ピアノ奏法・基礎⑵ 増減音程について学ぶ	事前	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
3	ピアノ奏法・基礎⑶ 音階の仕組みを学ぶ 長音階・短音階について学ぶ	事前	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
4	ピアノ奏法・基礎⑷ 調号について学ぶ	事前	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	プリント課題に取り組む (0.5時間)
5	ピアノ奏法・基礎⑸ これまでの復習及び小テストに取り組む	事前	これまでの学習内容を復習する (0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
6	子どもの歌⑴ 9月教材①日本語の母音を意識した発音を学ぶ ピアノレッスン⑴ 両手のバランスについて学ぶ	事前	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
7	子どもの歌⑵ 9月教材①日本語の子音を意識した発音を学ぶ ピアノレッスン⑵ アーティキュレーションを表現する方法を学ぶ	事前	9～12月教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
8	子どもの歌⑶ 10月教材①歌詞から曲想を感じ取り表現することを学ぶ ピアノレッスン⑶ 分散和音奏について学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
9	子どもの歌⑷ 10月教材②歌詞から曲想を感じ取り表現することを学ぶ ピアノレッスン⑷ 連弾の仕組みについて学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
10	子どもの歌⑸ 11月教材①歌と伴奏のバランスについて学ぶ ピアノレッスン⑸ 連弾の音量バランスについて学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
11	子どもの歌⑹ 11月教材②歌と伴奏のバランスについて学ぶ ピアノレッスン⑹ 連弾の音量バランスについて学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時

			間)
12	子どもの歌(7) 12 月教材①伴奏に合わせて歌唱する ピアノレッスン(7) 連弾を合わせ、呼吸の合わせ方を学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
13	子どもの歌(8) 12 月教材②伴奏に合わせて歌唱する ピアノレッスン(8) 連弾を合わせ、呼吸の合わせ方を学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
14	子どもの歌(9) 課題曲を仕上げる ピアノレッスン(9) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
		事後	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
15	子どもの歌(10) 課題曲を仕上げる ピアノレッスン(10) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
		事後	これまでの振り返りを行い、春休みの課題を準備する（0.5 時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)
小人数グループピアノレッスン・試演会

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験 70%
・授業への取り組み 20%
・小テスト、レポート 10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ピアノ奏法の基礎的な技術を身に付けている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
楽典の基礎的な知識を理解できている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
豊かな声量と表現で歌うことができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
連弾を通じてアンサンブルする力を身に付けている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等は授業あるいはクラスルームからフィードバックを行う

教科書
1. ピアノ奏法基礎（楽典）
・今川恭子　志村一成　木村充子　（他７名）著
『おんがくのしくみ　歌って動いてつくってわかる音楽理論』　教育芸術社　2008 年
2. 子どもの歌 歌唱　及び　ピアノレッスン
・神原雅之　鈴木江津子　編著『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』
教育芸術社　2018 年
・バイエル著『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社　1955 年
参考書等
・ディアベルリ著『ピアノ連弾曲集１　旋律的小品 0p. 149』全音楽譜出版社　2013 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員４名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やしていくこと。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J2208	音楽Ⅲ	２年	春	演習	1	新井祐子・福田有理絵・加藤紗耶香・篠崎加奈子

授業概要

音楽Ⅲは、主に楽典・ピアノ・歌唱法について学習する。
子どもの音楽表現を支え育むために、多様なスタイルの楽曲について学び、幅広い音楽的教養を身につけることを目的とする。
豊かな声量で歌えるよう発声の基礎を学ぶとともに、子どもの歌の弾き歌いレパートリーを増やし、表現豊かな演奏技術を習得する
第1～5回『ピアノ奏法・応用』のクラス授業(90分毎週)、
第6～15回『歌唱法』及び『少人数グループピアノレッスン』(歌とピアノ2つの授業を45分ずつ毎週)
を行うことで構成される。
『ピアノ奏法・応用』のクラス授業で楽典の活用方法を学び、『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』において個人的な指導を受ける。

到達目標(学習の成果)

『ピアノ奏法・応用』
確かな読譜力を身につけることができる。子どもの歌に平易な伴奏付けができるようになる(DP3)。
『歌唱法』
発声の基礎を学び、豊かな声量で歌えるようになる(DP3)。
『少人数グループピアノレッスン』
様々な楽曲に取り組み、表現豊かな演奏ができるようになる。子どもの歌の弾き歌いができるようになる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 授業の形態および内容、到達目標を理解する。 課題曲を学び、選曲する ピアノ奏法・応用(1) 様々な伴奏形について学ぶ	事前	春休みの課題を準備しておく (0.5時間)
		事後	1～3月教材の中から選曲し、譜読みする (0.5時間)
2	ピアノ奏法・応用(2) 主要三和音、和音の基本形について学ぶ	事前	1～3月教材から選んだ曲を練習する (0.5時間)
		事後	1～3月教材から選んだ曲を練習する (0.5時間)
3	ピアノ奏法・応用(3) 和音の転回形について学ぶ	事前	1～3月教材から選んだ曲を練習する (0.5時間)
		事後	1～3月教材から選んだ曲を練習する (0.5時間)
4	ピアノ奏法・応用(4) 和音の種類について学ぶ	事前	1～3月教材から選んだ曲を練習する (0.5時間)
		事後	プリント課題に取り組む (0.5時間)
5	ピアノ奏法・応用(5) 平易な伴奏付けを演習する これまでの復習小テストに取り組む	事前	これまでの学習内容を復習する (0.5時間)
		事後	バイエル教材を譜読みする (0.5時間)
6	歌唱法(1) 発声入門①自分の現在の声量を確認、目標を明確にする ピアノレッスン(1) バイエル教材①マーチのスタイルを学ぶ	事前	バイエル教材から選んだ曲を練習する (0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する (0.5時間)
7	歌唱法(2) 発声入門②歌うときの身体の使い方を知る ピアノレッスン(2) バイエル教材②ギャロップのスタイルを学ぶ	事前	バイエル教材から選んだ曲を練習する (0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する (0.5時間)
8	歌唱法(3) 発声入門③息の使い方を学ぶ ピアノレッスン(3) バイエル教材③ワルツのスタイルを学ぶ	事前	バイエル教材から選んだ曲を練習する (0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する (0.5時間)
9	歌唱法(4) フレージングについて学ぶ ピアノレッスン(4) バイエル教材④子守歌のスタイルを学ぶ	事前	バイエル教材から選んだ曲を練習する (0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する (0.5時間)
10	歌唱法(5) 独唱と伴奏の音量バランスを学ぶ	事前	子どもの歌弾き歌いを練習する (0.5時間)

	ピアノレッスン⑸ バイエル教材⑤三連符について学ぶ	事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5時間）
11	歌唱法⑹ 独唱と伴奏の音量バランスを学ぶ ピアノレッスン⑹ バイエル教材⑥8分の3拍子･8分の6拍子について学ぶ	事前	子どもの歌弾き歌いを練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所（0.5 時間）所を練習する
12	歌唱法⑺ 弾き歌いの音量バランスについて学ぶ ピアノレッスン⑺ 弾き歌いの演習を行う	事前	子どもの歌弾き歌いを練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所（0.5 時間）所を練習する
13	歌唱法⑻ 伴奏に合わせて独唱を実演する ピアノレッスン⑻ 弾き歌いの演習を行う	事前	子どもの歌弾き歌いを練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5時間）
14	歌唱法⑼ 課題曲を仕上げる ピアノレッスン⑼ 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5時間）
		事後	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5時間）
15	歌唱法⑽ 弾き歌いの試演会を行う ピアノレッスン⑽ 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5時間）
		事後	これまでの振り返りを行い、夏休みの課題を準備する（0.5時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)
少人数グループピアノレッスン・試演会

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験 70%
・授業への取り組み 20%
・授業内小テスト、レポート 10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
様々な楽曲に応じた表現力を身につけている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
楽典の基礎的な知識を理解し、楽譜を深く読み取ることができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
豊かな声量と表現で歌うことができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
アンサンブルの基本が身についている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※課題等は授業あるいはクラスルームからフィードバックを行う

教科書
1.ピアノ奏法応用
・今川恭子 志村一成 木村充子 (他7名)著
『おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論』教育芸術社 2008 年
2. 歌唱法 及び ピアノレッスン
・神原雅之 鈴木江津子 編著『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社 2018 年
・『新・声楽指導教本』(児童、幼児教育課程・保育士養成課程用) 教育芸術社 2016 年
・バイエル著『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社 1955 年

参考書等
1.教芸音楽研究グループ編集『改訂 音楽通論』教育芸術社 2009 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員 4 名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やすこと。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J2209	音楽Ⅳ	２年	秋	演習	1	新井祐子・福田有理絵・加藤紗耶香・篠崎加奈子

授業概要

音楽Ⅳは、主に楽典・ピアノ・歌唱について学習する。

子どもの音楽表現を支え育むために、多様なスタイルの楽曲について学び、幅広い音楽的教養を身につけることを目的とする。豊かな声量で歌えるよう発声の基礎を学ぶとともに、子どもの歌の弾き歌いレパートリーを増やし、表現豊かな演奏技術を習得する

第1～5回『ピアノ奏法・発展』のクラス授業(90分毎週)、

第6～15回『歌唱法』及び『少人数グループピアノレッスン』(歌とピアノ2つの授業を45分ずつ毎週)

を行うことで構成される。

『ピアノ奏法・発展』のクラス授業で楽典の応用方法を学び、『子どもの歌・歌唱』及び『少人数グループピアノレッスン』において個人的な指導を受ける。

到達目標(学習の成果)

『ピアノ奏法・発展』

楽譜をより深く読み取れるようになる。

これまでの楽典の知識を活用し、メロディに伴奏を付けられるようになる(DP3)

『歌唱法』

伸びやかな声で豊かな表現ができるようになる。歌唱及び弾き歌いのレパートリーを増やせる(DP3)。

『少人数グループピアノレッスン』

多様なスタイルの楽曲を実践することにより、幅広く音楽的教養を身につけることができる。

子どもとの音楽活動を想定し、状況に応じた弾き歌いをすることができる(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 授業の形態および内容、到達目標を理解する 課題曲を学び、選曲する ピアノ奏法・発展(1)和音の種類を復習する	事前	夏休みの課題を仕上げておく(0.5時間)
		事後	ピアノ教材から曲を選び、譜読みする(0.5時間)
2	ピアノ奏法・発展(2)コードネームの基礎知識について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	新・声楽指導教本のテキストに目を通しておく(0.5 時間)
3	ピアノ奏法・発展(3) コードネームの種類について学ぶ	事前	新・声楽指導教本のテキストに目を通しておく(0.5 時間)
		事後	ピアノ教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
4	ピアノ奏法・発展(4) コードネームによる子どもの歌の伴奏づけを演習する	事前	子どもの歌のコードネームに目を通しておく(0.5 時間)
		事後	プリント課題に取り組む (0.5時間)
5	ピアノ奏法・発展(5) コードネームによる子どもの歌の伴奏づけを演習する これまでの復習小テストを行う	事前	これまでの学習内容を復習する (0.5時間)
		事後	新・声楽指導教本のテキストに目を通しておく(0.5 時間)
6	歌唱法(1) 胸声・頭声(ファルセットに)ついて学ぶ ピアノレッスン(1) 楽曲研究① 標題のついたピアノ曲について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
7	歌唱法(2) 腹式呼吸について学ぶ ピアノレッスン(2) 楽曲研究② 標題にふさわしい表現について学ぶ	事前	発声に気を付けながら歌を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
8	歌唱法(3) 母音の発音について学ぶ ピアノレッスン(3)楽曲研究③ 曲の構造について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
9	歌唱法(4) 子どもの状況を想定した弾き歌いを考察する ピアノレッスン(4) 様々な様式(クラシック)について学ぶ	事前	弾き歌いの課題曲を練習する(0.5時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)

10	歌唱法(5) 子どもの声を引き出す歌唱活動について考察する ピアノレッスン(5) 様々な様式(ジャズ・ポピュラー)について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
11	歌唱法(6) 子どもの歌の斉唱について学ぶ ピアノレッスン(6) 様々な様式に合わせた表現について学ぶ	事前	呼吸に気を付けながら歌を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
12	歌唱法(7) 子どもの歌の斉唱について実演する ピアノレッスン(7) 様々な様式に合わせた表現を実演する	事前	弾き歌いの課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
13	歌唱法(8) 発表会にて子どもの歌の斉唱を実演する ピアノレッスン(8) コードネームによる弾き歌いを演習する	事前	斉唱を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
14	歌唱法(9) 伴奏に合わせて独唱を実演する ピアノレッスン(9) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する (0.5 時間)
		事後	定期試験に向け課題曲を練習する (0.5 時間)
15	歌唱法(10) 課題曲を仕上げる ピアノレッスン(10) 課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する (0.5 時間)
		事後	これまでの振り返りを行い、春休みの課題を準備する (0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
小人数グループピアノレッスン・発表会

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験 70%
・授業への取り組み 20%
・小テスト、レポート 10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
楽譜を深く読み取り、表現豊かな演奏をすることができる (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの状況に合わせた弾き歌いができる (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
腹式呼吸を身に付け、豊かな声量と表現で歌うことができる (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
アンサンブル能力を身に付けられている (DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
1. ピアノ奏法・展開
・教芸音楽研究グループ編集『改訂 音楽通論』教育芸術社 2018 年
・神原雅之他監修・編著 幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』教育芸術社 2010 年
2. 歌唱法
・『新・声楽指導教本』(児童、幼児教育課程・保育士養成課程用)教育芸術社 2016 年

参考書等
・小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社 1975 年
・小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社 1996 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員 4 名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やしていくこと。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3210	音楽Ⅴ	３年	春	演習	1	新井祐子・加藤紗耶香・福田有理絵・篠崎加奈子

授業概要
音楽Ⅴでは『ピアノ実技』及び『歌唱法・弾き歌い』2つの授業を45分ずつ行うことで構成される。
これまで学んできた知識を演奏に反映し、豊かな表現力を備えた演奏技術を身に付けることを目的とする。
『ピアノ実技』
タイトルから連想されるイメージをピアノで表現できるようになる。また、オーケストラ作品を編曲した連弾を学び、アンサンブルの楽しみや多様な音楽表現を学ぶ
『歌唱法・弾き歌い』
安定したピアノ伴奏の上に、豊かな声量で弾き歌いをすることをねらいとする。また、メロディに簡単な伴奏づけができるよう演習を行う。各自のレベルに合わせてレパートリーを増やす。

到達目標（学習の成果）
『ピアノ実技』
様々な楽曲に対応できる高度な演奏技術を身に付けることができる。幅広い音楽性を身に付けることができる（DP3）。
『歌唱法・弾き歌い』
子どもの状況に合わせた弾き歌いができるようになる。簡易伴奏を付けることができる。レパートリーを増やすことができる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	ピアノ 独奏① 楽曲の作曲家について調べる 歌唱 発声、腹式呼吸の確認をする	事前	春休み中の課題を仕上げておく（0.5時間）
		事後	作曲家について調べる（0.5時間）
2	ピアノ 独奏② 楽曲の背景について学ぶ 歌唱 歌う姿勢について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する
3	ピアノ 独奏③ ペダルの効果について学ぶ 歌唱 弾き歌いの音量バランスについて学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
4	ピアノ 独奏④ ペダルの扱い方を演習する 歌唱 弾き歌いの音量バランスについて実演する	事前	弾き歌いの曲を練習する（0.5時間）
		事後	発表の振り返りを行い、自分の課題を見出す（0.5 時間）
5	ピアノ 連弾① 楽曲の作曲家、背景を調べる 歌唱 日本語の発音について学ぶ	事前	弾き歌いの曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
6	ピアノ 連弾② アンサンブルの演習を行う 歌唱 日本語の発音に留意して実演する	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
7	ピアノ 連弾③ アンサンブルの演習を行う 歌唱 子どもの音域について学ぶ	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	子どもの音域についてのレポートをまとめる
8	クラス内試演会 弾き歌いの発表・鑑賞を行う	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	発表の振り返りを行い、自分の課題を見出す（0.5 時間）
9	ピアノ 伴奏法① 様々な伴奏形について確認する 歌唱 子どもの音域に応じた選曲について学ぶ	事前	ピアノ教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
10	ピアノ 伴奏法② 簡易伴奏の演習を行う（単音、重音） 歌唱 アーティキュレーションを学ぶ	事前	弾き歌いの曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
11	ピアノ 伴奏法③ 簡易伴奏の演習を行う（和音） 歌唱 フレーズと呼吸について学ぶ	事前	弾き歌いの曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）
12	ピアノ 伴奏法④ 簡易伴奏の演習を行う（スキップやマーチのリズムを用いて） 歌唱 歌詞の内容に合わせた歌唱表現について考察する	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する（0.5時間）
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する（0.5 時間）

13	ピアノ、連弾　豊かな音楽表現について考察する 歌唱　伴奏と共に豊かな音楽表現を実演する	事前	連弾教材から選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
14	ピアノ、連弾　様式に合った豊かな音楽表現を実演する 歌唱　伴奏との音量バランスを確かめながら実演する	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
		事後	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
15	ピアノ、連弾、弾き歌いの課題曲を仕上げる	事前	定期試験に向け課題曲を練習する（0.5 時間）
		事後	これまでの振り返りを行い、夏休みの課題を準備する（0.5 時間）

授業形式(アクティブラーニングの内容)
少人数グループレッスン・試演会

成績評価の方法・基準(%表記)
・定期試験 60%
・授業への取り組み 30%
・レポート課題 10%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
ピアノ演奏と歌唱それぞれにおいて、安定した演奏技術を身に付けている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの状況や反応に合わせ、伴奏を工夫することができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの感性を育むための表現力を備えている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
アンサンブル能力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※レポート等は授業またはクラスルームからフィードバックを行う

教科書
・神原雅之 鈴木江津子 編著『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』
教育芸術社 2018 年
・『新・声楽指導教本』(児童、幼児教育課程・保育士養成課程用)教育芸術社 2011 年

参考書等
1. 独奏
・ブルグミュラー著『ブルクミュラー25 の練習曲』全音楽譜出版社 1955 年
・『ソナチネアルバム(1)』全音楽譜出版社 1955 年
2. 歌唱法
・小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社 1975 年
・小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社 1996 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員 4 名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やしていくこと。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3211	音楽VI	３年	秋	演習	1	新井祐子・ 大島美知恵

授業概要

音楽VIの授業では『アンサンブル』及び『弾き歌い』を行うことで構成される。

『アンサンブル』

幼稚園等でよく使用されるメロディー楽器(鍵盤ハーモニカ、ハンドベル等)や打楽器の基礎的な奏法及び応用的な奏法を学び、実践する。幼児曲や行事曲に打楽器を取り入れたアンサンブル指導を実演する。

『ピアノ・弾き歌い』

各々のレベルに応じた曲に取り組み、将来現場で役立つレパートリーを増やすことを目的とする。

子どもが歌のイメージを膨らませられるような導入及び指導について考える。

到達目標(学習の成果)

『アンサンブル』

正しい打楽器奏法を学び、子どもたちに指導できるようになる。アンサンブルを指導できるようになる。(DP3)

『ピアノ・弾き歌い』

幅広いレパートリーを持つことができる。子どもの音楽活動を呼び起こすような、表現豊かな弾き歌いができるようになる。

多様な音楽表現について学び、保育に生かせるようになる(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション、及び、これまでの振り返り 授業形態、授業内容、到達目標を理解する。取り組む課題を選曲する	事前	夏休みの課題を仕上げておく(0.5 時間)
		事後	これから学ぶ曲の譜読みをする(0.5 時間)
2	アンサンブル① 弾き歌い① メロディー楽器の特徴と演奏方法を理解する。 個人指導を通して技能の向上を図る。	事前	選んだピアノ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	メロディー楽器について調べる(0.5 時間)
3	アンサンブル② 弾き歌い② メロディー楽器の基本的な奏法を学ぶ 個人指導を通して技能の向上を図る。	事前	選んだピアノ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	メロディー楽器について調べる(0.5 時間)
4	アンサンブル③ 弾き歌い③ メロディー楽器の応用的な奏法を学ぶ 伴奏の種類を理解する	事前	選んだピアノ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	実技レッスンで指導を受けた箇所を練習する(0.5 時間)
5	アンサンブル④弾き歌い④ メロディー楽器の応用的な奏法を実演する コードネームを復習する	事前	選んだピアノ曲の練習をする(0.5 時間)
		事後	コードネームによる伴奏付け課題に取り組む(0.5 時間)
6	アンサンブル⑤ 弾き歌い⑤ 打楽器の種類や特徴について学ぶ 楽曲の伴奏付けの演習を行う	事前	弾き歌いのレパートリーを練習をする(0.5 時間)
		事後	楽曲の伴奏付けを練習する(0.5 時間)
7	アンサンブル⑥ 弾き歌い⑥ 打楽器の演奏方法を実演する 楽曲の伴奏付けの演習を行う	事前	弾き歌いのレパートリーを練習する(0.5 時間)
		事後	楽曲の伴奏付けを練習する(0.5 時間)
8	アンサンブル⑦ 弾き歌い⑦ 打楽器の応用的な奏法を学ぶ 子どもの歌の導入について学ぶ	事前	弾き歌いのレパートリーを練習する(0.5 時間)
		事後	打楽器について調べる(0.5 時間)
9	アンサンブル⑧ 弾き歌い⑧ 打楽器の応用的な奏法を身につける 子どもの歌の導入案を考える	事前	弾き歌いのレパートリーを練習する(0.5 時間)
		事後	打楽器について調べる(0.5 時間)
10	アンサンブル⑨ 弾き歌い⑨ 幼児曲にメロディー楽器、打楽器を取り入れた合奏を行なう 子どもの歌の導入を実演し、聞き合う	事前	合奏の練習をする(0.5 時間)
		事後	歌の導入を考案、練習する(0.5 時間)

11	アンサンブル⑩　弾き歌い⑩ 行事曲にメロディー楽器、打楽器を取り入れた合奏を行なう 子どもの歌の導入を実演し、聞き合う	事前	合奏の練習をする(0.5 時間)
		事後	歌の導入を考案、練習する(0.5 時間)
12	アンサンブル⑪　弾き歌い⑪ 乳幼児に対する楽器指導のあり方を理解する 子どもの年齢に応じた歌(乳児)を選曲し、指導法を考える	事前	課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	合奏の指導法について調べる(0.5 時間)
13	アンサンブル⑫　弾き歌い⑫ 乳幼児に対する合奏指導方法を理解する 子どもの年齢に応じた歌(幼児)を選曲し、指導法を考える	事前	課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	合奏の指導法について調べる(0.5 時間)
14	アンサンブル⑬　弾き歌い⑬ 様々な楽器を用いて即興演奏に取り組む ピアノ曲、弾き歌いの課題を仕上げる	事前	課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	合奏の指導法について調べる(0.5 時間)
15	アンサンブル⑭　弾き歌い⑭ 様々な楽器を用いてアンサンブルの即興演奏に取り組む ピアノ曲、弾き歌いの課題を発表し、聞き合う	事前	課題曲を練習する(0.5 時間)
		事後	合奏の指導法についてまとめる(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
アンサンブルグループワーク・発表会

成績評価の方法・基準(%表記)
・ピアノ演奏及びアンサンブルの発表　50%
・授業への取り組み　30%
・レポート課題　20%
レポートの評価にはコモンルーブリック基準を用いる

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
弾き歌いの高度な技術と豊かな表現力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
音楽表現に関する実践力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
メロディー楽器や打楽器の技術を身に付け、指導することができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
アンサンブル(合奏)の指導ができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　レポート等は授業でフィードバックする。

教科書
・神原雅之　鈴木江津子　編著『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社　2018 年

参考書等
・小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社　1975 年
・小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社　1996 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員 2 名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やしていくこと。
子どもたちと共に音楽活動することを見据え、合奏などの様々な実践方法を身に付けること。
わからないことがあれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約(yarai@kyowa-u.ac.jp)のうえ、時間を設定する)

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J4212	音楽Ⅶ	4 年	春	演習	1	新井祐子・大島美知恵

授業概要

音楽Ⅶ授業では『アンサンブル』及び『弾き歌い・実践的授業』90 分の授業を毎週行うことで構成される。

『アンサンブル』

手作り楽器等の仕掛けを学び、様々な楽器を取り入れた即興のアンサンブルを行う技術を学ぶ。

『弾き歌い・実践的授業』

実習の課題曲等に取り組み、将来現場で役立つ弾き歌いのレパートリーを増やすことを目的とする。授業内で先生役、子ども役に分かれ実践的な授業を体験する。

到達目標(学習の成果)

『アンサンブル』

手作り楽器の仕掛けを学ぶことにより、創作することができる。即興技術を身につけ、アンサンブル能力を向上させることができる。(DP3)

『弾き歌い・実践的授業』

実習で使用する曲、幅広いレパートリーを持つことができる。実践的な授業を体験し、現場で必要なスキルを身につけることができる。(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション、及び、これまでの振り返り 授業形態、授業内容、到達目標を理解する 課題曲を選曲する	事前	これまでの実習を振り返り、どのような曲が必要か、調べる(0.5 時間)
		事後	これから学ぶ曲の譜読みをする(0.5 時間)
2	アンサンブル①手作り楽器の種類、創作方法を理解する 弾き歌い・実践的授業①個人指導を通して技能の向上を図る	事前	選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	手作り楽器について調べる(0.5 時間)
3	アンサンブル②手作り楽器の種類、創作方法を理解する 弾き歌い・実践的授業②個人指導を通して技能の向上を図る	事前	選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	手作り楽器について調べる(0.5 時間)
4	アンサンブル③手作り楽器を創作し、幼児曲に取り入れる 弾き歌い・実践的授業③実習曲の弾き歌いの技術の向上を図る	事前	選んだ曲を練習する(0.5 時間)
		事後	弾き歌いがしっかりできるよう、繰り返し練習する(0.5 時間)
5	アンサンブル④手作り楽器を創作し、幼児曲に取り入れる 弾き歌い・実践的授業④個人指導を通して技能の向上を図る	事前	選んだ曲の練習をする(0.5 時間)
		事後	弾き歌いが発表できるよう、繰り返し練習する(0.5 時間)
6	実習曲の発表①(リハーサル) 実習曲の仕上がりを確認する	事前	選んだ曲の練習をする(0.5 時間)
		事後	次回の試演会に向けて、繰り返し練習する(0.5 時間)
7	実習曲の発表②(試演会) 実習曲の発表を通して自己の技能を確認する	事前	弾き歌いの練習をする(0.5 時間)
		事後	試演会の振り返りをし、課題を見つける(0.5 時間)
8	アンサンブル⑤曲にあった創作楽器を取り入れアンサンブルを行なう 弾き歌い・実践的授業⑤実習の振り返りを行い、自己課題を明確にする	事前	実習の振り返りをする(0.5 時間)
		事後	創作楽器、打楽器について調べる 今後学ぶ曲を選び、練習に取り組む(0.5 時間)
9	アンサンブル⑥曲にあった打楽器等を取り入れアンサンブルを行なう 弾き歌い・実践的授業⑥リズムを取り入れた遊びを学ぶ	事前	弾き歌いのレパートリーを練習する(0.5 時間)
		事後	リズム遊びについて調べる(0.5 時間)
10	アンサンブル⑦様々な楽器を用いた合奏に取り組む 弾き歌い・実践的授業⑦グループを作り、簡単なリズム遊びを制作する	事前	レパートリーを練習する、合奏の練習をする(0.5 時間)
		事後	リズム遊びについて調べる(0.5 時間)
11	アンサンブル⑧様々な楽器を用いた合奏に取り組む	事前	レパートリーを練習する、合奏の練習をする(0.5 時

	弾き歌い・実践的授業⑧制作したリズム遊びを練習する		間)
		事後	各アンサンブルパートの練習、リズム打ちの練習をする(0.5 時間)
12	アンサンブル⑨即興的なアンサンブル能力を身につける 弾き歌い・実践的授業⑨リズム遊びを発表する	事前	弾き歌いを練習する(0.5 時間)
		事後	合奏の指導法について調べる(0.5 時間)
13	アンサンブル⑩総合的なアンサンブル能力を身につける 弾き歌い・実践的授業⑩リズム遊びを発表する	事前	弾き歌いを練習する(0.5 時間)
		事後	リズム遊びの指導案を作成する(0.5 時間)
14	アンサンブル　リハーサル アンサンブルの仕上がりを確認する	事前	アンサンブルの練習に励む(0.5 時間)
		事後	発表を振り返り、自己の技能を確認する(0.5 時間)
15	弾き歌い　リハーサル 弾き歌いの仕上がりを確認する	事前	弾き歌いの練習に励む(0.5 時間)
		事後	発表を振り返り、自己の技能を確認する(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
アンサンブルグループワーク・試演会・実践

成績評価の方法・基準(%表記)
・ピアノ演奏及びアンサンブル発表　50%
・授業への取り組み　30%
・レポート課題　20%
レポートの評価にはコモンルーブリック基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
総合的なアンサンブル能力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの音楽活動を考案、実践する力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
弾き歌いの高度な技術と豊かな表現力を身に付けられている(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　レポート等は授業及びクラスルームでフィードバックする。

教科書
・神原雅之　鈴木江津子　編著『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社　2018 年

参考書等
・小林美実編『こどものうた 200』チャイルド本社　1975 年
・小林美実編『続こどものうた 200』チャイルド本社　1996 年

履修上の注意・学習支援
本授業はいずれの回も担当教員 2 名で行う
保育の現場で子どもたちと関わることを想定し、積極的に個人練習に取り組むこと。自分でできる読譜などの予習、また授業内で指導された内容の復習は必ず行うこと。意欲をもってレパートリーを増やすこと。
合奏等、実践方法を身に付けること。積極的に授業に取り組むこと。
疑問があれば、オフィスアワーを利用すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1213	リトミックⅠ	1	秋	演習	1	大島　美知恵

授業概要

エミール・ジャック=ダルクローズが創案した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である「リトミック」を学ぶことによって、保育に携わる専門家として、自らの音楽的素養を高め、さらに音楽を通して子どもたちと喜びを分かち合うための知識と技術を習得する。

到達目標（学習の成果）

・リズム運動：リトミックを指導する上で必要なリズム感、音感、表現力などを身につける（DP1）。
　　リズムを表現する基礎的な動きができるようにする(ﾘﾄﾐｯｸ研究ｾﾝﾀｰ２級資格相当)（DP1）。
・指導法：３歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できるようにする（DP3.4）。
・ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法：３歳児指導における基礎的なピアノ演奏法ができるようにする（DP3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	リトミックの説明と導入及びリズム運動（1） リトミックの歴史や概要を学び、導入実技を体験する。	事前	教科書及びリトミックに関する文献やサイトを読む。(0.5時間)
		事後	授業で行ったリズムやピアノ課題を練習する。(0.5時間)
2	リズム運動（2）　音楽の強弱・テンポ・空間・アクセントに合わせた動きを経験する。	事前	リズム運動の動きや音楽要素（強弱・テンポ）を表現するピアノ課題を練習する。(0.5時間)
		事後	
3	指導法(1) 教科書『３歳児保育１学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『３歳児保育１学期』の指導法を読む。(0.5時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5時間)
4	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(1) 教科書『３歳児保育１学期』のピアノ演奏法を体験する	事前	教科書『３歳児保育１学期』のピアノ譜を弾く。(0.5時間)
		事後	授業で行ったピアノ課題を練習する。(0.5 時間)
5	リズム運動(3) ２・３・４拍子の音楽を様々な運動を通して表現し、拍子の違いを体感する。	事前	教科書の中にある曲を２・３・４拍子に分類する。(0.5時間)
		事後	事前学習した中から１曲を選び、拍子を変えた変奏を練習する。(0.5時間)
6	指導法(2) 教科書『３歳児保育２学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『３歳児保育２学期』の指導法を読む。(0.5時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5時間)
7	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(2) 教科書『３歳児保育２学期』のピアノ演奏法を体験する	事前	教科書『３歳児保育２学期』のピアノ譜を弾く。(0.5時間)
		事後	授業で行ったピアノ課題を練習する。(0.5 時間)
8	リズム運動(4) 2拍子の基礎リズムの仕組みを理解し、クラップ・ステップする技術を身につける。	事前	事前配付のプリントを見て2拍子基礎リズムのリズム唱を記憶する。(0.5時間)
		事後	授業で行った基礎リズムのクラップ・ステップを練習する。(0.5時間)
9	指導法(3) 教科書『３歳児保育３学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『３歳児保育 3 学期』の指導法を読む(0.5時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5時間)
10	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(3) 教科書『３歳児保育３学期』のピアノ演奏法を学ぶ	事前	教科書『３歳児保育３学期』のピアノ譜を弾く。(0.5時間)
		事後	授業で行ったピアノ課題を練習する。(0.5 時間)
11	リズム運動(5) 2 拍子の基礎リズムを基に、3 拍子・4 拍子の基礎リズムを様々な方法で学び、リズムの聴取・演奏・創作をする技術を得る。	事前	2 拍子の基礎リズムの前後にリズムを加え、3 拍子や４拍子のリズムを作成する。(0.5時間)
		事後	授業で行った活動を振り返り、練習する。(0.5時間))
12	リズム運動(6) リズムカノンを体験する。リズムフレーズを表現する活	事前	教科書にある曲から３曲を選び、リズムフレーズに合わせた動きを考える。(0.5時間)

	動を体験する。	事後	カノンの練習を行う。(0.5時間)
13	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(４) 教科書『３歳児保育１～３学期』のピアノ演奏法を使用し、子どもへの声掛けも兼ねた奏法を体験する。	事前	教科書の中から一つの活動を選び、子どもへの声掛けをしながらピアノを弾く練習をする。(0.5時間)
		事後	授業で行った曲のピアノ・声かけを練習する。(0.5時間)
14	指導法(４) 教科書『３歳児保育１～３学期』の指導法を活用し、グループ発表を行う。	事前	グループで活動プログラムをたてる (0.5時間)
		事後	発表の際に他グループの活動から得た方法を復習する。(0.5時間)
15	リトミック理論 リトミックの理論とダルクローズについて学び、グループディスカッションを行い発表する	事前	ダルクローズについて資料を調べる。(0.5 時間)
		事後	ディスカッションした内容、発表を聞いて得た内容をレポートにまとめる。(0.5時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容）
指導法の発表、リトミック理論の発表

成績評価の方法・基準（%表記）
成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
① リトミックを指導する上で必要なリズム感、音感、表現力などを身につける	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
② リズムを表現する基礎的な動きができるようにする。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
③ ３歳児指導法の年間カリキュラムを実践できるようにする	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
④ ３歳児指導における基礎的なピアノ演奏法ができるようにする。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
① 実技試験（指導資格認定試験リズム課題練習 CD より２種類８題のリズムステップと、教科書より指定されたピアノ曲２曲の演奏を行う（リトミック研究センター指導資格２級相当）80%
② 提出物（ピアノ課題、指導案等 ）20%

※ 課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
『幼稚園・保育園のためのリトミック/３歳児用』リトミック研究センター 1990 年
リトミック教具 ・カラーボード(990 円) リトミック研究センター
・スティック(660 円) リトミック研究センター
・指導資格認定試験リズム課題練習データ(550 円) リトミック研究センター

参考書等
なし

履修上の注意・学習支援
動きやすい服装で出席すること

メールアドレス/oshima@kyowa-u.ac.jp

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］ 特定非営利活動法人リトミック研究センター栃木第一支局、第二支局において、指導スタッフとして 指導者育成に関わっている。 音楽教室での幼児に対するリトミック指導経験。 保育園でのリトミック指導、および保育者研修の実施。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 音楽教室、保育園での幼児に対する指導経験により、カリキュラムにある活動内容に実践例を付加し、 実際の子どもの反応も伝えながら指導できる。 指導者育成の経験が、音楽実技の経験が浅い学生に対する教材の工夫、指導方法等に活かされている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J2214	ﾘﾄﾐｯｸⅡ	2	春	演習	1	大島　美知恵

授業概要

リトミックⅠに引き続き、エミール・ジャック=ダルクローズが創案した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である「リトミック」を学ぶことによって、保育に携わる専門家として、自らの音楽的素養を高め、さらに音楽を通して子どもたちと喜びを分かち合うための知識と技術を習得する。

到達目標(学習の成果)

・リズム運動：リトミックを指導する上で必要なリズム感、音感、表現力などを身につける（DP1)。
　　リズムを表現する基礎的な動きができるようにする(ﾘﾄﾐｯｸ研究ｾﾝﾀｰ１級資格相当）（DP1)。
・指導法：4.5 歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できるようにする（DP3)。
・ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法：4.5 歳児指導における基礎的なピアノ演奏法ができるようにする（DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	指導法(１) 教科書『４歳児保育１学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『４歳児保育１学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
2	指導法(２) 教科書『４歳児保育２学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『４歳児保育２学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
3	リズム運動(１) リズムカノン①３拍子：３拍子リズムカノンを体験する	事前	3 拍子基礎リズムのリズム唱・クラップ・ステップを練習する。(0.5 時間)
		事後	3 拍子のリズムカノンを練習する。(0.5 時間)
4	指導法(３) 教科書『４歳児保育３学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『４歳児保育３学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
5	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(１) 教科書『４歳児保育１～３学期』のピアノ演奏法を学ぶ	事前	教科書『4歳児保育1～3学期』のピアノ譜を弾く。(0.5 時間)
		事後	授業で行ったピアノ課題を練習する。(0.5 時間)
6	リズム運動(２) リズムカノン②４拍子：４拍子リズムカノンを体験する 複リズム①:同時に２つ以上のリズムを表現する技術を習得する(簡易なリズム)	事前	4 拍子基礎リズムのリズム唱・クラップ・ステップを練習する。(0.5 時間)
		事後	4 拍子のリズムカノン、複リズムの動きを練習する。(0.5 時間)
7	指導法(４) 教科書『５歳児保育１学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『５歳児保育１学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
8	指導法(５) 教科書『５歳児保育２学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『５歳児保育２学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
9	リズム運動(３) リズムカノン③３・４拍子：３拍子・４拍子リズムカノンを習得する 複リズム②:同時に２つ以上のリズムを表現する技術を習得する(高度なリズム)	事前	リズム運動(1)(2)の内容を復習する。(0.5 時間)
		事後	複リズム②の内容を中心に復習をする。(0.5 時間)
10	指導法(６)　【認定試験公示案内】 教科書『５歳児保育３学期』の指導法を体験、実践する	事前	教科書『５歳児保育３学期』の指導法を読む。(0.5 時間)
		事後	授業で行った指導方法を練習する。(0.5 時間)
11	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法(２) 教科書『５歳児保育１～３学期』のピアノ演奏法を学ぶ	事前	教科書『5歳児保育1～3学期』のピアノ譜を弾く。(0.5 時間)
		事後	授業で行ったピアノ課題を練習する。(0.5 時間)

12	ﾘﾄﾐｯｸのためのﾋﾟｱﾉ演奏法（３） これまでに学んだ 4～5 歳児のピアノ演奏法を使用し、子どもへの声掛けも兼ねた奏法を体験する	事前	これまでに学んだ演奏法を活用し、子どもたちへの声掛けも兼ねた演奏を練習する。(0.5 時間)
		事後	発表した内容を復習する。(0.5 時間)
13	リズム運動（４） リズム運動のまとめ：リズムカノン・複リズム	事前	これまで授業で行ったリズムカノン、複リズムを復習する。(0.5 時間)
		事後	リズムカノン、複リズムの活動方法を考える。(0.5 時間)
14	指導法（７） これまでに学習した 4～5 歳児の指導法を活用し、グループ発表を行う。	事前	グループで活動プログラムをたてる。(0.5 時間)
		事後	発表の際に他グループの活動から得た方法を復習する。(0.5 時間)
15	リトミック理論 リトミックⅠで学んだダルクローズのことや理論が、実際の指導にどのように結びついているのかをグループディスカッションして発表する	事前	リトミックⅠで学んだ理論、ダルクローズについて復習する。更に資料を見つけて調べる。(0.5 時間)
		事後	ディスカッションした内容、発表を聞いて得た内容をレポートにまとめる。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
指導法の発表、リトミック理論の発表

成績評価の方法・基準(%表記)
成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
① リトミックを指導する上で必要なリズム感、音感、表現力などを身につける	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
② リズムを表現する基礎的な動きができるようにする。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
③ 4.5歳児指導法の年間カリキュラムを実践できるようにする	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
④ 4.5歳児指導における基礎的なピアノ演奏法ができるようにする。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

評価方法
① 教具の中の指導資格認定試験リズム課題練習CDより3種類7題のリズム課題と、教科書より指定されたピアノ曲2曲の演奏を行う(リトミック研究センター指導資格1級相当) 80%
②授業内小テスト（ピアノ課題、リズム課題を聞き取り、反応する、表現することができる）20%
※ 課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
『幼稚園・保育園のためのリトミック/4歳児用』リトミック研究センター 1991年
『幼稚園・保育園のためのリトミック/5歳児用』リトミック研究センター 1991年
リトミック教具 ・カラーボード リトミック研究センター（リトミックⅠで購入済）
・スティック リトミック研究センター（リトミックⅠで購入済）
・指導資格認定試験リズム課題練習CDリトミック研究センター
（リトミックⅠで購入済）
・リズムカード(2拍子・3拍子) (550円)リトミック研究センター

参考書等
なし

履修上の注意・学習支援
動きやすい服装で出席すること
1級資格認定には認定料10,500円が必要

合格後所定の移行研修受講と手続きを行うことにより「子どものためのリトミック」初級指導資格が認定される わからないことは早めに相談すること。 メールアドレス/ oshima@kyowa-u.ac.jp

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要] 特定非営利活動法人リトミック研究センター栃木第一支局、第二支局において、指導スタッフとして 指導者育成に関わっている。 音楽教室での幼児に対するリトミック指導経験。 保育園でのリトミック指導、および保育者研修の実施。 [実務経験と授業科目との関連性] 音楽教室、保育園での幼児に対する指導経験により、カリキュラムにある活動内容に実践例を付加し、 実際の子どもの反応も伝えながら指導できている。 指導者育成の経験が、音楽実技の経験が浅い学生に対する教材の工夫、指導方法等に活かされている。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1215	教材研究（造形表現）	1年	春	講義・演習	1	田中士計男

授業概要

子どもたちは、身近な素材に興味関心を抱き、五感を通して不思議さや面白さなど様々なことに気付き、あそびに発展させていく。　関わることの楽しさやワクワク感を味わいながら、あそびを工夫し多様な感性や能力等を育んでいくことを目的とした活動が「造形あそび」である。

本授業では、保育者自身が造形活動の面白さや楽しさを実感し、「造形あそび」の指導に必要な基本的な知識や技能を身に付ける。また「教材研究」を通し、素材が持つ特性や活用方法を理解することで、子どもたちが楽しみながら多様な感性や能力を育んでいける幅広い活動を計画・実践できるようにすることを目的とする。

到達目標（学習の成果）

- 素材の持つ特性や不思議さを知り、それらを使ってあそびに発展させる面白さや楽しさを子どもたちに伝えようとする姿勢を身に付ける。（DP1）
- 「造形あそび」に必要な基本的な知識や技法を身に付ける。（DP3）
- 子どもの発達の様子や個々により発達速度が異なることを理解し、個性や個々に応じた指導の大切さ・具体的な声かけや支援を考えることができる。（DP4）
- よりよい「造形あそび」にするためには、「教材研究」の大切さを十分に理解し、子どもたちが心弾み積極的に関わりたいと思える活動を思案することができる。（DP5）

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 多様な感性や能力を育む「造形あそび」について理解する。「教材研究」の大切さを知り、本授業の在り方を理解する。発達に応じた描画を例に、子どもの心情や発達課題・声かけや支援の仕方の大切さを知る。保育者に求められる能力や姿勢を理解する	事前	○　NHK教育テレビの子ども向け番組を積極的に視聴する。 活動のねらいとともに子どもの様子や保育者の声かけ・支援の在り方を学ぶ。（2.5時間） ○　身近にある様々な素材に関心を持ち、あそび方やあそびの発展性について考えてみる。 （2.5時間）
2	色水であそぶ① バブルアート（シャボン玉絵画）やドリッピング（吹き流し）の楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。		
3	色水であそぶ② ビー玉ころころアートや糸引き模様の楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。		
4	色水であそぶ③ 染色について理解を深め、折り染めの楽しさとや法を学び、あそびの広がりを知る。		
5	色水であそぶ④ マーブリング（墨流し）やスパッタリング（霧吹き）の楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。		
6	色水であそぶ⑤ 既習で作成した折り染めやマーブリング等を活かした団扇制作を通して、生活に活かせる喜びや楽しさを体感する。		
7	版であそぶ① 自然物や人工物の構造的な面白さを知り、スタンピング（型押し）の楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。		
8	版であそぶ② フロッタージュやステンシルの楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。	事後	○　授業で得た知識を生かし、身近な子どもと遊び、多様な実践の在り方を追究する。（5時間）
9	版であそぶ③ 既習で作成したものや雑誌・布等の切り抜きを利用し、コラージュ（はり絵）の楽しさや技法を学び、あそびの広がりを知る。		
10	粘土であそぶ① 粘土が持つ面白さや各種粘土の特性を知り、小麦粉粘土を作成する。		

11	粘土であそぶ② 石紛粘土（紙粘土）の特性を理解し、制作を通して造形の広がりを知る。		○　振り返りシートをもとに、学び得たことを再度実践し、さらなる可能性を探り、理解を深める。 (5時間)
12	粘土であそぶ③ 制作や着色等を通し、立体的に創造する楽しさや面白さを体感する。		
13	飛ばしてあそぶ① 様々な飛行物の形態を知り、簡単に制作することがでる飛行機を作成し、あそびの広がりを知る。　・紙輪っか飛行機、他		
14	飛ばしてあそぶ② よく飛ぶ飛行機の形態や制作方法を学び、あそびの広がりを模索する。 ・紙とストローでつくる飛行機、他		
15	飛ばしてあそぶ③ ブーメランの形態や制作方法を学び、あそびの広がりを模索する。 ・厚紙でつくるブーメラン、他		

授業形式(アクティブラーニングの内容)

体験学習、 発見学習 、ピアラーニング

成績評価の方法・基準(%表記)

授業への取り組み 25% 、実技(知識・技術の習得) 25% 、毎時の振り返りシート(次時返却) 50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
素材の持つ特性や不思議さを知り、それらを使ってあそびに発展させる面白さや楽しさを子どもたちに伝えようとする姿勢を身に付ける。 (DP1)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
「造形あそび」に必要な基本的な知識や技法を身に付ける。 (DP3)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
子どもの発達の様子や個々により発達速度が異なることを理解し、個性や個々に応じた指導の大切さ・具体的な声かけや支援を考えることができる。(DP4)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
よりよい「造形あそび」にするためには、「教材研究」の大切さを十分に理解し、子どもたちが心弾み積極的に関わりたいと思える活動を思案することができる。 (DP5)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している

教科書

特になし。授業毎に、テーマに応じた資料及び教材を準備し配布する。

参考書

森田浩章 「0・1・2歳児のあそびと造形」，学研プラス、2019

森田浩章 「3・4・5歳児のあそびと造形」，学研プラス、2019

履修上の注意・学習支援

○　大人目線の作品づくりとは異なることを十分に理解し受講する。

○　定規・コンパスは常時持参する。

○　前時で持参すべきものが提示された場合は、忘れず用意する。

○　ある程度汚れてもよい服装，またはエプロン等を準備し、様々な活動に対応できるようにする。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
［実務経験の概要］ ［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1216	図画工作	1年	秋	演習	1	田中士計男

授業概要

子どもたちが日々楽しく元気に生活していくためには、「ワクワク感」のある活動や「居がい感」のある環境づくりがとても大切である。また、様々な活動やあそびに飽きることなく集中し継続していくためには、自ら関わる楽しさや面白さを体感し、より楽しいあそびへと発展していくことが重要である。自らあそびを考え工夫することで、「生きる力」に必要な問題解決能力やコミュニケーション能力等が芽生え培われていく。

本授業では、感性や思考を刺激する素材やシンプルながら発展性のあるオモチャを追究する。楽しく遊びを工夫し発展させようとする思考や姿勢を育むために必要な具体的活動や支援・配慮を学び身に付けていくことを目的とする。

到達目標（学習の成果）

- 子ども目線の興味関心・ものの見え方や心情を積極的に理解しようとする姿勢を身に付ける。（DP1）
- 自らつくったもので遊ぶ楽しさを体感し、思考し工夫して遊びを発展させる面白さを理解し、その大切さを子どもたちに伝えようとする姿勢を身に付ける。（DP1）
- 様々なオモチャの特性や面白さを理解し、素材を活かし容易に制作できるオモチャづくりに必要な基本的な知識や技法を身に付ける。（DP3）
- 「造形あそび」を他の領域と関連させ相互に関わっていくことで、さらに活動の幅が広がり、子ども達の様々な能力の開花発展につながることを理解する。（DP4）
- 5) よりよい活動にするための保育案を作成することができる。（DP5）

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 「造形あそび」が果たす役割を再確認する。あそびを工夫し、より楽しくあそぶことで様々な感性や能力が育まれていくことを知り、保育者として必要な支援や活動の在り方を学ぶことが本授業の趣旨であることを理解する。 半紙でつくる回転翼グライダーや折り紙でつくる紙コプターを例に、期待感を持って楽しくあそべるオモチャづくりを学ぶ。	事前	○ NHK教育テレビの子ども向け番組を積極的に視聴する。 活動のねらいとともに子どもの様子や保育者の声かけ・支援の在り方を学ぶ。（2.5時間） ○ 身近にある素材や様々なオモチャに触れ、あそび方やあそびの発展性について考えてみる。 （2.5時間）
2	回してあそぶ1 様々な独楽の形態があることを知り、簡単に制作することができる独楽を作成し、あそびの広がりを知る。 「牛乳パック・CDとビー玉でつくる独楽」		
3	回してあそぶ2 吹き独楽の形態や制作方法を知り、あそびの広がりを模索する。 「画用紙・クリアファイルでつくる吹き独楽」		
4	回してあそぶ3 風車の形態や制作方法を知り、あそびの広がりを模索する。 「折り紙(4枚、8枚羽根)・クリアファイルでつくる風車」		
5	跳ねてあそぶ1 紙を折ることで得られるクッションやバネを活かしたオモチャづくりを通し、あそびの広がりを模索する。　「折り紙・TPの芯でつくるピョンピョン蛙」		
6	動くオモチャ1 自らの動力を必要としない動くオモチャの形態や制作方法を学び、あそびの広がりを模索する。　「坂道二足歩行ロボット」		
7	動くオモチャ2 ゴムを動力としたオモチャの形態や制作方法を学び、あそびの広がりを模索する。　「糸巻き・TPの芯でつくるころころロール戦車」	事後	○ 授業で作成したものを使って身近な子どもとあそび、多様なあそびの在り方を追究する。 （5時間）
8	バランスを楽しむ1 微妙なバランスを楽しむ様々な形態があることを知り、簡単に制作することができる「やじろべえ」を作成し、あそびの広がりを知る。 「木の実・針金とビー玉でつくるやじろべえ」		
9	バランスを楽しむ2 バランスバードの形態や制作方法を学び、あそびの広がりを模索する。		

	「厚紙でつくるバランスバード」他		○　振り返りシートをもとに、学び得たことを再度実践し、さらなる可能性を探り、理解を深める。 (5時間)
10	組み立ててあそぶ1 紙コップや輪切りにした牛乳パックを使って、並べたり重ねたりして立体的に組み立てることであそびの広がりを知る。		
11	組み立ててあそぶ2 色割りばしを制作し、並べたり重ねたりして立体的に組み立てることであそびの広がりを知る。		
12	組み立ててあそぶ3 棒状に丸めた新聞紙を制作し、接合したり重ねたりして立体的に組み立てることであそびの広がりを知る。		
13	保育案作成1 保育案の大切さを理解し、作成について学ぶ。		
14	保育案作成2 既習の造形技法の中から一つを選択し、保育案を作成する。		
15	保育案作成3 にグループ毎の発表をもとに、実践に向けた協議を実施する。		

授業形式(アクティブラーニングの内容)

体験学習、 発見学習、ピアラーニング、プレゼンテーション

成績評価の方法(%表記)

授業への取り組み 25% 、実技(知識・技術の習得) 25%、毎時の振り返りシート(次時返却) 50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子ども目線の興味関心・ものの見え方や心情を積極的に理解しようとする姿勢を身に付ける。 (DP1)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
自らつくったもので遊ぶ楽しさを体感し、思考し工夫して遊びを発展させる面白さを理解し、その大切さを子どもたちに伝えようとする姿勢を身に付ける。 (DP1)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
様々なオモチャの特性や面白さを理解し、素材を活かし容易に制作できるオモチャづくりに必要な基本的な知識や技法を身に付ける。 (DP3)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している
よりよい活動にするための保育案を作成することができる。 (DP5)	十分に達成している	ほぼ達成している	一定程度達成している	努力している

教科書

特になし。授業毎に、テーマに応じた資料及び教材を準備し配布する。

参考書

奥 美佐子 「0・1・2歳児の造形あそび」, ひかりのくに、2016

奥 美佐子 「3・4・5歳児の造形あそび」, ひかりのくに、2016

履修上の注意・学習支援

○ 大人目線の作品づくりとは異なることを十分に理解し受講する。

○ 定規・コンパスは常時持参する。

○ 前時で持参すべきものが提示された場合は、忘れず用意する。

○　ある程度汚れてもよい服装，またはエプロン等を準備し、様々な活動に対応できるようにする。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］ ［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3217	幼児体育	3 年	春	演習	1	河田隆・霜触智紀

授業概要

幼児体育では、幼児の基礎的身体活動を正確に身につけるため体育の領域における体操を重視し、幼児の発育発達に合わせた徒手的・手具的・器具的運動遊びに模倣を取り入れた身体活動を体験し、学習する。徒手的運動遊びは、集団行動・体操・組体操で正確な姿勢、動きづくりを重視し学習する。手具的運動遊びでは、ボール・縄・棒・フープを使って、各々の手具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びを学習する。器具的運動遊びは、マット・跳び箱・鉄棒を使って、各々の器具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びや安全の確保と動きの援助のための補助法を学習する。

到達目標(学習の成果)

・幼児期における運動遊びに模倣を取り入れた身体表現を体験することにより、各々の運動遊びの特質を理解し、安全に体育の教育目的を達成するための効果的な展開法を深く理解する(DP3)。

・指導法・補助法の技術を習得し、指導ができるようになる(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「遊びの効果」 幼児期における身体活動の遊びが幼児の健康と深く関係していることを学ぶ。	事前	乳幼児期における身体活動遊びと心身の健康との関連について教科書をもとに学習しておく。(0.5 時間)
		事後	乳幼児期における身体活動遊びが心身の健康にもたらす効果について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
2	「体操、ラジオ体操」 正確な姿勢により身体部位の基礎的運動として、振動・回線・屈伸の正確な動きを学ぶ。 「組体操(組運動・組み立て)」 組運動は、2人以上で運動を展開することを学ぶ。組み立ては、2 人以上でポーズをとることを学ぶ。	事前	振動・回旋・屈伸の正確な動きについて、教科書等を参考にポイントを理解しておく。組体操について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
3	「マット遊び(1)」 歩く、走る、跳ぶ、這う、転がる等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法を学ぶ。 横転、前転、後転の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	マット遊び(歩く、走る、跳ぶ、這う、転がる、横転、前転、後転)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
4	「マット遊び(2)」 マットの変形であるロールマットの多くの運動の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	マットの変形であるロールマットを用いた運動について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
5	「跳び箱(1)」 低い跳び箱で、助走、踏切、空間動作、着地の展開法、指導法を学ぶ。 高い跳び箱で、身体支持運動の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	跳び箱(助走、踏切、空間動作、着地、身体支持運動)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
6	「跳び箱(2)」 跳び箱は腰の高さで、腕立て横跳び越し降り、腕立て開脚跳び越し降り、台上前転、の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	跳び箱(腕立て横跳び越し降り、腕立て開脚跳び越し降り、台上前転)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
7	「鉄棒(1)」 ぶら下がる、上がる、降りる、支持、まわる、等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	鉄棒(ぶら下がる、上がる、降りる、支持、まわる)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り

			返り、理解を深める。(0.5 時間)
8	「鉄棒(2)」 前まわり降り、逆上がり、腕立て横跳び越し降り、足かけ(前後)まわり、前まわり連続、後ろまわり連続の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	鉄棒(前まわり降り、逆上がり、腕立て横跳び越し降り、足かけ(前後)まわり、前まわり連続、後ろまわり連続)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事前	乳幼児期における身体活動遊びと心身の健康との関連について教科書をもとに学習しておく。(0.5 時間)
9	「平均台遊び(1)」 平均台の上で歩く、走る、跳ぶ、這う、押す、引く等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法、補助法の基礎・基本を学ぶ。	事前	平均台遊びの基本動作について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法の応用について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
10	「平均台遊び(2)」 平均台の組み合わせやマットをかぶせることにより転がる動作の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	平均台遊びの組み合わせ運動について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
11	「ボール遊び(1)」 ひとりで持って扱う、転がす、投げる、受ける、つく、打つ、蹴る等の基本動作の展開法、指導法を学ぶ。	事前	ボール遊び(主にひとりでの活動)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
12	「ボール遊び(2)」 他者と転がす、投げる、受ける、つく、打つ、蹴る等の基本動作の展開法、指導法を学ぶ。	事前	ボール遊び(主に他者との活動)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
13	「縄遊び(1)」 短縄をひとりで結ぶ、文字書き、絵描き、まわす、跳ぶ、渡る等の展開法、指導法を学ぶ。 短縄を他者と結ぶ、引く、まわす、跳ぶ等の展開法、指導法を学ぶ。	事前	縄遊び(ひとり、他者との活動)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
14	「縄遊び(2)」 長縄で縄跳びを集団で行う展開法、指導法(波跳び、まわし跳び)を学ぶ。	事前	縄遊び(主に長縄を用いた集団活動)について、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
15	「棒遊び、フープ遊び」 ひとり、2人、集団で行う棒遊び・フープ遊びに関する運動の展開法、指導法を学ぶ。	事前	棒遊び、フープ遊びについて、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容) 課題解決型学習
成績評価の方法・基準(%表記) 授業課題に対する積極的なスキルアップのための取り組み度及び課題克服度(60%) ・幼児の発育発達に合わせた徒手的・手具的・器具的運動遊びに模倣を取り入れた身体表現を理解している。 ・徒手的運動遊びでは、集団行動・体操・組体操で正確な姿勢、動きづくりを重視していることが学習できている。 ・手具的運動遊びでは、ボール・縄・棒・フープを使って、各々の手具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びや安全の確保と動きの援助のための補助法を学習できている。 ・器具的運動遊びでは、マット・跳び箱・鉄棒を使って、各々の器具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びや安全の確保と動きの援助のための補助法を学習できている。 レポート(40%) ・各々の運動遊びの特質を理解し、安全で体育の教育目的を達成するための効果的な展開法について具体的に述べていること。 ・習得した指導法・補助法について、具体的に述べていること。 ・レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
各々の運動遊びの特質を理解し、安全に体育の教育目的を達成するための効果的な展開法について説明できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
指導法・補助法を習得し、指導ができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書

河田隆編、「幼児体育教本」、同文書院、2007 年

参考書等

内閣府・文部科学省・厚生省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針〈原本〉」株式会社チャイルド本社、2015 年

履修上の注意・学習支援

運動着、運動靴、指定された服装を着用すること

疑問があれば必ず授業担当に相談すること

メールアドレス:kawata@kyowa-u.ac.jp　shimofure@kyowa-u.ac.jp

本授業はいずれの回も担当教員 2 名にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3218	教材研究(健康と運動)	3 年	秋	演習	1	河田隆・霜触智紀

授業概要

教材研究(運動と健康)では、幼児の基礎的身体活動を正確に身につけるため体育の領域における体操を重視し、幼児の発育発達に合わせた徒手的・手具的・器具的運動遊びの指導法について学びを深め、効果的な教材の在り方を研究する。主に、徒手的運動遊びを踏まえた手具的・器具的運動遊びの指導方法について検討する。手具的運動遊びでは、ボール・縄・棒・フープを使って、各々の手具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びの指導方法を検討する。器具的運動遊びは、マット・跳び箱・鉄棒を使って、各々の器具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びの指導方法を検討する。最後に、指導計画について学習し、単元を一つ選択して指導計画を立案する。

到達目標(学習の成果)

・幼児期における運動遊びの指導方法について学びを深め、各々の運動遊びの特質を理解し、安全に体育の教育目的を達成するための効果的な展開法を深く理解し、実践できる(DP3)。

・指導法、補助法を習得し指導ができるようになる。最終的に運動遊びの指導計画を立案できる能力を身につける(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「幼児の発育発達」 身体活動遊びが乳幼児の心身の発育発達と深く関係していることを学ぶ。	事前	幼児期における身体活動遊びと心身の発育発達との関連について教科書をもとに学習しておく。(0.5 時間)
		事後	幼児期における身体活動遊びがもたらす効果について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
2	「マット遊び(1)」 歩く、走る、跳ぶ、這う、転がる等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法を学ぶ。 横転、前転、後転の展開法、指導法、補助法を学ぶ。 ロールマットの多くの運動の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	マット遊びについて、教科書等を参考に子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
3	「マット遊び(2)」 マット運動の展開法、指導法、補助法を検討し、運動遊びの創作活動を行い、発表する。	事前	前時の学習を振り返り、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
4	「跳び箱(1)」 低い跳び箱で、助走、踏切、空間動作、着地の展開法、指導法を学ぶ。 高い跳び箱で、身体支持運動の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	跳び箱について、教科書等を参考に子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
5	「跳び箱(2)」 跳び箱の展開法、指導法、補助法を検討し、運動遊びの創作活動を行い、発表する。	事前	前時の学習を振り返り、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
6	「鉄棒(1)」 ぶら下がる、上がる、降りる、支持、まわる、等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法、補助法を学ぶ。 前まわり降り、逆上がり、腕立て横跳び越し降り、足かけ(前後)まわり、前まわり連続、後ろまわり連続の展開法、指導法、補助法を学ぶ。	事前	鉄棒について、教科書等を参考に子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
7	「鉄棒(2)」 鉄棒の展開法、指導法、補助法を検討し、運動遊びの創作活動を行い、発表する。	事前	前時の学習を振り返り、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、技術、展開法、指導法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
8	「平均台遊び(1)」	事前	平均台遊びについて、教科書等を参考に子どもへ

	平均台の上で歩く、走る、跳ぶ、這う、押す、引く等の基本動作の模倣を取り入れながら展開法、指導法、補助法の基礎・基本を学ぶ。 平均台の組み合わせやマットをかぶせることにより転がる動作の展開法、指導法、補助法を学ぶ。		の指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法の応用について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
9	「平均台遊び(2)」 平均台の展開法、指導法、補助法を検討し、運動遊びの創作活動を行い、発表する。	事前	前時の学習を振り返り、教科書等を参考にポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
10	「手具的運動遊び(1)」 ボール:ひとりで、または他者と持って扱う、転がす、投げる、受ける、つく、打つ、蹴る等の基本動作の展開法、指導法を学ぶ。 縄:短縄をひとりで結ぶ、文字書き、絵描き、まわす、跳ぶ、渡る等の展開法、指導法を学ぶ。短縄を他者と結ぶ、引く、まわす、跳ぶ等の展開法、指導法を学ぶ。長縄で縄跳びを集団で行う展開法、指導法(波跳び、まわし跳び)を学ぶ。	事前	手具的運動遊び(ボール・縄)について、教科書等を参考に子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
11	「手具的運動遊び(2)」 棒:ひとり、2 人、集団で行う棒遊びの展開法、指導法を学ぶ。 フープ:ひとり、2 人、集団で行うフープ遊びに関する運動の展開法、指導法を学ぶ。	事前	手具的運動遊び(棒・フープ)について、教科書等を参考に子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
12	「手具的運動遊び(3)」 手具的遊びの展開法、指導法、補助法を検討し、運動遊びの創作活動を行い、発表する。	事前	学習した手具的運動遊びについて、子どもへの指導のポイントを理解しておく。(0.5 時間)
		事後	実践を踏まえ、展開法、指導法、補助法について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)
13	「指導計画(1)」 幼児期における運動遊びの指導計画の作成にあたり、健康の領域が目指している内容を確認する。	事前	健康の領域について、既存の学習内容を振り返っておく。(0.5 時間)
		事後	健康の領域についてまとめ、理解を深める。(0.5 時間)
14	「指導計画(2)」 幼児期における運動遊びの指導計画の作成方法について学ぶ。	事前	学習した運動遊びに関連する具体的な指導案を調べて、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	どのような運動遊びに着目して指導計画を作成するか、授業の内容を振り返り、決めておく。(0.5 時間)
15	「指導計画(3)」 幼児期における運動遊びの指導計画作成を行う(幼児体育内容の 1 単元の指導案作成)。	事前	選択した運動遊びに関連する具体的な指導案を調べて、理解を深めておく。(0.5 時間)
		事後	授業を踏まえ、指導案作成について振り返り、理解を深める。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容) グループワーク、グループディスカッション、実習
成績評価の方法・基準(%表記) ① 授業課題に対する積極的なスキルアップのための取り組み度及び課題克服度(60%) ・器具的運動遊びでは、器具の特質を理解しながら多くの運動遊びや安全の確保と動きの援助のための補助法が習得できている。 ・手具的運動遊びでは、ボール・縄・棒・フープ等を使って、各々の手具の特質を理解しながら多くの身体表現(模倣)を伴う運動遊びが習得できている。 ② レポート(40%) ・指導計画について学習し、単元を一つ選択して指導計画を立案できていること。 ・レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
各々の運動遊びの特質を理解し、安全に体育の教育目的を達成するための効果的な展開法を深く理解し、実践できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
指導法、補助法を習得し指導ができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
運動遊びの指導計画を立案できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

教科書

河田隆編、「幼児体育教本」、同文書院、2007、2,420 円(税込み)

参考書等

内閣府・文部科学省・厚生省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針〈原本〉」株式会社チャイルド本社、2015、550 円(税込み)

履修上の注意・学習支援

運動着、運動靴、指定された服装を着用すること

疑問があれば必ず授業担当に相談すること

メールアドレス:kawata@kyowa-u.ac.jp　shimofure@kyowa-u.ac.jp

本授業はいずれの回も担当教員 2 名にて行う

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3219	子どもと生活演習	2年	秋	演習	1	桂木　奈巳

授業概要
自然や身近な材料を取り上げ、その特性を理解するための体験活動を行う。さらに生活技術を子どもの支援に生かす方法を考える。

到達目標(学習の成果)
- 自分と身近な人々や社会、自然環境とのかかわりに目を向け、自分自身や自分の生活へ関心を持つ(DP1)。
- 身近な材料等を保育における実践に活用できる(DP1)。
- 自分自身の生活を振り返り、保育者としての資質向上を目指す(DP1)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	「生活材」の種類 昔から使用されていて、自然物から成り立っている生活材をとりあげ、その使用法や製法について調べる。	事前 事後	授業時に配布した資料を読む。(1 時間)
2	自然とのふれあい・遊び① 五感で自然を感じる。視覚を中心に、自然の中の色・形に注目して観察を行う。	事前 事後	観察して学んだ事を応用し、新たな観察対象を見つけて観察した内容をまとめる。(1 時間)
3	自然とのふれあい・遊び② 五感で自然を感じる。視覚を封じ、それ以外の感覚を中心に、匂い、触覚、味等に注目して観察を行う。	事前 事後	観察して学んだ事を応用し、新たな観察対象を見つけて観察した内容をまとめる。(1 時間)
4	秋の壁面構成 ステンドグラス用塗料を使い、秋をイメージしたモチーフを作る。ワイヤーと樹脂の扱い方を学ぶ	事前 事後	作品を完成させる(次週までに樹脂の塗装を行う)。(1 時間)
5	自然物を使った制作活動① 昔の技法を使って、自然物で生活材を作成する(紙等)。材料を採取する。	事前 事後	作品を完成させる。(1 時間)
6	自然物を使った制作活動② 葉を使って造形をする。葉の加工法を学ぶ	事前 事後	前日などに葉を採取する。(0.5 時間) 展示できるように作品の加工を行う。(0.5 時間)
7	自然物を使った制作活動③ 木の実等を使い、リースを作成する。木の実の種類や採取・保管方法を学ぶ	事前 事後	自宅付近で木の実などを採取する。(0.5 時間) 展示できるように作品の加工を行う。(0.5 時間)
8	草木染め① 自然物を使って染色をする(絞り染め)。染材を探す。染色のしくみについて学ぶ。	事前 事後	配布資料(草木染めの方法)を読んでおく。(0.5 時間) 仕上げをする(乾燥とアイロンかけ)。(0.5 時間)
9	草木染め② 自然物を使って染色をする(折り染)。染材を探す。着色のしくみについて学ぶ	事前 事後	配布資料を読んでおく(媒染について)。(0.5 時間) 課題シートをまとめる。(0.5 時間)
10	冬の壁面構成① 箱の包装とリボンかけの方法を学ぶ。簡単なオーナメントを作る。	事前 事後	指定した資料(ラッピングの方法)を視聴しておく。(0.5 時間) 作品を完成させる。(0.5 時間)
11	冬の壁面構成② 子どもの作品を飾り付ける際を想定し、自分たちで制作した装飾物を見栄えするように配置し飾りつける方法を学ぶ	事前 事後	作品を完成させる。(0.5 時間) 課題シートをまとめる。(0.5 時間)
12	火をおこす 数種の火おこし用具を使って火をおこす。火がおきるしくみを知り、火との正しい付き合い方を学ぶ	事前 事後	指定した資料(火おこしの方法)を視聴しておく。(0.5 時間) 課題シートをまとめる。(0.5 時間)
13	焚き火をする①	事前	配布資料を読んでおく(火育について)。(0.5 時間)

	野外で火をおこし、焼き芋などを焼く。燃えやすい材料等を知り、その要因について考える。子どもと焚き火等をする際に配慮点を学ぶ	事後	課題シートをまとめる。(0.5 時間)
14	材料の性質① 工作等で使用する様々な「紙」と、多様な材質の折り紙の性質を調べる	事前 事後	調べた紙の用途を調べる。(1時間)
15	材料の性質② 粘土数種の乾燥前・乾燥後の性質を調べる。廃材として用いるプラスチック素材の性質を調べ、比較してシートにまとめる	事前 事後	調べた粘土とプラスチックに合う制作を考える。(1時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
制作活動、実演、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
試験または課題レポート　50%　課題に対応した内容が論理的に述べられているかを評価する。
コメントシート　40%　シートの８割以上記入することを義務づける。各授業のねらいと演習等により得られた考察内容を評価する。
他者との協力・積極性　10%　演習時の積極的な参加や発言を加点する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
自分と身近な人々や社会、自然環境とのかかわりに目を向け、自分自身や自分の生活へ関心を持つ	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
身近な材料等を保育における実践に活用する方法がわかる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。
レポート、プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いる。

教科書
特になし。
参考書等
文部科学省「あたらしいせいかつ　上・下」、東京書籍、2012
J.B.コーネル　著「ネイチャーゲーム」、柏書房、2000

履修上の注意・学習支援
屋外での授業時には季節を問わず、帽子、長袖、長ズボンを着用のこと
疑問点は質問すること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J1220	教材研究(言語表現)	1年	春	演習	1	田所 順子

授業概要

「教材研究　言語表現」は、 乳幼児の言葉の発達を踏まえて保育者として必要な言語表現の基礎となる知識や技術の専門性を習得するため教材研究の実践を通して具体的に学ぶ。また、児童文化財等(絵本・紙芝居・ストーリーテリング・伝承遊び他)のさまざまな活用や遊びの展開における援助方法について能力を身につけ理解を深める。

到達目標(学習の成果)

・乳幼児に対して行う絵本・紙芝居・ストーリーテリング等の演じ方を身につける。(DP3)
・子どもの意欲を大切にしながら児童文化財等の活用や遊びの展開の援助方法を理解する。(DP3)
・自らさまざまな児童文化財に興味を持ち取り組み自信を持って実践できる。(DP4)
・子どもの成長・発達にかかわる専門性を身につける。(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	児童文化財の基礎知識 乳幼児にとって身近な絵本・紙芝居・お話等の児童文化財の特徴や役割・必要性について学ぶ。	事前	シラバスを読んで学修の見通しを持つ。(0.5 時間)
		事後	授業を振り返り、児童文化財の概要を整理する。(0.5 時間)
2	絵本の読み聞かせ(1) 絵本の選び方・読み聞かせのポイントについて理解し声のトーンや持ち方等に留意し読み聞かせができるようにする。	事前	自身の絵本の体験を振り返る。読み聞かせのための絵本を準備する。(0.5 時間)
		事後	絵本の選び方を踏まえて、読み聞かせの絵本を準備する。(0.5 時間)
3	絵本の読み聞かせ(2) 乳幼児の発達に合わせて自ら絵本を選び、絵本の特徴を生かした読み聞かせができるようにする。	事前	読み聞かせの練習をする。(0.5 時間)
		事後	読み聞かせのポイントを留意し練習する。紹介する絵本を選び準備する。(0.5 時間)
4	絵本の読み聞かせ(3) 絵本を使っての保育(導入・展開・まとめ)を計画してグループに分かれて発表する。	事前	読み聞かせの練習をする。(0.5 時間)
		事後	発表の中で興味を持った絵本を調べたり、読み聞かせの練習をしたりする。(0.5 時間)
5	紙芝居(1) 紙芝居のしくみ・選び方・演じ方について理解し特徴を生かして演じる。	事前	紙芝居について下調べをし、紙芝居を準備する。(0.5 時間)
		事後	紙芝居の演じ方を復習し練習する。(0.5 時間)
6	紙芝居(2) 乳幼児の表情や反応に合わせて言葉のやりとりを楽しみ紙芝居を演じることができるようにする。	事前	教科書の該当箇所を読む。紙芝居を準備する。(0.5 時間)
		事後	紙芝居の演じ方を復習し練習する。(0.5 時間)
7	ストーリーテリング ストーリーテリングについて理解しお話の世界の楽しさを味わい短いお話を覚えて語る。	事前	「お話」についてして下調べをする。(0.5 時間)
		事後	学習したことを踏まえ、語る練習をする。(0.5 時間)
8	昔話 古くから伝えられてきた昔話について知り、子どもたちに伝えていく役目もあることを理解しお話を覚えて語る。	事前	「昔話」について下調べをする。(0.5 時間)
		事後	地元に伝わる昔話を調べる。興味のある昔話を覚える。(0.5 時間)
9	伝承遊び・ことば遊び 鬼ごっこやだるまさんがころんだなどの昔からの遊びについて知り保育への展開を学ぶ。	事前	自身の伝承遊びやことば遊びを振り返る。(0.5 時間)
		事後	友人や家族と伝承遊びやことば遊びを楽しむ。(0.5 時間)
10	お話からごっこ遊びへ 保育の中で絵本やお話を友だちと共有することでイメージが広がりごっこ遊びへと展開するかかわり方を理解する。	事前	教科書の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学習したことを踏まえ、絵本やお話からのごっこ遊びへの展開例を考える。(0.5 時間)
11	劇ごっこの実際 絵本やお話に親しむ中で幼児は登場人物になりきりその世界を楽しむことを実際に体験して理解を深める。	事前	教科書の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学習したことを踏まえ、グループで劇ごっこの準備をする。(0.5 時間)

12	ごっこ遊びから劇あそび ごっこ遊びからクラス全体での劇遊びに展開するかかわり方を理解し表現する楽しさを学ぶ。	事前	教科書の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学習したことを踏まえ、グループごとに劇遊びの準備をする。(0.5 時間)
13	劇遊びの実際 グループに分かれ劇遊び発表を課題とし準備をする。幼児へのいろいろな援助方法を考え、環境づくりや必要なものを作ったり、それを使って演じたりしてまとめていく。	事前	教科書の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	グループ発表に向けて劇遊びに必要なものを作り準備をする。(0.5 時間)
14	課題発表・考察 課題を発表し合い振り返り、さらに改善点について検討し劇遊びでの援助方法の理解を深める。	事前	グループ発表に向けて準備をする。(0.5 時間)
		事後	今まで学習してことを整理し改善点や課題を考察する。(0.5 時間)
15	課題発表・考察・まとめ 課題を発表し合い、まとめとして乳幼児期の言語表現の重要性についてレポートを記述する。	事前	まとめのレポートに向けて復習する。(0.5 時間)
		事後	レポートの内容を振り返りこれからの課題をまとめる。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、プレゼンテーションなど

成績評価の方法・基準(%表記)
実技・授業への取り組み(絵本・紙芝居・お話・ごつこ遊びの実践技術の評価)70%
課題・レポート(学習内容を理解し、自らの考えを表明できる) 30%で評価する

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
絵本・紙芝居・ストーリーテリング等の演じ方を身につける（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
児童文化財の活用や遊び方について理解している（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
児童文化財に興味を持ち積極的に取り組み実践できる（DP4）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの成長・発達にかかわる専門性を身につける（DP3）	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
田上貞一郎・高荒正子著『新訂 保育内容指導法「言葉」』萌文書林、2016
参考書等
秋田喜代美・増田時枝著『絵本で子育て 子どもの育ちを見つめる心理学』岩崎書店、2009

履修上の注意・学習支援
＊ 幼児に読み聞かせをしたいと考える絵本を 3 冊以上準備しておくこと
＊ 課題は必ず期限内に提出すること
＊ 疑問点・質問があるときは授業担当者に早めに相談すること

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要]
幼稚園教諭として 12 年間、保育所保育士として 12 年間、児童館児童厚生員として 6 年間勤務し保育全般の実務に携わってきた。

[実務経験と授業科目との関連性]
保育の実務を活かし児童文化財の具体的なかかわり方について伝えることができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	は何か	単位	担当教員名
19J3221	子どもとおもちゃ	3～4 年	秋	演習	1	市川　舞

授業概要

おもちゃとは何か。また、おもちゃと関わることによって生じる遊びの経験内容について考えながら、おもちゃの機能・役割、遊びの特性について捉える。伝統的玩具や流行玩具など幅広く扱いながら、時代を超えたおもちゃの普遍性や可変性について考察する。さらに、おもちゃの製作・実践・評価を行う。これらを通して、子どもの興味・関心や発達を考慮したおもちゃ選びやおもちゃづくりを構想する力を養う。

到達目標（学習の成果）

・さまざまなおもちゃに関心をもち、遊びにおけるおもちゃの意義について考察する（DP1)。
・それぞれのおもちゃの特性やよさを理解し、説明できる（DP3)。
・子どもの興味・関心や発達を考慮したおもちゃ選びやおもちゃづくりを構想する（DP3)。

授　業　計　画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	子どもとおもちゃ：おもちゃとは何か。子どもにとってのおもちゃ、おもちゃとの出会い、子どもとおもちゃの関係について考える	事前	おもちゃとの関わり経験について振り返り、書き出す（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（0.5 時間）
2	さまざまなおもちゃ(1)：伝統的玩具から流行玩具の変遷について学ぶ	事前	伝統的玩具、流行玩具について調べる（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（0.5 時間）
3	さまざまなおもちゃ(2)：郷土玩具とは何か。郷土玩具が生まれた地域の背景、込められたねがい等について考える	事前	郷土玩具について調べる（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（0.5 時間）
4	おもちゃ体験(1)：おもちゃ体験を通して＜大人－子ども＞相互の視点から面白さについて考える	事前	保育施設で親しまれているおもちゃを調べる（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（0.5 時間）
5	おもちゃ体験(2)：同じ用途で素材の異なるおもちゃについて考える	事前	同じ用途かつ素材違いのおもちゃについて調べる（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（0.5 時間）
6	おもちゃ体験（3)：おもちゃの多様な遊び方、発展の仕方について考える	事前	多様な遊び方のバリエーションを考える（0.5 時間）
		事後	ワークシートに整理する（1 時間）
7	おもちゃ体験(4)：おもちゃ体験から、遊びにおける子どもの経験内容について考察する	事前	
		事後	ワークシートを整理する（0.5 時間）
8	さまざまな子どもへの配慮：おもちゃによる事故事例や安全基準、ユニバーサルデザインについて考える	事前	おもちゃにおけるユニバーサルデザインについて調べる（0.5 時間）
		事後	ワークシートを整理する（0.5 時間）
9	おもちゃをつくる(1)：子どもの発達を考慮したおもちゃづくりについて考える	事前	おもちゃづくりのプランを挙げる（0.5 時間）
		事前	ワークシートに整理する（1 時間） 材料を用意する
10	おもちゃをつくる(2)：「大人が作って子どもとあそぶおもちゃ」や「子どもと一緒に作るおもちゃ」の試作をする	事後	
		事前	試作品の作製（2 時間）
11	おもちゃをつくる(3)：試作品で遊び合い、反省・評価、改善法を探る。さらに、保育現場に導入する際の方法を検討する	事後	
		事前	試作品の改良、保育現場への導入する計画の立案（2 時間）
12	おもちゃをつくる(4)：自作のおもちゃを子どもに用いてもらい、記録、反省・評価する	事前	
		事後	改善点を探り、改良する。保育現場へ導入する計画の立案（２時間）
13	おもちゃをつくる(5)：子どもの遊びが深まり、広がるような改良やプラスαの教材につ	事前	
		事後	おもちゃの改良、プラスαの教材を準備

	いて検討する		する（1 時間）
14	おもちゃをつくる(6)：改良したおもちゃを子どもに用いてもらい、記録を通して反省・評価する	事前	
		事後	自作したおもちゃのパンフレットをつくる（2 時間）
15	おもちゃ報告：自作おもちゃについてプレゼンテーションし、それぞれのおもちゃのよさや可能性、課題について検討しあう	事前	
		事後	おもちゃのパンフレットを完成させる（1 時間）

授業の形態

グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション

成績評価方法（%表記）

① 演習への取り組み（50%），②提出物（コメントシート及びレポート）（50%）から総合的に評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
おもちゃに関心を持ち、子どもの遊びにおけるおもちゃの意義について考察する(DP1)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもの育ちを支える大人の視点から、子どもの育ちに意義のあるおもちゃ選びやおもちゃづくりを考案することができる(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

授業内課題やレポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。
また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、受講者で共有する。

教科書

教科書は使用しない。授業時に資料を配布する。

参考書

認定 NPO 法人日本グッド・トイ委員会監修、「おもちゃインストラクター入門－子どもの発達にあわせた玩具と手作りおもちゃを学ぶ」、黎明書房、2007 年
日本人形玩具学会、「日本人形玩具大辞典」、東京堂出版、2019 年

その他、参照すべき Web サイトなどあれば，適宜授業中に紹介する。

履修上の注意

・自分が親しんでいたおもちゃの実物やパンレットなど収集しておく。
・保育現場にあるおもちゃの種類、子どもが関わる姿などに着目した記録を作成しておく。
・おもちゃの製作にあたり様々な道具を扱うため、日頃から、木工具，手芸用具などに親しむことを期待する。
・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内で知らせる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J2222	音楽特講Ⅰ	２～４年	春	演習	1	坪山　恵子

授業概要

音楽に関わる上で音を聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は欠かすことのできないものである。
この授業では、音楽の基礎的な「読み」「書き」を正確に出来るようにするために、聴音（音を聴いて楽譜に書く）、キーボードソルフェージュ（キーボードを使用した歌唱）を中心に基礎訓練を行う。初歩から総合的に養い、譜読能力を身に付けることができるようになる。

到達目標（学習の成果）

- 音を聴き取り、楽譜に書くことができるようになる(DP3)。
- 音楽の基礎的能力である読譜力、リズム、拍子感を身に付ける(DP3)。
- 音楽の基礎となる要素を身に付け、楽譜理解を深める（DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	楽譜の正しい書き方 音部記号・調号・音符・休符・小節について理解し、正しく書けるようにする。短い楽曲の写譜、楽譜の書き方、拍子の取り方、音の長さの聴き取り方の確認を中心として行う。	事前	ソルフェージュとは何かを調べる(0.5 時間)
		事後	楽譜を書くために必要なルールをよく理解する(0.5 時間)
2	調・拍子の理解、リズム打ち 長調・短調を楽曲を聴いて判断する。音符・休符の長さを確認しリズムを理解し、規則的なテンポに合わせてリズムをとる。	事前	自分が弾いたことのある曲の調について調べる(0.5 時間)
		事後	長調、短調の区別が付くよう、和音の課題を取り組む(0.5 時間)
3	記譜、反復歌唱、発声 聴いて覚えたフレーズを書き記す。短いフレーズを覚えて真似して歌う。	事前	発声法を調べる(0.5 時間)
		事後	授業で書き記した音を弾き、歌う練習をする(0.5 時間)
4	楽譜の読み方 音名(ドレミ)で読めるようにする。リズムに合わせて音名で読む。ピアノに合わせて音の高低をつけて歌う。	事前	ドレミ･･･の位置を確認する(0.5 時間)
		事後	楽譜がすらすら読めるよう、読譜の練習をする(0.5 時間)
5	聴音練習 ピアノで弾かれた音を時間内に書き取る。	事前	ピアノの音に慣れ、音程がとれるように訓練する(0.5 時間)
		事後	授業で書き取った聴音を弾けるようにする(0.5 時間)
6	視唱練習 楽譜を読み、リズム、音の高低を付けて歌う。ピアノの伴奏に合わせて歌えるようにする。	事前	読譜の練習をする(0.5 時間)
		事後	出された視唱の課題を練習する(0.5 時間)
7	旋律聴音①、新曲視唱① 簡単な旋律聴音、新曲視唱を行なう。聴音や視唱の学習ポイントを確認する。	事前	音程の確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
8	キーボード① 簡単なコードネームや和音記号、主要三和音、固有和音の説明。	事前	コードネームについて調べる(0.5 時間)
		事後	コードネームを弾き、耳で聴く訓練をする(0.5 時間)
9	旋律聴音②、新曲視唱② 旋律聴音(ド～ソ)、新曲視唱を行なう。	事前	ド～ソの音程の確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
10	旋律聴音③、キーボード② キーボードではコードネームや和音記号を見て、その和音がすぐに視奏できるように学ぶ。	事前	コードネームの理解を深める(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、コードネームの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
11	旋律聴音④、新曲視唱③ 旋律聴音(ド～ラ)を行なう。新曲視唱では、音程をしっかりとれるようにする。	事前	ド～ラの音程の確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)

12	旋律聴音⑤、キーボード③ 旋律聴音(ド～シ)を行なう。キーボードでは、コードネームや和音記号からその和音を伴奏型で弾けるようにする。	事前	ド～シの音程の確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、コードネームの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
13	旋律聴音⑥、新曲視唱④ 旋律聴音(ド～ド)を行なう。新曲視唱では調号を段階的に増やしながら難易度を高める。	事前	ド～ドの音程の確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
14	旋律聴音⑦、キーボード④ 旋律聴音では、リズム、拍子が複雑なものを段階的に取り入れていく。キーボードではメロディーについたコードネームや和音記号をみて、弾き歌いの方法を学習する。	事前	音程、リズムの再確認をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、和音付けの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
15	まとめ 旋律聴音、新曲視唱、キーボードソルフェージュの基本をまとめる。	事前	今までの聴音の問題を繰り返し練習する(0.5 時間)
		事後	15 回の振り返りをし、各自課題を見つける(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内テスト 30% (楽譜が正しく書けるようになったか)
・定期試験 70%(リズム、拍子感を理解し、聴音ができるようになったか)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
楽譜の書き方のルールをよく理解している	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
聴音、視唱において音程がよく取れている	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
特になし

参考書等
成田 剛 著「やさしいソルフェージュA」 音楽之友社 1977 年

履修上の注意・学習支援
授業毎で書き取った課題を繰り返し練習すること。積極的に課題に取り組み、復習をしっかりし、授業に取り組むこと。
疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 坪山 tsuboyama@kyowa-u.ac.jp のうえ、時間を設定する)。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J2223	音楽特講Ⅱ	２～４年	秋	演習	1	坪山　恵子

授業概要

音楽特講Ⅰでは旋律聴音、視唱、キーボードソルフェージュの基礎を主に学んだが、音楽特講Ⅱでは聴音やキーボードソルフェージュを基本に伴奏付けなどを学ぶ。

また聴音では調号を増やし、暗記聴音も行う。和声聴音を新たに取り入れる。視唱では低音部記号を導入し、音程の幅を広げて取り組む。

到達目標（学習の成果）

・ 音を聴き取り、楽譜に書くことができるようになる(DP3)。
・ 音楽の基礎的能力である読譜力、リズム、拍子感を身に付ける(DP3)。
・ 音楽の基礎となる要素を身に付け、楽譜理解を深める(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	旋律聴音①、新曲視唱① 聴音や視唱の学習ポイントを再確認する。	事前	楽譜を書くためのルールを再確認する(0.5 時間)
		事後	学習ポイントを再確認する(0.5 時間)
2	旋律聴音②、キーボード① 前回行なった学習ポイントを再確認し、発展的に学習する。和音、主要三和音の理解、響きの違いを認識する。	事前	コードネームについて理解を深める(0.5 時間)
		事後	和音の区別が付くよう、響きをよく聴き、和音の課題を取り組む(0.5 時間)
3	旋律聴音③、新曲視唱② 暗記聴音を取り入れる。視唱では、低音部譜表を導入し歌えるようにする。	事前	低音部譜表の読譜の訓練をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
4	和声聴音①、キーボード② 和声聴音では、簡単な二声体の聴音から行ない、各声部の聞き分けができるようにする。	事前	重音の聴き分けの練習をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、和音の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
5	旋律聴音④、新曲視唱③ 旋律聴音では、調号を段階的に増やしながら難易度を高める。更に細かいリズムへの適応を学ぶ。	事前	調号について調べる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
6	和声聴音②、キーボード③ キーボードでは伴奏型を用いて、より高度な弾き歌いができるように学んでいく。	事前	伴奏形の種類を調べる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、和音の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
7	旋律聴音⑤、新曲視唱④ 新曲視唱では高音部譜表と低音部譜表の混合課題に取り組む。	事前	高音部譜表と低音部譜表の読譜の訓練をする(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
8	和声聴音③、キーボード④ 楽曲を用いて長調の主要三和音の弾き歌いに挑戦する。手のポジション、伴奏型を覚える。	事前	長調の和音について調べ、響きに慣れる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、和音の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
9	旋律聴音⑥、新曲視唱⑤ 旋律聴音では、リズムや調、拍子がより複雑なものに取り組む。視唱では、二声部にも取り組み、ハーモニーを感じ取る。	事前	2 つの声部が聴き分けられるよう音に慣れる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
10	和声聴音④、キーボード⑤ 楽曲を用いて短調の主要三和音の弾き歌いに挑戦する。手のポジション、伴奏型を覚える。	事前	短調の和音について調べ、響きに慣れる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、伴奏付けの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
11	旋律聴音⑦、新曲視唱⑥ 聴音や視唱を通して、より深く音程感やリズム感、拍子感を学ぶ。	事前	拍子を感じられるようリズム課題に取り組む(0.5時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)

12	和声聴音⑤、キーボード⑥ 和声聴音では、簡単な三声体の聴音を行なう。和音記号やコードネームのない旋律における伴奏付の方法を学習する。	事前	3 つの音の聴き分けができるよう音、響きに慣れる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、伴奏付けの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
13	旋律聴音⑧、新曲視唱⑦ 複合拍子・混合拍子の聴音課題に取り組む。視唱ではカノン唱法を学ぶ。	事前	拍子の種類について調べる(0.5 時間)
		事後	授業内で行った聴音、視唱の課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
14	和声聴音⑥、キーボード⑦ コードネーム・和音記号付旋律課題を踏まえ、旋律のみの弾き歌い課題に取り組む。	事前	旋律にあった和音付けができるよう、和音の課題に取り組む(0.5 時間)
		事後	授業内で行った和声聴音、和音付けの課題を繰り返し練習する(0.5 時間)
15	まとめ 旋律聴音、和声聴音、新曲視唱、キーボードソルフェージュの発展をまとめる。	事前	今までの聴音の問題を繰り返し練習する(0.5 時間)
		事後	15 回の振り返りをし、各自課題を見つける(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
特になし

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内テスト 30% (楽譜が正しく書けるようになったか)
・定期試験 70%(リズム、拍子感を理解し、聴音ができるようになったか)

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
楽譜の書き方のルールをよく理解している	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
聴音、視唱において音程がよく取れている	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
なし

参考書等
成田 剛 著「やさしいソルフェージュA」 音楽之友社 1977 年

履修上の注意・学習支援
授業毎で書き取った課題を繰り返し練習すること。積極的に課題に取り組み、復習をしっかりし、授業に取り組むこと。
疑問があれば、オフィスアワーを利用すること(事前予約 坪山 tsuboyama@kyowa-u.ac.jp のうえ、時間を設定する)。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3224	音楽特講Ⅲ	3	春	演習	1	阿久澤　政行

授業概要

幼児教育者・保育者の専門職として、得意な分野の専門性を学び、子どもの生活を豊かに創造するためにピアノを活かした実践力と省察力を育成することができ、保育活動等に取り組むことができるようになる。様々なジャンルの音楽に触れながら、連弾によるピアノを演奏する楽しみの中で個々の感受性を養い、理論を応用する実践力や、実践を振り返り洞察する力を習得できることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

・独奏楽器やオーケストラの知識を学び、西洋音楽からポピュラー音楽まで、それぞれの音楽の特徴について専門性を深め、課題を考察できる(DP3)。

・音楽の観点より、子どもの生活の場に結び付けた各自の意見を持ち、現場に出て特色のある指導のできる知識と幅広い教養を身につける(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	様々な演奏形態を知る 1 ～オーケストラの演奏形態や形式を鑑賞しながら学ぶ～	事前	各自の興味のあるオーケストラ楽曲を視聴する(0.5 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(0.5 時間)
2	様々な演奏形態を知る 2 ～アンサンブル、コンチェルト等の演奏形態や形式の違いを鑑賞しながら学ぶ～	事前	各自の興味のあるアンサンブル、コンチェルト楽曲を視聴する(0.5 時間)
		事後	講義内で紹介した楽曲を復習する(0.5 時間)
3	楽譜を分析する 1 ～調性について学ぶ～	事前	音階について調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
4	楽譜を分析する 2 ～楽語について学ぶ～	事前	あらかじめ指定した楽語について調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
5	伴奏法実習 1 ～様々な楽器による伴奏法の違いを学ぶ～合唱	事前	指定した楽器(合唱)の特徴を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
6	伴奏法実習 2 ～様々な楽器による伴奏法の違いを学ぶ～弦楽器	事前	指定した楽器の特徴(弦楽器)を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
7	伴奏法実習 3 ～様々な楽器による伴奏法の違いを学ぶ～木管・金管楽器	事前	指定した楽器の特徴(木管・金管楽器)を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
8	弾き歌い 1 ～発声法の確認と子どもに関連する曲目課題を設定する～	事前	弾き歌いの曲目を確認する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
9	弾き歌い 2 ～表現法を身につけ、感情表現を学ぶ～	事前	弾き歌いの曲目を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
10	弾き歌い 3 ～各課題曲目を奏し、さらに質を高める～	事前	弾き歌いの曲目を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
11	鍵盤演習法 1 ～演奏会の心得を知り、各自の課題曲目を設定する～	事前	各自の興味のあるピアノ連弾の曲目を視聴する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
12	鍵盤演習法 2 ～各自の課題曲目の特徴を学び、練習計画を立てる～	事前	ピアノ連弾曲を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
13	鍵盤演習法 3 ～各課題曲目について公開レッスン形式で学ぶ～	事前	ピアノ連弾曲を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
14	鍵盤演習法 4 ～演奏会のマナーを知る～	事前	ピアノ連弾曲を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
15	鍵盤演習法 5 ～各課題曲目の演奏を完成させる～	事前	ピアノ連弾曲を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
実習課題発表

成績評価の方法・基準(%表記)
期末試験(実習発表) 70% 小テスト 30%
フィードバックについて、授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
音楽分野の専門知識を理解している(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもを豊かに育てる上での音楽を用いた課題を考察できる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
課題に適した演奏発表ができる(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

実習課題発表に対するプレゼンテーションの評価の基準

	S	A	B	C	D
内容	①課題曲に対して適切な楽譜を選び、調べている。 ①課題曲に対して適切な練習を行っている。 ②課題曲について探求した知識を十分に身につけている。	①～③がおおむねできている。	①～③のうち、2つはできている。	①～③のうち、1つはできている。	①～③のすべてできていない。
構成 発表資料	①課題曲のテーマを明確に明示している。 ②発表するための楽譜の製本などがわかりやすく作られている。	①～②がおおむねできている。	①～②のうち、2つはできている。	①～②のすべてできていない。	なし
発表	①時間配分が適切である。 ②演奏技術と表現が適切に発表できている。 ③課題曲に適した速さで発表ができている。	①～③がおおむねできている。	①～③のうち、2つはできている。	①～③のうち、1つはできている。	①～③のすべてできていない。

教科書
特になし

参考書等
① 久保田慶一『音楽史を学ぶ(古代ギリシャから現代まで)』教育芸術社、2017
② 特定の web サイトより各自ダウンロード

履修上の注意・学習支援
授業中は講義内容を必ずノートにすること。録音も可。
疑問があれば，オフィス・アワーを利用すること（事前予約（akuzawa@ujc.ac.jp）のうえ，時間を設定する）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3225	音楽特講Ⅳ	3	秋	演習	1	阿久澤　政行

授業概要

幼児教育者・保育者の専門職として、得意な分野の専門性を深め、子どもの生活を豊かに創造するためにピアノやその他の楽器を活かした実践力を育成することができ、保育活動等に取り組むことができるようになる。また、音楽による様々な演奏形態を知り、映像等も用いた新しい表現力を学ぶことができる。個々の感受性を養い、実践を振り返り洞察する力を習得できることを目的とする。

到達目標(学習の成果)

・各観点より音楽分野の専門性を深め、課題を考察できる(DP3)。
・子どもの生活の場に結び付けた各自の意見を持ち、現場に出て特色のある指導のできる知識と幅広い教養を身につける(DP3)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	朗読と音楽 1 ～朗読と音楽の融合　朗読編～	事前	各興味のある絵本等を朗読する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
2	朗読と音楽 2 ～朗読と音楽の融合　音楽編～	事前	設定課題に沿う楽曲を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
3	朗読と音楽 3 ～朗読と音楽の融合　発展編～	事前	設定した各担当箇所を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
4	朗読と音楽 4 ～朗読と音楽の融合　仕上げ編～	事前	設定した各担当箇所を仕上げる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
5	朗読と音楽 5 ～朗読と音楽の融合　発表～	事前	各課題の発表に備える(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
6	演奏表現 1 ～「風の声を聴いて」 作品分析編～	事前	指定した曲の特徴を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
7	演奏表現 2 ～「風の声を聴いて」 アレンジ編～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
8	演奏表現 3 ～「風の声を聴いて」 収録編①～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
9	演奏表現 4 ～「風の声を聴いて」 収録編②～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
10	演奏表現 5 ～「風の声を聴いて」 収録編③～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
11	映像表現 1 ～「ことりのうた」 作品分析編～	事前	指定した曲の特徴を調べる(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
12	映像表現 2 ～「ことりのうた」 アレンジ編～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
13	映像表現 3 ～「ことりのうた」 イラスト作成編～	事前	指定した曲のイラストを構成する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
14	映像表現 4 ～「ことりのうた」 動画作成編①～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)
15	映像表現 5 ～「ことりのうた」 動画作成編②～	事前	指定した曲の部分を練習する(0.5 時間)
		事後	講義の内容を復習する(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
実習課題発表

成績評価の方法・基準(%表記)
期末試験(実習発表) 70% 小テスト 30%
フィードバックについて、授業中のコメントシート及び質疑については次回返却・回答する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
音楽分野の専門知識を理解している	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
子どもを豊かに育てる上での音楽を用いた課題を考察できる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
課題に適した演奏発表ができる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

実習課題発表に対するプレゼンテーションの評価の基準

	S	A	B	C	D
内容	①課題に対して適切な楽譜を選び、調べている。 ①課題に対して適切な練習を行っている。 ②課題について探求した知識を十分に身につけている。	①～③がおおむねできている。	①～③のうち、2つはできている。	①～③のうち、1つはできている。	①～③のすべてできていない。
構成 発表資料	①課題のテーマを明確に明示している。 ②発表するための楽譜や絵本の製本などがわかりやすく作られている。	①～②がおおむねできている。	①～②のうち、2つはできている。	①～②のすべてできていない。	なし
発表	①時間配分が適切である。 ②演奏と朗読の各技術と表現が適切に発表できている。 ③課題に適した速さで発表ができている。	①～③がおおむねできている。	①～③のうち、2つはできている。	①～③のうち、1つはできている。	①～③のすべてできていない。

教科書
特になし
参考書等
① 阿久澤政行 オリジナル DVD（著者:阿久澤政行）
② 宇都宮短期大学音楽科研究紀要 2018 年 第 25 号より「風の声を聴いて」(著者:阿久澤政行)
③ 宇都宮短期大学音楽科研究紀要 2019 年 第 26 号より「ことりのうた」(著者:阿久澤政行)

履修上の注意・学習支援
授業中は講義内容を必ずノートにすること。録音も可。
疑問があれば，オフィス・アワーを利用すること（事前予約（akuzawa@ujc.ac.jp）のうえ，時間を設定する）

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要]

[実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3226	音楽特講Ⅴ	3	春	演習	1	大島 美知恵

授業概要

音楽療法においてセラピストと対象者が楽器を介して関わる事は重要な意味を持つ。よって、対象者の傍で演奏できる伴奏楽器の習得を目的とする。コードを理解しやすいオートハープから始め、最も使われる頻度の高いギターを音楽療法の現場に即した方法で習得する。さらにライヤー、オムニコード等、すぐに演奏できる楽器を用いて相手の表出に合わせた伴奏法を体験する。

到達目標(学習の成果)

本演習の到達目標は以下の３点である。

・ギターを用いて５つのコードを演奏できる。３つのコードを用いて弾き歌いができる(DP1)。

・簡単な伴奏楽器を用いて、相手の表出するものに合わせた関わりができる(DP3.4)。

・対象者の状況に合わせた伴奏楽器の選択、呈示を行うことができる(DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オートハープ①（奏法について） オートハープの仕組みを理解し、基本的な構え方、音出しを経験する。	事前	オートハープについて図書、ネットで調べる。(0.5 時間)
		事後	オートハープの奏法を復習する。(0.5 時間)
2	オートハープ②（伴奏と弾き歌い） セッションの「始まりの歌」「終わりの歌」を３コードで自作し、弾き歌いができるようにする。	事前	3 コードで弾ける曲を探す。(0.5 時間)
		事後	オートハープの弾き歌いを復習する。(0.5 時間)
3	オートハープ③（対象者との演奏方法） 対象者との演奏を想定し、互いに弾き歌いをして、意見交換を行う。	事前	様々な演奏方法を考える。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を復習する。(0.5 時間)
4	ギター①（特殊調弦による伴奏法） 左手３本指で３コードを弾ける特殊な調弦方法による伴奏法を経験する。	事前	ギターについて図書、ネットで調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
5	ギター②（バッキングパターン） 曲のニュアンスにあったバッキングパターンを数種類考え演奏する。	事前	ニュアンスの異なる曲の伴奏方法を考える。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
6	ギター③（正規のチューニングと音階） 正規のチューニング方法を学び、ハ長調の音階を弾けるようにする。	事前	ギターの正規のチューニング方法を調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
7	ギター④（メロディー奏） ハ長調の規制曲を用いてメロディー奏を行う。また自身で作曲したメロディーを演奏する。	事前	ハ長調１オクターブ内の曲を数曲探す。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
8	ギター⑤（３コード伴奏） ３コードポジションを押さえられるようにする。Ｆについては簡易な押さえ方から習得する。	事前	3コードについて調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
9	ギター⑥（弾き歌いとバッキング） ３コードの曲を弾き歌いする。正規のＦコードの押さえ方を学ぶ。	事前	3 コードで弾ける曲を数曲探す。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
10	ギター⑦（Am、Ｅmコード） Am、Ｅmのコードを習得する。また３コードも含めた５つのコードによる進行パターンを弾けるようにする。	事前	Am、Emコードを調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
11	ギター⑧（５つのコードによる弾き歌い） 習得した５つのコードを使用した課題曲から１曲を選択し、次回までに演奏を発表できるようにする。	事前	5 つのコードを使用した曲を数曲探す。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
12	ギター⑨（課題発表、対象者との演奏法） 課題曲の発表。及び対象者にギターを弾かせる場合を想定し、２人一組でワークを行い、感じたことを意見交換する。	事前	ギターでできる奏法を考える。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)

13	オムニコード オムニコードを使っての伴奏方法、対象者との関わり方について学ぶ。	事前	オムニコードについて調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
14	ライヤー ライヤーの伴奏にて、わらべ歌の歌唱や二人組での即興歌唱を行い、音楽によるコミュニケーションを体感する。	事前	ライヤーについて調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)
15	伴奏楽器の選び方、奏法、呈示について 今までに習得した楽器の発音構造、形状、音色などを比較し、様々なアプローチ方法を考える。	事前	これまで授業内で使用した楽器について調べる。(0.5 時間)
		事後	授業で行った奏法を練習する。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、作曲

成績評価の方法・基準(%表記)

評価項目	S	A	B	C	D
①ギターを用いて５つのコードを演奏、３つのコードを用いた弾き歌いができる	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
②簡単な伴奏楽器を用いて、相手に合わせた関わりができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
③対象者の状況に合わせた伴奏楽器の選択、呈示を行うことができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

①実技小テスト 50%、
②課題提出（楽譜作成等）50%、で評価
※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
なし
参考書等　吉田豊『開放弦でできる実践ギターセラピー～簡単ギター奏で始めよう～』あおぞら音楽社　2011 年

履修上の注意・学習支援
ギターは各自用意できることが望ましい。
また足を組んで演奏する楽器であることから、丈の短いスカートは避け、動き易い服装で受講すること。
チューナーアプリをインストールしておくこと。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園での音楽療法実施経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の経験を活かし、セッションの中で使用できる実践的なギター等の伴奏楽器の使用方法について講義ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3227	音楽療法概論	3	春	講 義	2	大島　美知恵

授業概要

音楽療法の定義や歴史、音楽の機能及び音楽の治療特性など音楽療法の基本的な理論を学ぶ。日本で行われている音楽療法や、欧米や北欧、アジアで行われている音楽療法の実際をDVDで視聴し、その目的や特性について学ぶ。

到達目標（学習の成果）

本講義の到達目標は以下の３点である。

・日本における音楽療法の実際（対象者別）を知り、理解し、概要を説明できる（DP1）。
・音楽が治療に使われていた歴史や、いろいろな国で行われている音楽療法の実際を知る。
・音楽療法のアセスメント、目的、内容、方法、査定の概略を説明できる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	オリエンテーション 授業構成について知り、音楽療法の概要を理解する。	事前	教科書の序文や音楽療法に関する資料を読んでおく。(1時間)
		事後	授業で知り得たことを書き出し、自分なりにまとめる。(3時間)
2	音楽療法の定義と歴史 定義、及び古代から現在までの世界と日本の歴史を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
3	音楽の機能及び、治療特性 音楽の生理的、心理的、社会的な機能を知り、人との関わりの中で、その機能を活用する例を学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
4	音楽療法の対象と診断 各領域別に、対象児者が抱えている課題の特性を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
5	治療目標と治療構造 各領域別に明確に目標を立てること、物理的構造と人的構造の内容を把握する。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
6	音楽の機能(人に及ぼす影響) 音楽の三要素や奏法による機能を知り、体験する。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
7	音楽療法セッションの組立 音楽療法のプロセスを学び、各領域による違いを知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
8	治療の経過 治療過程として、対象者の反応を看取る視点を学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
9	記録と評価 記録の方法、評価方法について実際の事例から学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
10	音楽療法の実際（日本） DVDから日本の音楽療法の現実を把握する。	事前	YOU TUBE等で関連映像を調べる（2時間）
		事後	視聴内容をまとめる（2時間）
11	音楽療法の実際（米国） ノードフ・ロビンズ音楽療法研究所の創造的音楽療法のセッションのDVDを見ながら、その手法と反応を追う。	事前	YOU TUBE等で関連映像を調べる（2時間）
		事後	視聴内容をまとめる（2時間）
12	音楽療法の実際（北欧） スウェーデンのＦＭＴ機能回復促進音楽療法の DVD を見ながら、制度と内容を学ぶ。	事前	YOU TUBE等で関連映像を調べる（2時間）
		事後	視聴内容をまとめる（2時間）
13	音楽療法の実際（アジア） 韓国と台湾の地域に根付いた音楽療法のDVDを見ながら、国と文化と音楽療法の関連性をグループトークする。	事前	YOU TUBE等で関連映像を調べる（2時間）
		事後	視聴内容をまとめる（2時間）
14	音楽療法士の仕事 音楽療法士の資質、量的な仕事内容と同時に質的な治療的自我の育成について、かるたを通して学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)
15	音楽療法の倫理・まとめ 音楽療法士として、守らなければならない倫理上の事柄を	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく（2時間）
		事後	確認テストを復習する。(2時間)

	しり、音楽療法の仕事内容や方法を理解する。		

授業形式（アクティブラーニングの内容）
記載なし

成績評価の方法・基準（%表記）
レポート40%、各回の小テスト60%、

評価項目	S	A	B	C	D
・日本における音楽療法の理解	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
・音楽の歴史の理解	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
・音楽療法のプロセス（目的・内容等）の理解	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100点法	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下

成績評価の基準
レポートはコモンルーブリックのレポート評価基準にて評価

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
村井靖児　『音楽療法の基礎』音楽之友社　2014年
参考書等
日野原重明監修　『標準　音楽療法入門上、下』春秋社　2009年
松井紀和　『音楽療法の手引き』牧野出版　2002年

履修上の注意・学習支援
　各回小テストを行う。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園（肢体不自由児対象）での音楽療法実施経験がある。

［実務経験と授業科目との関連性］
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、理論と実践の関連性を含めた講義ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J3228	音楽療法Ⅰ(基礎)	３年	秋	講 義	２	大島　美知恵

授業概要
対象者（障害児・者　高齢者、精神科領域　その他）についての障害の特性を理解し、音や音楽の効果的な選択や使い方、音楽活動の発達促進やコミュニケーションを深める視点を学ぶ。また、映像を通して、音楽療法場面で起こるやりとりを見取ることや対象者に合わせた音や音楽の応用を体験することを通して、実践に向けての基本的な知識や技術を習得する。

到達目標（学習の成果）
本講義の到達目標は以下の３点である。
・対象者別の音楽療法の実際を知り、対応と課題を理解し、まとめることができる（DP3）。
・幼児期から老年期までの音楽が果たす役割や自分の人格形成における音楽の役割を説明できる（DP1）。
・様々な音や音楽の使い方を通して、自分自身の音楽に対する捉えを明確に説明できる。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	ライフサイクルと音楽① 乳幼児期から青年前期の発達課題と音楽活動及び音楽の役割を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
2	ライフサイクルと音楽② 青年後期から成人後期の発達課題と音楽活動及び音楽の役割を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
3	子どもを捉える発達の見方 感覚受容と運動表現を高めるという見方を知り、障害児の発達促進の課題について理解する。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
4	発達水準に合わせた音・音楽の使い方 発達の各水準を把握し、発達促進するための音や音楽の活用の仕方を理解し、実際に体験する。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
5	母子音楽療法（障害幼児） 母子関係成立や子どもの障害理解、子どもの発達促進に音楽療法はどのように関与しているか知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
6	障害児童・生徒の音楽療法 特別支援学級や特別支援学校での音楽療法を用いた授業や支援事業等における音楽療法セッションの実際を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
7	障害成人の音楽療法 施設や自主グループにおいて、コミュニケーション促進、余暇の楽しみとしての音楽療法セッションの実際を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
8	高齢者の音楽療法 高齢者の方の心理、病理、整理についての基礎知識を得て、課題と対応について知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
9	認知症高齢者の音楽療法 認知症の方の実態と対応について知り、音楽療法の内容や方法（特に回想法）について学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
10	パーキンソン病の発話会話を促す音楽療法 パーキンソン病の特性や対応を知り、特に発声・発話への取り組みと音楽療法の効果について理解する。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
11	介護予防のための音楽療法 認知症を予防する音楽の効果的活用について、知識と技術を学ぶ。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
12	精神科の音楽療法 精神科病棟の急性期、慢性期の患者さんの対して行われているセッションの実際を知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
13	緩和ケアの音楽療法 緩和ケア病棟や地域医療として行われている緩和ケアの	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)

	実情を知り、音楽療法の役割を考察する。		
14	世代交流、地域に広げる音楽療法 コミュニティ音楽療法としての現場での事例を取り上げ、音楽療法の範疇の広さや深さを知る。	事前	教科書・資料の該当部分を読んでおく。(2 時間)
		事後	確認テストを復習する。(2 時間)
15	自分と音楽療法 これまでの学習により得たことや思考の変化について ディスカッションし、音楽療法において重要なことは何かを学ぶ。	事前	これまでの学習で①新しく得た知識②考えが変化したこと③自身の生活と関連したことなどをまとめておく (2 時間)
		事後	ディスカッションの内容をレポートにまとめる (2 時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容）
記載なし

成績評価の方法・基準（%表記）
成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・対象者別の音楽療法の課題を理解し、まとめることができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
・幼児期から老年期までの音楽が果たす役割を説明できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
・自分自身の音楽に対する捉えを明確に説明できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
各回の小テスト 70%　レポート 30%

※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
日野原 重明 監修『標準　音楽療法入門　下　実践編』　春秋社　2009 年

参考書等
なし

履修上の注意・学習支援

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園（肢体不自由児対象）での音楽療法実施経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、理論と実践の関連性を含めた講義ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J4229	音楽療法Ⅱ（臨床）	4	春	講 義	1	大島　美知恵

授業概要
高齢者及び障害児・者（知的障害・肢体不自由・病弱・重複障害等）等における実践ビデオの視聴や、模擬セッションを通して、対象者の理解や個人及び集団音楽療法の選択、プログラムの立案方法を学ぶ。また対象児・者の音・音楽に対する反応の捉え方、その反応に対する関り方を模擬セッションから身につける。セッションの記録方法や課題の整理の仕方、評価の観点についても学ぶ。

到達目標（学習の成果）
本講義の到達目標は以下の２点である。
・高齢者や障害幼児の実態を把握し、治療目標、プログラム立案ができる（DP3）。
・模擬セッションやボランティア体験を通して、相手の反応や動きを見て対応する姿勢を身につける（DP3.4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	能動的音楽療法と受動的音楽療法 二つの分類の概念と用い方についての知識と技能を知り、その一端をグループワークで経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	グループワークでの気づきを、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
2	個人セッションと集団セッション 個人セッションと集団セッションの違いと利点、切り替えについて学び、その一端をワークで経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	グループワークでの気づきを、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
3	緩和ケアの音楽療法 緩和ケアの患者の実態やニーズについて学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
4	セッション案作りと模擬セッション（緩和ケア） 緩和ケアを対象としたセッション案を作る。立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。	事前	セッション立案のための資料を検索する。(0.5時間)
		事後	模擬セッションで意見交換した内容を整理し、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
5	肢体不自由児の音楽療法 肢体不自由児の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
6	知的障害児の音楽療法 知的障害児の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
7	発達障害児の音楽療法 発達障害児の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
8	セッション案作りと模擬セッション（児童） 児童を対象としたセッション案を作る。立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。	事前	セッション立案のための資料を検索する。(0.5時間)
		事後	模擬セッションで意見交換した内容を整理し、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。 (0.5時間)
9	成人の音楽療法 成人障害者の実態の捉えと治療目標の設定の手立てを学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む（0.5時間）
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
10	セッション案作りと模擬セッション（成人） 成人を対象としたセッション案を作る。立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。	事前	セッション立案のための資料を検索する。(0.5時間)
		事後	模擬セッションで意見交換した内容を整理し、セ

			ラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
11	認知症高齢者の音楽療法 認知症高齢者の心理や病理についての知識を学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む（0.5時間）
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
12	セッション案作りと模擬セッション（認知症高齢者） 認知症高齢者を対象としたセッション案を作る。立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。	事前	セッション立案のための資料を検索する。(0.5時間)
		事後	模擬セッションで意見交換した内容を整理し、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
13	介護予防の音楽療法 健康な高齢者が認知・身体・社会的機能を維持するための支援について学び、プログラムの一例を経験する。	事前	資料の該当部分を読む。(0.5時間)
		事後	プログラムの中で使用した曲を練習する。(0.5時間)
14	セッション案作りと模擬セッション（認知症高齢者） 認知症高齢者を対象としたセッション案を作る。立案したセッション案で、実際に模擬セッションを行う。	事前	セッション立案のための資料を検索する。(0.5時間)
		事後	模擬セッションで意見交換した内容を整理し、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(0.5時間)
15	まとめ プログラム作成、実施、評価のプロセスを経験して学んだことの考察、今後の課題についてディスカッションする。	事前	ディスカッションに向けてこれまでの資料、プログラムを見直す。(0.5時間)
		事後	ディスカッションした内容を含むレポートを作成する。(0.5時間)

授業形式（アクティブラーニングの内容）
セッション案作り　　ワーク

成績評価の方法・基準（%表記）

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①プログラム立案ができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
②相手の反応や動きを見て対応できる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法
・グループワーク（コモンルーブリック・グループワーク評価基準を用いる。）40%
・プログラム案などの課題提出物（アセスメントを基盤とした目標をたてることができている、各領域の対象者の特性を捉えたプログラム作りができる））30%
・定期試験　30%で評価
※　課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
特になし

参考書等
甲谷至『歌うことが口腔ケアになる』あおぞら出版社　2008 年

履修上の注意・学習支援
パソコンかクロムブックを持参すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園（肢体不自由児対象）での音楽療法実施経験がある。

［実務経験と授業科目との関連性］
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、理論と実践の関連性を含めた講義ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J4230	音楽療法Ⅲ（技法）	4	春	講 義	1	大島 美知恵

授業概要
発達やコミュニケーション促進し、社会性の育成する手遊び、身体表現、楽器の活用や、生活の質の向上に役立つ歌や伴奏、鑑賞曲の選択など音楽療法に必要な音や音楽の活用について学ぶ。編曲、作曲、視覚教材の用い方について、ワークを中心に学び、対象を支援できる教具製作も試行する。

到達目標(学習の成果)
・対象者に合わせて音楽を提供でき、やりとりができる知識や技術を身につける（DP1.3)。
・対象者に合わせた生の鑑賞教材を演奏できる技術や視覚教材を制作し適材適所で用いる技術を身につける（DP3.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	声でやりとり 呼吸・発声・構音、共鳴の機能を高める音域や声の種類、声量、息遣い、抑揚等、声の機能についてワークを行う	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
2	歌の治療的意味は 口腔ケア、コミュニケーション、言語発達促進、回想などの歌の治療的意味をワークを通して理解する。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
3	即興演奏 打楽器等を用い、相手の表現を受け止め、相手に合わせ、やり取りすることを通して、自己理解、他者理解を図る。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
4	即興演奏・即興絵画 グループワークにより、相手を感じ、集団の影響を受け、自己表現や創作を通して、共有感を高めことを体験する。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
5	コード、伴奏付 治療目標に適した伴奏付け、コード付けを学び、演奏を通して、すぐに楽しめる場づくりの体験をする。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
6	音の使い方 日常生活の中で生じている音が人に与える影響について考え、セッションへの活用方法を探る。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
7	打つ、振る、回す、はじく、吹く楽器作りと効用 触覚ビーズや響き線などの手作り楽器を製作し、その機能を考える。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
8	合奏の活動 合奏において、対象者の水準に合った役割取得ができる編曲の方法を学ぶ。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
9	紐、布、ゴムを使った手遊び、身体表現 教具を用いることで、身体の粗大運動を促進したり、移動の始点終点を理解しやすくする仕組みを理解する。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
10	動き・リトミック・身体表現・ダンス 音や音楽を聞いて、体の動きや移動、踊りなどが空間認知やリラクゼーションを高めることを理解する。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
11	バックグラウンドミュージック BGM の働きが体や心に与える影響を知り、場面設定と音楽選択で、お互いに聞き合う体験をする。	事前	資料を読み、ワークの内容を把握しておく。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
12	視覚教材作りと効用 対象の実態に合わせた視覚教材作り（文字譜、絵譜、写真、楽譜づくり）を行う。	事前	資料を読み、製作に必要なものを準備する。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)
13	パネルシアター作りと効用 パネル素材の大小、多少、形、色の弁別など、音と手の動きで、認知学習や物語をイメージ化することを理解する。	事前	資料を読み、製作に必要なものを準備する。(0.5 時間)
		事後	授業内で行ったワークを練習する。(0.5 時間)

14	高齢者と障害児のための必須使用曲のリスト作り この回までに 20 曲を弾けるように練習しておき、伴奏及び歌詞集を作り、お互いに弾き歌いし、意見を述べ合う。	事前	曲目リストを作る。演奏する曲を練習する。(0.5 時間)
		事後	ワークで意見交換した内容をまとめる。(0.5 時間)
15	リクエスト大会 14 回での意見交換を活かして 20 曲の中から、リクエストされたものを、お互いに弾き歌いする。	事前	リクエストを考える。演奏する曲を練習する。(0.5 時間)
		事後	発表した曲の活用方法についてまとめる。(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・対象者に合わせて音楽をやりとりができる知識や技術を身につける。 ・対象者に合わせた教材製作とそれを活用する技術を身につける	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価の方法
ワークの内容 40%、製作課題 30%　定期試験 30% で評価
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
菅田文子『弾き語りキーボード・セッション―2　音楽療法の必須 100 曲　こども編』
あおぞら出版社　2014 年
生野里花・二俣泉『静かな森の大きな木』春秋社　2001 年

参考書等
なし

履修上の注意・学習支援
図書館で楽譜や CD、DVD を借用し、事前の予習や学習に関連する内容を積極的に学習すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園（肢体不自由児対象）での音楽療法実施経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、理論と実践の関連性を含めた講義ができる。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J4231	音楽療法総合演習	4	春	演習	2	大島　美知恵

授業概要

音楽療法実習に向けての目的、内容、方法を習得し、臨床姿勢や臨床責任、臨床倫理について学ぶ。模擬セッションを通して、自己洞察や他者理解を深め、セラピストとしてのスキルを習得する。

　実習後の記録用紙での記録方法、VTR を視聴しながらの分析方法、評価方法を学び、音楽療法のプロセスを体験し、理解する。

到達目標(学習の成果)

本講義の到達目標は以下の２点である。

・クライアント体験を通して、自己の客観視、他者理解、事実の説明ができる（DP2.3)。

・セラピストとしての姿勢や心構えを身に付け、実習に向けての準備やチームの協力態勢ができる（DP2.4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	実習対象児のアセスメント セッションを担当するクラスの対象児の音楽的嗜好、活動に対する反応について、発達的視点から考察する。	事前	事前に見学した時の資料を読み直す(2 時間)
		事後	事前評価と授業内で行ったアセスメントとの比較を整理して記録する。(2 時間)
2	セラピスト・クライアント体験① 相互体験より、何が必要か感じたことを率直に議論しながら、役割や考えを共有する。	事前	ワークの練習(2 時間)
		事後	ワークでの気づきを、セラピスト役、クライエント役それぞれの視点からまとめる。(2 時間)
3	セラピスト・クライアント体験② 実際の体験を記録し、セッションにおけるセラピストとしてのクライアントに対する配慮を明確にする。	事前	ワークでの気づきを共有できるように資料作成する。(2 時間)
		事後	共有した内容をまとめる。(2 時間)
4	セッション案の作成① 実習で行うセッションの目的を明確にし、アセスメントの内容を考慮してプログラムに取り入れる活動を考える。	事前	アセスメントの内容から目標を考える(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、活動を再検討する。(2 時間)
5	セッション案の作成② それぞれの活動の目的を踏まえて選曲をし、活動方法を考える	事前	活動に見合った曲を数曲用意し、練習する(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、選曲を再検討する。(2 時間)
6	セッション案の作成③ セッションの担当者（セラピスト、コセラピスト、ピアニスト）を決定し、それぞれの役割を考える	事前	役割分担について考える(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、役割分担と活動の具体的内容を再検討する。(2 時間)
7	教材製作① 各自が考案したセッション案に基づき、必要な教材を製作する。	事前	教材製作の材料を用意する。(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、教材を再検討する。(2 時間)
8	教材製作② 製作した教材を使用してワークを行い、メンバー同士で意見交換をする。その意見をもとに教材の改善、新たな教材の製作を行う	事前	製作した教材を用いたセッション発表の準備をする(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、教材の活用方法を再検討する。(2 時間)
9	読み原稿作成 対象児に伝わりやすい言葉を考慮し、伝えたいことを明確にまとめるようにする。	事前	読み原稿の案を考える(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、読み原稿を再検討する。(2 時間)
10	模擬セッション① 各自が作ってきたセッション案をメインセラピストのリードの元に模擬セッションし、各役割の内容について検討する。	事前	読み原稿を用いたセッション発表を準備する。(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、読み原稿を再検討する。(2 時間)
11	模擬セッション②③ １名、客観的に観察するように見学者を置き、記録し、他の者がそれぞれ実践する	事前	プログラム実施準備と共に見学者の観察ポイントをまとめる。(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、プログラム内容と見学者の視点について再検討する。(2 時間)

12	模擬セッション④⑤ 実践後、気づいたことをそれぞれが提出し、改善したり修正し、セッション案を練り直す。	事前	前回の模擬セッションで再検討した内容を実践できるように準備する。(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、プログラム内容と詳細な活動方法を決定する。(2 時間)
13	記録と評価① セッション終了後の記録、評価の観点や方法についてまとめる。	事前	記録方法、評価方法についてフォーマットを作成する。(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、フォーマットを再検討する。(2 時間)
14	記録と評価② 模擬セッションの VTR 等を使用して、具体的に記録・評価の手順を経験し、記録・評価の観点について練り直す	事前	再検討したフォーマットについて入力例を記入する(2 時間)
		事後	授業内でコメントされた内容を考慮して、フォーマットを決定する。(2 時間)
15	まとめ 立案から記録と評価までのプロセスについて、実際に行ってみたことによる気づきを意見交換する。	事前	授業内で行ってきた音楽療法のプロセスについて自分の感じたこと、考えたことについてまとめておく(2 時間)
		事後	ディスカッションを経た自身の意見をレポートにまとめる(2 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
セッション案作成、 ワーク

成績評価の方法・基準(%表記)

成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
①自己の客観視、他者理解の観点を説明できる。 ②セラピストとしての姿勢や心構えを身に付ける。 ③プログラム立案、教材製作、楽譜の編曲等ができる③記録方法、スタッフへの説明の仕方、評価方法を習得している。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価方法

課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。
※演習に対する積極的な取り組み 10%、プログラム、評価表等の提出物 70%、レポート 20%

教科書
特になし

参考書等
高橋多喜子『補完・代替医療　音楽療法』　金芳堂　　2017 年

履修上の注意・学習支援
パソコンかクロムブックを持参すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園での音楽療法実施経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、セッション案づくりから実践・記録・分析までの系統的な指導を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19J4232	音楽療法実習	4	秋	演習	3	大島 美知恵

授業概要

施設における実習生としてのマナーや基本的態度について学ぶ。実習内で行う音楽療法セッションでは、対象者のアセスメント→計画→実践→記録→評価の順で進めるが、そのプロセスについて学ぶ。

事前事後指導や実習体験を通して、実習中は施設での生活体験により、施設スタッフ（関連領域）の仕事内容と対象者の生活の様子を学ぶ。

到達目標(学習の成果)

本講義の到達目標は以下の３点である。

・計画立案に基づいて、セッションを行い、臨機応変な対応ができる（DP4)。
・施設の他の領域の仕事の内容を把握し、対象者を理解することができる（DP2)。
・実習での体験をまとめることができる。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	事前指導 実習での心得、守秘義務、規則厳守、服装、髪型、言葉遣い、実習担当箇所の確認、必要書類の作成	事前	「実習の心得について」を読んでおく(1 時間)
		事後	資料を読み直し、手続き、ルールを再確認する。(1 時間)
2	施設スタッフによる事前指導 施設の構造説明、対象者の生活の様子説明、仕事の範囲の確認、2 週間の所属場所とメンバー確認、スタッフ紹介	事前	実習マニュアルの該当部分を読み直す。(1 時間)
		事後	資料を読み直し、施設における手続き、ルールを再確認する。(1 時間)
3	実習計画 実習計画細案作り、実施場所と担当対象グループ、療法メンバー、セッション内容の確認	事前	実習計画プランを作成する(1 時間)
		事後	授業内のコメントを考慮して計画プランを検討する(1 時間)
4	実習ノート及び、セッション案作り 実習ノート記載事項の確認、印刷製本、セッション案によるメンバーの役割確認	事前	実習ノートの記載事項を確認し、準備が必要な写真等を揃えておく(1 時間)
		事後	実習ノートの記載内容を再確認する。(1 時間)
5	セッション案作り セッション案に基づき練習、及び、楽器や教材借用願い提出、荷造り、運搬	事前	セッションに必要な楽器、教具等のリストを作成する(1 時間)
		事後	セッションに関する手続き、準備に不備がないか確認する。(1 時間)
6	実習体験と記録① 実習体験する。セッション終了後、記録を出し合い、メインセラピストがまとめる。	事前	実習に必要な準備、練習をする。(1 時間)
		事後	実習内容、フィードバックの内容を記録する。(1 時間)
7	実習体験と記録② 実習体験する。対象者も生活の様子も気づいた情報は記録し、セッションに役立てる。	事前	実習に必要な準備、練習をする。(1 時間)
		事後	実習内容、フィードバックの内容を記録する。(1 時間)
8	実習事後指導 楽器及び教材運搬返却、実習ノートまとめと提出、礼状発送、今後の予定確認	事前	振り返りのページを記入する。(1 時間)
		事後	授業内のコメントを参考に振り返りのページを書き直す。(1 時間)
9	ビデオ分析① VTR のセッション記録から、対象者の反応を中心にまとめる。	事前	セッション記録の該当箇所を見直しておく。(1 時間)
		事後	自身の記録と授業内のコメントを比較した考察をまとめる。(1 時間)
10	ビデオ分析② VTR のセッション記録から、セラピストやコセラピストの動きを中心にまとめる。	事前	セッション記録の該当箇所を見直しておく。(1 時間)
		事後	自身の記録と授業内のコメントを比較した考察をまとめる。(1 時間)
11	ビデオ分析③ 対象者に対するセラピストやコセラピストの関与、環境要因などから、対象者の反応について分析を行う。	事前	セッション記録の該当箇所を見直しておく。(1 時間)
		事後	自身の記録と授業内のコメントを比較した考察をまとめる。(1 時間)
12	実習報告定見発表会のテーマ決定 テーマを決め、実習報告レポートの大項目や小項目を決め	事前	テーマについて考えておく。(1 時間)
		事後	授業内のコメントを参考にテーマについて再検討

	る。		し、決定する。(1 時間)
13	実習報告体験発表会パワーポイント作成 対象者の問題や課題の明確化、目標の設定、構造やプログラム内容、記録の数値化を記述する。写真・図表も入れる	事前	該当項目についてパワーポイントに記入する。(1 時間)
		事後	授業内のコメントを参考にパワーポイントの資料を直す。(1 時間)
14	実習報告体験発表会読み原稿作成 目標は達成されたか、考察をまとめ、読み原稿を作成する	事前	作成したパワーポイントに沿って読み原稿を考える(1 時間)
		事後	授業内のコメントを参考に読み原稿を直す。(1 時間)
15	実習報告体験発表会 実習報告レポートについて意見交換を行い、各自が得た知見について更に考察を深める。	事前	発表内容をリハーサルしておく(1 時間)
		事後	発表内での質問やコメントを参考に更に考察を深める。(1 時間)

〈音楽療法実習〉
10 日間(8 時間×10 日＝80 時間)
この期間の中で音楽療法セッションを4時間程度行う。
セラピスト、ピアニスト、コ・セラピストの役割をそれぞれ経験する。
セッション終了後には30分ほどのフィードバックを行う。
〈実習内容〉
施設内における保育士の役割を学びつつ、子ども達のアセスメントを行い、
生活の中に見られる子ども達の実態に合わせた音楽活動を計画・実践する。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク

成績評価の方法・基準(%表記)
成績の評価基準

評価項目	S	A	B	C	D
・臨機応変な対応ができる。 ・施設の仕事内容を把握し、対象者の生活の様子を理解することができる ・実習での体験をまとめ、説明することができる。	完全にないしほぼ完全に到達目標を達成している	若干不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している	到達目標の最低限を達成している	到達目標を達成していない
100 点法	100 点～90 点	89 点～80 点	79 点～70 点	69 点～60 点	59 点以下

評価の方法
ワークへの積極的な取り組み 20%、課題提出物 20%、実習先での評価 30%、実習発表 30%で評価
※課題に対しては、次回の授業内及びクラスルームからフィードバックを行う。

教科書
なし

参考書等
高橋多喜子『補完・代替医療　音楽療法』　金芳堂　　2017 年

履修上の注意・学習支援
・動きやすい服装で受講すること。
・日頃の生活から体調を整えること、提出物の期限を厳守すること、チームワークを大切にすることを心掛ける。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

[実務経験の概要]
宇都宮市子ども発達センター、障害者支援施設にて音楽療法士として実践を行っている。
認知症カフェ、保育園での音楽療法実施経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]
知的障害児、肢体不自由児、成人障害者、高齢者に対する音楽療法の実践経験を活かし、セッション案づくりから実践・記録・分析までの系統的な指導を展開する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K2201	実習事前事後演習	2 年	集中	演習	1	市川　舞・石本真紀・松岡展世

授業概要

保育者としてふさわしいマナーや社会性を、実践を通して修得し、実習生としての構えを形成する。

実習に必要な事前学習や書類の作成、自身の目標の具体化等を行い、実習に向けての準備を整える。なお、本授業は毎時上記担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

・保育者としてふさわしい身だしなみ、ふるまいなどのマナーの必要性を理解し、身につける（DP1.2）。
・実習についての理解を深め、自身の目標を明確にし、計画的に実習への準備を行う（DP1.2）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	実習への見通しをもとう:実習及び実習指導のスケジュールを把握し、見通しを持って実習に向けての自己学習の計画を立てる。	事前	実習科目の履修・配属規定、履修スケジュールの確認(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5 時間)
2	保育者としての心構えを考えよう①「保育者としてふさわしい人」とはどのような人か、グループ討議し、発表しあう。	事前	「保育者としてふさわしい人」の要件を挙げる(0.5 時間)
		事後	プレゼンテーションの準備(0.5 時間)
3	保育者としての心構えを考えよう②「保育者としてふさわしい人」になるための、今後の自分の学習課題と学習方法を明らかにする。	事前	コメントシートの記入(0.5 時間)
		事後	コメントシートを整理し、他者の発表内容から参考になることと併せて整理する。(0.5 時間)
4	保育の引き出しをつくろう①「保育の引き出し」として持ちたいことについて、グループ討議し、発表し合う。	事前	「保育の引き出し」として持ちたいことを挙げる(0.5 時間)
		事後	プレゼンテーションの準備(0.5 時間)
5	保育の引き出しをつくろう②「保育の引き出し」をつくったり増やしたりする方法について学習し、今後の自己学習の計画を立てる。(絵本ノート、ネタ帳)	事前	コメントシートの記入(0.5 時間)
		事後	コメントシートを整理し、他者の発表内容から参考になることと併せて整理する。(0.5 時間)
6	みだしなみについて考えよう①子どもや保護者、同僚から信頼される保育者としての身だしなみのあり方について学習する。	事前	「保育者としてふさわしいみだしなみ」を挙げる(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む(0.5 時間)
7	みだしなみについて考えよう② 保育者としてふさわしい身だしなみについて、衣服の選び方や着用の仕方について学習し、実践する。(写真撮影)	事前	学びを生かし、訪問時にふさわしいみだしなみを準備(0.5 時間)
		事後	実習時にふさわしいみだしなみについてワークシートに整理する(0.5 時間)
8	書類の書き方を学ぼう:書類を作成する際の筆記用具等の選び方や正しい文字の書き方等について学ぶ。具体的に書類の記入を実践し、書類作成の仕方について学習する。	事前	実習の手引きの該当箇所を読み、下書き準備(0.5 時間)
		事後	清書する(0.5 時間)
9	訪問時のマナーについて学ぼう①訪問のためのアポイントメントの取り方や事前準備について学習する。	事前	実習の手引きの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	授業内容をふりかえり、ワークシートに整理する(0.5 時間)
10	訪問時のマナーについて学ぼう②訪問時のマナー(挨拶、言葉遣い、話の聞き方、態度・姿勢など)や「報連相」の必要性について学習する。	事前	実習の手引きの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	授業内容をふりかえり、ワークシートに整理する(0.5 時間)
11	実習の目標を学ぼう①実習の流れと実習の段階ごとの実習の目標について学習する。	事前	実習の手引きの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	授業内容をふりかえり、ワークシートに整理する(0.5 時間)
12	実習の目標を学ぼう②自身の実習先について調べ、実習の段階ごとの実習目標と照らし合わせながら、自身の実習目標を作成する。	事前	実習先調べに取り組む(0.5 時間)
		事後	「実習の目標」の記入(1 時間)

13	先輩の体験から学ぼう①実習報告会に参加し、先輩の実習体験から具体的な実習内容について学習する。	事前	実習に先立ち、確認したいことをピックアップする(0.5 時間)
		事後	授業内容をふりかえり、ワークシートに整理する(0.5 時間)
14	先輩の体験から学ぼう②実習報告会への参加から、実習に必要となる事前学習や事前準備について具体的に理解する。	事前	実習に先立ち、確認したいことをピックアップする(0.5 時間)
		事後	授業内容をふりかえり、ワークシートに整理する(0.5 時間)
15	実習生としての心構え：学習内容を振り返り、実習生として保育現場に参加させていただく意義と実習生としてふさわしいあり方について考察する。	事前	ファイルを整理しておく(0.5 時間)
		事後	授業内容を振り返り、成果と課題についてまとめる(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、反転授業、

成績評価の方法・基準(%表記)

演習における実践（意欲的な参加、授業内容の理解に基づく実践等）：50%

授業課題（レポート、「保育の引き出し」の作成等）：50%

※グループワーク及びレポートは、コモンルーブリックの評価基準で評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育者としてふさわしい身だしなみ、ふるまいなどのマナーの必要性を理解し、身につける（DP1.2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習についての理解を深め、自身の目標を明確にし、計画的に実習への準備を行う（DP1.2)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

コメントシートや課題レポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書

宇都宮共和大学実習委員会　「実習の手引き」

小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子著「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」、わかば社、2023.

参考書等

各回授業時に学習内容を示した資料を配布する

履修上の注意・学習支援

・幼稚園教諭一種免許状および保育士資格の取得を希望する者は必ず履修すること。

・学んだことを保育の現場でどのように応用していくか、常に考えながら学習すること。

・日頃から下記について留意すること。

- 自身の健康的な生活リズムおよび健康管理に留意し、体力の維持向上に努める。
- 自分自身の身だしなみや振る舞いに気を配ること。

・受講者のニーズや授業内容の進度等により、シラバスに示した内容に変更が生じる場合は、授業内でお知らせします。

・授業の内容で分からないことがあった場合は、担当教員に確認すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

石本真紀

[実務経験の概要]

児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、子どもの生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。保育実習の実習受け入れ担当としての経験がある。

[実務経験と授業科目との関連性]

児童福祉施設での実務経験は、本科目との関連性が高い。保育士としての実務経験を生かして、社会福祉施設等の実習で起こり得る事例を提示し、実習での留意事項等について講義する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K2202	保育実習指導Ⅰ（保育所）	2 年	秋	演習	1	松岡展世・小野貴之・田所順子

授業概要

「保育実習Ⅰ」の意義、目的、内容を理解し、自らの実習目標や課題を明確にする。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について学び、実習生としての基本的な姿勢を理解する。さらに、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に学ぶ。事後指導では、実習の振り返りを通して、新たな課題や目標を明確にし、これからの学習につなげていく。なお、本授業は毎時上記担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

- 保育実習の意義・目的を説明することができる。(DP3)
- 実習の内容を理解し、自らの実習課題に気づき、成長・改善することができる。(DP3)
- 保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護・守秘義務等について具体的にイメージし、実践に結び付けられる。(DP3)
- 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容を具体的に理解し、適切に表現できる。(DP3)
- 実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた新たな課題や学習目標を明確に述べることができる。(DP3)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育実習の目的と概要：保育実習の意義と目的、実習の概要について理解する。	事前	実習の手引き、教科書の該当箇所を読む（0.5 時間）。
		事後	実習園情報をまとめ、期限までに提出する（1 時間）。
2	福祉職としての保育士：福祉職としての保育士の職務内容や職業倫理について理解する。	事前	全国保育士会の保育士倫理考慮を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
3	保育実習の心構えと準備：実習の段階と実習の具体的内容、事前準備について理解する。	事前	実習の手引き、教科書の該当箇所を読む（0.5 時間）。
		事後	指定した課題を行い、期限までに提出する（1 時間）。
4	実習目標の設定：これまでの学びを振り返りながら、自らの実習目標を設定する。	事前	前回の実習の自己課題を振り返る（0.5 時間）。
		事後	実習目標を完成させ、期限までに提出する（1 時間）。
5	実習の記録：実習の記録の意義と記入方法について学ぶ。	事前	教科書の該当箇所を読む（0.5 時間）。
		事後	配布資料を見ながら、授業の学びを整理する（1 時間）。
6	保育と安全：子どもが安心して生活できる環境について理解し、具体的な取り組みを学ぶ。	事前	感染症対策等、実習生としての取り組みを確認する（0.5 時間）。
		事後	配布資料を見ながら、授業の学びを整理する（1 時間）。
7	保育所の役割と機能：保育所の基本原則や社会的役割について理解する。	事前	保育所保育指針第 1 章を読む（0.5 時間）。
		事後	配布資料を見ながら、授業の学びを整理する（1 時間）。
8	保育所における子ども理解：乳幼児期の子どもの発達や遊びを理解し、観察の視点を学ぶ。	事前	子どもの発達過程について再確認しておく（0.5 時間）。
		事後	指定した課題を行い、期限までに提出する（1 時間）。
9	保育士の役割：保育士の具体的な職務内容を学び、保育士や他職種間の連携や地域との連携について学ぶ。	事前	保育所保育指針を読み、保育と連携を考える（0.5 時間）。
		事後	指定した課題を行い、期限までに提出する（0.5 時間）。
10	保育所における計画と部分実習①：保育所における全体的な計画と指導計画を学び、部分実習を考える。	事前	教科書の該当箇所や配布資料を読む（0.5 時間）。
		事後	部分実習の内容を考え、実習準備を行う（1 時間）。

11	保育所における計画と部分実習②：部分実習の計画を立案し、発表する。	事前	部分実習の発表の準備をする(0.5 時間)。
		事後	部分実習を見直し、修正する(1 時間)。
12	実習直前指導：実習中、実習終了後の手続き等、実習に必要な最終確認を行う。	事前	実習の手引き、教科書の該当箇所を読む(0.5 時間)。
		事後	最終確認を行い、実習に備える(1 時間)。
13	実習の総括①：実習を振り返り、実習を通しての学びや気づきを整理する。	事前	お礼状を用意。エピソードや学びを振り返る(0.5 時間)。
		事後	学びや気づきをワークシートにまとめる(1 時間)。
14	実習の総括②：自己評価を行い、事後学習(個別／グループ指導)を通して学ぶ	事前	振り返りワークシートを完成させる(0.5 時間)。
		事後	授業での学びや気づきを整理する(1 時間)。
15	実習のまとめと深化：共通・個別の課題を整理し、今後の学びへとつなげる	事前	実習における自己課題を整理する(0.5 時間)。
		事後	保育者としての課題と今後の目標をまとめる(1 時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
- 授業内容の理解(30%：コメントシートへの記述等をとおして、講義の内容を理解しているかを評価する)
- 授業への取り組み (20%：ディスカッションや演習への積極的な取り組みや発言を評価する)
- レポート課題として、子どもの発達と援助について、具体的な生活場面における報告と考察をまとめる (50%：自身の体験をふまえ、授業での学びを活かした考察を人にわかりやすいようにまとめられているか)
  レポート評価には、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いる

＊課題に関しては次の授業内で口頭もしくは課題の返却などでフィードバックを行い、補足説明を行う。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
実習の意義・目的を説明することができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習の内容を理解し、自らの実習課題に気づき、成長・改善することができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護・守秘義務等について具体的にイメージし、実践に結び付けられる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容を具体的に理解し、適切に表現できる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた新たな課題や学習目標を明確に述べることができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 2023 年
小櫃智子・田中君江・小山朝子・遠藤純子「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」 わかば社 2022 年

参考書等
「保育所保育指針(平成 29年告示)」 2017年 フレーベル館
「保育実習の手引き」 宇都宮共和大学実習委員会

履修上の注意・学習支援
・実習生としての自覚を持ち、授業に積極的に参加すること。課題は、期限内に必ず提出すること。
・保育実習の履修および配属については「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。
・日頃から生活リズムを整え、自身の体調管理に留意すること。万が一、授業を欠席しなければならない場合、必ず事前に担当教諭または事務局まで連絡する。
・実習園とのやりとりに関しては、必ず事前の相談・連絡・報告をすること。
・実習前・実習中・実習後は、実習に集中できる環境と態勢を整え、アルバイト等は慎むこと。
・実習および授業内容に関する疑問・質問、不安はそのままにせず、遠慮なく担当者に質問・相談すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目	
小野　貴之 [実務経験の概要] 認定こども園（保育教諭）と幼稚園（教員）の実務に携わってきた。 幼稚園では、実習担当者として、実習生の受け入れと指導にあたっていた。 [実務経験と授業科目との関連性] 実務経験を生かし、保育所における子どもへの関わりや実習生としての学びについて、実践的な指導を行う。 田所　順子 [実務経験の概要] 幼稚園教諭として 12 年間、保育所保育士として 12 年間、児童館児童厚生員として 6 年間勤務し保育全般の実務に携わってきた。 [実務経験と授業科目との関連性] 保育の実務を活かし、保育実習（保育所）の実習における子ども理解や関わり方、実習生としてのあり方について具体的に伝えることができる。	

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19K3203	保育実習Ⅰ （保育所）	2 年	秋	実習	2	松岡　展世

授業概要

保育所の生活に参加し、保育所の機能と役割、保育士の職務内容や職業倫理について体験を通して学ぶ。子どもの育ちの理解を深めるとともに、個々の子どもに応じた保育士の援助やかかわり、保育の内容と展開、保護者への支援について理解する。なお、実習施設におけるオリエンテーション、教員による巡回訪問指導からも実践的に学び理解を深める。

到達目標（学習の成果）

・保育所の社会的役割や機能を具体的に説明することができる。(DP3)
・子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。(DP3)
・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。(DP3)
・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。(DP3)
・保育士の職務内容や職業倫理について具体的に理解する。(DP3)

授業計画

学習内容	授業外における学習方法
保育所における実習　［11 日間］ ＜実習の主なテーマと内容＞ １．保育所の役割と機能 （１）実習施設について理解する （２）保育所の生活と一日の流れを理解し、参加する （３）保育所保育指針を実践的に理解し、保育の展開を捉える ２．子ども理解 （１）子どもの観察と記録を通して理解を深める （２）実際の子どもの姿やかかわりを通して、子どもの発達過程を理解する （３）子どもへの援助やかかわりから、実践的に子ども理解を深める ３．保育内容・保育環境 （１）保育の計画に基づいた保育内容を理解する （２）子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する （３）子どもの生活や遊びと環境を通した保育について理解する （４）子どもの健康と安全への配慮について実践的に学ぶ ４．保育の計画、観察、記録 （１）全体的な計画と指導計画と評価について理解する （２）実習日誌等の記録に基づく省察を行い、自己評価を行う ５．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （１）保育士の業務内容について具体的に理解する （２）職員間の役割分担や連携・協働について実践的に学ぶ （３）保育士の役割と関連して、職業倫理について具体的に学ぶ	① 事前オリエンテーションにもとづき、実習園の概要理解に努める ② 保育実習指導Ⅰ（保育所）の授業をもとに準備学習をする ③ 実習の目標を定め実習日誌に記載する ④ 実習中は、次の日の実習のねらいをたて、教材準備等に努める ⑤ 実習のねらいをもとに実習日誌に記入する ⑥ 11 日間の学びを実習日誌に記入する ⑦ 保育実習指導Ⅰ(保育所)の授業で実習の学びを振り返る

授業形式（アクティブラーニングの内容）

実習

準備学習（授業外の自己学習）

実習生としての自覚をもち、生活のリズムや心身の調子を整え、各自必要な準備を進めておくこと。各実習園に出向いての事前オリエンテーションで、必要な事項を確認し、実習までの期間に各自で準備・練習に励むこと。

成績評価の方法・基準（%表記）

・現場実習の評価：（実習園による5段階評価および総合評価）50%

・大学での評価:（授業の理解度、参加度・課題、提出物・実習日誌・振返り等により総合的に評価）50%

＊課題に関しては次の授業内で口頭もしくは課題の返却などでフィードバックを行う。

成績評価の基準(大学評価)

観点	S	A	B	C
保育所の役割や機能を具体的に理解している。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもとかかわり、子ども理解を深め、記述に表現できる。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
既習の学びを踏まえ、子どもの保育と保護者支援について総合的に理解している。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について理解している。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育所の職務内容や職業倫理について理解している。(DP3)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

教科書

「幼稚園･保育所･認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子･守巧･佐藤 恵･小山朝子 わかば社 2023年

「実習日誌･実習指導案パーフェクトガイド」小櫃智子･田中君江･小山朝子･遠藤純子 わかば社 2022年

参考書等

「保育所保育指針」「保育実習の手引き」、その他各実習園の指示に従うこと

履修上の注意・学習支援

保育実習の履修および配属にあたっては「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。

実習中は、各実習園のご指示に従い、実習生としてふさわしい態度で臨むこと。

また，実習生として必要な，現場実習中の相談・連絡・報告（実習園と大学へ）を怠らないこと。

万が一、実習中に欠席・遅刻・早退があった場合でも、各実習において実質11日間の実習を必ず行わなければならない。

体調を整え、授業への参加と実習への準備を滞りなく進めること。

何かわからないことがあったら、早めに相談すること。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K2204	**保育実習指導Ⅰ（施設）**	3 年	**春**	**演習**	**1**	石本真紀 大島美知恵 小野貴之

授業概要

1. 保育実習について具体的に理解し、実習生としての姿勢･態度を身につける。
2. 保育実習Ⅰの課題を理解し、実習における自らの課題を明確にし、実習に対する意欲を高める。
3. 実習生として必要な知識･技術を習得し、実習に向けて自発的に実習に必要な準備を進めていく。
4. 実習後は実習体験の報告、討論、まとめを行い、自身の新たな課題や学習目標を明確にし、他教科における学びとの統合･深化を図る。なお、本授業は毎時上記担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

・保育実習（施設）の意義・目的を理解し、実習の内容を捉えている（DP3）。
・活動に積極的に関わり、自らの実習課題に気づき、成長・改善することができる（DP3）。
・子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護・守秘義務等について具体的にイメージし、実践に結び付けられる（DP3）。
・実習の計画、実践、観察、評価の方法や内容を具体的に理解し、適切に表現できる（DP3）。
・事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育士を目指し新たな課題や学習目標を設定することができる（DP3）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育実習Ⅰ（施設）の意義（1） 保育実習（施設）の目的や内容を理解する	事前	保育実習の目的や内容についてﾃｷｽﾄの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	実習先種別について調べ学習をする(0.5 時間)
2	保育実習Ⅰ（施設）の意義（2） 実習施設の概要、施設での一日の流れ	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	実習先の情報を収集しまとめる(0.5 時間)
3	実習生としての心構え 保育士の守秘義務、職業倫理等、事前ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの意義と内容	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読む、ふさわしい実習生の姿について自分の考えをまとめる(0.5 時間)
		事後	ﾃｷｽﾄを読み、事前訪問の準備をする(0.5 時間)
4	実習内容の方法と理解（1） 実習先施設の種別、現状について学ぶ	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	授業での学習内容を復習する(0.5 時間)
5	実習内容の方法と理解（2） 実習の目標の検討、子どもや利用者の関係づくりについて学ぶ	事前	実習施設の概要をもとに実習の目標を作成する(0.5 時間)
		事後	実習の目標を再考する(0.5 時間)
6	実習内容の方法と理解（3） 事例から子どもや利用者の生活について学ぶ	事前	ﾃｷｽﾄの該当部分を読む(0.5 時間)
		事後	部分実習や余暇活動の内容を考えﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
7	実習内容の方法と理解（4） 施設保育士（職員）の職務内容について 事例から保育士等の職員の役割について学ぶ	事前	実習先で働く職員の職種について確認する(0.5 時間)
		事後	職員の職務内容についてﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
8	実習の計画と記録（1） 個別の支援計画について	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読み、ﾜｰｸｼｰﾄに記入する(0.5 時間)
		事後	個別支援計画の目的と内容について復習する(0.5 時間)
9	実習の計画と記録（2） 記録の意義と目的、日誌の書き方を理解する。	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	ﾃｷｽﾄを読み、課題に取り組む(0.5 時間)
10	実習の計画と記録（3）、実習課題の明確化 日々の振り返り、反省会の参加について	事前	実習日誌に必要事項を記入する(0.5 時間)
		事後	実習の目標をもとに日々のねらいを考える(0.5 時間)
11	実習直前指導、実習に際しての留意事項 子どもや利用者の人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務について確認する	事前	ﾃｷｽﾄの該当箇所を読む(0.5 時間)
		事後	配布資料やｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの資料を読み、実習に向けて準備をする(0.5 時間)

12	実習の振り返り(1) 実習での学びを個人で振り返る	事前	実習での学びや実習指導者の指導内容を整理しておく(0.5 時間)
		事後	ワークシートを見直し、期限までに提出する(0.5 時間)
13	実習の振り返り(2) 実習での学びをグループで共有する(子どもや利用者の生活についての理解)	事前	振り返りシートをもとにディスカッションする内容を整理する(0.5 時間)
		事後	振り返りで得た学びを整理する(0.5 時間)
14	保育実習の振り返り(3) 実習での学びをグループで共有する(施設職員の役割、地域における社会福祉施設の機能と役割)	事前	振り返りシートをもとにディスカッションする内容を整理する(0.5 時間)
		事後	振り返りで得た学びを整理する(0.5 時間)
15	実習の総括と自己評価、自己課題の明確化 保育実習Ⅰの学びをまとめ自己課題を明確化する	事前	実習の目的や実習の学びと照らし合わせて実習自己評価表に記入する(0.5 時間)
		事後	保育実習Ⅱ・Ⅲに向けて今後の課題をまとめる(0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
　ワーク、グループディスカッション、ロールプレイ

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業内容の理解　30%
コメントシートへの記述等をとおして、講義の内容を理解しているかを評価する
・授業への取り組み 30%
ディスカッションや演習への積極的な取り組みや発言を評価する
・レポート　40%
授業内および実習における実践を省察し、自らの課題を把握できているかを評価する
レポートは、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。

観点	S	A	B	C
① 保育実習(施設)の意義・目的を説明することができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
② 実習の内容を理解し、自らの実習課題に気づき、成長・改善することができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
③ 子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護・守秘義務等について具体的にイメージし、実践に結び付けられる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
④ 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容を具体的に理解し、適切に表現できる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
⑤ 実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた新たな課題や学習目標を明確に述べることができる。(DP3)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

・授業内のコメントシートやレポート課題については次回授業で口頭で解説を加える。

教科書
守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵「改訂版　施設実習パーフェクトガイド」わかば社　2023
参考書等
「実習の手引き」宇都宮共和大学子ども生活学部
　河合高鋭・石山直樹「保育士をめざす人のための施設実習」　みらい　2020

履修上の注意・学習支援
・保育実習の履修および配属にあたっては、「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。
・保育士資格を取得しようとするものとして実習生としての自覚をもち、主体的かつ意欲的に取り組むこと。
・実習施設とのやりとりに関しては、必ず担当教員に事前の相談・連絡・報告をすること。
・わからないこと、不安なこと、疑問点等は、主体的・積極的に解決への行動を起こすこと。
・実習では、実習期間のみでなく、日頃の生活全般における心掛けや振る舞いが大きく影響する。各自が自覚をもって、生活リズムおよび体調を整え、授業への参加と実習への準備を滞りなく進めること。
・実習前中後は、実習に集中できる環境と態勢を整え、アルバイト等は慎むこと。
・実習中、事故やケガ・病気などがあった場合は、必ず大学の実習担当者宛に電話連絡すること。実習先および大学への報告・連絡・相談を決して怠らないこと。(実習中の連絡先：028-649-0511)
・授業外で疑問・質問がある場合は、オフィス・アワーを利用すること
　(事前予約 (ishimoto@kyowa-u.ac.jp) のうえ、時間を設定する)

実務経験のある教員による授業科目

石本真紀
［実務経験の概要］
　児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、子どもの生活支援と保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。また、児童福祉施設の保育実習担当として、実習指導をおこなってきた。
［実務経験と授業科目との関連性］
　児童福祉施設の保育士としての実務経験を生かして、社会福祉施設等の実習で起こり得る事例を提示し、実習での留意事項や子どもや利用者への関わり方等について講義する。

大島美知恵

［実務経験の概要］
宇都宮市子ども発達センター若葉園　音楽療法士
宇都宮市子ども発達センター若葉園　かすが園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会　すぎの芽学園　音楽療法士
社会福祉法人すぎの芽会デイサービスセンターすぎの芽　音楽療法士
社会福祉協議会　宇都宮市障がい者福祉センター音楽療法士
上都賀総合病院　認知症疾患医療センター認知症カフェアダージョでの音楽療法実施
栃木県那須町黒田原第二保育園にて肢体不自由児に対する音楽療法研修実施

［実務経験と授業科目との関連性］
知的障害児、肢体不自由児、成人領域、高齢者における音楽療法の実践

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K3205	保育実習Ⅰ（施設）	3年	春	実習	2	石本真紀

授業概要

保育所以外の児童福祉施設等の生活に参加し、保育士（施設職員）の職務について学ぶ。既習の教科全体の知識・技能を基礎として、それらを総合的に実践する応用力を養う。保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について理解する。

到達目標（学習の成果）

・子どもや利用者と生活を共にし、子どもや利用者の生活や職員の支援の実際について説明できる（DP1）。
・支援計画に基づく個々に応じた関わりについて知り、記述や表現ができる（DP3）。
・保育士に求められる資質・技術について知り、記述や表現ができる（DP3）。
・保育者になるための自身の今後の課題について理解し、具体的に努力できるようになる（DP4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	児童福祉施設等（保育所以外）における実習 ［11日間］ ＜実習の主なテーマと内容＞、 １．施設の役割と機能 （１）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの生活と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理	①事前オリエンテーションにもとづき、実習施設の概要理解に努める ②保育実習指導Ⅰ（施設）の授業をもとに準備学習をする。 ③実習の目標を定め実習日誌に記載する ④実習中は、次の日の実習のねらいをたて、教材準備等に努める ⑤実習のねらいをもとに実習日誌に記入する ⑥11日間の学びを実習日誌に記入する ⑦保育実習指導Ⅰ(施設)の授業で実習の学びを振り返る

授業形式(アクティブラーニングの内容)
実習

成績評価の方法・基準(%表記)

・現場実習の評価:(実習施設による5段階評価および総合評価)50%
・大学での評価:(課題等の提出物・教員による巡回指導・実習日誌・振り返り発表等により、「基本的理解」15%、「実習の計画」10%、「実習日誌」10%、「振り返り」15%の割合で評価)50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
子どもや利用者に対する個々の状態に応じた関わりについて知り、記述や表現ができる	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育士（施設職員）に求められる資質・技術について知り、記述や表現ができる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育者になるための自身の今後の課題について理解し、具体的に努力できるようになる。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵「改訂版　施設実習パーフェクトガイド」わかば社　2023

参考書等
　河合高鋭・石山直樹「保育士をめざす人のための施設実習」みらい　2020
「実習の手引き」宇都宮共和大学子ども生活学部、各実習施設の事前オリエンテーション等で配布される資料

履修上の注意・学習支援
・保育実習の履修および配属にあたっては「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。
・実習中は、実習施設のご指示に従い、実習生としてふさわしい態度で臨むこと。
・実習生として必要な，現場実習中の相談・連絡・報告（実習施設と大学へ）を怠らないこと。
・実習に集中できる環境と態勢を整え、アルバイト等は慎むこと。
・実習中、事故やケガ・病気などがあった場合は、必ず大学の実習担当者宛に電話連絡すること。実習先および大学への報告・連絡・相談を決して怠らないこと。(実習中の連絡先：028-649-0511)

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K3206	保育実習指導Ⅱ（保育所）	3 年	秋	演習	1	松岡展世・小野貴之・田所順子

授業概要

「保育実習Ⅱ」の意義と目的、内容を総合的に理解し、「保育実習Ⅰ」の経験や既習の学修内容とその関連性、連続性を踏まえて、新たな実習目標を設定する。保育の観察、記録、自己評価等を踏まえた自らの保育の改善について、実践や事例を通して理解を深める。事後指導においては、自己の実習の振り返りやグループワークを通して、新たな課題を発見し、今後の実践や学びの目標を明確にする。なお、本授業は毎時上記担当教員が担当し、それぞれの専門の立場から指導助言する。

到達目標（学習の成果）

- 保育実習の意義・目的を理解し、保育を総合的にとらえられる。(DP4)
- 実習及び既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。(DP4)
- 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。(DP4)
- 保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。(DP4)
- 実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育実習Ⅱの目的と概要：保育実習Ⅱの意義と目的、実習の概要について理解する。	事前	実習の手引きを読み、実習の概要を把握する。実習先に調べて整理しておく（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
2	実習内容と自己課題：保育実習Ⅰからの継続性と段階性を踏まえ、Ⅱの内容を理解し自己課題を考える。	事前	実習の手引き、教科書の該当箇所を読む。
		事後	自己課題を整理し、指示の通り提出する（1 時間）。
3	保育所の役割と機能：保育所の社会的役割と責任、養護と教育の一体的な展開について理解する。	事前	保育所保育指針第 1 章を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
4	保育士の具体的な職務内容：子どもの保育と保護者支援の実際について理解する。	事前	保育所保育指針第 1 章、第 4 章を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
5	実践力の育成①：子どもの状態に応じた適切な関わりについて考察し、記録する。	事前	保育所保育指針第 2 章を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
6	実践力の育成②：子どもの発達過程にふさわしい遊びを考え、部分・責任実習の内容を考える。	事前	保育所保育指針第 2 章を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
7	実習の計画と実践：全体的な計画に基づく具体的な計画と実践を理解したうえで、指導案を立案する。	事前	保育所保育指針第 1 章、教科書を読む（0.5 時間）。
		事後	指導案を立案し、期限までに提出する（1 時間）。
8	保育のプロセスの理解：自らの記録や自己評価に基づいて保育の計画から改善までのプロセスを理解する。	事前	配布資料や教科書の該当箇所を読む（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
9	保育士の専門性と職業倫理：「全国保育士会倫理綱領」を参照し、保育士の職業倫理の意義を考える。	事前	保育士会倫理綱領の内容を把握する（0.5 時間）。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する（1 時間）。
10	実習直前指導：実習中、実習終了後の手続き等、実習に必要な最終確認を行う。	事前	実習の手引き、教科書の該当箇所を読む（0.5 時間）。
		事後	最終確認を行い、実習に備える（1 時間）。
11	保育所実習を終えて：実習を振り返り、実習を通しての学びや気づきを整理する。	事前	お礼状を準備し、エピソードや学びを整理する（0.5 時間）。

		事後	学びや気づきをワークシートにまとめる(1 時間)。
12	実習の総括(個別):実習目標への到達度、自己の成長や変容について考察する。	事前	学びや気づきをワークシートにまとめる(0.5 時間)。
		事後	学びを振り返り、ワークシートを完成させる(1 時間)。
13	実習の総括(グループ)①:事後学習(グループ)によって学びを総合的に振り返る。	事前	他者と共有するエピソードを整理する(0.5 時間)。
		事後	学びや気づきを整理し、他者と発表に向けて準備する(1 時間)。
14	実習の総括(グループ)②:事後学習(グループ)によって得られた学びを発表する。	事前	学びや気づきを整理し、他者と発表に向けて準備する(0.5 時間)。
		事後	他者との共有から得られた学びや気づきをまとめ、自身の課題を整理する(1 時間)。
15	実習のまとめと深化:事後学習を通して浮かび上がってきた共通・個別の課題について、自身の保育の課題として深化統合させる。	事前	これまでの学びを振り返り、自己課題を書きだす(0.5 時間)。
		事後	これまでの学びを振り返り、自身の課題と今後の目標を言語化し、まとめる(1 時間)。

授業形式(アクティブ・ラーニングの内容)
　グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加度や課題への取り組み　40　%
　保育実習Ⅱの意義・目的を理解し、保育実習Ⅰで明確にした自らの課題に積極的に取り組むことができる。
・保育計画及び準備、提出物　40%
　保育計画や乳幼児の発達と遊びの関連性を具体的に理解し、既習の教科の内容を踏まえ、保育計画を立てることができる。
　保育実習における各準備物の重要性を理解し、期日までに適切に整えることができる。
・レポート及び発表　20　%
　保育実践に必要な準備を積極的に行い、乳幼児の発達をふまえた保育実践ができる。
　実習体験を自らの課題と関連させてまとめ、保育者となるうえでの課題を明確にできる。
＊課題に関しては次の授業内で口頭もしくは課題の返却などでフィードバックを行い、補足説明を行う。

レポート、発表については、コモンルーブリック基準を用いて評価する。
成績評価の基準

観点	S	A	B	C
保育実習の意義・目的を理解し、保育を総合的にとらえられる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習及び既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子「幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド」わかば社　2023 年
小櫃智子・田中君江・小山朝子・遠藤純子「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」 わかば社　2022 年

参考書等
「保育所保育指針(平成 29年告示)」 2017年　フレーベル館
「保育実習の手引き」 宇都宮共和大学実習委員会

履修上の注意・学習支援
・実習生としての自覚を持ち、授業に積極的に参加すること。課題は、期限内に必ず提出すること。
・保育実習の履修および配属については「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。
・日頃から生活リズムを整え、自身の体調管理に留意すること。万が一、授業を欠席しなければならない場合、必ず事前に担当教諭または事務局まで連絡する。
・実習園とのやりとりに関しては、必ず報告・連絡・相談をすること。
・実習前中後は、実習に集中できる環境と態勢を整え、アルバイト等は慎むこと。
・実習および授業内容に関する疑問・質問、不安はそのままにせず、遠慮なく担当者に質問・相談すること。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
小野　貴之 ［実務経験の概要］ 認定こども園（保育教諭）と幼稚園（教員）の実務に携わってきた。 幼稚園では、実習担当者として、実習生の受け入れと指導にあたっていた。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 実務経験を生かし、保育所における子どもへの関わりや実習生としての学びについて、実践的な指導を行う。 田所　順子 ［実務経験の概要］ 幼稚園教諭として 12 年間、保育所保育士として 12 年間、児童館児童厚生員として 6 年間勤務し保育全般の実務に携わってきた。 ［実務経験と授業科目との関連性］ 保育の実務を活かし、保育実習（保育所）の実習における子ども理解や関わり方、実習生としてのあり方について具体的に伝えることができる。

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
19K3207	保育実習Ⅱ (保育所)	３年	秋	実習	２	松岡　展世

授業概要

保育実習Ⅰの経験や既習教科の学びを踏まえ、保育所の社会的役割や機能について具体的な実践を通して学ぶ。子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して、子ども理解と保育方法の理解を深める。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組みながら、保育士の職務内容と職業倫理について実践的に学ぶ。なお、実習園におけるオリエンテーション、教員による巡回訪問指導も含まれる。

到達目標（学習の成果）

・保育所の機能・役割について、具体的な実践から理解を深める。(DP4)
・子どもの観察や関わりの視点を明確にし、保育の理解を深める。(DP4)
・既習教科の内容や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育や保護者支援等について総合的に理解する。(DP4)
・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価などに実際に取り組み、理解を深める。(DP4)
・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。(DP4)
・保育士としての自己の課題を明確にし、学びを深める。(DP4)

授業計画

学習内容	授業外における学習方法
保育所における実習　[11 日間] ＜実習の主なテーマと内容＞ １．保育所の機能や役割の具体的な展開 （１）養護と教育が一体となって行われる保育について理解を深める （２）保育所の社会的役割と責任について実践を通して具体的に学ぶ ２．観察に基づく保育の理解 （１）子どもの心身の状態や活動を観察する力を養う （２）保育士等の援助や関わりを実践の観察から学ぶ （３）保育所の生活の流れや展開を把握する ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （１）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する （２）入所している子どもの保護者への子育て支援及び地域の子育て家庭への支援について理解する （３）関係機関や地域社会との連携について具体的に学ぶ ４．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （１）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価を学び、保育の過程を理解する （２）作成した指導計画に基づき保育を実践し、省察を通して自己評価することを学ぶ ５．保育士の業務と職業倫理 （１）多様な保育の展開と保育士の業務について実践を通して理解を深める （２）多様な保育の展開と保育士の職業倫理について具体的に理解を深める ６．自己課題の明確化 実践を行う中で、保育士に必要な資質や技能を理解し、日々振り返りを行い、自己の課題を明らかにしていく。	① 事前オリエンテーションにもとづき、実習園の概要理解に努める ② 保育実習指導Ⅰ（保育所）の授業をもとに準備学習をする ③ 実習の目標を定め実習日誌に記載する ④ 実習中は、次の日の実習のねらいをたて、教材準備等に努める ⑤ 実習のねらいをもとに実習日誌に記入する ⑥ 11 日間の学びを実習日誌に記入する 保育実習指導Ⅰ(保育所)の授業で実習の学びを振り返る

授業形式（アクティブ・ラーニングの内容）

実習

準備学習（授業外の自己学習）

実習生としての自覚をもち、生活のリズムや身心の調子を整え、各自必要な準備を進めておくこと。

成績評価の方法・基準（%表記）

・現場実習の評価 50%：(実習園による 5 段階評価および総合評価) 50%

・大学での評価 50%：(授業の理解度参加度・実習日誌・指導計画、課題等の提出物・振返り、発表内容等により総合的に評価)

＊課題に関しては次の授業内で口頭もしくは課題の返却などでフィードバックを行い、補足説明を行う。

成績評価の基準(大学評価の 50%)

観点	S	A	B	C
具体的な実践を通して、保育所の機能や役割を理解している。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもの観察や関わりの視点を持ちながら、保育の理解を深めることができる。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
子どもの保育と保護者支援等、保育士の役割について総合的に理解できる。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価を通して保育のプロセスを理解している。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
保育士の業務や職業倫理について具体的な実践とともに理解できている。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
実践を振り返り、自己課題を明確にすることができている。(DP4)	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

教科書

小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子「幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 2023 年

小櫃智子・田中君江・小山朝子・遠藤純子「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」 わかば社

参考書等

「保育所保育指針」「保育実習の手引き」

その他各実習園の指示に従うこと

履修上の注意

保育実習の履修および配属にあたっては「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。

実習中は、各実習園のご指示に従い、実習生としてふさわしい態度で臨むこと。

また、実習生として必要な，現場実習中の連絡・報告・相談（実習園と大学へ）を怠らないこと。

万が一、実習中に欠席・遅刻・早退があった場合でも、実質 11 日間の実習を必ず行わなければならない。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K3208	保育実習指導Ⅲ（施設）	３年	秋	演習	1	石本　真紀

授業概要
事前指導では、保育実習Ⅰでの学びをふまえ、保育実習Ⅲの目的、心構え、実習の課題、実習施設に関連する法制度、施設の内容、施設の職員と専門性、施設の生活の実際、保育実習の諸注意等を行う。
事後指導では、個人、グループ等で振り返りを行い、学びを整理する。また、実習先からの評価や自己評価をもとに、各自の学習課題や研究テーマを明確にし、他の教科における学びとの統合を図る。

到達目標(学習の成果)
・保育実習の意義・目的を理解し、保育について実習を通して総合的に学ぶ（DP4)。
・保育実習及び既習の教科の科目やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う（DP4)。
・保育士の専門性と職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができる（DP4)。
・子どもや利用者への関わりや実習指導者からの指導助言をもとに自己課題を明確化する（DP4)。
・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化する（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	保育実習の意義 保育実習ⅠとⅢの関連性、保育実習Ⅲの目的、実習のねらいと内容について理解する。	事前	保育実習Ⅲの目的と内容を確認する。授業の進め方と概要、評価方法を理解する。(0.5 時間)
		事後	実習先の概要について情報を収集しまとめる。(0.5 時間)
2	保育実習の総合的な学び（１） 実習生としての心構え、職業倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。	事前	保育実習Ⅲの自己の課題をまとめる。(0.5 時間)
		事後	テキストの該当箇所を読み、保育士としての職業倫理について考える。(0.5 時間)
3	保育実習による総合的な学び（２） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的展開について事例を通して学ぶ。	事前	テキストの該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	本日の授業内容をもとに自分の考えをまとめる。(0.5 時間)
4	保育実習による総合的な学び（３） 保育士の職務について理解する 子どもの保育や養育と保護者支援について学ぶ。	事前	配布資料を読み、施設保育士(職員)の職務内容についてﾜｰｸｼｰﾄに記入する。(0.5 時間)
		事後	子どもや利用者の家族支援の内容を復習する。(0.5 時間)
5	実習課題の明確化 実習計画の意義・目的について理解する。	事前	実習施設の特徴についてﾜｰｸｼｰﾄに記入する。(0.5 時間)
		事後	実習Ⅰの学びをもとに実習の目標を作成する。(0.5 時間)
6	保育の実践力の育成（１） 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わりについて理解を深める。	事前	実習生としてふさわしい子どもや利用者との関わりについて課題に取り組む。(0.5 時間)
		事後	子どもや利用者理解のための方法について学びを整理する。(0.5 時間)
7	保育の実践力の育成（２）専門的知識・技術を生かした実践：個別の支援計画等を立案するために必要なアセスメントの方法について学ぶ。	事前	アセスメントの流れについて理解する。(0.5 時間)
		事後	自立支援計画、個別支援計画を作成する視点や流れについて理解する。(0.5 時間)
8	実習の計画と観察、記録（１） 観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について事例を通して学ぶ。	事前	テキストの該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	保育実習Ⅰ(施設)の実習日誌をもとに書き方を確認する。実習の目標を再考する。(0.5 時間)
9	実習の計画と観察、記録（２） 実習記録の意義と方法、記録の活用について学ぶ。	事前	実習日誌の基本的な書き方を確認する。(0.5 時間)
		事後	実習の目標にそって実習のねらいを考える。(0.5 時間)
10	実習直前指導 これまでの授業内容を振り返り、実習中に配慮すべきこと、健康管理と安全対策について学ぶ。	事前	ﾃｷｽﾄを読み、実習生として必要な心構えを確認する。実習に必要な書類を確認する。(0.5 時間)
		事後	実習後までの流れを理解し、主体的に実習を臨めるようにする。(0.5 時間)

11	実習の振り返り（1） 実習体験を総括する意義を理解する。実習での体験を踏まえ、実習成果の確認及び整理をする。	事前	実習中のメモ等を読み返し、学びの内容を整理しておく。ﾃｷｽﾄを読み、実習体験の振り返りの意義について確認する。(0.5 時間)
		事後	実習の自己評価をする(1回目)(0.5 時間)
12	実習の振り返り（2） 実習での学びをグループで共有する。	事前	ｸﾞﾙｰﾌﾟで討議したい内容を整理しておく。 (0.5 時間)
		事後	他者の発表から学んだことを整理する。(0.5 時間)
13	実習の振り返り（3） 実習総括レポートの意義と作成方法を理解する。 レポート作成の準備を行う。	事前	実習Ⅰと実習Ⅲの学びを整理する。(0.5 時間)
		事後	振り返りで得た学びの内容をまとめる。(0.5 時間)
14	実習の総括と自己評価 保育実習Ⅲにおける実習での学びの総括として、実習報告を行い、実習における自己評価を行う。	事前	実習Ⅲの学びを実習報告会に向けて整理し、発表内容を考える。(0.5 時間)
		事後	実習報告会に向けて資料作成を行う。(0.5 時間)
15	実習のまとめと深化 実習先からの評価と自己評価をもとに、保育実習全体を振り返り、今後の課題を明確化する	事前	自己評価表への記入(2 回目)を通して実習を振り返り、実習目標の達成度を確認する。 (0.5 時間)
		事後	新たな課題と次の学習目標を明確にしておく。 (0.5 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション、ロールプレイ、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
①授業への取り組み 30%
・保育実習Ⅲの実習の意義や目的を理解し、保育実習Ⅰで明らかとなった自己の課題をもとに実習に向けて積極的に取り組むことができる。
②課題の提出 35%
・実習施設の目的、事業内容、利用者の入所理由等、基本的な知識を得ている。
・各実習先で行われる日常生活支援や心理的支援、個別の支援計画の必要性について理解している。
・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について理解している。
③レポート及び発表 35%
・実習施設の実際の役割と機能について
レポートは、コモンルーブリック・レポート評価基準を用いて評価する。

観点	S	A	B	C
保育実習の意義・目的を理解し、保育を総合的にとらえている。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習及び既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
保育士の専門性と職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育改善について理解できている。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。(DP4)	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

教科書
守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵「改訂版　施設実習パーフェクトガイド」わかば社　2023　1,650 円
参考書等
『実習のてびき』　宇都宮共和大学子ども生活学部
河合高鋭・石山直樹「保育士をめざす人のための施設実習」みらい　2020　2,340 円

履修上の注意・学習支援
・保育実習の履修および配属にあたっては、「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。
・保育士資格を取得しようとするものとして実習生としての自覚をもち、主体的かつ意欲的に取り組むこと。
・実習施設とのやりとりに関しては、必ず担当教員に事前の相談・連絡・報告をすること。
・わからないこと、不安なこと、疑問点等は、主体的・積極的に解決への行動を起こすこと。
・実習では、実習期間のみでなく、日頃の生活全般における心掛けや振る舞いが大きく影響する。各自が自覚をもって、生活リズムおよび体調を整え、授業への参加と実習への準備を滞りなく進めること。
・授業外で疑問・質問がある場合は、オフィス・アワーを利用すること
（事前予約（ishimoto@kyowa-u.ac.jp）のうえ、時間を設定する）

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］
児童福祉施設の保育士として、2 歳から 20 歳までを担当し、子どもの生活支援や保護者支援など相談援助に関する業務に従事してきた。児童福祉施設において保育実習の実習指導経験がある。

［実務経験と授業科目との関連性］
児童福祉施設での実務経験は、本科目と関連性が高い。保育士としての実務経験を生かして、社会福祉施設等の実習で起こり得る事例を提示し、実習での留意事項や子どもや利用者への関わり方等について講義する。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K3209	保育実習Ⅲ（施設）	３年	秋	実習	2	石本　真紀

授業概要
・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の生活に参加し、実践を通して子どもや利用者に対する理解を深める
・実習施設の機能と保育士の職務内容、職員間の役割分担や関係機関との連携について理解を深める
・保育士としての職業倫理や子どもの最善の利益の具体化について理解を深める

到達目標(学習の成果)
・児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解し、説明することができる（DP3)。
・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解のもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を培う（DP3)。
・施設保育士として必要な記録を的確に記述することができる（DP3)。
・保育士の多様な業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明できる（DP4)。
・保育実習の総括と自己評価を行い、自己の課題を明確化することができる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法
1		
2	児童福祉施設等(保育所以外)における実習［11 日間］	
3	＜実習の主なテーマと内容＞ 1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能	①事前オリエンテーションにもとづき、実習施設の概要理解に努める
4	2. 施設における支援の実際 (1)受容し、共感する態度を身につける	②保育実習指導Ⅲの授業をもとに準備学習をする。
5	(2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解(利用者理解)を深める (3)個別支援計画の作成と実践、評価を行う	
6	(4)子ども(利用者)の家族への支援と対応について学ぶ	③実習の目標を定め実習日誌に記載する
7	(5)各施設における多様な専門職との連携・協働について学ぶ	④個別支援計画の作成と実践、評価のプロセスについて確認する
8	(6)地域社会との連携・協働について具体的に学ぶ	
9	3. 保育士の多様な業務と職業倫理 (1)施設保育士(職員)の多様な業務について実践を通して理解を深める	⑤実習中は、次の日の実習のねらいをたて、教材準備等に努める
10	(2)援助を形成することの意味を理解し、人権尊重、自己決定の大切さについて理解を深める	
11	(3)施設保育士(職員)の業務を観察し、個人情報保護・秘密保持の取り組みなど保育士の職業倫理について理解を深める	⑥実習のねらいをもとに実習日誌に記入する
12		⑦11 日間の学びを実習日誌に記入する
13	4. 保育士としての自己課題の明確化 実習を通して、施設保育士(職員)に必要な資質や技能を理解し、日々振り返りを行い、自己の課題を明らかにする	
14		⑧保育実習指導Ⅲの授業で実習の学びを振り返る
15		

授業形式(アクティブラーニングの内容) 実習
成績評価の方法･基準(％表記) ①と②から総合的に評価する ①実習先による５段階評価及び総評　50％ ②大学による評価 50％ 　実習施設に対する基本的理解 15％、支援計画の立案等の作成 10％、実習日誌 10％、振り返り（学びの言語化と発表）15％
教科書 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵「改訂版　施設実習パーフェクトガイド」わかば社　2023 参考書等 『実習のてびき』　宇都宮共和大学子ども生活学部 松本峰雄監修「より深く理解できる施設実習　－施設種別の計画と記録の書き方」　萌文書林　2015 河合高鋭・石山直樹「保育士をめざす人のための施設実習」みらい　2020
履修上の注意･学習支援 ・保育実習の履修および配属にあたっては「実習履修規定」および「実習配属規定」に則る。 ・実習中は、実習施設のご指示に従い、実習生としてふさわしい態度で臨むこと。 ・実習生として必要な，現場実習中の相談・連絡・報告（実習施設と大学へ）を怠らないこと。 ・実習に集中できる環境と態勢を整え、アルバイト等は慎むこと。 ・大学への連絡は、原則、大学へ電話で連絡を入れること ・実習中、事故やケガ・病気などがあった場合は、必ず大学の実習担当者宛に電話連絡すること。実習先および大学への報告・連絡・相談を決して怠らないこと。 　連絡先（大学事務室）TEL：028-649-0511（祝日・日曜日を除き、8 時～17 時まで） ・上記の時間以外は、石本研究室（メールアドレス：ishimoto@kyowa-u.ac.jp）まで連絡を入れること

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19K2210	教育実習	２・４年	２秋 ４春	実習	5	市川　舞 田渕 光与

授業概要

教育実習は、実際の保育現場における「観察実習」および「本実習」、学内における「実習指導」からなる。「観察実習」(2年次秋学期)では、幼稚園教育の実際を理解することを主な目的とする。「本実習」(4年次春学期)では、実際に指導計画の立案-実践させていただき、反省・評価を通して保育の営みを実践的に理解することを主な目的とする。「実習指導」では、教育実習の目的・目標、内容を理解し、自らの実習課題を明確にするとともに、観察や記録、計画の方法について理解する(事前指導)とともに、実習を振り返り、学習の成果と今後の課題を明確にし、学び続ける教員としての基本的態度を養う(事後指導)。なお、実習指導では上記担当教員が毎時それぞれの立場から指導・助言する。

到達目標(学習の成果)

・幼稚園教諭としての基本的な態度を形成する (DP2.3)。
・観察やかかわりを通して幼児理解を深める (DP3)。
・幼稚園教諭の役割や職務内容について、実践的に理解する (DP3)。
・幼稚園の機能・役割について、具体的な実践から理解する。(DP3)。
・指導計画の立案、実践、反省・評価から、保育の営みを実践的に理解する (DP4)。
・指導助言を受け止め、自分の保育について省察しながら自己課題を明確にし、幼稚園教諭としての自己成長を図ることができる。(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
＜2 年次＞			
1	実習の目的と内容の理解：教育実習の意義と目的、実習の概要について理解する。	事前	実習先について調べ、整理する。(1 時間)
		事後	実習課題を「実習の目標」としてまとめる。(1 時間)
2	事前学習および事前準備：実習の事前学習および事前準備、事前オリエンテーションの目的、方法、内容について学ぶ。	事前	「実習の手引き」の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
3	幼児理解の方法：保育の一日の展開にそった幼児の観察の視点およびかかわりの配慮点について学ぶ。	事前	「実習の手引き」の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
4	保育者の職務内容・役割の理解：保育の一日の展開にそった幼稚園教諭の職務内容と役割を理解し、観察の視点を学ぶ。	事前	配布資料を読んでおく。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
5	保育実技（部分実習）：部分実習の方法および配属クラスに応じた教材選びのポイントについて学ぶ。	事前	部分実習の教材準備(1 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
6	記録の方法：実習記録の意義と方法、記録の取り方、実習日誌の扱い方について学ぶ。	事前	「実習の手引き」の該当箇所、配布資料を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(0.5 時間)
7	観察実習直前指導：出勤簿の管理、提出物のやり取り、実習後の手続きなど、観察実習に必要な準備の最終確認を行う。	事前	「実習日誌」の必要箇所を記述、整理しておく。(1 時間)
		事後	最終確認を行い、実習に備える。(1 時間)

観察実習（１週間）　　実習巡回指導*

＜実習段階＞　観察実習（１週間）

幼稚園教育の実際を理解することを目的とする。幼児の生活と遊び、保育の流れ、保育者の役割等を観察し、今後の学習課題を発見する契機とする。

＜実習内容＞　幼児の実態や保育の実際を、客観的に把握する。

a. 保育の一日の流れを把握する。
b. 幼児の発達過程を理解する。
c. 幼児の生活や遊びの実態を理解する。

d. 保育者の動きや意図を理解する。
e. 実習先の環境構成を理解する。　　なお、実習には、日々の記録（実習日誌）が含まれる。

8	観察実習を終えて:個別に振り返り、自己評価する。学びの成果と今後の学習課題を発見する。お礼状の書き方を理解する。	事前	実習のエピソードや学びを振り返る。(1 時間)
		事後	振り返りをワークシートにまとめる。(0.5 時間)
9	実習経験の共有と深化１：グループに分かれて、実習の成果と今後の課題を報告しあう。	事前	振り返りワークシートを記入しておく。(0.5 時間)
		事後	授業での学びや気づきを整理する。(0.5 時間)
10	実習経験の共有と深化２：グループごとに実習の成果と課題を整理し、報告会の準備を行う。	事前	振り返りワークシートを記入しておく。(0.5 時間)
		事後	プレゼンテーションを作成しておく。(1 時間)
11	実習の成果報告：観察実習の成果と課題について報告会を行う。	事前	プレゼンテーション準備(1 時間)
		事後	授業での学びや気づきを整理する。(0.5 時間)
12	実習の成果と今後の課題：報告会であがった共通の課題および個別の課題の理解を深める。実習評価から今後の学習課題を明確にし、今後の学びへとつなげる。*	事前	実習における自己課題を整理する。(0.5 時間)
		事後	学びを整理し、保育者としての今後の目標をまとめる。(1 時間)
＜4年次＞			
13	本実習の目的:本実習の目的・方法を理解し、実習に必要な準備の見通しを持つ。	事前	「実習の手引き」の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
14	本実習の内容と課題:本実習の内容を自らの実習課題として理解し、実習計画書を「実習の目標」として整理する。＊	事前	配布資料を読んでおく。(0.5 時間)
		事後	実習課題を「実習の目標」としてまとめる。(1 時間)
15	事前オリエンテーションについて:本実習の事前オリエンテーションの目的と方法、内容について理解する。	事前	実習先について調べ、整理する。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
16	本実習の方法:本実習における観察・参加の方法と視点、記録について理解する。	事前	「実習の手引き」、配布資料の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
17	指導計画の立案について:指導実習における指導計画立案の方法および反省・評価のポイントについて理解する。	事前	「実習の手引き」、配布資料の該当箇所を読む。(0.5 時間)
		事後	学びを振り返り、ワークシートを整理する。(1 時間)
18	本実習事前直前指導:出勤簿の管理、実習日誌や指導案、実実習終了後の手続きなど本実習に必要な最終確認を行う。	事前	「実習日誌」の必要箇所を記述、整理しておく。(1 時間)
		事後	最終確認を行い、実習に備える。(1 時間)

本実習（3 週間）　　実習巡回指導*

＜実習段階＞　観察・参加・指導実習

実習指導者の助手的立場にたち、指示に従い保育に参加することで、配属クラス一人ひとりの子どもの理解を深めるとともに、環境構成や援助行為の意図を理解し、保育者の仕事にふれ、保育者の在り方について体験を通して学ぶ。さらに、指導計画を立案し、実際に保育を展開させていただく。保育内容や環境構成を計画し、実践を行うことを通して、子ども理解の力を磨き、環境構成や援助など保育実践の計画・意図を体験的に理解し、保育者としての実践力を養う。

＜実習内容＞

・子どもとの直接的なかかわりから、子どもの発達の特徴や興味・関心、経験内容を理解する。
・保育への参加から、子どもへの援助や環境構成の方法や意図を学ぶ。
・保育者の職務内容（環境整備や教材準備など）を体験的に理解する。
・特別な配慮を要する子どもへの援助方法を学ぶ。
・適切な子ども理解に基づいた指導計画の立案方法（ねらい・内容、教材、環境構成、配慮点など）を学ぶ。
・進んで教材研究を行い、教材の特性を理解した上で活用する。
・指導計画の立案 - 実践 - 反省・評価を通して、自らの課題を発見する。
・見通しをもって、計画的に指導実習の準備を進める。
・実習指導者のご助言を素直に受け止め、自分に活かそうとする。

なお、実習には、日々の記録（実習日誌）、教材研究、指導計画の立案等が含まれる

19	本実習を終えて:個別に振り返り、自己評価する。学びの成果と	事前	実習のエピソードや学びを振り返る。(1 時間)

	今後の学習課題を発見する。お礼状の書き方を確認する。	事後	振り返りをワークシートにまとめる。(1 時間)
20	実習経験の共有と深化 1:グループごとに実習の成果を振り返り、学習の成果と今後の課題を発表しあう。	事前	振り返りワークシートを記入しておく。(1 時間)
		事後	授業での学びや気づきを整理する。(1 時間)
21	実習経験の共有と深化2:グループごとに実習の成果と課題を整理し、報告会の準備を行う。	事前	振り返りワークシートを記入しておく。(0.5 時間)
		事後	プレゼンテーションを作成しておく。(1 時間)
22	実習の成果報告:本実習の成果と課題について報告会を行う。	事前	プレゼンテーション準備(1 時間)
		事後	授業での学びや気づきを整理する。(1 時間)
23	実習のまとめと今後の課題:報告会であがった共通の課題および個別の課題の理解を深める。実習評価から幼稚園教諭としての自己課題を明確する。＊	事前	実習における自己課題を整理する。(1 時間)
		事後	学びを整理し、保育者としての今後の目標をまとめる。(1 時間)

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)

実習園評価：実習園による 5 段階評価および総評 (50%)

大学評価：教員による巡回実習指導、実習日誌、実習目標、指導案、提出物、振り返りレポート、発表等 (50%)

※ レポート・プレゼンテーションについては、コモンルーブリック評価基準を用いて評価する。

	S	A	B	C
・幼稚園教諭としての基本的な態度を形成する (DP2.3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・観察やかかわりを通して幼児理解を深め、記録に表現できる (DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・幼稚園教諭の役割や職務内容について具体的に理解する (DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・幼稚園の機能・役割について、具体的に理解する。(DP3)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している
・指導計画の立案、実践、反省・評価から、保育の営みを実践的に理解する (DP4)。	十分できている	ほぼ十分できている	一定程度できている	努力している

フィードバックについて

コメントシートや課題レポート等については、授業担当者からのコメント等を加えて次回以降に返却する。また、必要な内容は、次回の授業冒頭で補足説明や解説をし、共有する。

教科書　「実習の手引き」宇都宮共和大学, 2019

参考書等　文部科学省「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館、2018

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、フレーベル館、2018

内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　、2018

履修上の注意・学習支援

・教育実習の履修および配属については「実習履修規定」および「実習配属規定」に準じる。
・幼稚園教諭一種免許状を取得しようとするものとして、実習生としての自覚をもち、主体的かつ意欲的に取り組むこと。
・日々の学習を活かし、進んで教材研究に取り組み、自分の保育の引き出しを増やし、豊かな保育環境を構成する力を養うこと。
・日頃から生活のリズムを整え、体力の維持向上および自身の健康管理に留意すること。
・実習中は、各実習園のご指示に従い、実習生としてふさわしい態度で臨むこと。
・実習中、事故やケガ・病気などがあった際には、必ず大学の実習担当者宛に電話連絡すること
・実習生として必要な事項について、実習園および大学への報告・連絡・相談を決して怠らないこと。

※質問、相談等は、そのままにせず早めに担当教員まで相談すること。　　市川研究室（5-211）
※実習中の連絡先　　大学事務局：028-649-0511

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目　　（田渕　光与）
[実務経験の概要] 小学校教員（18年） 栃木県教育委員会幼児教育担当（3年） 栃木県幼児教育センター副主幹（9年）、センター長（2年） 学校法人の幼稚園長（4年） [実務経験と授業科目との関連性] 1. 小学校勤務において、教科指導、児童指導、生活全般の指導を通し、特に生活科において幼児期から学童期の教育の在り方について調査をもとに研究を行った。 2. 栃木家県幼児教育センターにおいて、幼小連携における保育の課題・学校教育の課題に基づいて市町の連携推進事業を企画、展開した。

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L3101	研究方法の基礎Ⅰ	3年	春	講義	2	蟹江教子

授業概要

本学では卒業研究は必修科目である。1年次、2年次での修学を基礎に卒業研究を行うための準備を行う。論文とは何かを理解し、論文の要件や構成、テーマ・問題の設定方法、本文の組み立て方について理解を深め、文献の探し方、引用のルールなど論文を書くために必要な作法を学ぶ。さらに、目的にあった方法についても学ぶ。

到達目標（学習の成果）

- 関心・関心を抱いた研究テーマについてより深く調べ、研究の流れやトレンドを整理する（ＤＰ4）。
- 整理した内容を一緒に卒業研究指導を受ける他のメンバーにも説明できるようにする（ＤＰ4）。
- 卒業研究で取り組む具体的な研究テーマを確定し、卒業研究完成までの大まかな見通しを立てる（ＤＰ4）。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	卒業研究を行うために:卒業研究とは何か、レポートと論文の違いについて理解する。	事前	授業内容を復習し、知識の定着をはかる(4時間)。
		事後	
2	レポートを書く:レポートの型を見極め、イメージをつかんで実際に書いてみる。	事前	課題レポートを執筆する（4時間)。
		事後	
3	文献を探す:興味関心のある文献を探し、文献リストを作成する。	事前	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べる（4時間)。
		事後	
4	論文を読む:読んだ論文から、論文の型について学ぶ。	事前	卒業研究のテーマに関する文献、書籍、雑誌、新聞、インターネット上の情報を調べる（4時間)。
		事後	
5	論文の作法:題目の付け方、定義の仕方などについて学ぶ。	事前	論文を精読して授業にのぞむ（2時間)。
		事後	文献を検索する（2時間)。
6	引用の方法:引用はなぜ必要か理解し、引用の種類と方法を学ぶ。	事前	資料を精読して授業にのぞむ（1時間)。
		事後	引用によるレポートを作成する（3時間)。
7	インターネットの利用:インターネットを用いた調査、文献検索の方法、文献の入手方法、注意すべき点について学ぶ。	事前	資料を精読して授業にのぞむ（1時間)。
		事後	インターネットを使っての検索を行う（3時間)。
8	論文を書く:学んだことを踏まえて、ルールに沿って論文を書く。書くことによって自身の思考を整理する。	事前	資料を精読して授業にのぞむ（1時間)。
		事後	卒業研究テーマの情報、文献を集める（3時間)。
9	研究方法の検討:目的にあった研究方法について検討する。	事前	卒業研究テーマの情報、文献を集める（4時間)。
		事後	
10	量的調査:量的調査(質問紙による調査)の特徴について学び、実施する際の準備や注意点について学ぶ。	事前	調査研究の研究方法について整理する（1時間)。
		事後	卒業研究の研究方法を検討、整理する（3時間)。
11	質的調査:質的調査(聞き取り調査)の特徴について学び、実施する際の準備や注意点について学ぶ。	事前	先行研究を検索し、論文を精読する（3時間)。
		事後	講義の内容を復習し、理解を確実にする(1時間)。
12	観察:観察の種類や特徴について学び、実施する際の準備や注意点について学ぶ。	事前	先行研究を検索し、論文を精読する。(3時間)
		事後	講義の内容を復習し、理解を確実にする(1時間)。
13	データの特徴:調査の妥当性や信頼性、データの代表性について検討する。	事前	先行研究を検索し、論文を精読する（3時間)。
		事後	講義の内容を復習し、理解を確実にする(1時間)。
14	研究倫理について:調査を行う際に配慮しなければならない点について学ぶ。	事前	調査実施の際の問題点、留意点をまとめる（2時間)。
		事後	講義の内容を復習し、理解を確実にする(2時間)。
15	研究の目的と方法:各自、卒業研究の目的と方法について検討する。	事前	卒業研究デザインを作成する（4時間)。
		事後	

授業形式(アクティブラーニングの内容)
プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加（授業中の発言、コメントシートへの記述）20%
・レポート（コモンルーブリック基準を用いて評価する）80%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
関心・関心を抱いた研究テーマについてより深く調べ、研究の流れやトレンドを整理する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
整理した内容を一緒に卒業研究指導を受ける他のメンバーにも説明できるようにする。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
卒業研究で取り組む具体的な研究テーマを確定し、卒業研究完成までの大まかな見通しを立てる。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　課題レポートは学生に直接返却する。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
西川真理子他、『アカデミック・ライティングの基礎』、晃洋書房、2019
井下千以子、『思考を鍛えるレポート・論文作成法』、慶応義塾大学出版会、2019

履修上の注意・学習支援
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する
・オフィスアワーと連絡先（メールアドレス）は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L3101	研究方法の基礎Ⅱ	3年	春	講義	1	蟹江　教子

授業概要

各自の興味や関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究をサーベイすることにより問題意識を明確にする。研究の前提となる背景（社会状況）を把握し、研究の意義を考えることにより、研究目的を具体的に描くとともに、方法についても検討する。

担当教員や学生同士のディスカッションや卒業研究報告会を通して、自分の研究を客観視し、他者の研究から学んだり、評価する力を養成する。

到達目標(学習の成果)

・関心・関心を抱いた研究テーマについてより深く調べ、研究の流れやトレンドを整理する。
・整理した内容を一緒に卒業研究指導を受ける他のメンバーにも説明できるようにする。
・卒業研究で取り組む具体的な研究テーマを確定し、卒業研究完成までの大まかな見通しを立てる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	ガイダンス:卒業研究のテーマと方法について4年生の報告を参考に、進め方のプロセスを理解する。	事前	シラバスを熟読して授業にのぞむ（1時間)。
		事後	復習し内容の定着をはかる（1時間)。
2	文献/資料の検索:卒業研究に必要な文献や資料の検索・入手方法について確認する。	事前	卒業研究のテーマについて整理する（1時間)。
		事後	研究文献を調べる（1時間)。
3	卒業研究テーマの設定と文献研究の実施(その1):卒業研究のテーマを決め、背景を整理する。	事前	卒業研究に関連する文献を調べる（1時間)。
		事後	文献の内容をまとめる（1時間)。
4	文献研究: 文献を整理し、自分の研究への応用可能性を探る。	事前	卒業研究に関連する文献を調べる（1時間)。
		事後	文献の内容をまとめる（1時間)。
5	テーマ報告と議論(その1):先行研究をもとに、具体的な問いを検討する。	事前	卒業研究に関連する文献を調べる（1時間)。
		事後	文献の内容をまとめる（1時間)。
6	テーマ報告と議論(その2):各自が研究の問いについて報告し、ディスカッションする。	事前	卒業研究に関連する文献を調べる（1時間)。
		事後	文献の内容をまとめる（1時間)。
7	研究方法の決定:研究テーマと研究方法について整理し、研究方法の妥当性と実現可能性を検討する。	事前	卒業研究に関連する文献を調べる（1時間)。
		事後	文献の内容をまとめる（1時間)。
8	まとめ:秋以降の進め方についておおまかな見通しをつけ、検討する。	事前	まとめた文献を整理する（1時間)。
		事後	卒業研究の進め方について整理する(1時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)

グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)

・授業への参加（授業中の発言、コメントシートへの記述等）20%
・レポート（コモンルーブリック基準を用いて評価する）80%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
研究テーマについてより深く調べ、研究の流れやトレンドを整理する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
整理した内容を一緒に卒業研究指導を受ける他のメンバーにも説明できるようにする。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

卒業研究で取り組む具体的な研究テーマを確定し、完成までの見通しを立てる。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　課題は、次回授業やクラスルームでフィードバックする。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
西川真理子他、『アカデミック・ライティングの基礎』、晃洋書房、2019
井下千以子、『思考を鍛えるレポート・論文作成法』、慶応義塾大学出版会、2019

履修上の注意・学習支援
・授業における課題は、各授業終了後に提出する 。
・レポートは課題名・番号・氏名を書いた表紙をつけて作成し、必ず期限内に提出する。
・ワード、エクセル、パワーポイントの扱いに慣れておく。
・疑問やわからないことが生じた場合は、授業担当に質問・相談する
・オフィスアワーと連絡先(メールアドレス)は第1回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目
[実務経験の概要] [実務経験と授業科目との関連性]

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L3103	卒業研究指導Ⅰ	３年	秋	演習	２	全専任教員

授業概要

各自の興味や関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究をサーベイすることにより問題意識を明確にする。研究の前提となる背景（社会状況）を把握し、研究の意義を考えることにより、研究目的を具体的に描くとともに、方法についても検討する。

担当教員や学生同士のディスカッションや卒業研究報告会を通して、自分の研究を客観視し、他者の研究から学んだり、評価する力を養成する。

到達目標(学習の成果)

- 関心・関心を抱いた研究テーマについてより深く調べ、研究の流れやトレンドを整理する。
  整理した内容を一緒に卒業研究指導を受ける他のメンバーにも説明できるようにする(DP4)。
- 卒業研究で取り組む具体的な研究テーマを確定し、卒業研究完成までの大まかな見通しを立てる(DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	ガイダンス卒業研究とは何か、進め方のプロセスを理解する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
2	研究計画発表会:卒業研究のテーマと方法について4年生の報告を聞き、イメージをつかむ。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
3	テーマの設定:卒業研究発表会を参考に、卒業研究のテーマを決める。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
4	文献/資料の検索:必要な文献や資料の検索方法について確認する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
5	文献/資料検索の実施:文献や資料を入手し、内容を整理する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
6	文献整理と報告(その 1):研究の背景と基礎的知識について整理する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
7	文献整理と報告(その 2):参考となりそうな文献についてまとめ、報告する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
8	文献整理と報告(その 3):文献を整理し、自分の研究への応用可能性を探る。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
9	テーマ報告と議論(その 1):先行研究をもとに研究テーマを再検討する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を検討する(4時間)。
10	テーマ報告と議論(その2):各自が研究テーマについて報告し、ディスカッションする。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を検討する(4時間)。
11	テーマ報告と議論(その 3):先行研究や今までの議論をもとに、研究テーマを決定する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を検討する(4時間)。
12	研究方法の決定(その1):研究テーマと研究方法について整理する。	事前 事後	研究方法について検討する(4時間)。
13	研究方法の決定(その 2):研究方法の妥当性と実行可能性について検討する。	事前 事後	研究方法について検討する(4時間)。
14	研究方法の決定(その3):研究テーマと研究方法について課題を整理しまとめる。	事前 事後	研究方法について検討する(4時間)。
15	4年生に向けて:来年度の進め方についておおまかな見通しをつける。	事前 事後	研究の目的と方法について整理する(4時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
グループディスカッション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加(自分の研究について分かりやすく他者に伝えることができるか、他の人の研究について自分の意見を言うことができるかどうかで評価)50%
・レポート(論文の形式に沿って書かれているか、自分の考えや意見を理論的に展開できているかどうかで評価)50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
各自の興味や関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究をサーベイすることにより問題意識を明確にする。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
研究の前提となる背景を把握し、研究の意義を考えることにより、研究の目的と方法を明らかにする。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
自分の研究を客観視し、他者の研究から学んだり、評価する力を養成する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　レポートは添削して学生に返却する。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
西川真理子他、『アカデミック・ライティングの基礎』、晃洋書房、2019
井下千以子、『思考を鍛えるレポート・論文作成法』、慶応義塾大学出版会、2019

履修上の注意・学習支援
・ワード、エクセルの扱いに慣れておく。

・疑問やわからないことが生じた場合には、授業担当に質問・相談する。
・オフィスアワーと連絡先(メールアドレス)は第1回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L4104	卒業研究指導Ⅱ	４年	春	演習	２	全専任教員

授業概要

各自の興味や関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究をサーベイすることにより問題意識を明確にする。研究の前提となる背景（社会状況）を把握し、研究の意義を考えることにより、研究目的を具体的に描くとともに、方法についても検討する。

担当教員や学生同士のディスカッションや卒業研究報告会を通して、自分の研究を客観視し、他者の研究から学んだり、評価する力を養成する。

到達目標(学習の成果)

・卒業研究のテーマを具体化する作業を通して論理的思考力を養い、問題を解決するためのプロセスを学ぶ（DP4)。
・自分の研究だけでなく、他者の研究についても評価し、アドバイスする力を育てる（DP4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	研究計画発表会準備 ： 研究計画発表会のための資料作成とリハーサルを行う。	事前 事後	資料を作成し、プレゼンテーションのリハーサルを行う(4時間)。
2	研究計画発表会 ： 卒業研究のテーマと方法についての報告を行う。	事前 事後	資料を作成し、プレゼンテーションのリハーサルを行う(4時間)。
3	研究計画発表会を踏まえて ： 研究計画報告会についての反省と成果についてまとめる。	事前 事後	発表会を振り返り、他者の意見を整理する(4時間)。
4	文献/資料の検索 ： 必要な文献や資料の検索方法について確認する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
5	文献/資料検索の実施 ： 文献や資料を入手し、内容を整理する。	事前 事後	卒業研究で取り組みたい研究課題について、情報、文献等を収集する(4時間)。
6	文献整理と報告(その 1) ： 研究の背景と基礎的知識について整理する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
7	文献整理と報告(その 2) ： 参考となりそうな文献についてまとめ、報告する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
8	文献整理と報告(その 3) ： 文献を整理し、自分の研究への応用可能性を探る。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
9	テーマ報告と議論(その 1) ： 先行研究をもとに研究テーマを再検討する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
10	テーマ報告と議論(その2) ： 各自が研究テーマについて報告し、ディスカッションする。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
11	テーマ報告と議論(その 3) ： 先行研究や今までの議論をもとに、研究テーマを決定する。	事前 事後	研究テーマについて、具体的な「問い」を再度、検討する(4時間)。
12	研究方法の決定(その1) ： 研究テーマと研究方法について整理する。	事前 事後	研究方法について再度、検討する(4時間)。
13	研究方法の決定(その 2) ： 研究方法の妥当性と実行可能性について検討する。	事前 事後	研究方法について再度、検討する(4時間)。
14	研究方法の決定(その3) ： 研究テーマと研究方法について課題を整理しまとめる。	事前 事後	研究方法について再度、検討する(4時間)。
15	後期に向けての準備 ： 進捗状況を確認し、後期の進め方について検討する。	事前 事後	研究の目的と方法について整理するとともに、調査計画を実行する(4時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
・プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加（自分の研究について分かりやすく他者に伝えることができるかどうか、他の人の研究について自分の意見を言うことができるかどうかで評価する）50%
・レポート（論文の形式に沿って書かれているか、自分の考えや意見を理論的に展開できているかどうかで評価する）50%
・レポートについては、コモンルーブリック基準を用いて評価する。

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
・卒業研究のテーマを具体化する作業を通して論理的思考力を養い、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
・自分の研究だけでなく、他者の研究についても評価し、アドバイスする力を育てる。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　レポートは添削して学生にフィードバックする。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
西川真理子他、『アカデミック・ライティングの基礎』、晃洋書房、2019
井下千以子、『思考を鍛えるレポート・論文作成法』、慶応義塾大学出版会、2019

履修上の注意・学習支援
・ワード、エクセル、パワーポイントの扱いに慣れておく。

・疑問やわからないことが生じた場合には、授業担当に質問・相談する。
・オフィスアワーと連絡先(メールアドレス)は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L4105	卒業研究指導Ⅲ	４年	秋	演習	２	全専任教員

授業概要

研究計画に沿って、調査等を実施したり作品を作成する。中間報告会や研究室内で途中経過を報告しあい、軌道修正を図りながら、調査を実施したり、作品を作成したりして、分析、考察し、卒業研究としてまとめる。

到達目標(学習の成果)

・卒業研究の執筆を通して、調査、分析、考察するプロセスを学ぶとともに、そこで得られた知見を適切な表現を用いて文章化し、発表する能力を身につける。あるいは作品を作成する技術を習得する（ＤＰ4)。
・自らの研究だけでなく、他者の研究を評価する力も養う（ＤＰ4)。

授業計画

回	学習内容	授業外における学修方法	
1	中間発表会 ： 卒業研究の途中経過について報告する。	事前 事後	中間発表会のための資料を作成し、発表準備を行う(4時間)。
2	中間発表会のまとめ ： 中間発表会での議論を踏まえて今後について検討する。	事前 事後	中間発表会を振り返り、軌道修正を行う(4時間)。
3	研究倫理について ： 調査を行う際の研究倫理について理解する。	事前 事後	自分の研究に照らし合わせて、調査実施上配慮すべき点を確認する(4時間)。
4	調査の実施(その 1) ： 調査票、インタビューガイド等の確認を行う。	事前 事後	調査を実施する(4時間)。
5	調査の実施(その 2) ： 調査対象者を選定し、依頼する。	事前 事後	調査を実施する(4時間)。
6	調査の実施(その3) ： 質問紙調査/インタビュー調査を実施する。	事前 事後	調査を実施する(4時間)。
7	調査の実施(その 4) ： 追加･補足調査を実施する。	事前 事後	調査を実施する(4時間)。
8	結果の分析(その 1) ： 調査結果を整理、集計する。	事前 事後	調査結果を分析する(4時間)。
9	結果の分析(その 2) ： 調査結果を分析する。	事前 事後	調査結果を分析する(4時間)。
10	結果の分析(その 3) ： 調査結果について考察する。	事前 事後	調査結果を分析する(4時間)。
11	個別指導と課題の共有 ： 卒業研究の完成を目指す。	事前 事後	卒業研究を執筆する(4時間)。
12	報告会準備(その 1) ： 報告会のプロットをつくる。	事前 事後	結果報告会の準備を行う(4時間)。
13	報告会準備(その 2) ： 報告会のレジュメや PP 資料を作成する。	事前 事後	結果報告会の準備を行う(4時間)。
14	報告会準備(その 3) ： 報告会リハーサルを行う。	事前 事後	結果報告会の準備を行う(4時間)。
15	卒業研究の総括 ： 卒業研究完成までのプロセスを整理し、反省点をまとめる。	事前 事後	卒業研究の振り返りを行う(4時間)。

授業形式(アクティブラーニングの内容)
・プレゼンテーション

成績評価の方法・基準(%表記)
・授業への参加（自分の研究について分かりやすく他者に伝えることができるかどうか、他の人の研究について自分の意見を言うことができるかどうかで評価する）50%
・レポート（論文の形式に沿って書かれているか、自分の考えや意見を理論的に展開できているかどうかで評価する）50%

成績評価の基準

観点	S	A	B	C
問題を解決するプロセスを学び、得られた知見を適切な表現を用いて文章化し、発表する能力を身につける。あるいは作品を作成する技術を習得する。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である
自らの研究だけでなく、他者の研究を評価する力を養う。	十分できている	ほぼできている	一定程度できている	努力が必要である

※　レポートは添削して学生にフィードバックする。

教科書
桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版、2015

参考書等
西川真理子他、『アカデミック・ライティングの基礎』、晃洋書房、2019
井下千以子、『思考を鍛えるレポート・論文作成法』、慶応義塾大学出版会、2019

履修上の注意・学習支援
・ワード、エクセル、パワーポイントの扱いに慣れておく。
・疑問やわからないことが生じた場合には、授業担当に質問・相談する。
・オフィスアワーと連絡先(メールアドレス)は第１回授業で連絡する。

※以下は該当者のみ記載してください。

実務経験のある教員による授業科目

［実務経験の概要］

［実務経験と授業科目との関連性］

科目番号	科目名	配当年次	開講学期	授業形態	単位	担当教員
19L4207	保育・教職実践演習（幼稚園）	４年	秋	演習	2	田渕光与・杉本太平 松岡展世・市川 舞・桂木奈巳

授業概要

教職の意義・使命感・責任感・教育愛、保育者の役割、職務内容、について確認し、保育者としての社会性・人間関係能力と学び続ける意欲を育てる。様々な場面を想定し実践を通して課題追究することで、優れた実践をするために必要な保育内容等の指導方法やクラス運営等集団での指導力を確認し、保育者としての力量を高める。

到達目標(学習の成果)

・４年間にわたる保育者養成の科目を通して修得した専門的な知識や技能が、実践に応用する保育実践力となっているかどうか、総合的に確認をし、更に力量を高めていく。(DP4)

・保育者としての実践力の向上を目指すとともに、乳幼児教育実践の質の鍵を握る専門職としての自覚をもつ。(DP4)

授業計画

回	学習内容	授業外における学習方法	
1	小学校教育と児童の発達 幼児期から児童期の教育の連携の課題とあり方について考える。小学校の一日の生活と援助の仕方を知る 小学校教育について知り、指導補助に入る際に踏まえなくてはいけない事柄について理解する。（田渕）	事前	身近な小学生の姿を記録し、学力の 3 要素からどのような力がみられるか書き出す。(2 時間)
		事後	休み時間、授業中、給食の準備時間、給食時、昼休み、清掃の時間それぞれの自分の補助の仕方をシミュレーションして、シートにまとめる。(2 時間)
2	架け橋期の子どもの姿に触れる 小学校で指導補助をする。補助業務の中で、学童期の児童の発達を捉え、幼小連携の視点から、幼児期に経験すべき事柄などについて意識を向ける。（田渕、杉本、桂木、市川・松岡）	事前	架け橋期のカリキュラムについて学習指導要領(生活科)や配属先の小学校のカリキュラムを参照し、予習をする。(2 時間×2回)
3		事後	子どもの学習に向かう姿、生活する姿などから架け橋期の子どもの姿を記録し、子どもの見せる資質。能力について記録する。(2 時間×2回)
4	小学校との連携から幼児期の保育を考える 小学校での指導補助業務の経験から、子どもの発達と小学校の指導形態、指導の在り方、その他幼児期の教育との対比から保育の在り方を考える。（田渕）	事前	指導補助をして考察したことを、子どもの一日の生活、子どもの発達の姿から表にまとめておく。(2 時間)
		事後	10の視点を参考に、観察した場面の子どもの姿を捉えて表にする。(2時間)
5	まとめと発表・評価 考察したことをプレゼンテーションし、必要だと思われる経験について考察し、指導計画に位置付ける。（田渕）	事前	子どもの学習に向かう姿、生活する姿などから幼児期に必要な援助について項目ごとにシートにまとめる。(2 時間)
		事後	モデル5歳児年間指導計画に架け橋期の環境構成のポイントを付け加える。(2時間)
6	園外保育の計画 園外保育を学内「子どもの森」で実施と想定し、各班でねらいに基づいた指導計画を立て、実践の準備を行う。保護者へのおたより作成を通して、園外保育の配慮点を学ぶ。(桂木)	事前	グループを決めておく。(0.5 時間)
		事後	園外保育の案内(保護者向け)を作成し、自己評価する。(3.5 時間)
7	園外保育の実施 子どもの森において、模擬保育を実践（写真やビデオに撮影）する。各班或は他班の協力のもと、ねらいに沿った指導計画になっているか再検討を行う。（桂木）	事前	園外保育で行う活動内容を決め、実施できるよう準備する。(2時間)指導計画を作る。(2 時間)
8		事後	他学生から寄せられたコメントを元に振り返りをシートにまとめる。(2時間)保護者へのお便りのコンテンツを作成する。(2 時間)
9	園外保育のふりかえり 各グループの実践記録を共有する。（桂木）	事前	「お便り」を作成し、発表練習をする。(2時間)
		事後	他者の発表を元に自身の作成した「お便り」を改善する。(2時間)

10	子ども理解と特別支援 支援の必要な子どもへの理解と配慮や援助を日常の保育でどのように活かせるかを考え、個々の子どもの保育ニーズを把握することの意味を実践的に捉えなおす（松岡）	事前	「障害児保育」「特別の支援が必要な子どもの保育」で学んだ内容を振り返っておくこと。(1 時間)
		事後	「幼稚園教育要領」第1章総則第5特別な配慮を必要とする幼児への指導、「保育所保育指針」第1章総則3保育の計画及び評価(2)キ障害のある子どもの保育、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第 1 章第2節3特別な配慮を必要とする園児への指導について自分で確認し、重要な点をまとめる。(3 時間)
11	集団の中の特別支援 一人一人の特性を生かした保育について考え、集団の中の特別支援の在り方を、個々の子どもの発達する姿から捉えた保育について理解する。 （松岡）	事前	これまで実習等で出会った子どもで、特に対応に苦慮したり疑問に感じたりしたケースについて、思い出してまとめておく(1 時間)。
		事後	集団の中で一人一人が活躍できる保育について考察してまとめる(3 時間)
12	保育者としての専門性 「保育・教職実践演習」の趣旨を理解するとともに、保育者に求められる資質・能力から「保育者としての自分」の資質や可能性について考える（市川・桂木・田渕）	事前	履修カルテを記入し、自己評価しておく(2 時間)
		事後	現時点における自分の「保育者としての資質・能力」としてよさや今後の課題を整理し、本授業における自身の課題を明確にする。(2 時間)
13	保育者のキャリアスタート 初任者が出会うさまざまな課題や乗り越える方法について考え、保育者としてのキャリアのスタートに備える（市川）	事前	今後、自分が保育者として出会うであろう課題について予測しておく。(2 時間)
		事後	保育者として、これから出会う課題への対応策について、整理する。(2 時間)
14	保育者としての資質・能力 履修カルテを用いて４年間の学修を振り返り、現在の保育者としての資質・能力と今後の自己課題を確認する（市川）。	事前	履修カルテを記入し、自己評価をしておく。(2 時間)
		事後	4年間の学修で培った知識や技能、保育者としての資質・能力について、自分のよさや今後の課題をとらえる。(2 時間)
15	ポートフォリオの報告会をし、自身の学びを総合的に振り返る。(市川)	事前	4年間の学びをスライドにまとめ、プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
		事後	身に付けた資質・能力を自己課題にどのように生かしていくかレポートにまとめる。（

授業形式(アクティブラーニングの内容)
フィールドワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、実習、課題解決型学習

成績評価の方法・基準（%表記）
レポート（４０%）レポートのコモンルーブリックを活用する。
グループワークへの参加（４０%）グループディスカッションのコモンルーブリックを活用する。演習態度（２０%）クラスルームより、提出されたワークシートへのフィードバックを行う。全体に伝えておくべき内容は、授業冒頭にポイントをフィードバックする。

S	A	B	C
・これまでの学修を総合的に活用して事前学習を行い、自ら課題意識をもって演習に取組む。(DP4)	ほぼできている	一定程度できている	できるよう努力している
・演習の内容を振返り、課題について学んだことを、実践につながるようにまとめることができる。(DP4)。	ほぼできている	一定程度できている	できるよう努力している

教科書
使用しない
参考書等
内閣府・文部科学省・厚生省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針〈原本〉」株式会社チャイ

ルド本社, 2015
文部科学省「小学校学習指導要領　総則」東洋館出版 2018 年

履修上の注意・学習支援

事前学習では４年間のノートやポートフォリオを用いて活用すること。
５人の専任教員が担当しているので、質問や指導にはいつでも対応します。各研究室を訪問してください。

実務経験のある教員による授業科目（松岡　展世）

[実務経験の概要]
・東京都公立教育委員会の教育相談室（10 年）及び栃木県の大学院附属臨床センター（10 年）にて　心理相談員
　幼児期から中学生までの子どもの発達援助、発達検査、保護者の心理相談、園の巡回相談
・東京都及び栃木県の複数自治体で、乳幼児の子どもや親子への発達支援、園の巡回相談（14 年）
・東京都公立中学校スクールカウンセラー（5 年）

[実務経験と授業科目との関連性]
・臨床心理士として、乳児期から中学生まで、発達障害や知的障害、学習障害等を持つ子どもや被虐待等の背景を持つ子ども、支援の必要な子どもに対しての発達・心理アセスメントと援助に関わり、親への子育て支援、園や教諭へのコンサルテーションに携わってきた。これらの経験を踏まえ、特別な支援が必要な乳幼児の理解とその対応に関して、具体的な観点を交えた授業を行う。

実務経験のある教員による授業科目（杉本　太平）

[実務経験の概要]
１．文京区教育センター教育相談室　東京都文京区教育委員会教育相談専門員（心理）（1991 年 4 月～19998 年 9 月）として心理職の実務
２．埼玉県複数市での幼児健康診査心理相談員（1997 年 4 月～現在に至る）としての心理職実務
３.文教大学心理劇研究会主宰（1990 年 4 月～2012 年 3 月）及び日本人間関係学会関東地区会主宰（2010 年 4 月～2019 年 12 月）、人間関係・HRST 研究会主宰（2020 年 1 月～現在に至る）として行為法（心理劇）を用いた研修会（看護師・介護士・臨床心理士・教員・一般会員など対人支援職者を対象とした研修）での講師

[実務経験と授業科目との関連性]
　心理学・臨床心理学・発達心理学に関する理論学習と実務経験による実践的理解および援助技術や具体的な方法論について行為法を用いた独自のアクティブ・ラーニング手法「ﾋｭｰﾏﾝﾘﾚｰｼｮﾝ･ｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（Human Relation Skills Training）＝HRST」を開発し、その体験学習の展開に即した授業教材を作成している。また、著書として「精神保健―子どもと家族の援助のために―」（共著）と「人間関係ハンドブック」を著わし、主として保育者養成のための精神保健に関する理論・実践・援助技術や、人間関係に関する（心理・臨床・発達・教育・福祉）の理論・実践論・援助技術などの理論・根拠を教授している。

実務経験のある教員による授業科目（田渕　光与）

[実務経験の概要]
1.　小学校教員　　（1979 年～1998 年）担任（1～6 年）
2.　小学校長(2009 年4月～2012 年 3 月)
3. 栃木県教育委員会幼児教育担当(1997 年4月～2000 年 3 月)
4. 栃木県幼児教育センター副主幹(2000 年4月～2006 年 3 月)、センター長(2012 年4月～2014 年3月)
5. 学校法人の幼稚園長(2014 年 10 月～2018 年 3 年)

[実務経験と授業科目との関連性]
　小学校において、教科指導、児童指導、生活全般の指導を通し、特に生活科において幼児期から学童期の教育の在り方について調査をもとに研究を行った。
　栃木家県幼児教育センターにおいて、幼小連携における保育の課題・学校教育の課題に基づいて市町の連携推進事業を企画、展開した。